

令和 2 年 7 月豪雨被災者生活実態調査報告書
(人吉市・八代市)

2021 年 3 月

一般財団法人ダイバーシティ研究所

目次

第1章 熊本県における「令和2年7月豪雨」の災害および被害状況	1
1-1 「令和2年7月豪雨」の災害状況	1
1-2 「令和2年7月豪雨」の被災状況	3
第2章 調査の目的	4
2-1 調査実施に至る経緯.....	4
2-2 調査の目的	5
第3章 調査の方法	6
3-1 調査対象	6
3-2 調査項目	7
3-3 調査方法	7
3-4 調査員.....	8
3-5 調査日程.....	10
3-6 集計方法	11
3-7 分析方法	12
第4章 調査の経過	13
4-1 調査日程・調査員活動実績.....	13
4-2 調査回答数・回収率.....	14
第5章 調査結果 1 人吉市	16
5-1 調査結果	16
5-2 単純集計	18
(1)世帯情報	18
(2)家屋の状況.....	19
(3)避難行動	23
(4)健康や福祉.....	27
(5)生活状況	30
(6)今後の見通し	32
(7)不安・心配ごと	35
5-3 クロス集計	36
(1)校區別集計.....	36
(2)高齢者世帯.....	43
(3)在宅避難世帯	49

(4)健康への影響	51
第6章 調査結果2 八代市	56
6-1 単純集計	57
(1)世帯情報	57
(2)家屋の状況	58
(3)避難行動	62
(4)健康や福祉	65
(5)生活状況	68
(6)今後の見通し	69
(7)不安・心配ごと	72
6-2 クロス集計	74
(1)地区別集計	74
(2)高齢者世帯	87
(3)被害の大きい地区	90
(4)健康への影響	92
(5)建設仮設・みなし仮設入居者	93
第7章 災害ケースマネジメントに基づく分析	98
7-1 災害ケースマネジメントに基づく評価方法	99
7-2 災害ケースマネジメントに基づく評価結果	102
7-3 災害ケースマネジメントに基づく評価と世帯の様子	105
第8章 調査結果からの提言	109
8-1 災害時における被災者支援施策のあり方	109
8-1-1 家屋被害に限定しない悉皆調査の実施	109
8-1-2 情報を活用した切れ目のない支援計画の策定	110
8-2 日常生活に組み込まれた防災への変革	112
8-2-1 ICTを活用した避難の促進	112
8-2-2	
「直接被災しない場合の発災後の日常生活への影響」を考慮した被災者支援の実施	114
8-3 情報を支援に繋げる「誰一人取り残さない災害対応」の実現	117
8-3-1 被災者の生活再建を支えることを目的とした情報の活用	117
8-3-2 地域の復興に向けた支援ニーズへの対応	119
謝辞	121
<資料>	122
人吉市集計表	122
八代市集計表	129

調査資料	144
調査票（人吉市）	144
調査票（八代市）	148
不在票	152
事前準備・オリエンテーション資料	154

第1章 熊本県における「令和2年7月豪雨」の災害および被害状況

2020年7月3日から8日にかけて、梅雨前線の活動が非常に活発となり、九州では4日から7日は記録的な大雨となった。熊本県の球磨川では計13箇所で氾濫・決壊し、約1,060ヘクタールが浸水するなど、大きな被害が生じた。本章では熊本県下で特に被害が甚大であった地域のうち、調査を実施した八代市および人吉市を中心として「令和2年7月豪雨」の災害・被害状況を整理する。

1-1 「令和2年7月豪雨」の災害状況

九州から東日本の広い範囲で災害が発生した「令和2年7月豪雨」について、内閣府資料より気象の概要を以下に示す。

「7月3日から8日にかけて、梅雨前線が華中から九州付近を通って東日本にのびてほとんど停滞した。前線の活動が非常に活発で、西日本や東日本で大雨となり、特に九州では4日から7日は記録的な大雨となった。また、岐阜県周辺では6日から激しい雨が断続的に降り、7日から8日にかけて記録的な大雨となった。気象庁は、熊本県、鹿児島県、福岡県、佐賀県、長崎県、岐阜県、長野県の7県に大雨特別警報を発表し、最大級の警戒をよびかけた。

その後も前線は本州付近に停滞し、西日本から東北地方の広い範囲で雨の降る日が多くなった。特に13日から14日にかけては中国地方を中心に、26日から29日にかけては東北地方を中心に大雨となった。

7月3日から7月31日までの総降水量は、長野県や高知県の多い所で2,000ミリを超えたところがあり、九州南部、九州北部地方、東海地方、及び東北地方の多くの地点で、24、48、72時間降水量が観測史上1位の値を超えた。」

「令和2年7月豪雨による被害状況等について(11月2日14:00現在)」¹より

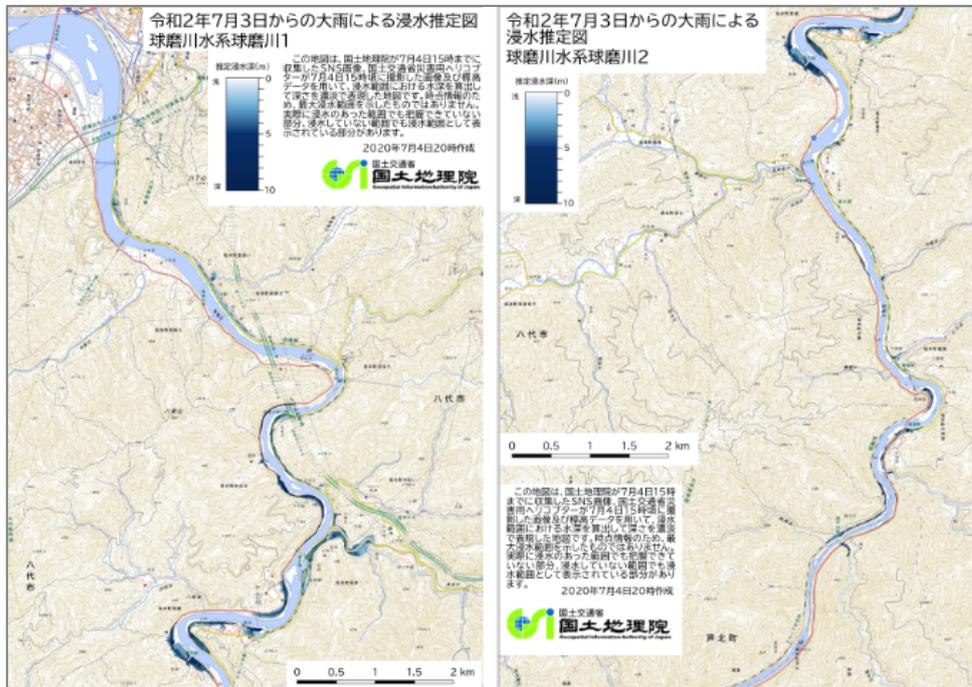
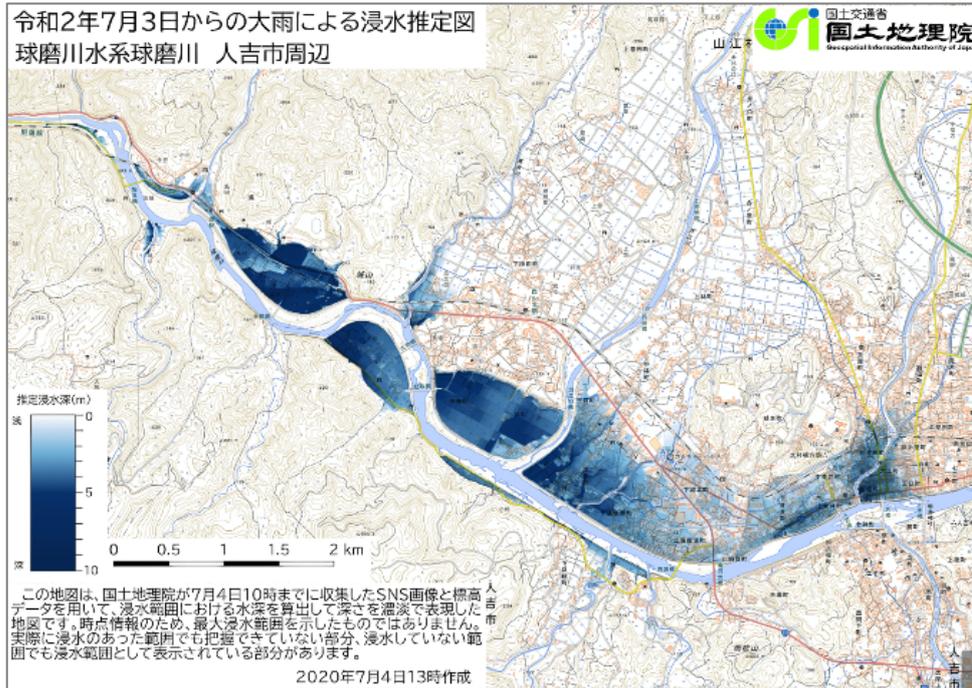
特に熊本県南部に位置する球磨川流域の市町村では、7月4日未明から1時間に約110ミリから120ミリ以上の猛烈な雨が降り続き、各地で大きな浸水被害が発生した。なかでも人吉市および八代市においては10メートル近い浸水が発生した地域もあり、広い範囲で浸水被害が生じた²。図表1-1に国土地理院発表による人吉市および八代市の浸水想定図³を示す。

¹ 「災害情報：防災情報のページ - 内閣府」 <http://www.bousai.go.jp/updates/#r2>

² 一般財団法人国土技術研究センター 令和2年7月豪雨災害調査
<http://www.jice.or.jp/reports/disaster/15>

³ 令和2年7月豪雨に関する情報 | 国土地理院

図表 1-1 人吉市および八代市の浸水想定図



令和2年7月豪雨に関する情報 | 国土地理院

https://www.gsi.go.jp/BOUSAI/R2_kyusyu_heavyrain_jul.html#9 より

https://www.gsi.go.jp/BOUSAI/R2_kyusyu_heavyrain_jul.html#9

1-2 「令和2年7月豪雨」の被災状況

「令和2年7月豪雨」で特に甚大な被害が生じた人吉市および八代市の被害状況を図表 1-2 に示す。

図表 1-2 人吉市および八代市の被害状況

		人吉市	八代市
人口		31,932	125,748
世帯数		15,538	56,631
建物被害	全壊	881 棟 (1,076 世帯)	522 件 (住家被害 162 件)
	半壊	1,406 棟 (1,836 世帯)	194 件 (住家被害)
	床上浸水	1,532 棟 (※)	455 件
	床下浸水	670 棟 (※)	-
	一部損壊	270 棟 (275 世帯)	92 件
	罹災世帯数	2,912 世帯	-
人的被害	死者	20 人	4 人
	行方不明	0 人	1 人
	重傷	2 人	0 人
	軽傷	11 人	19 人
避難	避難所数	9 (※)	7 (※)
	避難世帯数	291 (※)	77 (※)
	避難人数	551 (※)	133 (※)

人吉市 「【資料 1】令和2年7月豪雨に係る被害状況及び人吉市の対応」より
<https://www.city.hitoyoshi.lg.jp>
 人口・世帯数は令和2年6月末時点
<http://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji0032006/index.html>

八代市 「災害対策本部会議第40回(10/23)」より
<http://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00312929/index.html>
 人口・世帯数は令和2年6月末時点
<http://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji0032006/index.html>

(※) 令和2年8月28日現在 熊本県災害対策本部発表より
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/1/51188.html>

上記被害状況を鑑み、他地域と比べて被害状況が大きく、長期の避難生活が予想されることから人吉市および八代市において在宅避難者を中心とした被災者生活実態調査を行い、被災世帯の「次の生活への移行」や今後の被災者支援の一助とすることを、一般財団法人ダイバーシティ研究所として決定した。

第2章 調査の目的

2-1 調査実施に至る経緯

一般財団法人ダイバーシティ研究所（以下、当研究所）では2011年の東日本大震災以降、高齢者、障がい者、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人等、災害時に配慮が必要な「要配慮者（災害時要援護者）」が、多様な属性を持つ個々の実情に応じた支援が受けられるよう、大規模災害時における被災者生活実態調査の実施を通じて多様な被災者の避難生活課題や今後の意向を明らかにし、被災地の自治体に調査結果の提供と支援施策の提言を行ってきた。図表 2-1 に当研究所の大規模災害時における被災者生活実態調査の実施実績を示す。

図表 2-1 当研究所の大規模災害時における被災者生活実態調査事業の実施実績

災害名	事業名	内容	参考 Web サイト
東日本大震災 (2011年)	被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト	被災地に調査スタッフを派遣し、避難所を巡回し「特別な支援が必要な被災者」からニーズの聴き取りを行い、専門性を持つNPOなどにつなぐ活動に構成団体として参画	つなプロ本部 https://www.voluntary.jp/portal/tsuna-pro/portal.index
平成26年8月豪雨 (2014年)	広島土砂災害に係るスペシャルニーズ調査及び支援へのマッチング	広島県広島市において個別訪問による被災者のニーズ調査（訪問・ヒアリング992件）と支援者へのマッチングを実施	広島土砂災害支援報告 https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/wha_pro_dis_02.pdf
平成27年9月関東・東北豪雨 (2015年)	常総市における『関東・東北豪雨』被災者支援活動	茨城県常総市において在宅独居高齢者の訪問ヒアリング(170件)、外国語よろず相談会開催(50件)、避難所在住者アンケート調査(130世帯)を実施	平成27年台風18号豪雨水害支援 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/kanto_tohoku
熊本地震 (2016年)	熊本地震被災者支援活動	熊本県益城町において被災者の生活実態調査(1,243世帯)および避難生活改善活動を実施	熊本地震被災者支援活動 http://diversityjapan.jp/kumamoto2016/
大阪北部地震 (2018年)	茨木市での在宅避難者生活実態調査	大阪府茨木市において被災者の戸別訪問による生活実態調査(913件)および被災者支援施策提言を実施	茨木市での在宅避難者生活実態調査報告書 http://diversityjapan.jp/ibaraki-report-2018/
平成30年7月豪雨 (2018年)	坂町平成30年7月豪雨被災者アセスメント調査	広島県坂町において被災者の生活実態調査(1,551件)および被災者支援施策提言を実施	特集「西日本豪雨(2018/7月)」 https://diversityjapan.jp/heavy-rain-2018/

「令和2年7月豪雨」の被害状況や熊本地震で調査に参加した県内在住の関係者からの報告をふまえ、被災者の長期に及ぶ避難生活が予想される地域のうち、熊本県人吉市および八代市において在宅避難者を中心とした被災者生活実態調査を行い、被災世帯の「次の生活への移行」や今後の被災者支援の一助とすることを当研究所として決定した。また新型コロナウイルスの感染防止の観点から、調査にあたる調査員や調査運営者を熊本県在住者に限定し、県外在住者は調査に必要な知見やリソースを遠隔的に提供する対応をとることとした。人吉市および八代市の両市役所や諸関連先との調整や調査体制の構築、調査の設計等を整えたうえで、2020年9月から10月にかけて調査を実施した。

調査データの取扱や住民情報の提供を受けるため、人吉市および八代市とそれぞれ業務委託契約や被災者調査に関する協定を締結し、個人情報の保護や調査データの取扱について留意事項を確認するとともに、Yahoo! 基金からの寄付を得て調査員が現地で活動するための費用を賄った。また調査員が携行して調査データの入力や支援情報を把握するための機器として、ソフトバンク株式会社より通信可能なアップル社のiPadを20台、無償で貸与を受け調査に使用した。

2-2 調査の目的

避難所利用の手控えや外部支援が限られるコロナ禍での災害では、これまで以上に被災世帯への集中的な調査が必要な状況であると考え、人吉市および八代市の被災地域において、以下3点を目的として被災者の生活実態調査を実施した。

- 1 行政への調査結果の共有：人吉市・八代市及び各市社会福祉協議会と個人情報を含む世帯情報を共有し、被災者台帳とも突合した上で今後の支援に役立てること
- 2 支援団体への情報共有：個人情報を除く地域別の支援ニーズに関する情報を共有し、「次の生活への移行」に必要なさまざまな支援に速やかにつなぐこと
- 3 国・支援ネットワークへの提言：コロナ禍における被災者支援やニーズ把握について、ITやスマホアプリを活用した新たなあり方を提言すること

第3章 調査の方法

前章の目的を達成するための調査方法を策定した。従来の調査手法に加え、当調査では調査対象被災者や調査員等の新型コロナウイルス感染を防ぐ対応に注力し、これまでの調査にはない新たな取り組みを実施した。

3-1 調査対象

熊本県人吉市および八代市において「令和2年7月九州豪雨」で被災し、長期の避難生活が見込まれる下記2地区の約3,700世帯を調査対象とした。図表3-1に調査地域の概要を示す。

図表3-1 調査対象地域の世帯数と人口

地域	調査対象世帯数	人口
①人吉市	8月末時点の罹災証明半壊以上の2,190世帯	4,388人
②八代市坂本町	1,505世帯（地区の全世帯数）	3,202人

（人口・世帯数は2015年国勢調査に基づく）

なお、人吉市については図表3-2に示す校区割合に従って、各校区内で被害が甚大な地域を選定し、罹災証明未取得及び半壊以下の世帯についても聞き取りを実施した。

図表3-2 人吉市調査対象の校区と訪問地区名

校区	訪問地区
1. 東校区	五日町、九日町、大工町、二日町、上新町、下新町、紺屋町、七日町、老神町 鍛冶屋町の一部、灰久保町の一部、南泉田町の一部、新町の一部
2. 西校区	上青井町、中青井町、駒井田町、下青井町、城本町の一部
3. 東間校区	西間下町の一部
4. 大畑校区	訪問調査なし
5. 西瀬校区	宝来町、相良町、上薩摩瀬町、下薩摩瀬町 矢黒町の一部、下城本町の一部
6. 中原校区	温泉町、中神町の一部、下林町の一部

3-2 調査項目

被災者世帯の基本情報、住まいの情報（家屋の状況と避難から現在までの居住状況、今後の居住見通し）、健康情報（家族の健康、医療に関する情報）、生活支援情報（現状の生活課題と必要な支援の情報、今後の生活見通し）を明らかにするための調査項目を設定した。全体を7分野に分け、図表 3-3 に示す調査項目を設定した。（調査票については巻末資料に掲載）

図表 3-3 調査分類と項目

調査分類	調査項目
① 世帯情報	住所、世帯構成、要援護情報（介護、障害、子ども、外国人等）
② 家屋情報	被災状況、支援ニーズと対応状況、り災証明、今後の意向
③ 避難情報	避難の有無、避難時期、避難方法、情報入手方法
④ 健康情報	被災前後の健康状態、医療、服薬、福祉の利用状況
⑤ 生活情報	食事、移動、生活費
⑥ 今後の見通し	住宅再建、当面の居所、居住希望地
⑦ 困りごと	困りごと

3-3 調査方法

被災した自宅や避難先へ調査員が訪問し、調査票に沿って質問しながら調査項目を確認した後に、個別の状況や課題等を調査員が聞き取り所見としてまとめる半構造化面接方式での訪問調査と、スマートフォンやPCから被災世帯が自分で項目に回答できる入力用サイトにアクセスして回答を得る「セルフアセスメント（自己評価）」の2形態により実施した。

訪問による聞き取り調査では、社会福祉士等対人援助の経験を持つ者（アセッサー）と記録等を行う補助員（サポーター）が2人ひと組となり、当調査の現地事務局による調査地域の割り振りに従って各世帯への訪問を行った。調査員および現地事務局スタッフについては熊本県在住者に限定し、新型コロナウイルス感染のリスク低減を図った。

「セルフアセスメント」については、QRコードからすぐに回答用Webサイトにアクセスできる案内チラシを被災地で配布し、被災者自らが回答することでの省力化と新型コロナウイルス感染対策を図った。図表 3-4 に回答用Webサイト画面を示す。



URL: <https://kumamoto2020.decojp.net>

図表 3-4 「セルフアセスメント」 サイト画面

3-4 調査員

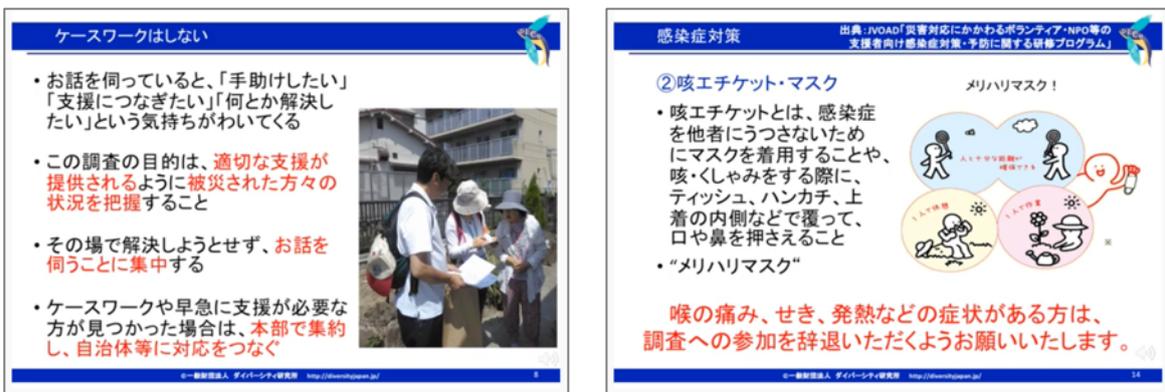
訪問調査の調査員は、前述のとおり社会福祉士等対人援助の経験があり被災者との適切な対応や個別に抱える課題を無理なく引き出せる能力を持つ者(アセッサー) と、記録等を行う補助員(サポーター)の2種を設定し募集した。アセッサーとサポーターは現地事務局でペアをつくり、2人ひと組での訪問を行った。

従来、調査の開始時には調査員全員が当日の調査基地に集合して全員で事前オリエンテーションおよび詳細の説明を行っていたが、今回はオリエンテーション動画と調査内容の詳細を説明するスマートフォンアプリを作成して提供することで、調査前の集合オリエンテーションの簡略化を行い、「三密」を回避する対策をとった。図表 3-5 にオリエンテーション動画、図表 3-6 に調査内容の詳細説明スマートフォンアプリの画面を示す。

図表 3-5 調査員向けオリエンテーション動画の画面例



被災者アセスメント調査の概要について <https://youtu.be/s8zn2eD9AL8>



調査活動での留意点について <https://youtu.be/WVACpfC4dOM>

図表 3-6 調査内容の詳細説明スマートフォンWebアプリ画面例



URL: <https://kumamoto2020.glideapp.io> 調査員向けガイダンス

3-5 調査スケジュール

2020年8月29日(土)から同年10月31日(土)までの毎土曜日と毎日曜日を調査期間とし、以下に示すスケジュールで調査を実施した。毎回、アセッサー15名、サポーター15名の募集を行い、15組体制での実施をめざした。

9:30	現地拠点に集合、オリエンテーション、班分け、機材配分 *事前にオリエンテーション動画を視聴した上で参加することとし、集合研修は回避
10:00	調査箇所へ移動、順次調査開始 *ワンボックスカーに分乗(1台あたり3組6名×5台) *1組あたり1日5件程度の訪問を想定
12:30	休憩 *コーディネーターが巡回し弁当を配布しながら状況を確認
13:30	調査再開
16:00	調査終了、拠点へ移動
16:30	調査内容の入力、機材・資料の返却、クロージング *入力作業やふりかえりは班ごとに行う *全体での共有は屋外など換気の良いところで最小限の時間で三密を避けて実施
17:30	終了、解散

3-6 集計方法

回答済み調査票は、調査員および現地事務局スタッフが、タブレット端末を用いて集計用の調査データベースに入力した。セルフアセスメントによる回答は、調査対象者本人がセルフアセスメントサイトにスマートフォンやパソコンでアクセスして回答した内容を、調査データベースに統合し、全体として集計・分析を行った。



図表 3-7 集計用調査データベースへの調査結果統合の流れ

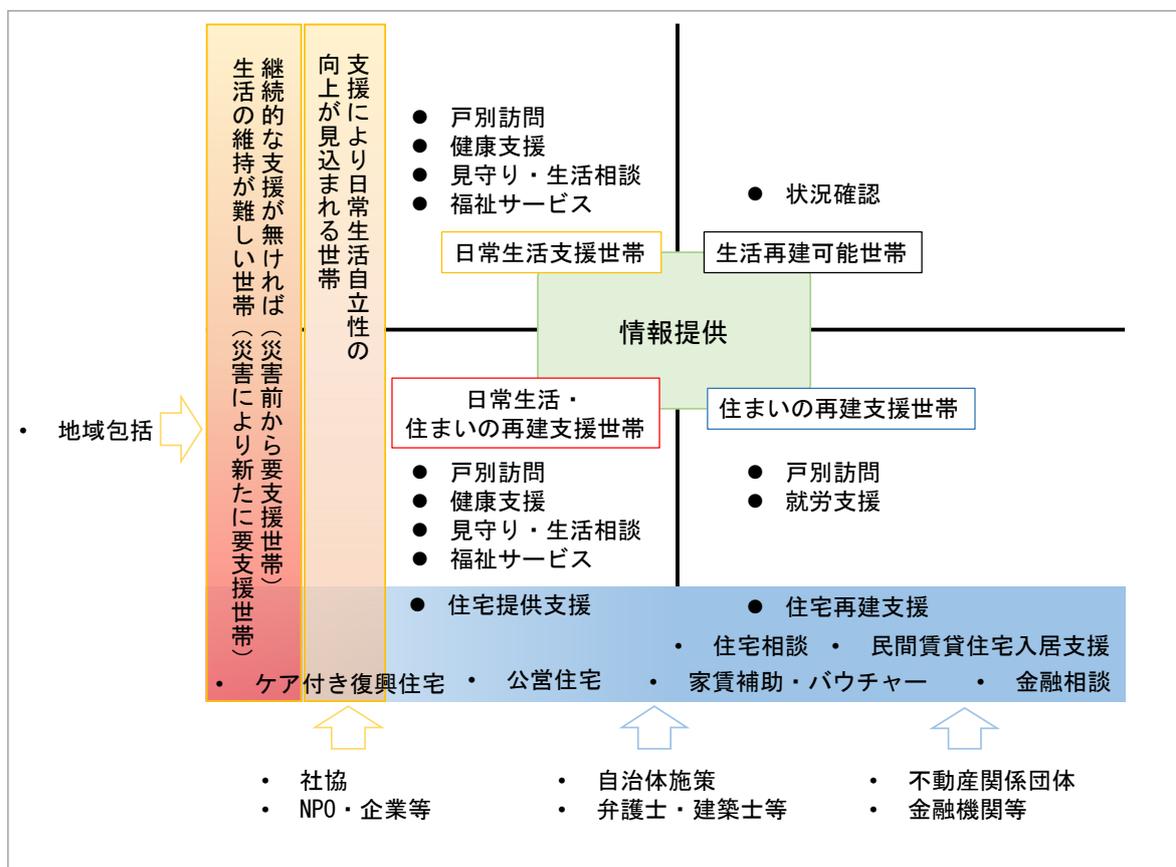
3-7 分析方法

調査結果の分析は全体の単純集計を基本とし、地区別、高齢者のみ世帯、健康への影響、その他調査対象地域の特性に合わせ、図表 3-8 に示すクロス集計を行った。また、生活再建機において「災害ケースマネジメント」に基づいた支援が実施されることを踏まえ、図表 3-9 に示す「災害ケースマネジメントに基づく世帯分類と基本的な支援方針」に対応する分析を行った。(詳細は第 7 章)

図表 3-8 集計・分析項目

人吉市	八代市
単純集計	単純集計
クロス集計 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校区別 ・ 高齢者世帯 ・ 在宅避難世帯 ・ 健康への影響 	クロス集計 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区別 ・ 高齢者世帯 ・ 被害の大きい地区 ・ 健康への影響
災害ケースマネジメント分析	

図表 3-9 災害ケースマネジメントに基づく世帯分類と基本的な支援方針



第4章 調査の経過

4-1 調査日程・調査員活動実績

人吉市及び八代市での調査日程及び調査員活動実績を、図表 4-1 に示す。

図表 4-1 調査日程、地域、調査員分類別調査員活動人数

日程	人吉市		八代市	
	専門	サポート	専門	サポート
9月5日(土)	-	-	6名	-
9月12日(土)	6名	3名	6名	6名
9月13日(日)	6名	6名	3名	5名
9月19日(土)	6名	11名	8名	10名
9月20日(日)	6名	10名	9名	12名
9月21日(月)	7名	6名	6名	4名
9月22日(火)	3名	5名	-	-
9月26日(土)	-	-	9名	10名
9月27日(日)	-	-	14名	13名
10月3日(土)	2名	4名	-	-
10月4日(日)	1名	3名	-	-
10月10日(土)	6名	4名	10名	5名
10月11日(日)	6名	5名	10名	5名
10月17日(土)	4名	2名	-	-
10月18日(日)	3名	2名	5名	6名
10月24日(土)	7名	6名	12名	10名
10月25日(日)	2名	3名	11名	6名
10月31日(土)	6名	4名	-	-
合計	71名	74名	103名	92名

4-2 調査回答数・回収率

人吉市及び八代市での調査回答数及び回収率を、図表 4-2、図表 4-3 に示す。なお、人吉市の調査範囲は、①地区全域を訪問した地区 ②地区の一部を訪問した地区 ③訪問以外の地区 であり、②については調査を行った範囲の実測世帯数に対する回答率、③はイベント等での聞き取りやセルフアセスメント等の地区に関わらず得られた回答数を記載している。

図表 4-2 人吉市における地区の調査回答数及び回収率

①訪問アセスメントによる回答数（地区全域）			
地区名	回答数	8月31日現在 世帯数	回答率
七日町	16	73	21.9%
下新町	12	62	19.4%
上新町	11	60	18.3%
紺屋町	12	130	9.2%
二日町	10	40	25.0%
大工町	8	39	20.5%
鍛冶屋町	14	61	23.0%
灰久保町	6	50	12.0%
九日町	5	78	6.4%
五日町	3	64	4.7%
下青井町	27	187	14.4%
駒井田町	25	164	15.2%
中青井町	17	91	18.7%
上青井町	11	97	11.3%
下薩摩瀬町	157	396	39.6%
上薩摩瀬町	50	237	21.1%
相良町	40	218	18.3%
宝来町	25	204	12.3%
温泉町	16	80	20.0%
②訪問アセスメントによる回答数（地区内一部対象）			
地区名	回答数	世帯数（暫定）	回答率
新町	4	7	57.1%
老神町	7	32	21.9%
城本町	21	149	14.1%
西間下町	8	50	16.0%
矢黒町	15	36	41.7%

下城本町	8	19	42.1%
下林町	56	293	19.1%
中神町	15	418	3.6%
訪問回答数	599	-	-
その他回答	23		
地区不明	7		
合計	629	3,335	18.9%

※ ①の回答数には、訪問時に不在だった世帯のセルフアセスメント回答を含む。

※ その他回答は、訪問地区以外のセルフアセスメント及びイベント等での聞き取りの回答数。

図表 4-3 八代市における地区の調査回答数及び回収率

地区名	回答数	対象世帯数	回収率
坂本	76	159	47.8%
葉木	64	133	48.1%
鮎埴	107	184	58.2%
鎌瀬	31	51	60.8%
荒瀬	65	119	54.6%
市ノ俣	7	21	33.3%
深水	45	93	48.4%
西部	150	243	61.7%
川嶽	28	46	60.9%
中谷	114	178	64.0%
中津道	25	41	61.0%
鶴喰	46	74	62.2%
田上	51	69	73.9%
百済来上	40	87	46.0%
百済来下	68	109	62.4%
不明	9	-	-
合計	926	1607	57.6%

第5章 調査結果 1 人吉市

5-1 調査結果

人吉市中心部で特に被害が大きい球磨川沿いの地区を中心に、図表 5-1 の地区で訪問調査を実施した。また、炊き出し等の会場での参加者から聞き取り及びセルフアセスメントにより、寺町、鬼木町、土手町、北泉田町、鶴田町、西間上町、蓑野町、願成寺町、下原田町から得た回答を含め、629 件を有効回答数とした。ただし、集計結果からの分析においては、調査員訪問時に不在であった世帯や調査時点において調査地区外の親戚・知人宅等に避難している世帯の聞き取りができていない点に留意する必要がある。

10 月 1 日現在の人吉市における罹災証明発行状況と本調査回答における罹災証明の内容を比較したところ、罹災証明の内容は近似していた。(図表 5-3-①) また世帯の様子については、2016 年国勢調査における高齢者のいる世帯数と本調査回答の内容を比較したところ、本調査回答の方が高齢者のいる世帯の割合が高いことが確認された。(図表 5-3-②)

図表 5-1 訪問調査実施地区 (校區別)

校区	訪問地区
1. 東校区	五日町、九日町、大工町、二日町、上新町、下新町、紺屋町、七日町、老神町および鍛冶屋町、灰久保町、南泉田町、新町の一部
2. 西校区	上青井町、中青井町、駒井田町、下青井町、城本町の一部
3. 東間校区	西間下町の一部
4. 大畑校区	訪問調査なし
5. 西瀬校区	宝来町、相良町、上薩摩瀬町、下薩摩瀬町、および矢黒町、下城本町の一部
6. 中原校区	温泉町、中神町の一部、下林町の一部

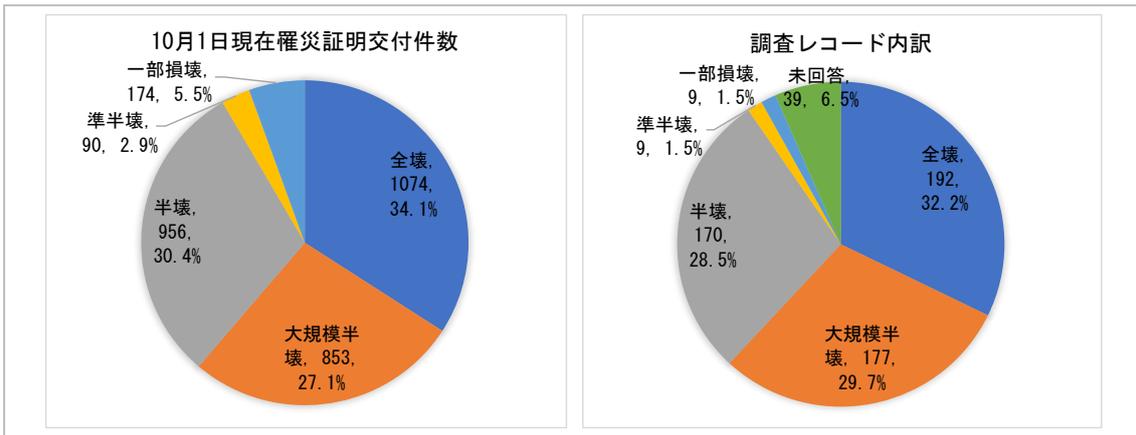
図表 5-2 有効回答数 (校區別)

校区	回答数
1. 東校区	119
2. 西校区	107
3. 東間校区	10
4. 大畑校区	0
5. 西瀬校区	295
6. 中原校区	91
不明・その他	7
合計	629

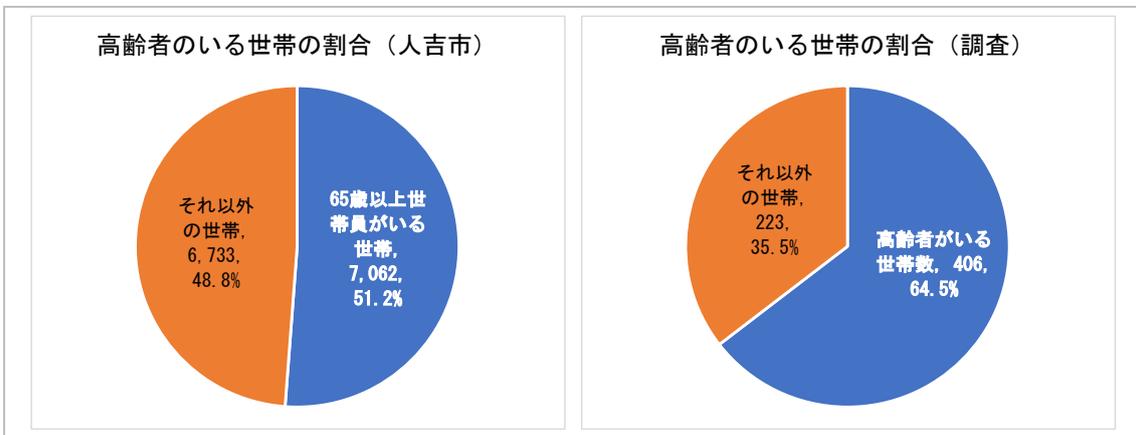
図表 5-3 有効回答数 (回答方法別)

回答方法	回答数
訪問調査	506
セルフアセスメント	92
調査会場	31
合計	629

図表 5-3-① 人吉市における罹災証明発行件数と調査回答内訳の比較



図表 5-3-② 人吉市の世帯構成（2016年国勢調査）と調査回答世帯割合の比較



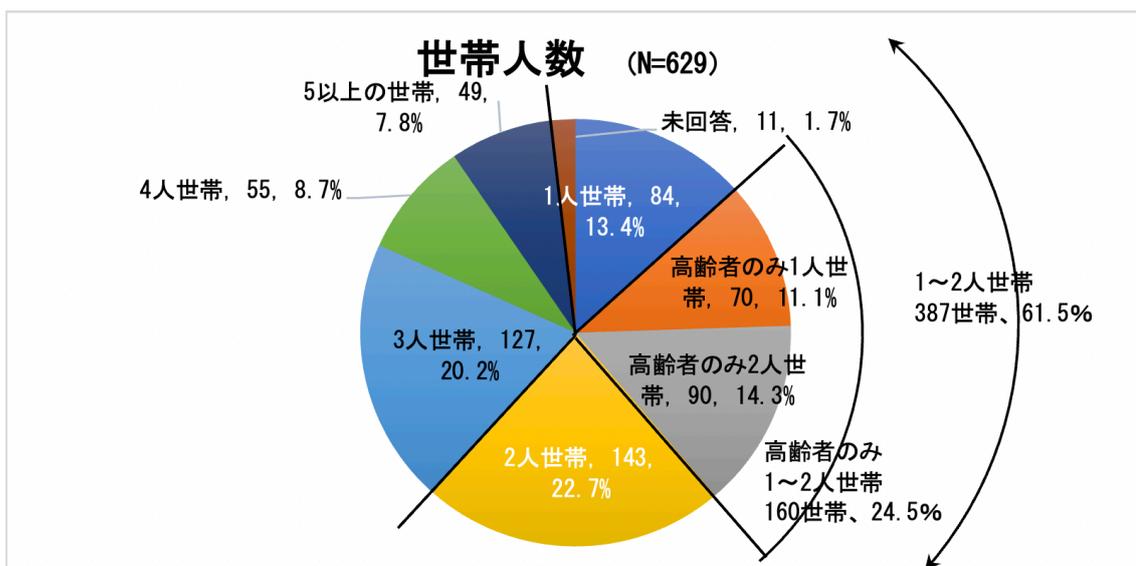
5-2 単純集計

(1) 世帯情報

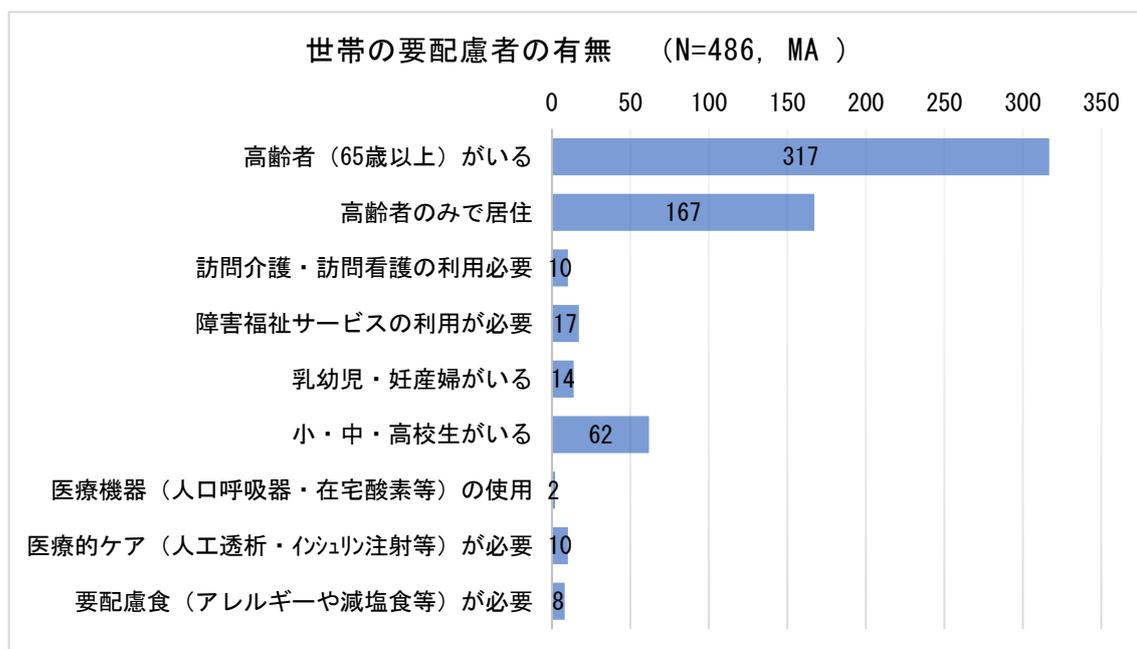
世帯人数は、「1人世帯」が154世帯（24.5%）、「2人世帯」が233世帯（37.0%）で、全体の61.5%を占める。このうち高齢者のみ単身世帯は70世帯、高齢者のみ2人世帯は90世帯あり、高齢者のみの1～2人世帯は全体の24.5%である。（図表5-4）

世帯構成員の要配慮者の有無は、図表5-5の通りである。

図表5-4 世帯人数



図表5-5 世帯の様子

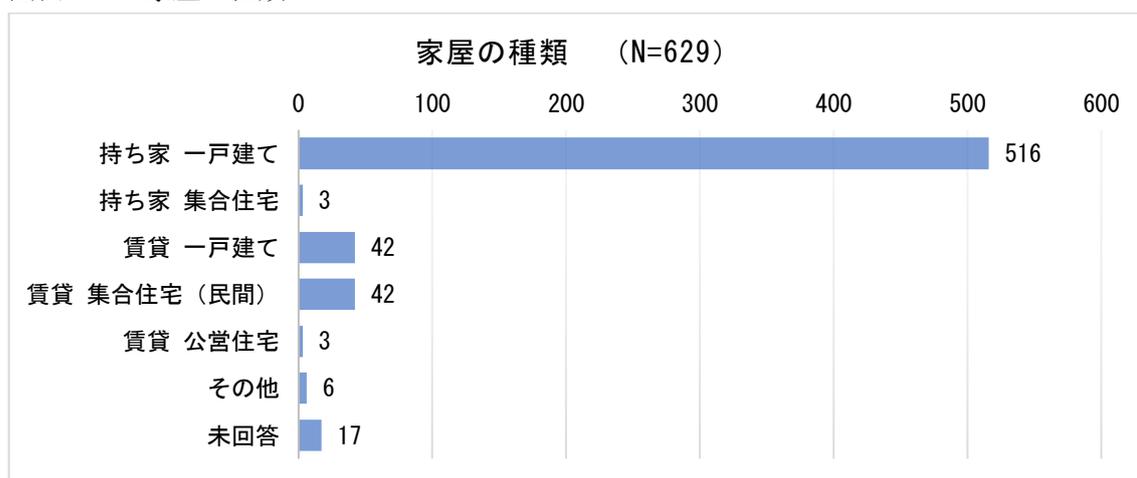


(2) 家屋の状況

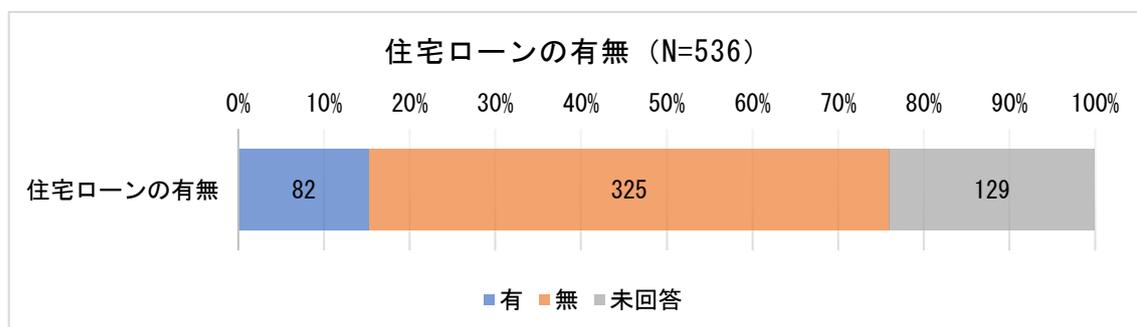
①家屋の種類

「持ち家一戸建て」が516件で最も多い。「持ち家集合住宅」3件と「未回答」17件のうち、「住宅ローン有」は82件（15.3%）である。（図表 5-6、図表 5-7）

図表 5-6 家屋の種類



図表 5-7 住宅ローン



②家屋の被害の様子

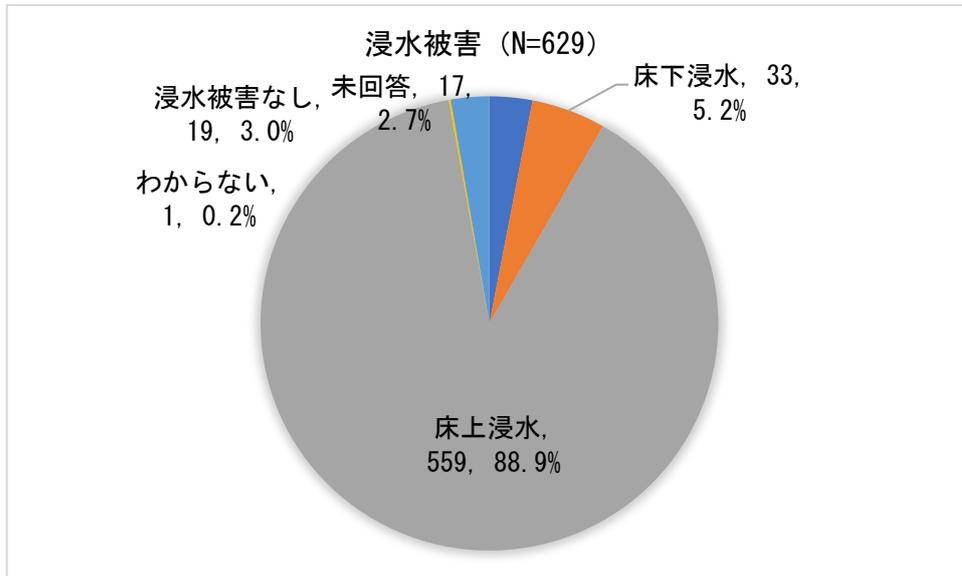
「床上浸水」は559世帯（88.9%）、「床下浸水」は33世帯（5.2%）であり、全体の94.1%が浸水被害を受けている。（図表 5-8）

床上浸水の程度は、「床上 1.8m以上の浸水」が200件（32.8%）、「床上 1m～1.8m未満の浸水」が202件（33.1%）、「床上 1m 未満の浸水」が123件（20.2%）である。（図表 5-9）

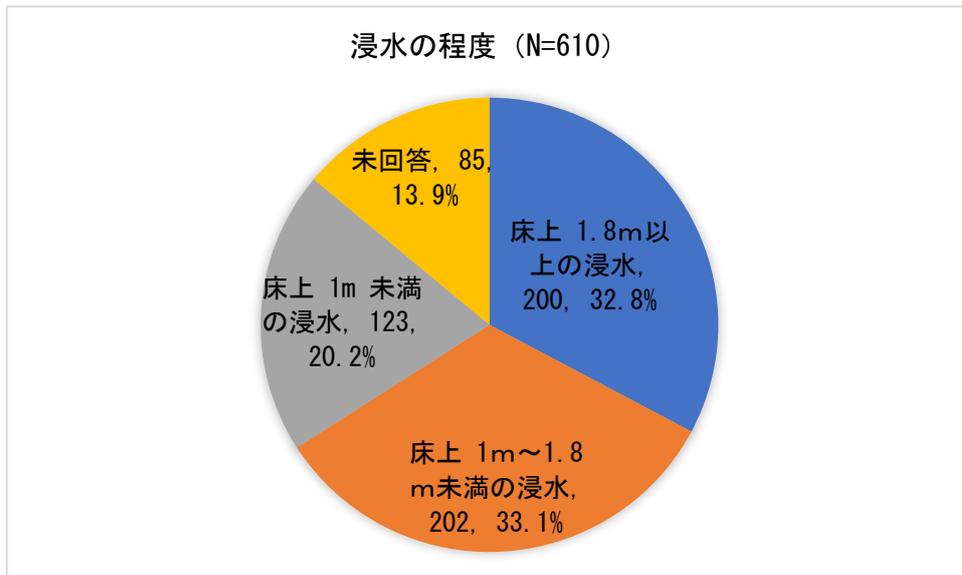
回答世帯のうち、「土砂被害なし」は118件（18.8%）で、土砂被害を受けている世帯（「基礎天端下 25cm 程度まで土砂が流入」「およそ床まで土砂が流入」「床上を越えて土砂が流入」）は、438件（69.6%）である。（図表 5-10）

生活設備への影響については、「エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の電化製品」の被害が最も多い。（図表 5-1-9）

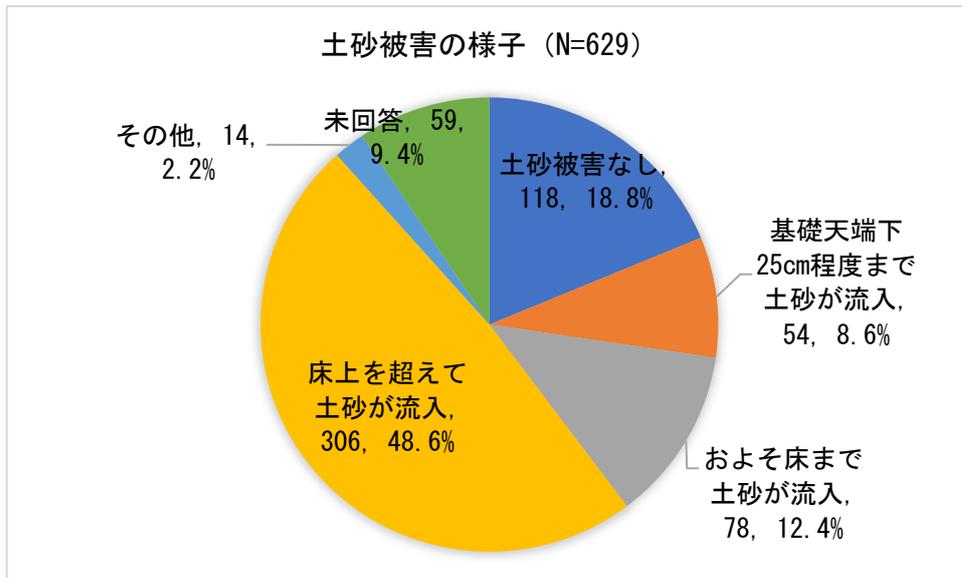
図表 5-8 浸水被害



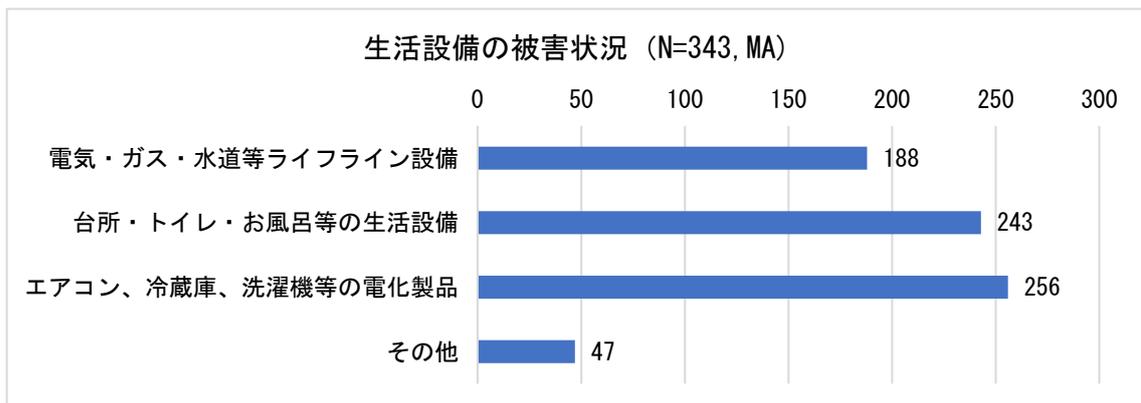
図表 5-9 床上浸水の程度



図表 5-10 土砂被害



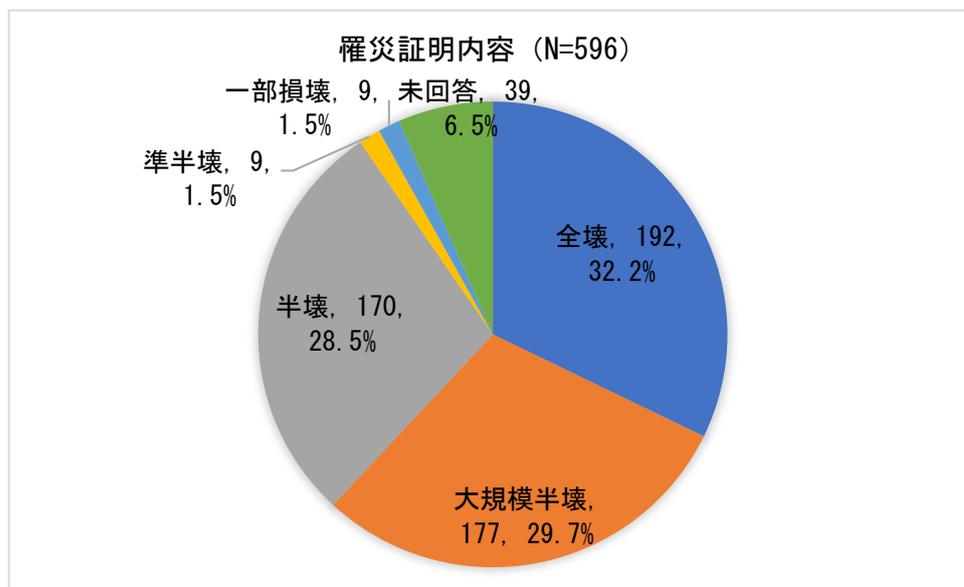
図表 5-11 生活設備の被害状況



③罹災証明の内容

「全壊」192件（32.2%）と「大規模半壊」177件（29.7%）を合わせると369件となり、「罹災証明は申請しない」と回答した世帯を差し引いた世帯数の61.9%に相当する。（図表 5-12）

図表 5-12 罹災証明内容



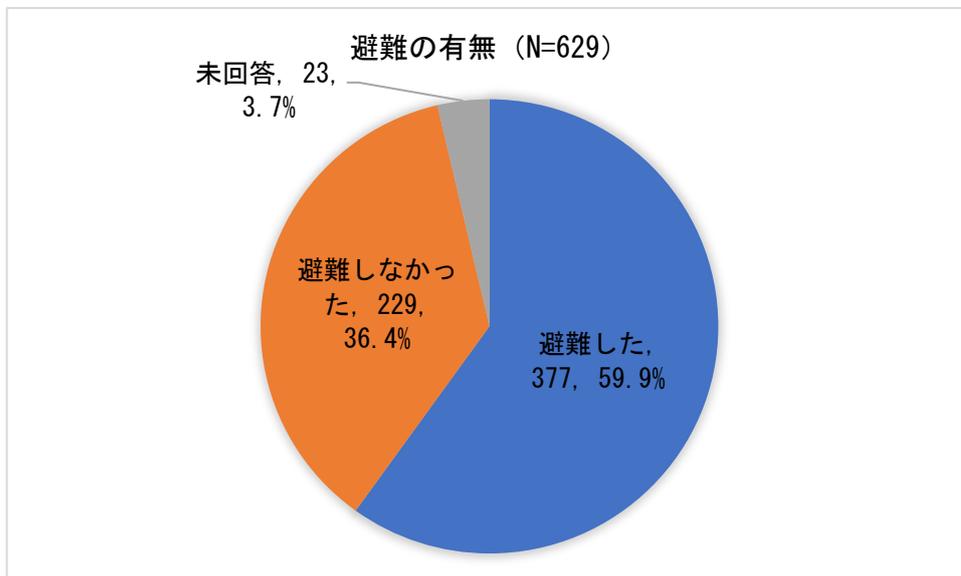
(3) 避難行動

① 避難の有無

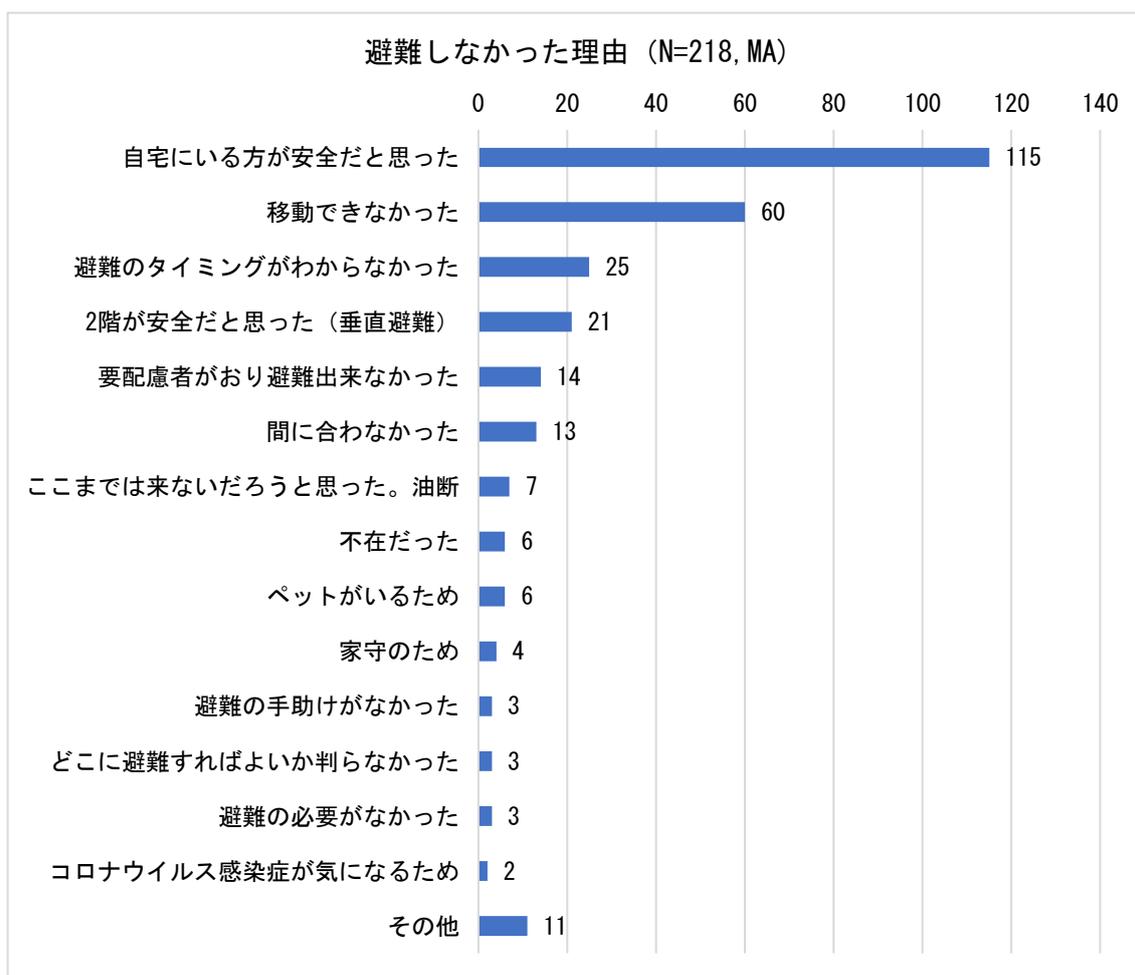
回答世帯の回答のうち「避難した」のは 377 件 (59.9%)、「避難しなかった」のは 299 件 (36.4%) である。(図表 5-13)

避難しなかった理由としては、自宅から避難しないことを選択した回答が「自宅にいる方が安全だと思った」115 件、「2 階が安全だと思った」21 件である。避難の意思に反して避難ができなかった回答は、「移動できなかった」60 件、「避難のタイミングが判らなかった」25 件、「間に合わなかった」13 件、「避難の手助けがなかった」3 件である。配慮を必要とする世帯が避難出来なかった理由として「要配慮者がおり避難できなかった」14 件、「ペットがいる」6 件、「避難の手助けがなかった」3 件である。(図表 5-14)

図表 5-13 避難の有無



図表 5-14 避難しなかった理由



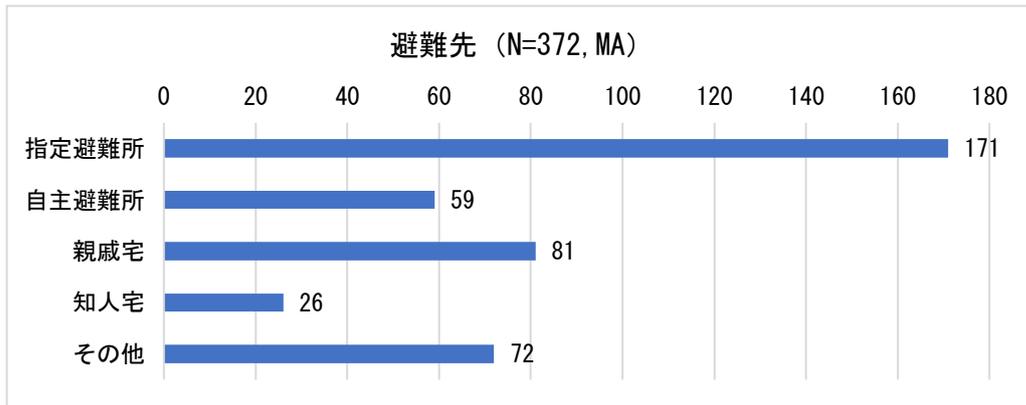
②避難先・避難のタイミング・救助者

避難先は、指定避難所への避難が 171 件と最も多く、次いで親戚宅 81 件である。(図表 5-15)

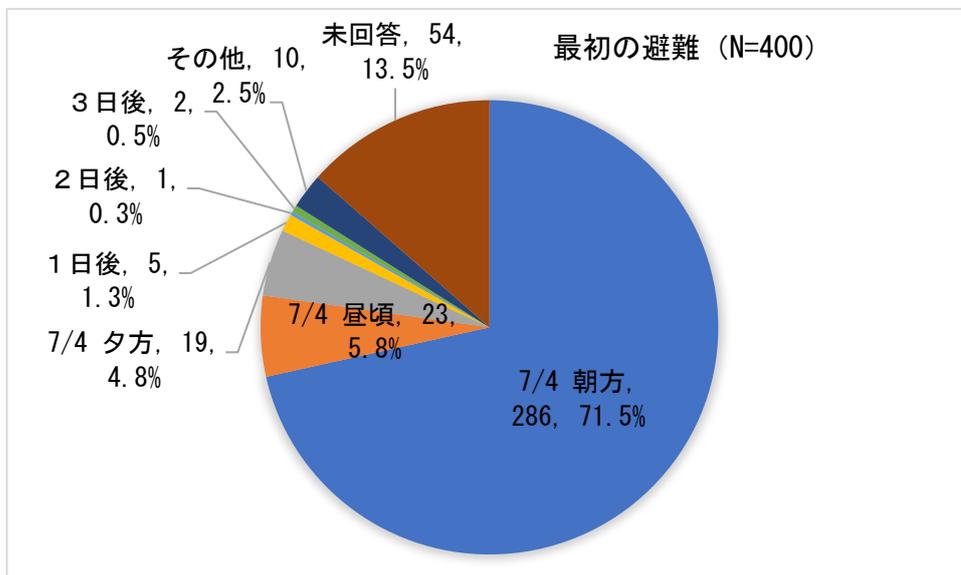
最初の避難の様子は、「7月4日朝方」が 286 件 (71.5%)、「7月4日昼頃」23 件 (5.8%)、「7月4日夕方」が 19 件 (4.8%) となっており、7月4日のうちに避難した世帯は 328 世帯 (82.1%) である。(図表 5-16)

救助者については、自力で避難した人が最も多く、住民同士の避難支援や消防団による救助を受けている世帯もある。(図表 5-17)

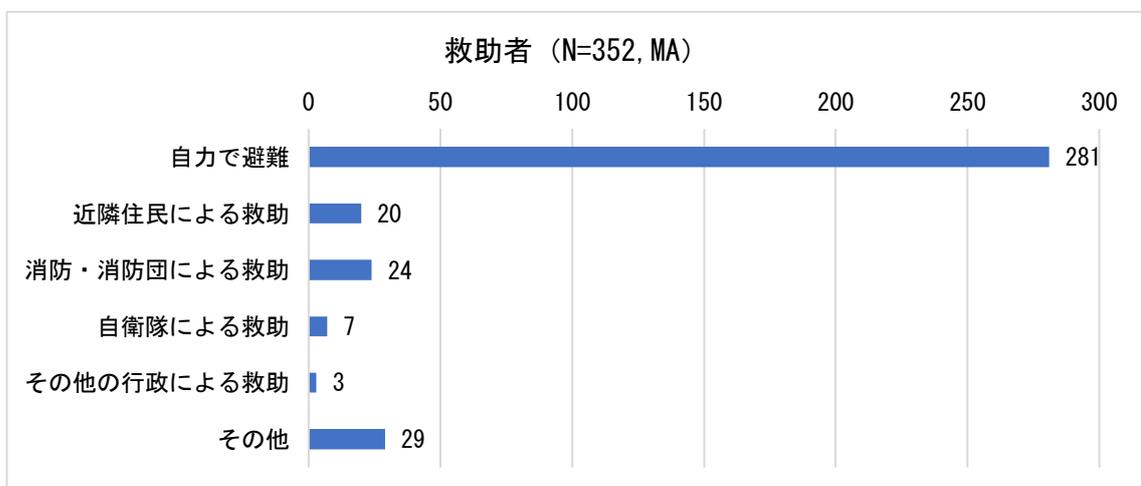
図表 5-15 避難先



図表 5-16 最初の避難の時期



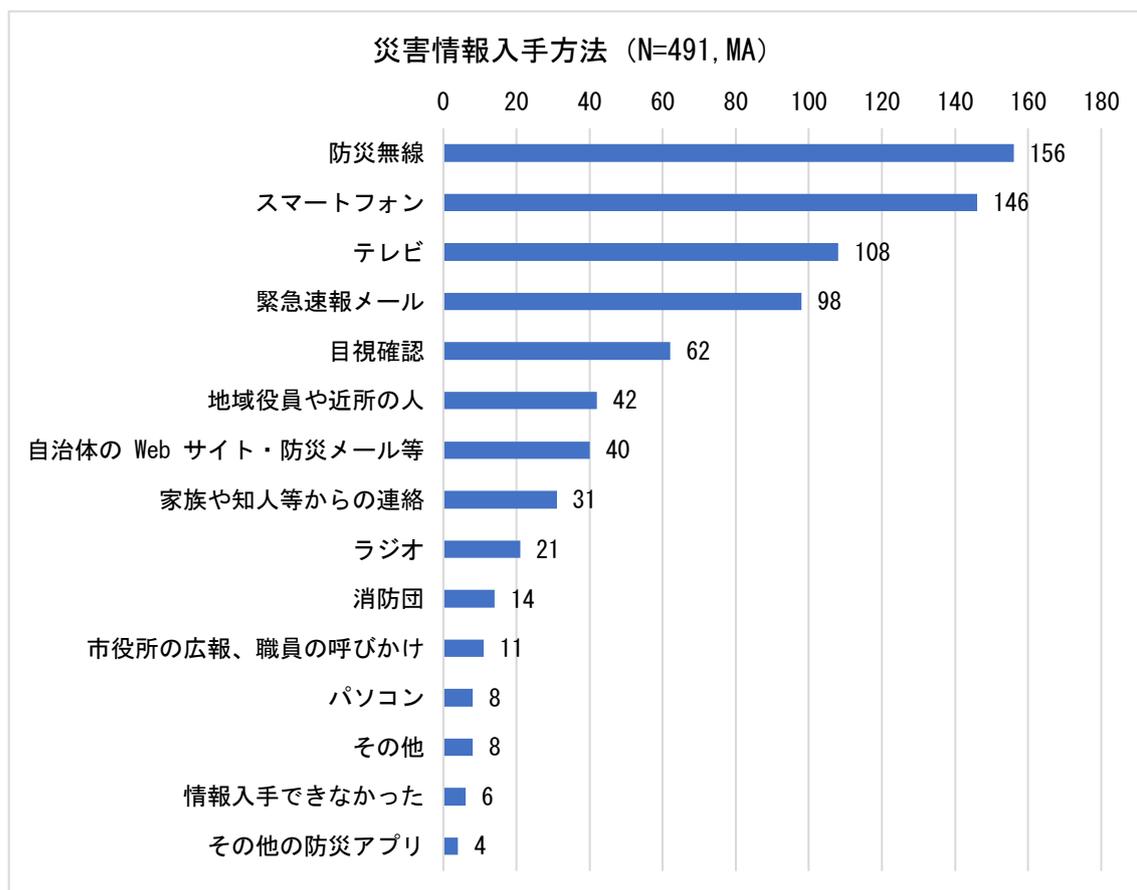
図表 5-17 救助者の様子



③災害情報の入手方法

災害情報を何で入手したかについては、「防災無線」が158件と最も多いが、「防災無線が聞き取れない」との主旨の意見が散見される。(図表 5-28、参考資料「人吉市集計」)

図表 5-18 災害情報を入手した主な方法

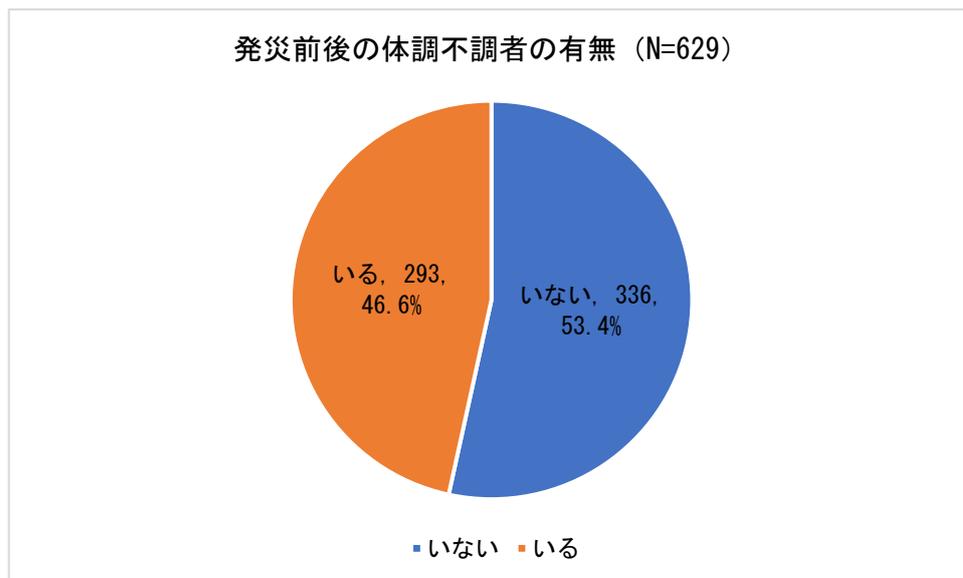


(4) 健康や福祉

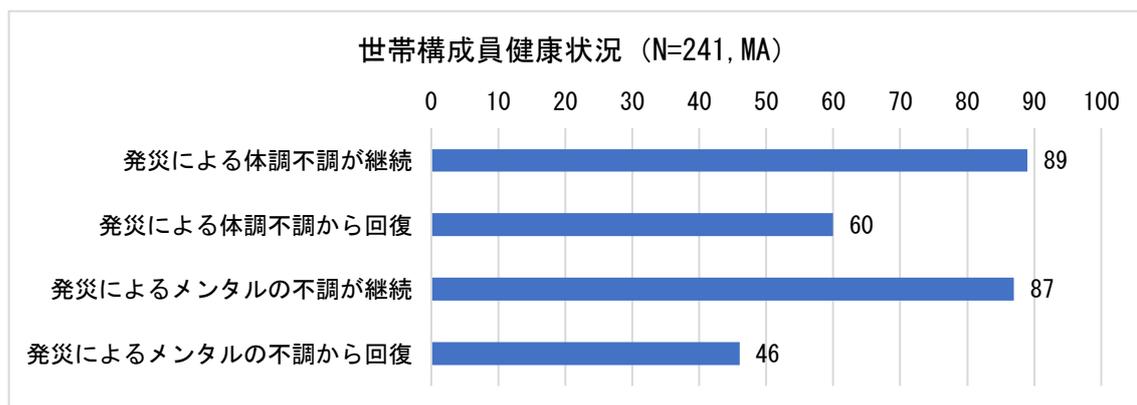
①健康状態

災害発生前後に世帯の中に体調不良者がいるかどうかの確認では、「いない」336件（53.4%）、「いる」293件（46.6%）である。「体調不良者がいる」の回答世帯の健康状態は、「体調不調が継続」89件、「メンタルの不調が継続」87件あり、体調・メンタルのいずれも不調より回復よりも、不調が継続している件数が多い。（図表 5-19、図表 5-20）

図表 5-19 発災前後の体調不調者の有無



図表 5-20 世帯構成員健康状況

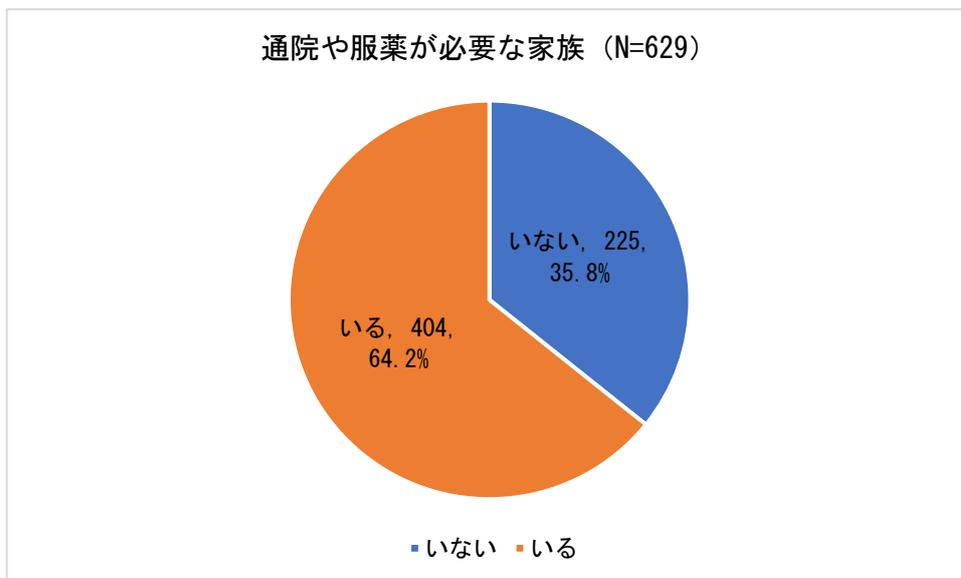


②通院・服薬

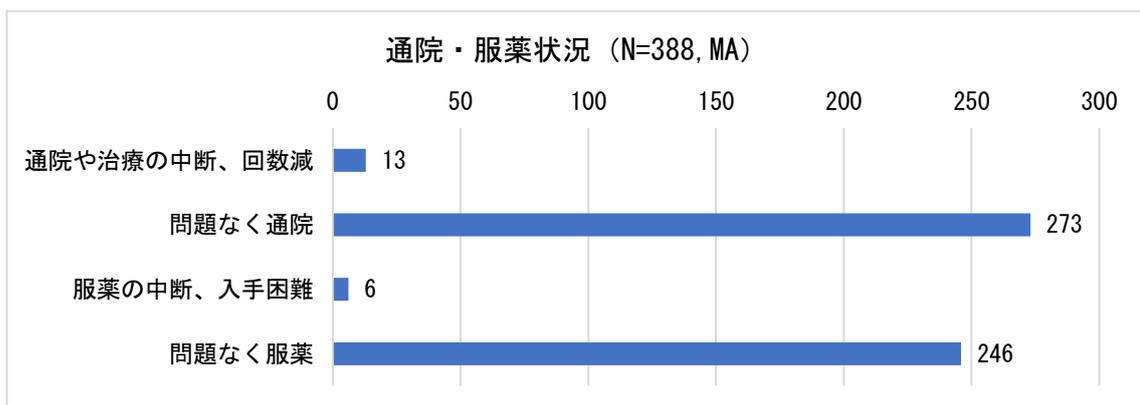
日常的に通院や服薬が必要な家族等がいるかどうかの確認では、「いない」225件(35.8%)、「いる」404件(64.2%)である。

災害による通院や服薬の影響を確認したところ、「問題なく通院できている」273件、「問題なく服薬できている」246件で特に問題が生じていると感じていない世帯がある一方で、「通院や治療の中断、回数が減っている」13件、「服薬の中断や入手がしにくい」6件と、日常的な通院や服薬に支障がある世帯が見られる。(図表 5-21、図表 5-22)

図表 5-21 通院や服薬が必要な家族の有無



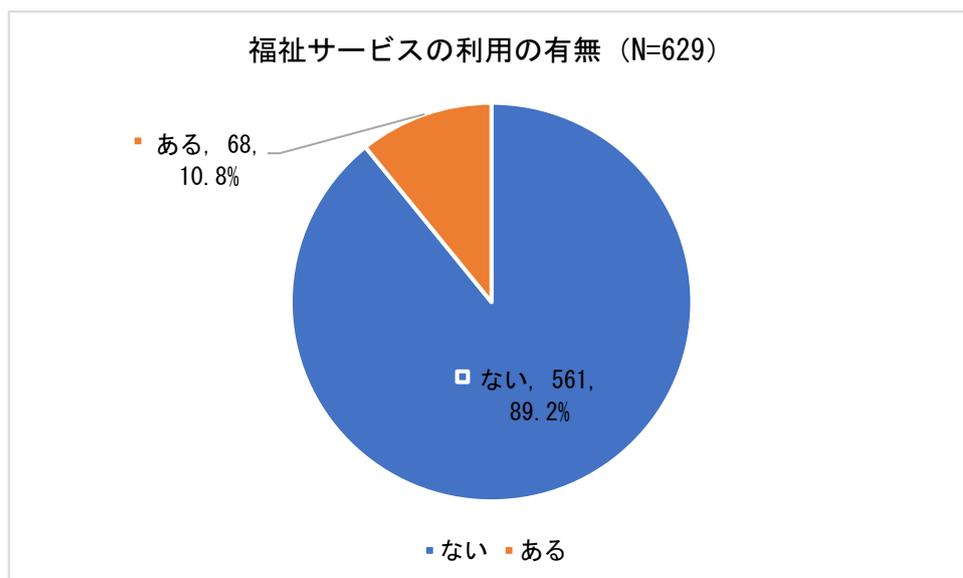
図表 5-22 発災後の通院・服薬状況



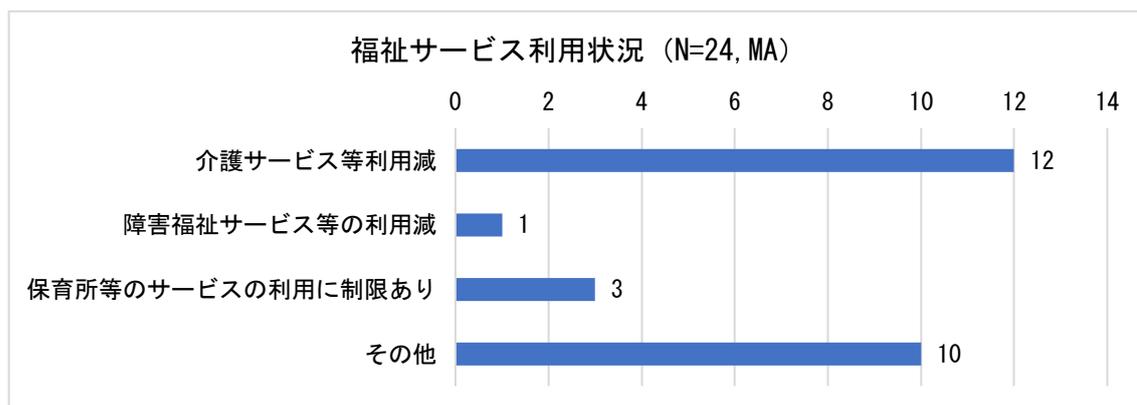
③福祉サービス等の利用

平時における福祉サービス等の利用の有無の確認は、「ある」68件（10.8%）、「ない」561件（89.2%）である。発災後の福祉サービス等の利用状況は24件の回答があり、介護、障害福祉、保育所等のいずれも、利用減や利用制限が見られる。（図表 5-23、図表 5-24）

図表 5-23 福祉サービス等の利用の有無



図表 5-24 発災後の福祉サービス利用状況



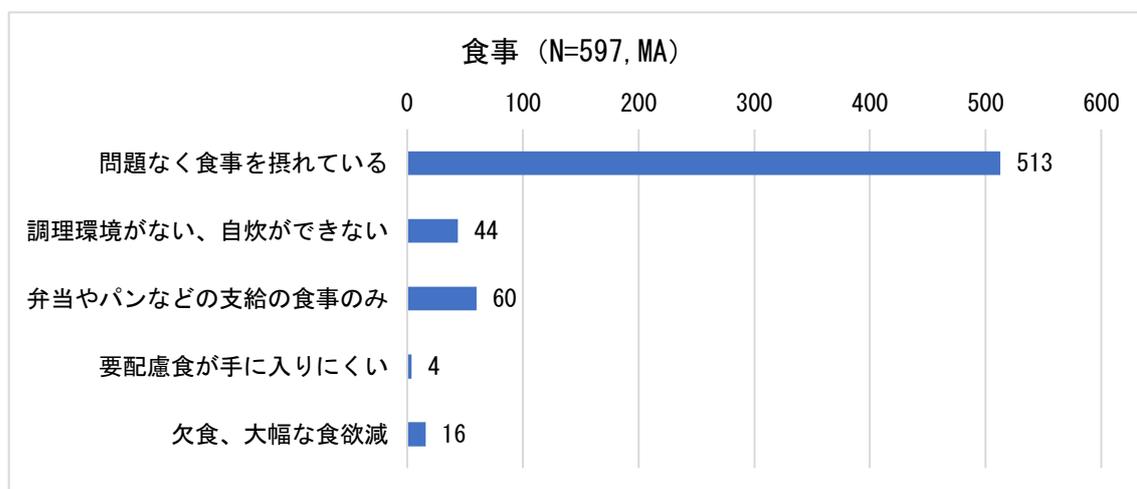
(5) 生活状況

食事に関する制限や支障の状況は、「調理環境がない、自炊したくてもできない」44件、「弁当屋パンなど支給される食事のみで過ごしている」60件、「要配慮食が手に入りにくい（減塩食、糖尿病食等）」4件、「一日3食摂れていない、大幅な食欲減」16件である。（図表 5-25）

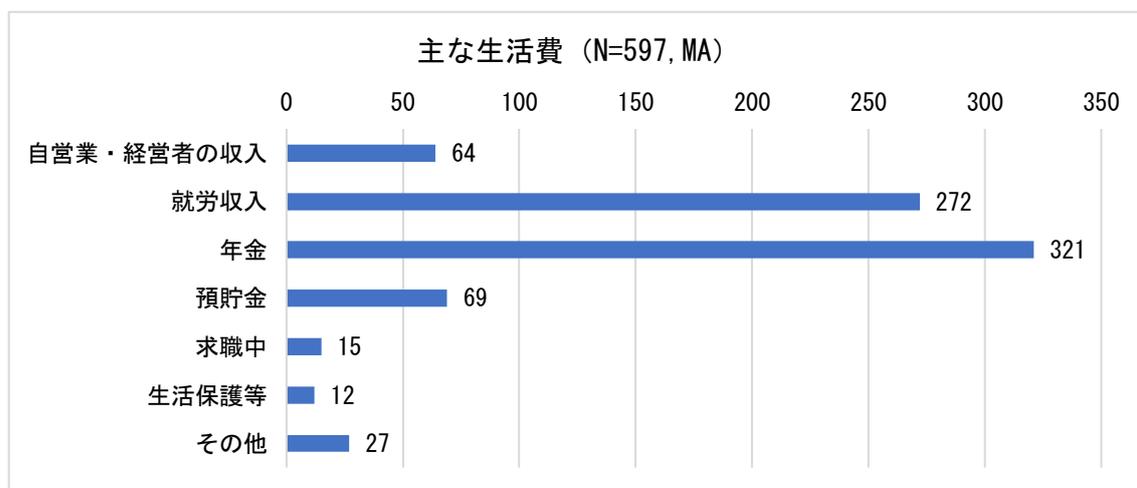
主な生活費は、「年金」321件が最も多く、「就労による収入」272件、「自営業・経営者としての収入」64が続く。（図表 5-26）

通勤・移動の状況は、「特に困っていない」509件で最も多いが、その他の内訳から、タクシーや自動車の購入や代車等、代替の交通手段が必要である様子が見られる。（図表 5-27、図表 5-28）

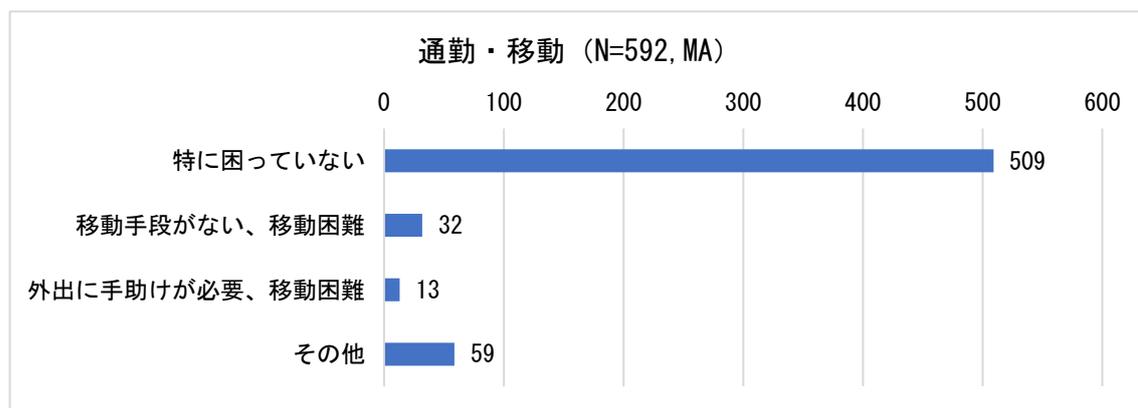
図表 5-25 食事



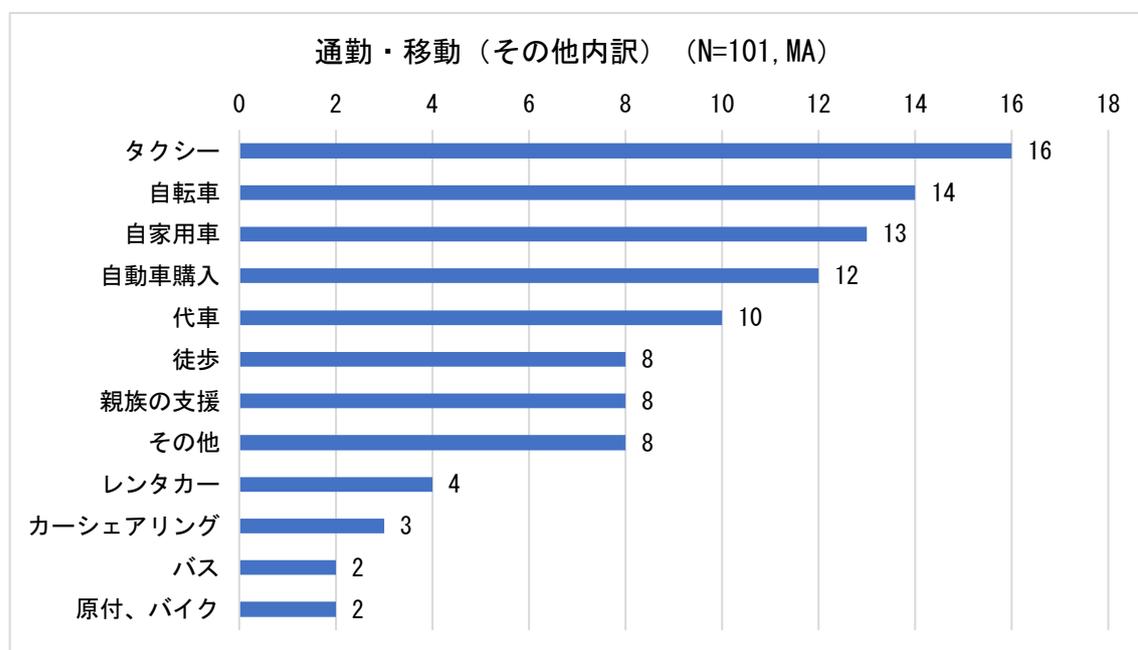
図表 5-26 主な生活費



図表 5-27 通勤・移動



図表 5-28 通勤・移動（その他記入欄内訳）



(6) 今後の見通し

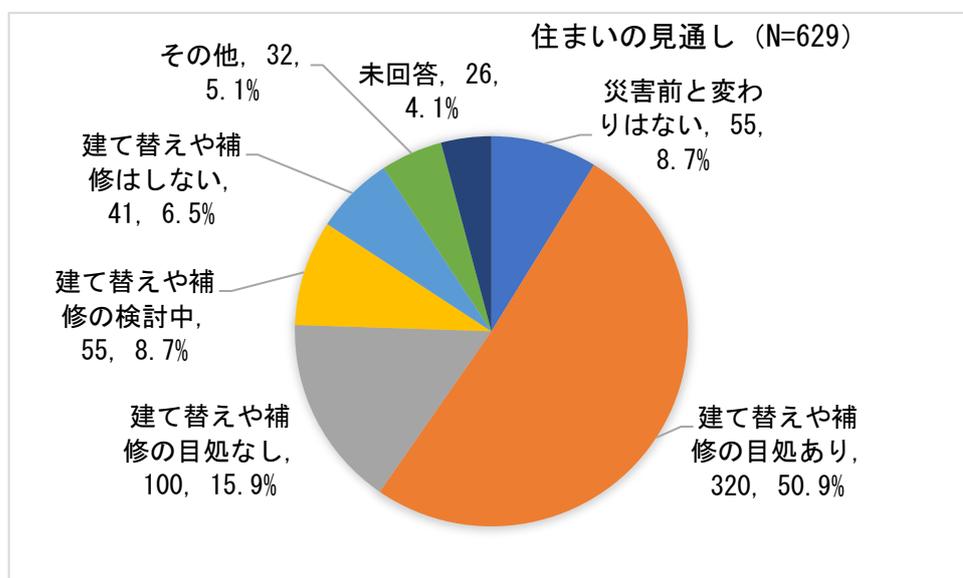
住まいの見通しは、320件（50.9%）が「建て替えや補修の目処あり」と回答しているが、「建て替えや補修の目処なし」100件（15.9%）、「建て替えや補修の検討中」55件（8.7%）の見通しが決まっていない回答があった。（図表5-29）

建て替えや補修の目処が立たない・検討中の理由では、「費用の工面が困難・不安がある」が50件と最も多い。その他の理由の詳細では、「大工の順番待ち」や「見積が来ない」等の意見が最も多い。（図表5-30、図表5-31）

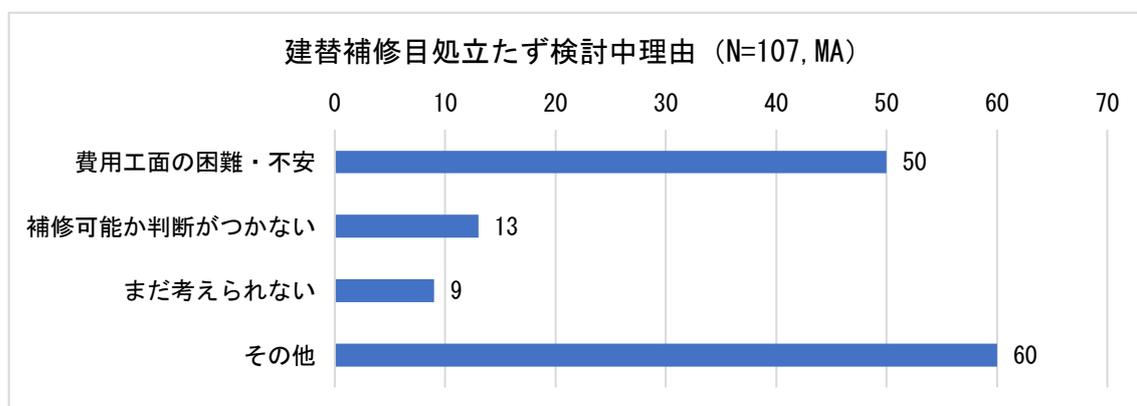
今後当面の間、罹災証明を取得している被害のある家屋で過ごすと回答した世帯が、罹災証明の内容の内訳にも存在しており、「全壊」「大規模半壊」「半壊」の順で、世帯数が多くなっている。（図表5-33）

希望居住地は、「災害前と同じ地区」が420件（66.8%）で最も多い。（図表5-34）

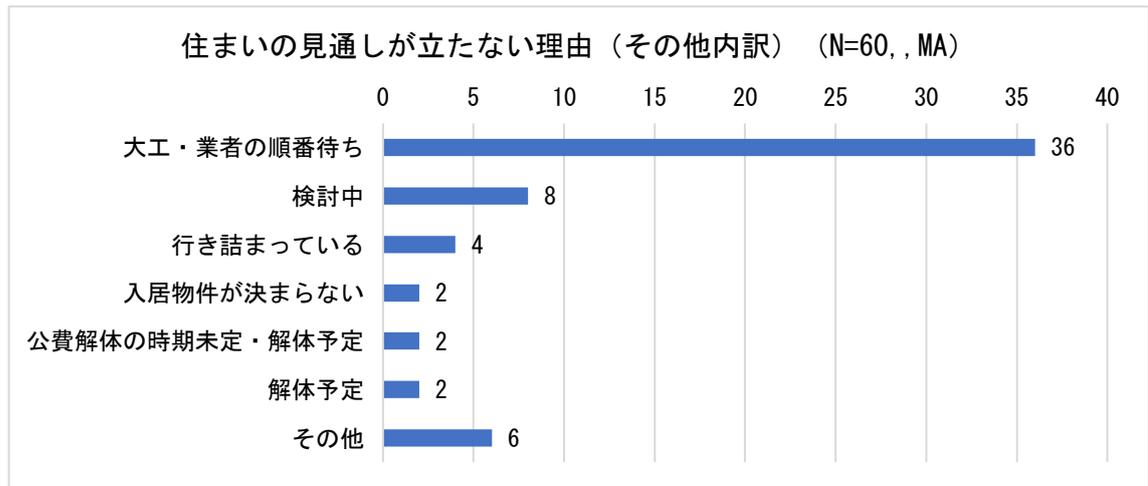
図表5-29 住まいの見通し



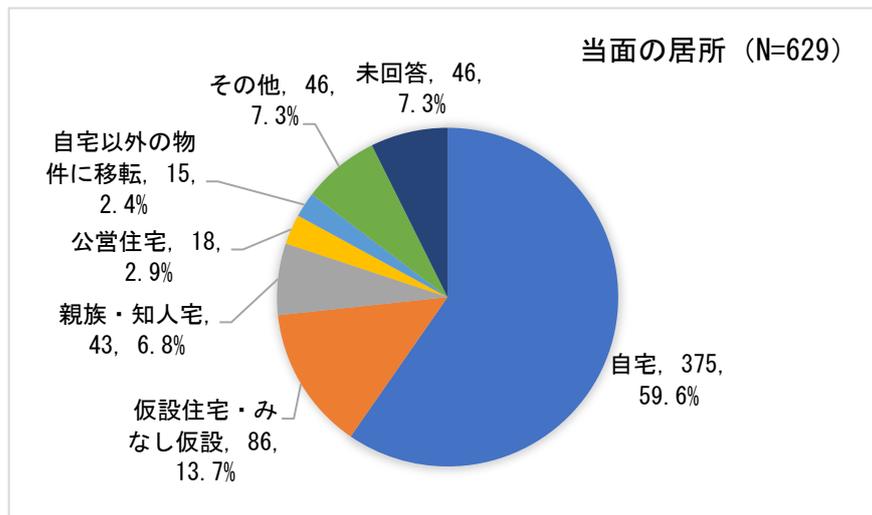
図表5-30 建て替え補修の目処立たず・検討中の理由



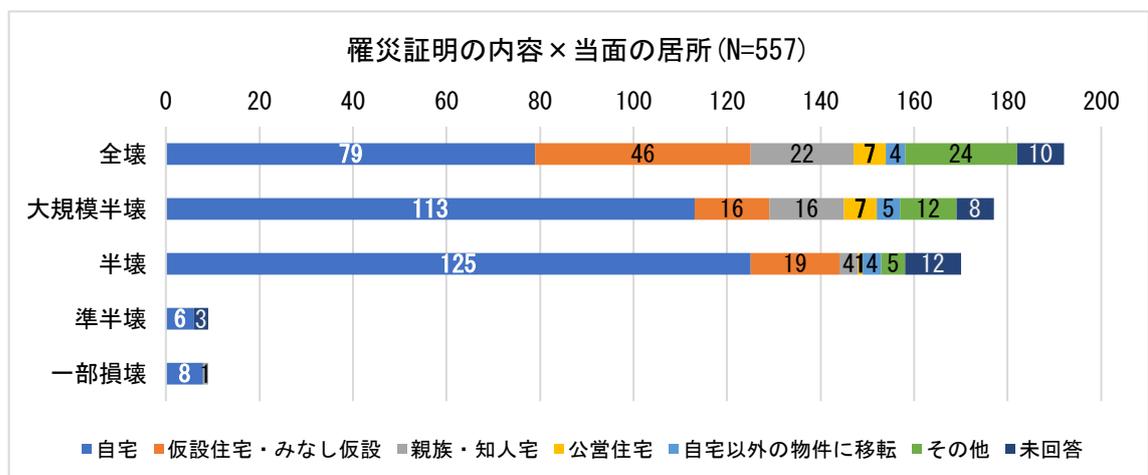
図表 5-31 住まいの見通しが立たない理由（その他内訳）



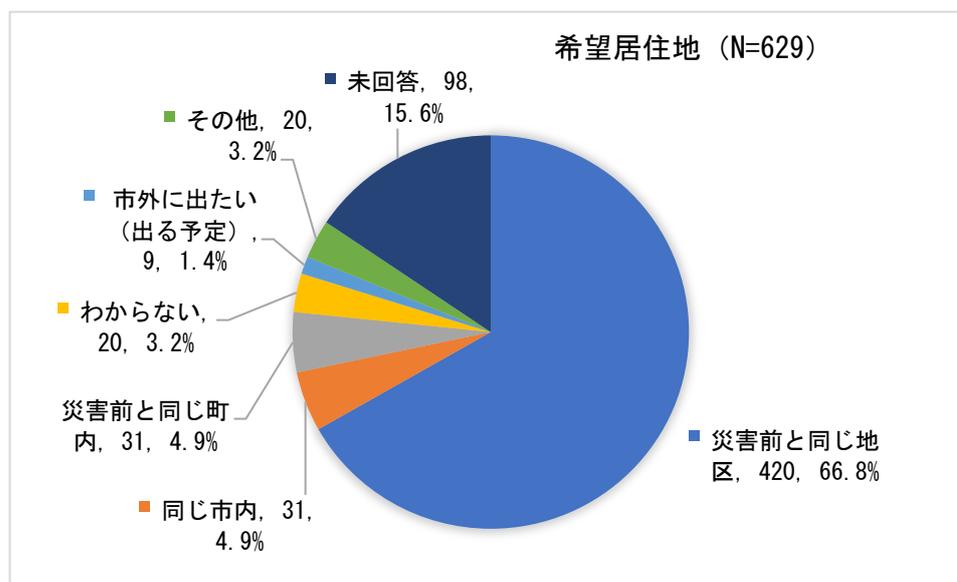
図表 5-32 当面の居所



図表 5-33 罹災証明の内容別の当面の居所



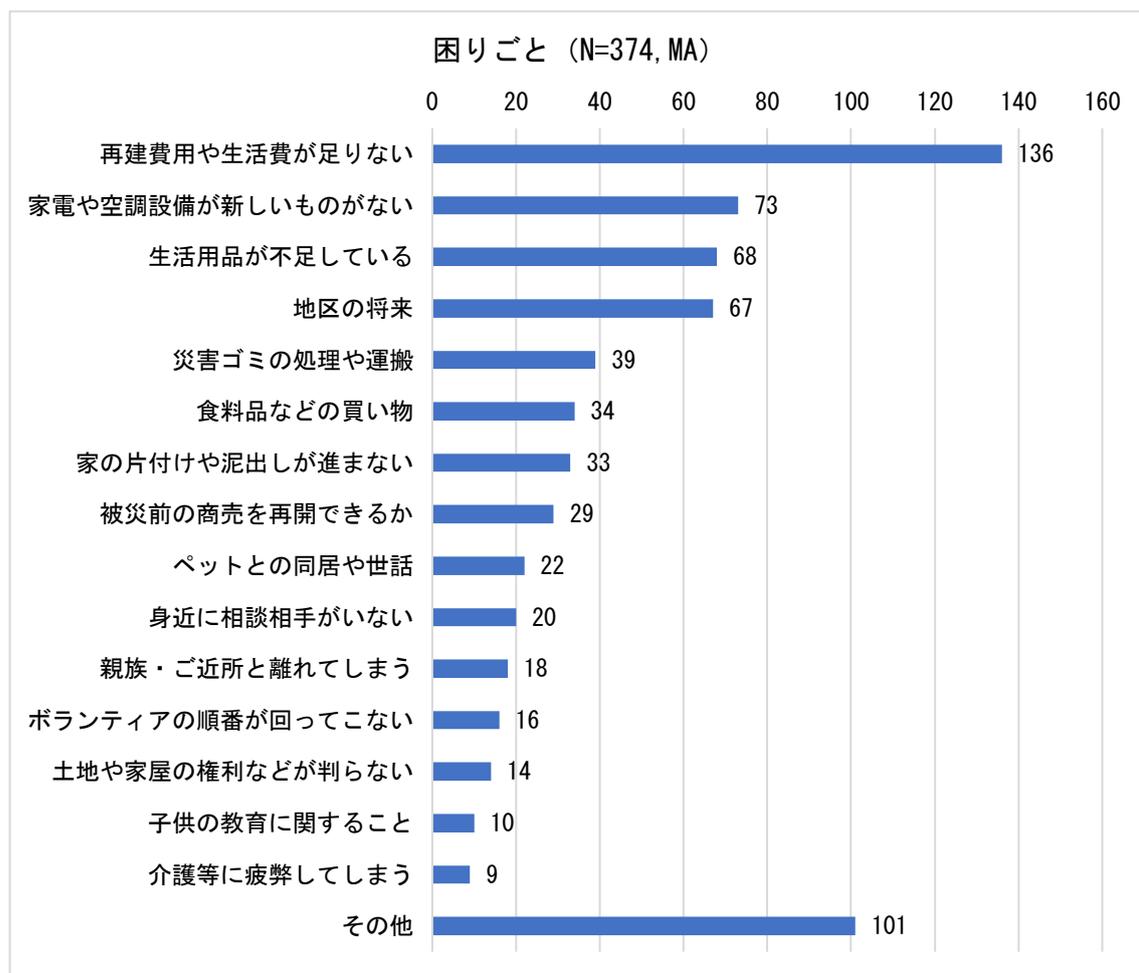
図表 5-34 居住希望地



(7) 不安・心配ごと

困りごとは、「再建費用や生活費が足りない」が136件、「家電や空調設備が新しいものがない」73件、「生活用品が不足している」68件と、生活環境が整わないことについての困りごとが多い。(図表 5-35)

図表 5-35 困りごと



5-3 クロス集計

(1) 校区別集計

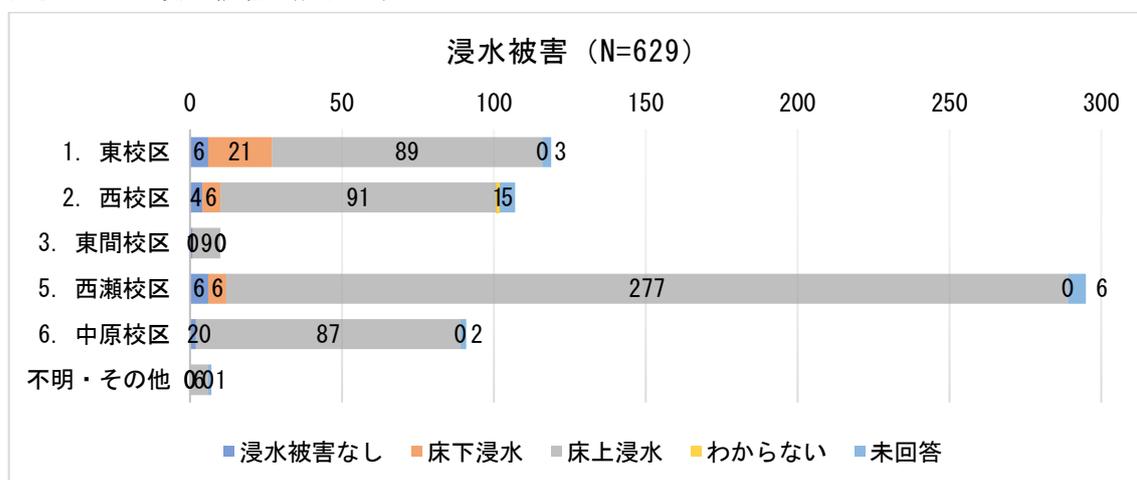
地区により浸水被害の程度や街並み（用途）の違いがあることから、校区別クロス集計を行う。

①被害状況

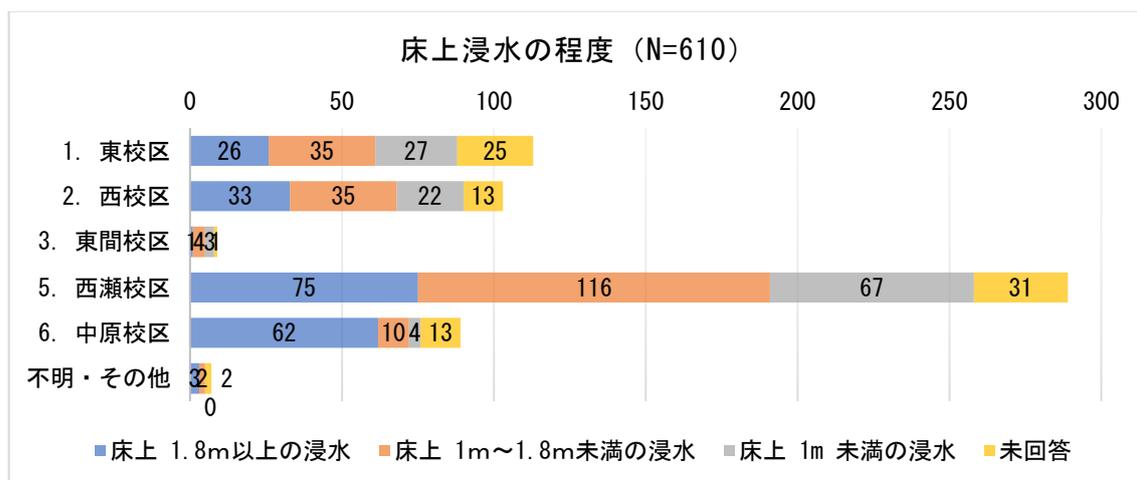
浸水被害、土砂被害ともに、東校区、西校区、西瀬校区、中原校区に大きな被害がみられる。（図表 5-36、図表 5-37、図表 5-38）

罹災証明の内容では、西瀬校区、中原校区での調査結果に「全壊」が多く、西瀬校区では「大規模半壊」「半壊」を含めると、273 件が住宅に被害を受けている。（図表 5-39）

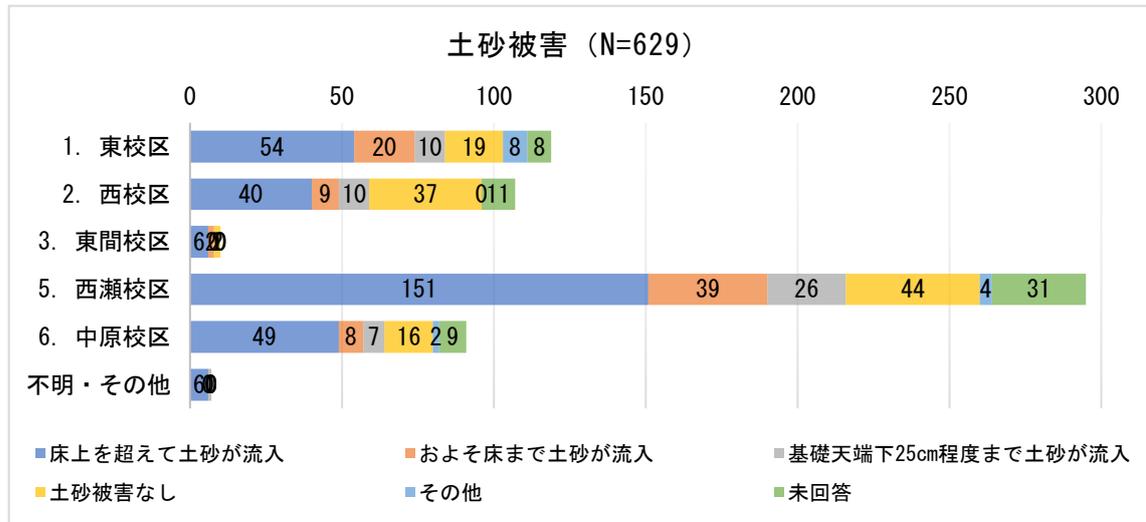
図表 5-36 浸水被害（校区別）



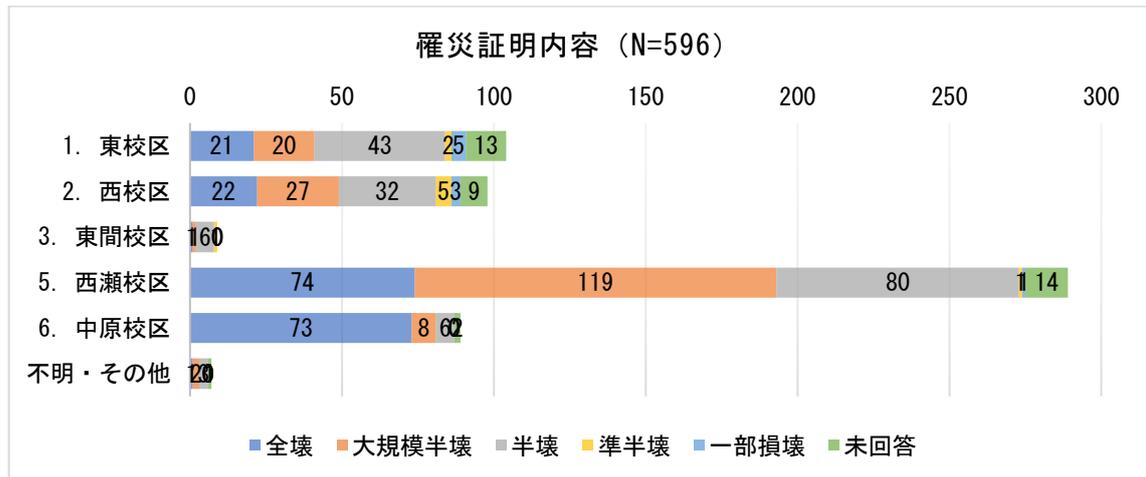
図表 5-37 床上浸水の程度（校区別）



図表 5-38 土砂被害（校区別）



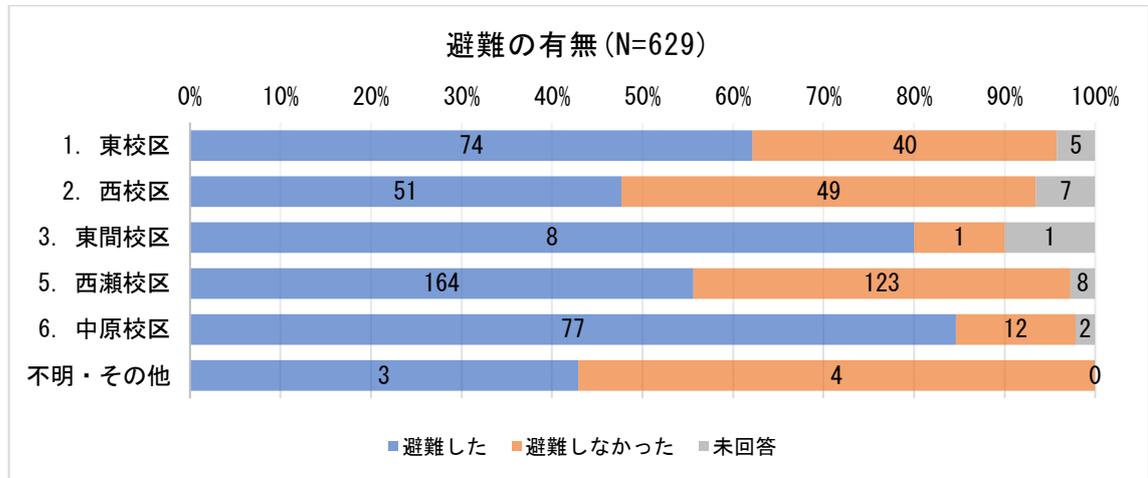
図表 5-39 罹災証明内容（校区別）



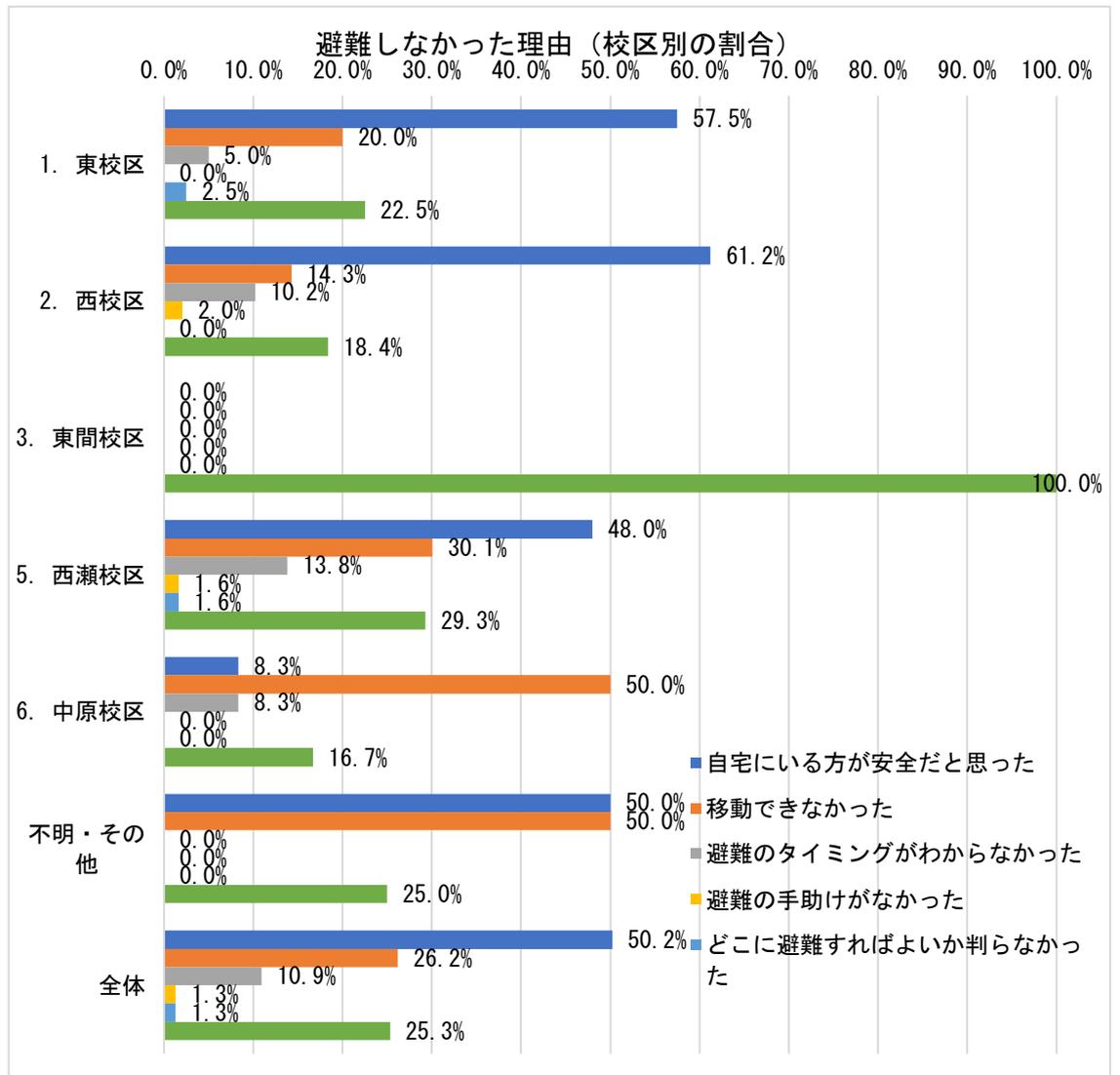
②避難行動

被害が大きい東校区、西校区、西瀬校区、中原校区の全てに避難をしなかった世帯が見られ、東校区、西校区、西瀬校区では、避難をしなかった世帯が3割を超える。避難をしなかった理由として「自宅の方が安全だと思った」が最も多く、次いで「避難できなかった」が続く。(図表 5-40、図表 5-41)

図表 5-40 避難の有無（校区別の割合）



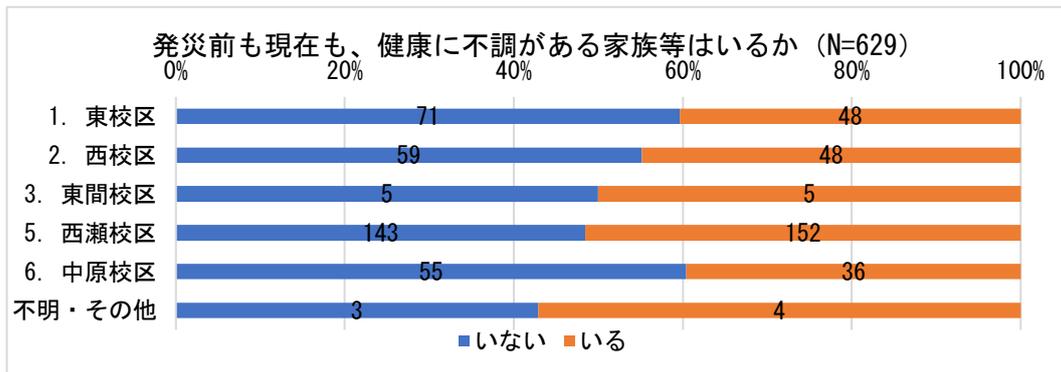
図表 5-41 避難しなかった理由（校区別の割合）



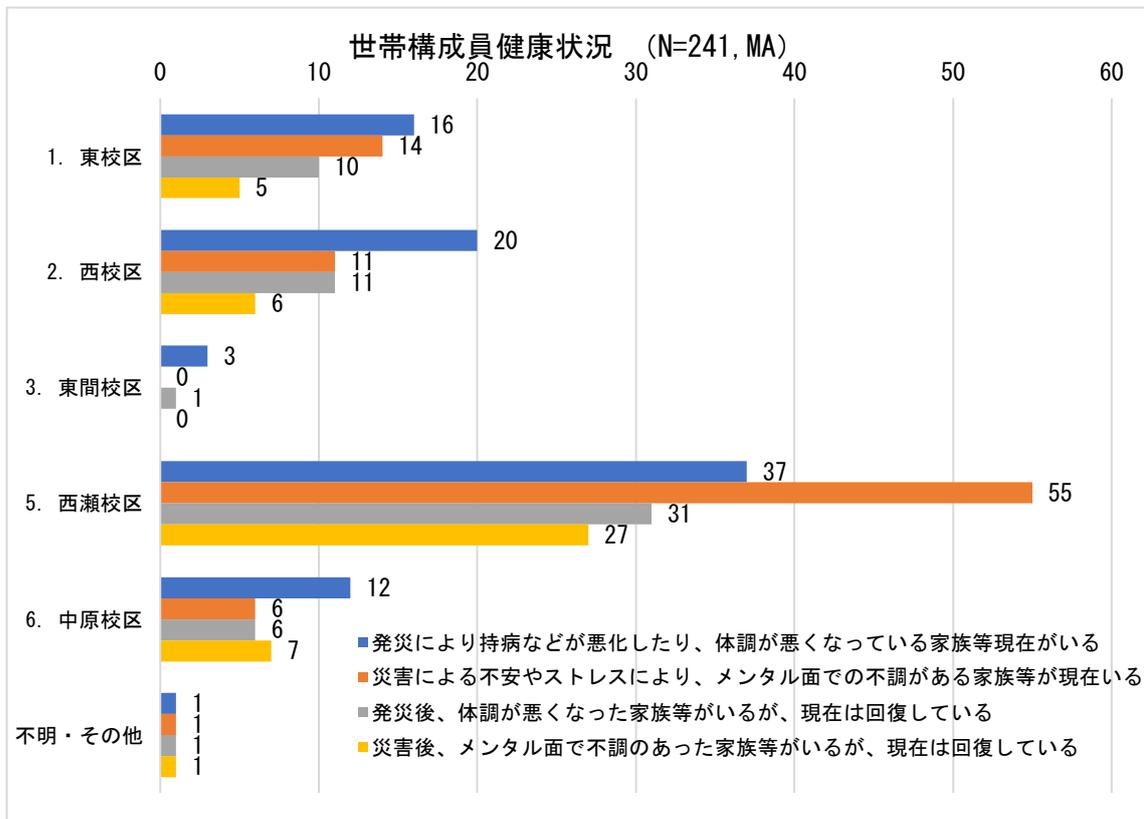
③健康状態

「発災前も現在も、健康に不調がある家族等はあるか」では、「いる」と回答した世帯は、東校区 48 件、西校区 53 件、東間校区 5 件、西瀬校区 147 件、中原校区 36 件で、40～50%割合である。被害が大きい東校区、西校区、西瀬校区、中原校区では、体長やメンタルの不調者がいると回答する世帯が多く見られ、西瀬校区では、「メンタル面での不調が継続している」と答えた世帯が 55 件ある。(図表 5-42、図表 5-43)

図表 5-42 発災前後の体調不調の様子（校区別）



図表 5-43 世帯構成員健康状況（校区別）

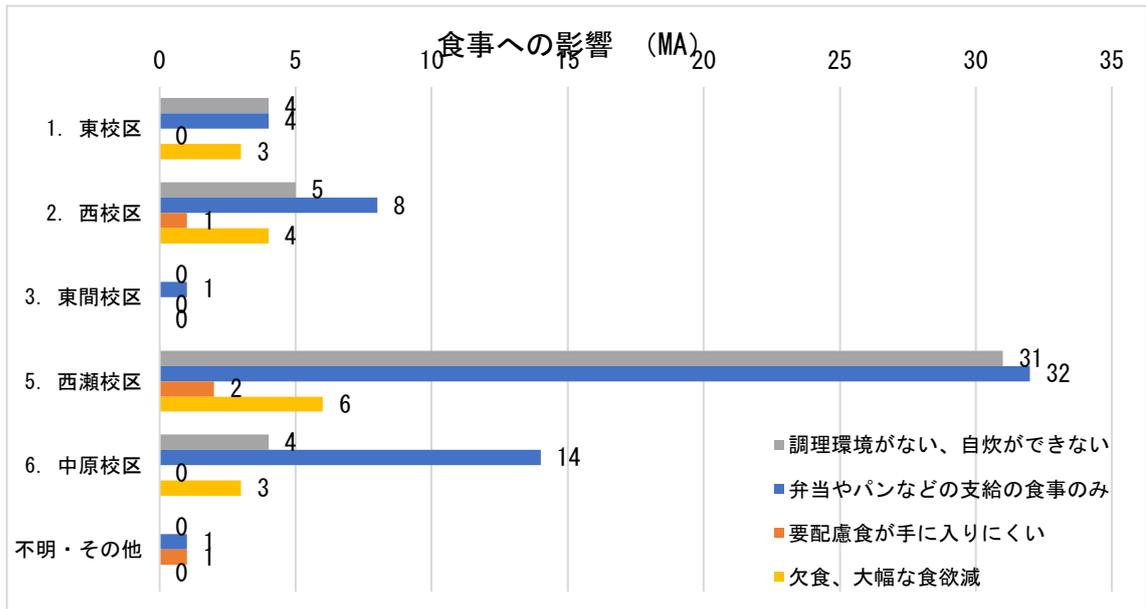


④生活状況

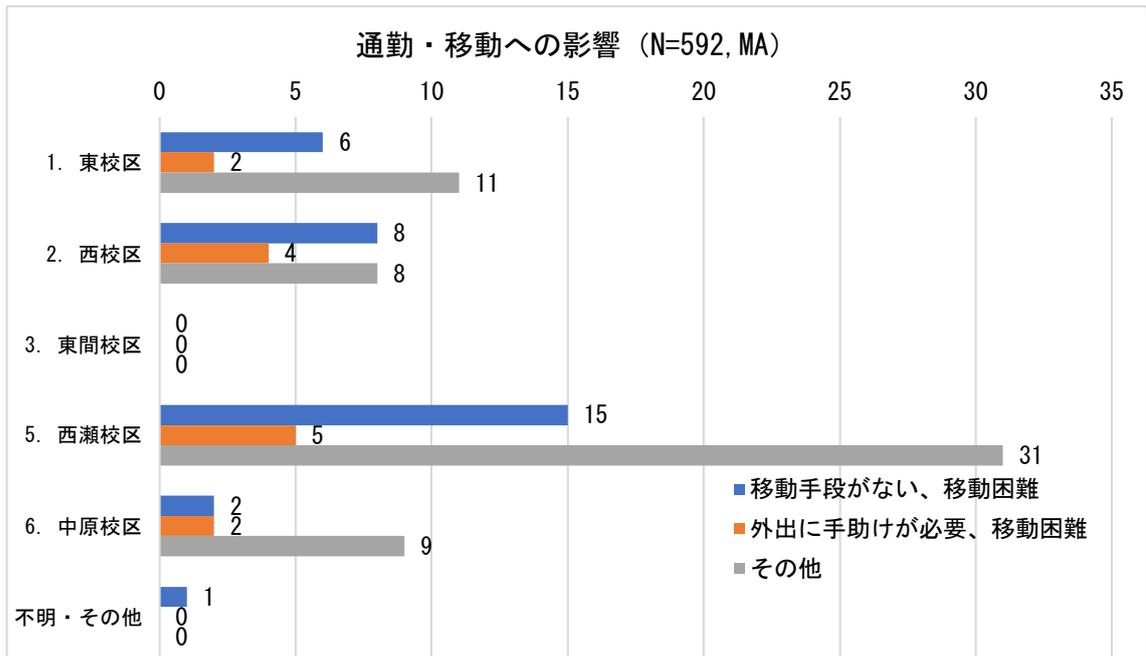
「問題なく食事を摂れている」と回答した世帯は、東校区 103 件、西校区 84 件、東間校区 9 件、西瀬校区 239 件、中原校区 71 件、校区不明・その他 7 件で、「調理環境がなく自炊ができない」「弁当やパンのみ」の回答は、特に西瀬校区に多く見られ、「弁当屋パンのみ」の回答は、西校区、中原校区でも多い。(図表 5-44)

「通勤や移動に特に困っていない」回答した世帯は、東校区 91 件、西校区 80 件、東間校区 10 件、西瀬校区 245 件、中原校区 77 件、校区不明・その他 6 件で、東間校区を除き「移動手段がない、移動困難」の世帯がみられる。(図表 5-55)

図表 5-44 食事への影響 (校区別)



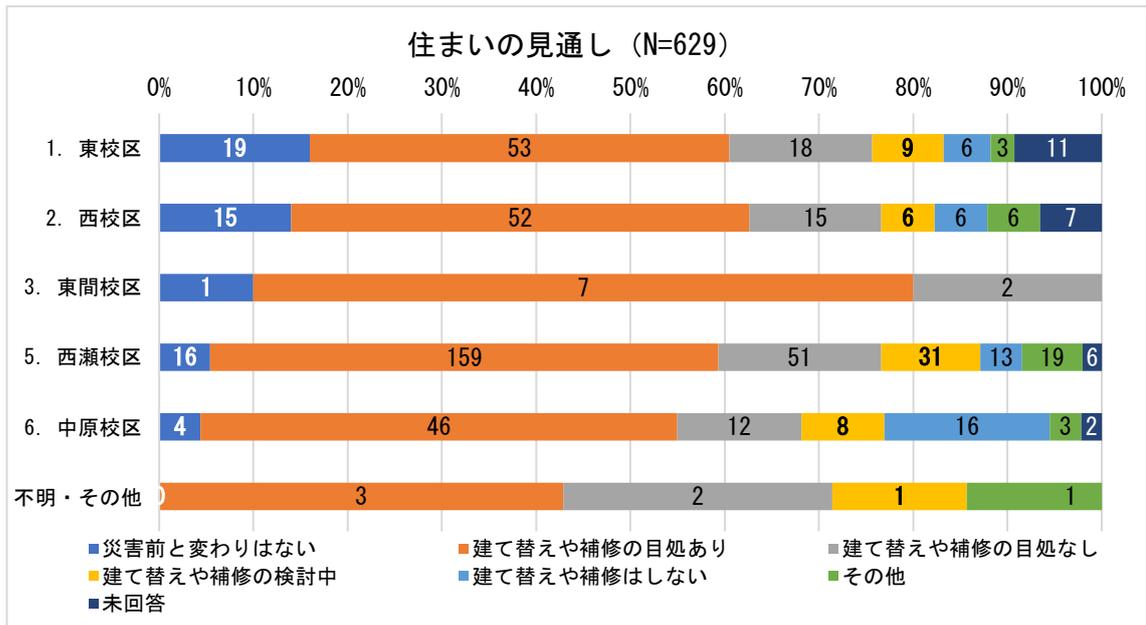
図表 5-45 通勤・移動への影響 (校区別)



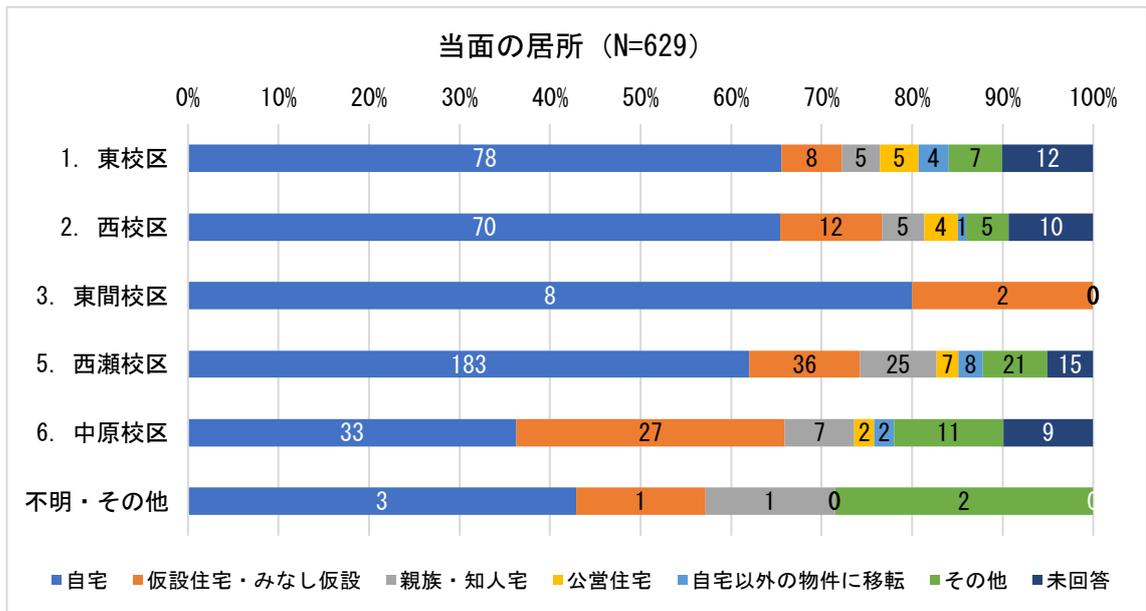
⑤今後の見通し

「建て替えや補修の目処なし」「建て替えや補修の検討中」を合わせた件数は、東校区 27 件、西校区 21 件、東間校区 2 件、西瀬校区 82 件、中原校区 20 件、校区不明・その他は 3 件である。当面の居所は、どの校区においても「自宅」が最も多い。居住希望地では、どの校区においても「災害前と同じ地区」が最も多いが、地区により回答の割合が異なる。(図表 5-46、図表 5-47、図表 5-48)

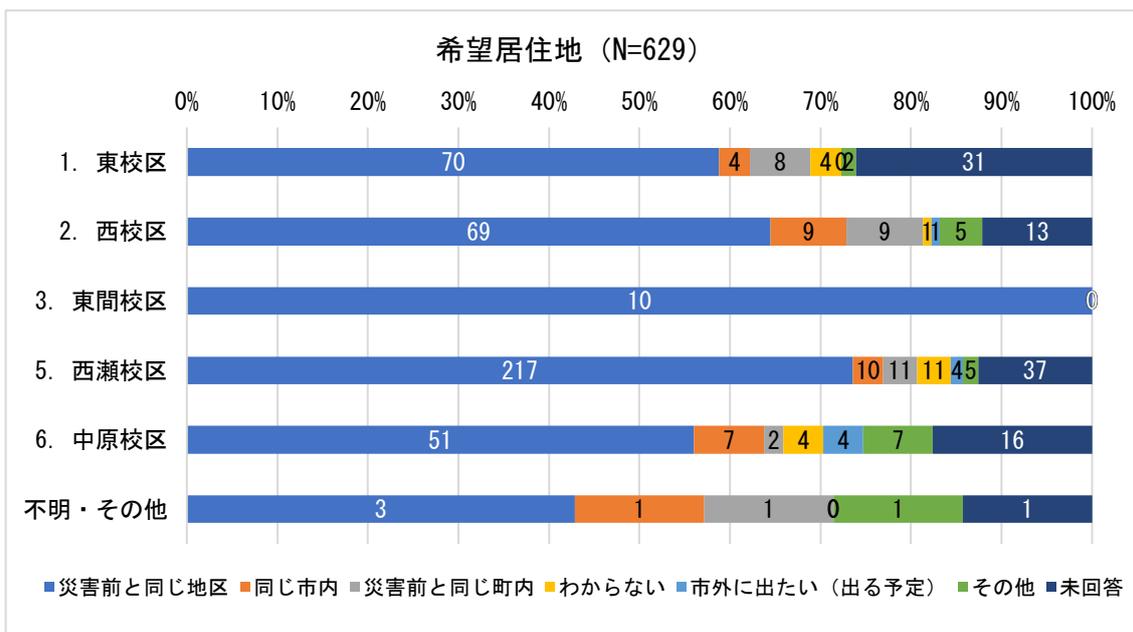
図表 5-46 校区別の住まいの見通しの割合



図表 5-47 校区別の当面の居所の割合



図表 5-48 校区別の希望居住地の割合



(2) 高齢者世帯

回答のあった 629 世帯のうち、65 歳以上の高齢者がいる世帯は 317 世帯であり、そのうち高齢者のみの世帯は 167 世帯である。高齢者のみの世帯は、それ以外の世帯よりも生活再建により多くの支援が必要となる傾向がみられる（*）ことから、高齢者のみの世帯について、クロス集計を行う。

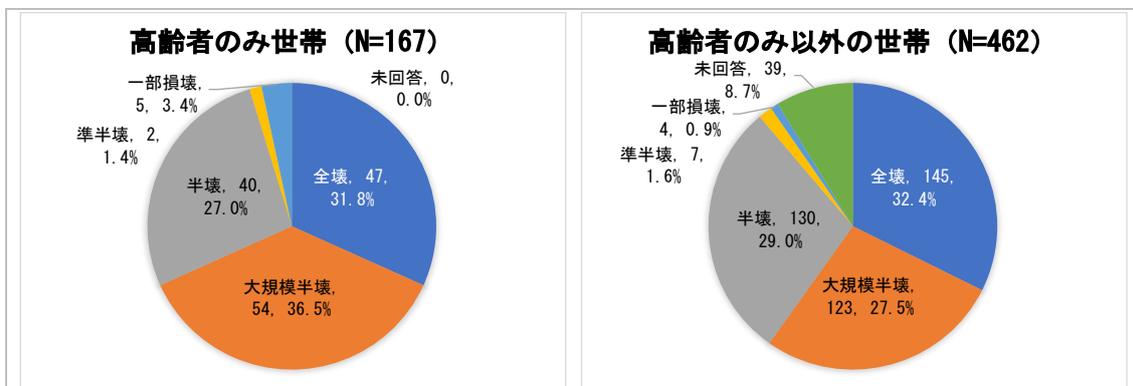
図表 5-49 高齢者のみ世帯数

世帯の状況	回答数
高齢者のみ世帯	167
それ以外の世帯	462
うち高齢者がいる世帯	150
合計	629

① 罹災証明

「全壊」「大規模半壊」「半壊」の世帯数を合わせた割合は、高齢者のみの世帯が 95.3%、高齢者のみ以外の世帯は 88.9%で、高齢者のみの世帯の方が住宅の被害を受けた割合が高い。（図表 5-50）

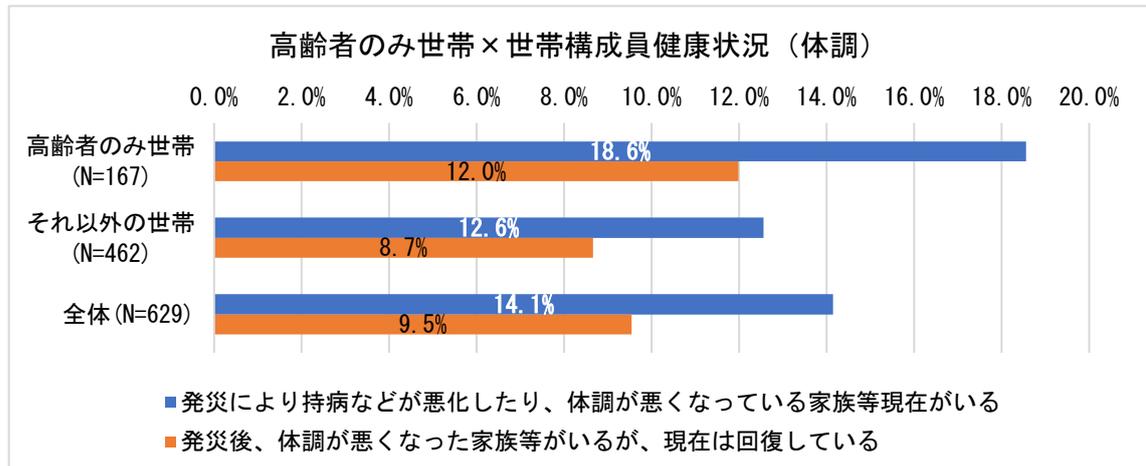
図表 5-50 高齢者のみ世帯とそれ以外の世帯の住家被害の比較



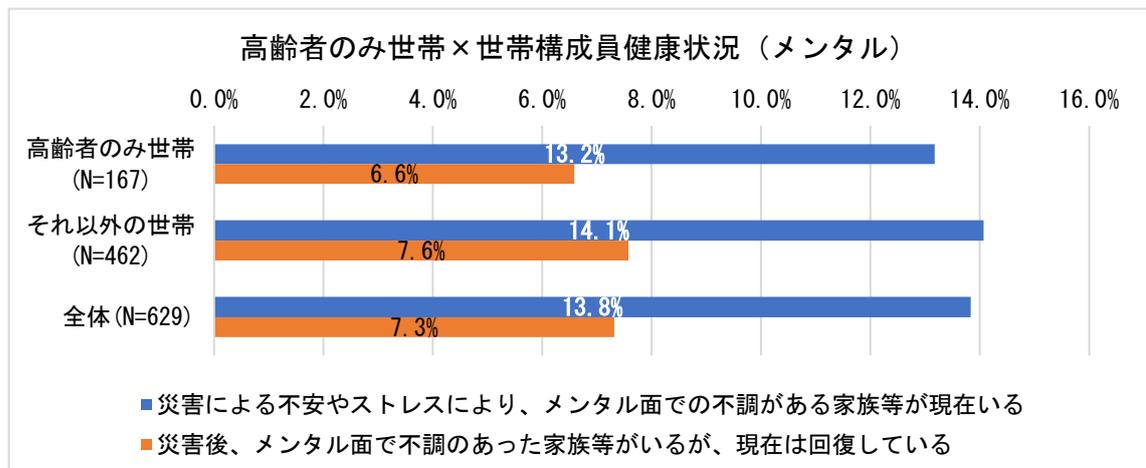
②発災後の健康状況

体調の不調は「不調が継続」「不調から回復」とともに高齢者のみ世帯の方が高齢者のみ以外の世帯よりも割合が高く、メンタル面の不調は高齢者のみ以外の世帯の方が、高齢者のみ世帯よりも割合が高い。(図表 5-51、図表 5-52)

図表 5-51 高齢者のみ世帯とそれ以外の世帯の健康状況の比較 (体調)



図表 5-52 高齢者のみ世帯とそれ以外の世帯の健康状況の比較 (メンタル)



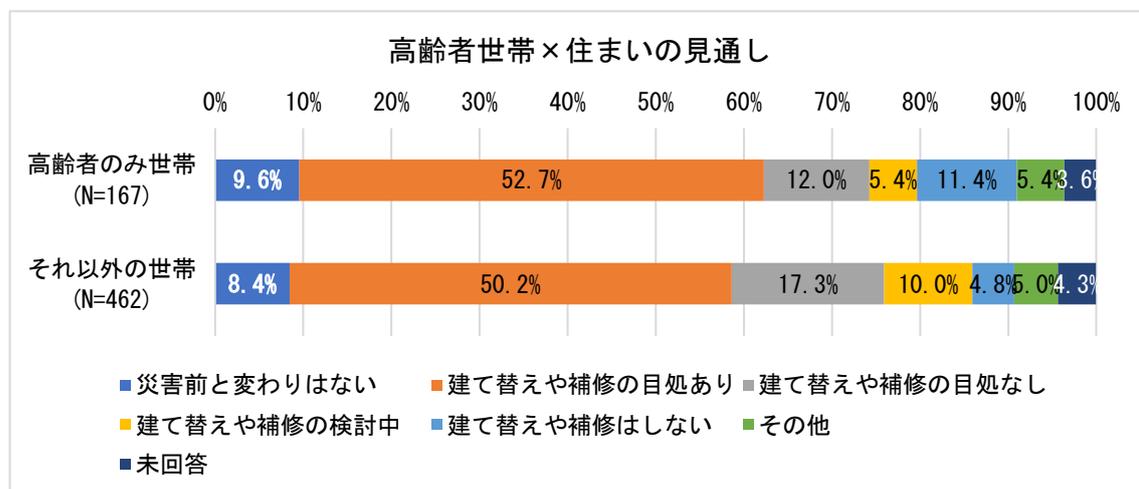
③今後の見通し

住まいの見通しについては、「建て替えや補修の目処なし」「建て替えや補修の検討中」を合わせた割合は、高齢者のみの世帯が17.4%、それ以外の世帯は27.3%であり、「建て替えや補修はしない」割合は、高齢者のみの世帯が11.4%、それ以外の世帯が4.8%である。(図表 5-53)

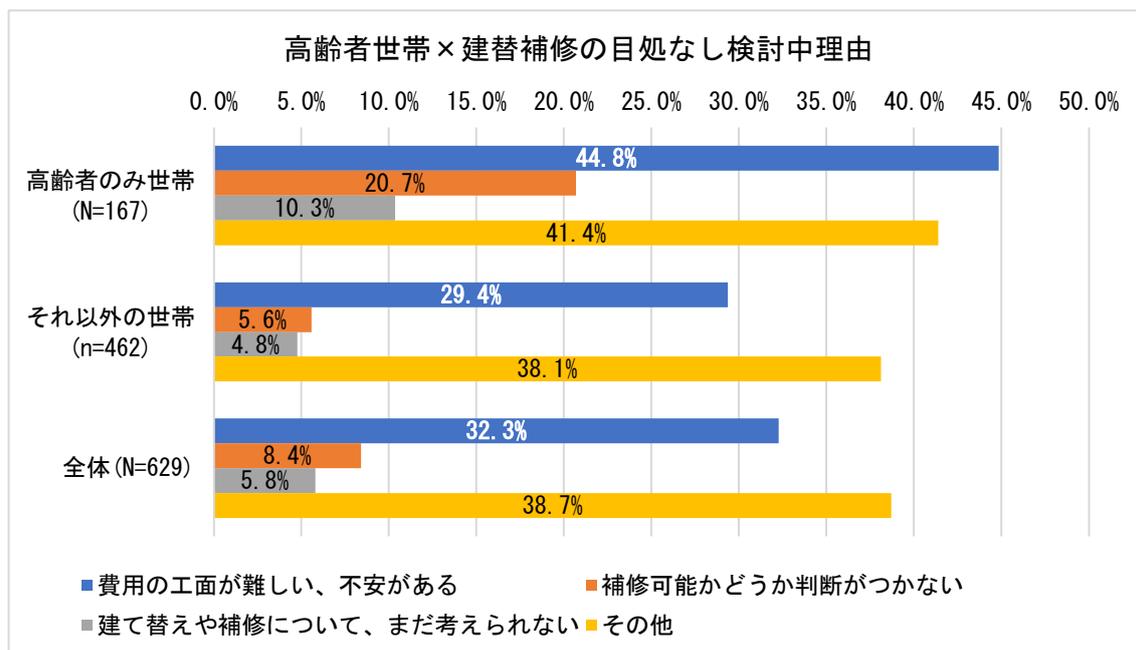
「建て替えや補修の目処なし・検討中の理由」は、「費用の工面が難しい・不安がある」の回答が最も多く、高齢者のみの世帯で44.8%、それ以外の世帯で29.4%である。高

高齢者のみの世帯では「補修可能かどうか判断がつかない」「まだ考えられない」の回答も、それ以外の世帯のほぼ倍の割合となっている。(図表 5-53、図表 5-54)

図表 5-53 高齢者のみ世帯とそれ以外の世帯の住まいの見通し



図表 5-54 高齢者のみ世帯とそれ以外の世帯の建替補修の目処なし検討中理由

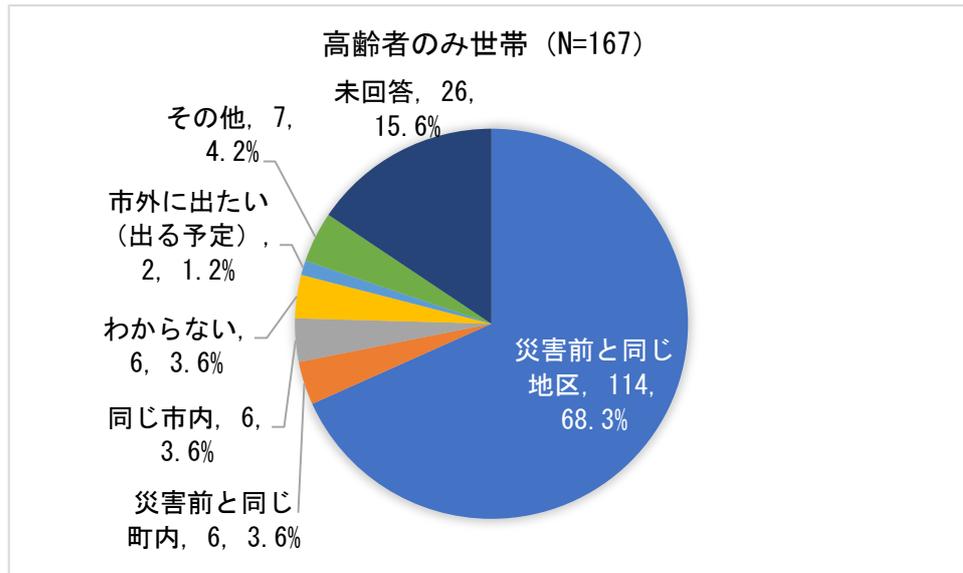


④居住希望地

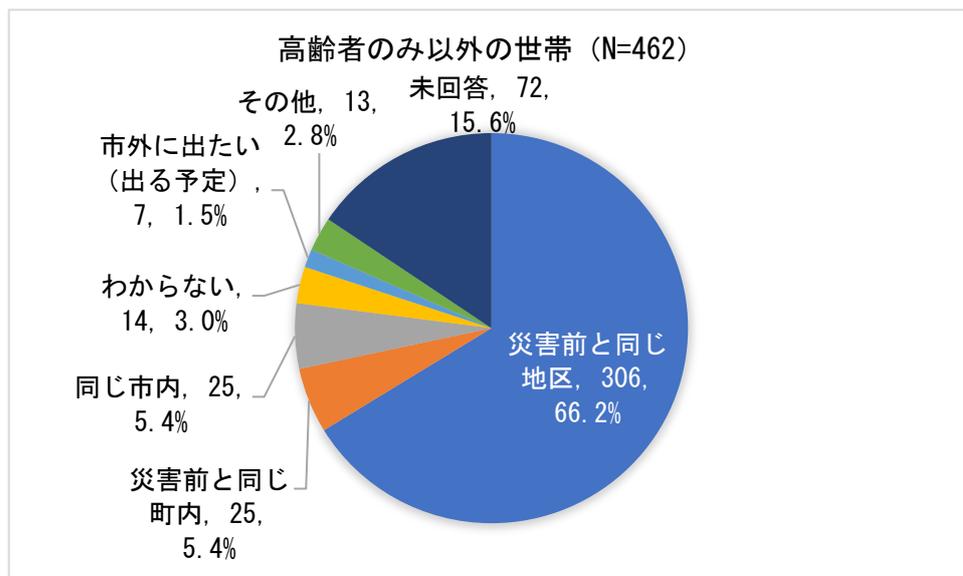
「災害前と同じ地区」「災害前と同じ市内」「同じ市内」を合わせた割合は、高齢者のみの世帯 75.5%、それ以外の世帯は 77.0%である。(図表 5-55)

当面の居所について罹災証明の内容別でみると、高齢者世帯の方が仮設住宅への入居割合が高いものの「自宅」の回答も多く、高齢者のみの在宅避難世帯がみられる。(図表 5-56)

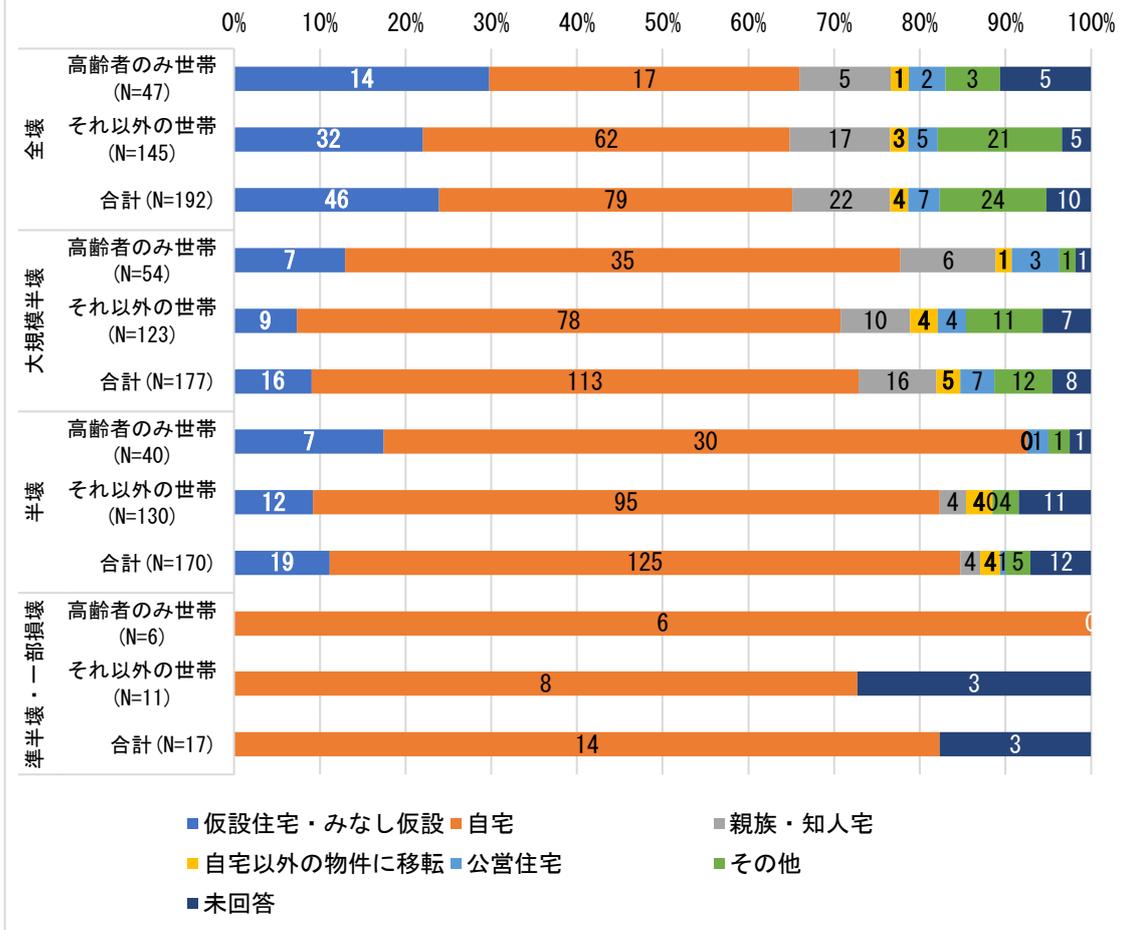
図表 5-56 高齢者のみ世帯の居住希望地



図表 5-56 高齢者のみ以外の世帯の居住希望地



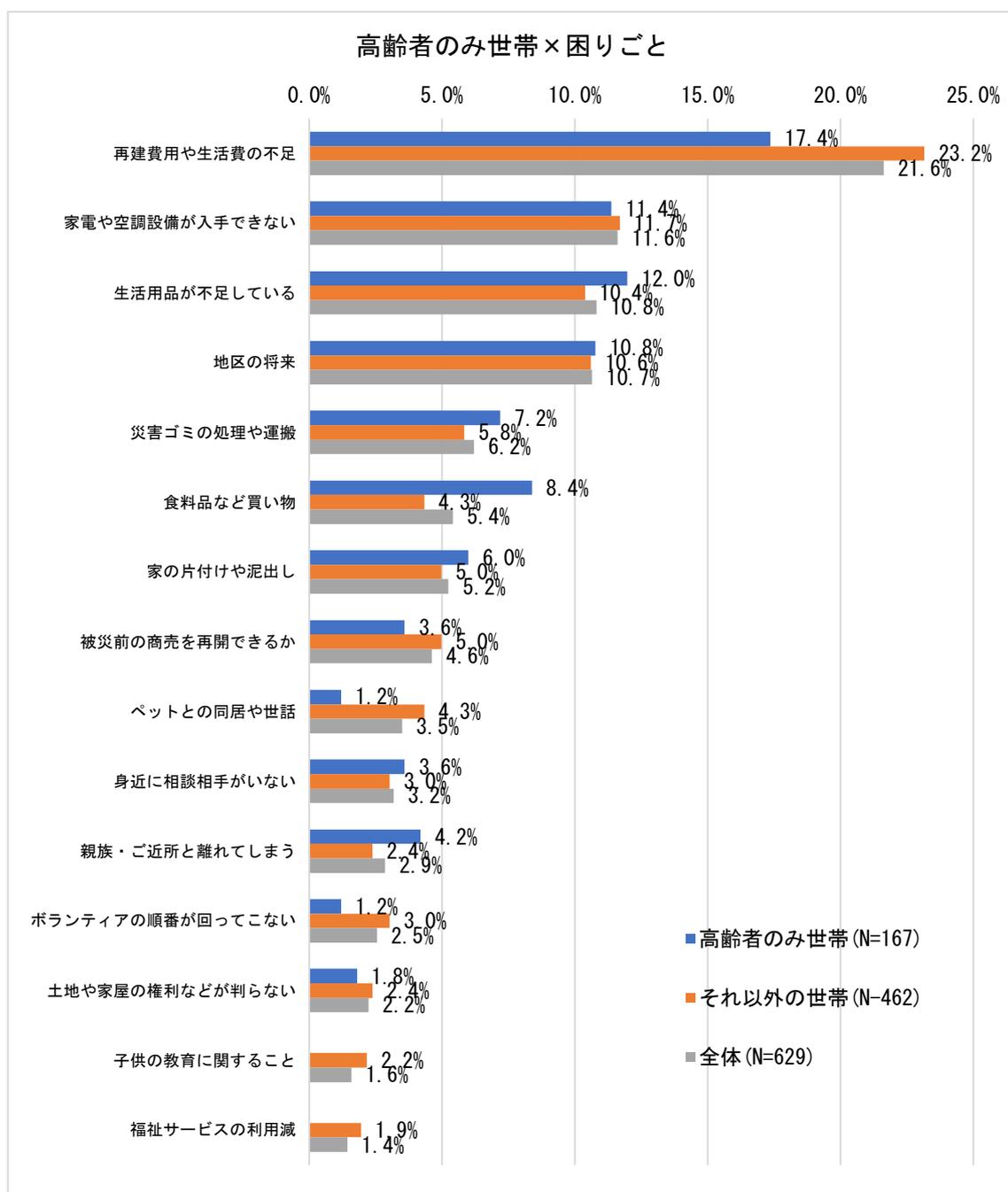
高齢者のみ世帯×当面の居所×罹災証明内容



⑤困りごと

高齢者のみ世帯とそれ以外の世帯に占める困りごとの割合は、高齢者のみの世帯では、生活面において「生活用品の不足」「食料品などの買い物」「親族ご近所と離れてしまう」の回答割合が高く、「災害ゴミの処理や運搬」「家の片付けや泥だし」など災害後の対応も全体よりも割合が高い。それ以外の世帯では、「再建費用や生活費が足りない」「被災前の商売が再開できるか」「ペットとの同居や世話」「ボランティアの順番が回ってこない」の割合が高い。(図表 5-58)

図表 5-58 高齢者のみ世帯とそれ以外の世帯の困りごとの様子



(3) 在宅避難世帯

「罹災証明の内容が半壊以上（全壊・大規模半壊・半壊）」且つ「現在の居所が自宅」と回答した世帯を在宅避難世帯として集計を行った。

図表 5-59 在宅避難世帯数

校区	回答数
在宅避難世帯	317
在宅避難以外の世帯	312
合計	629

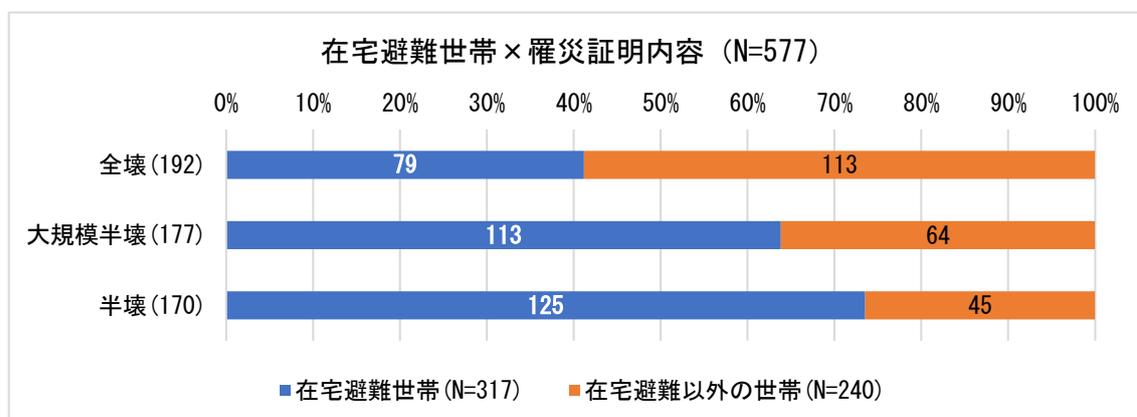
調査聞き取り時点における在宅避難世帯の割合は、自宅被害の程度に比例している。

(図表 5-60)

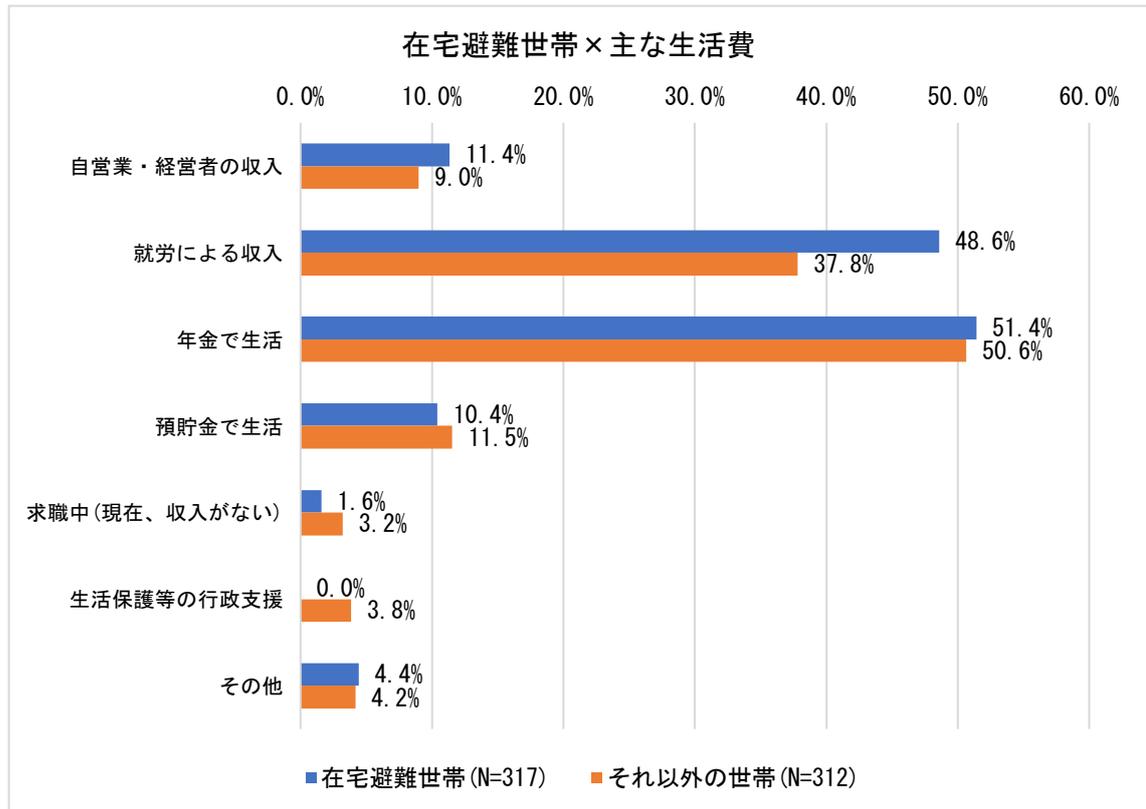
主な生活費の回答に占める在宅避難世帯の割合は、就労による収入（自営・就業）が56.5%、年金・預貯金50.3%、休職中・行政支援が18.5%である。(図表 5-61)

避難形態の違いによる食事の回答の割合は、在宅避難世帯の方が「問題なく食事を摂れている」と回答した割合が高く、在宅避難以外の世帯は「弁当やパンのみ」の回答が在宅避難世帯よりも割合が高い。(図表 5-62)

図表 5-60 罹災証明の内容に占める在宅避難世帯の割合

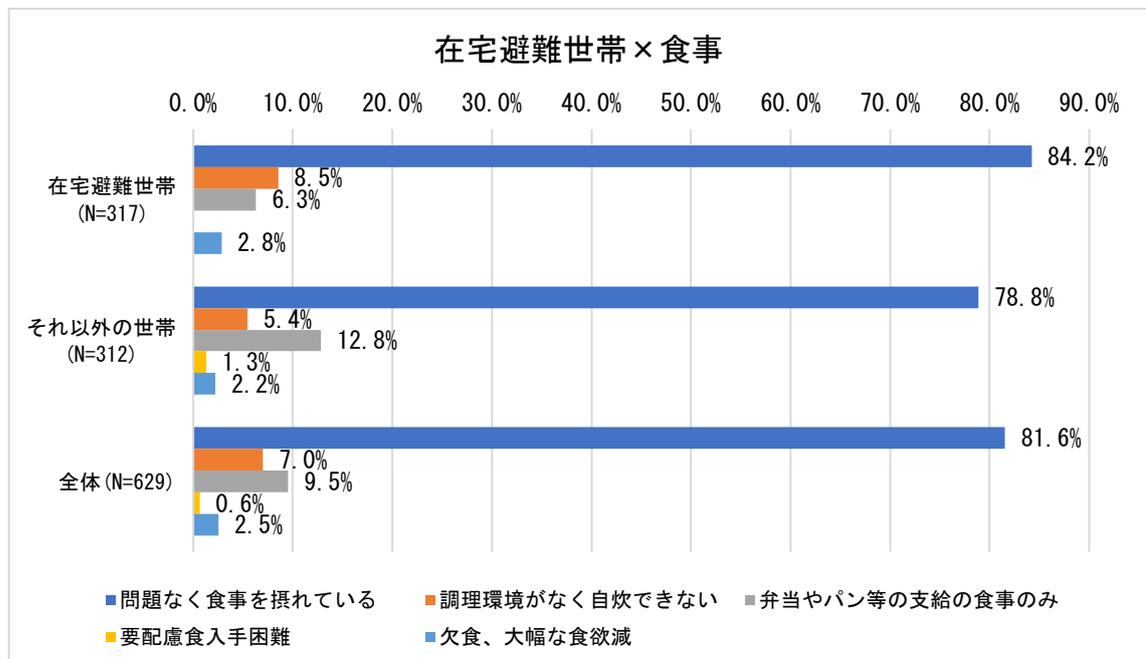


図表 5-61 在宅避難世帯とそれ以外の世帯の主な生活費の比較



※主な生活費は複数回答

図表 5-62 在宅避難世帯とそれ以外の世帯の食事状況の比較



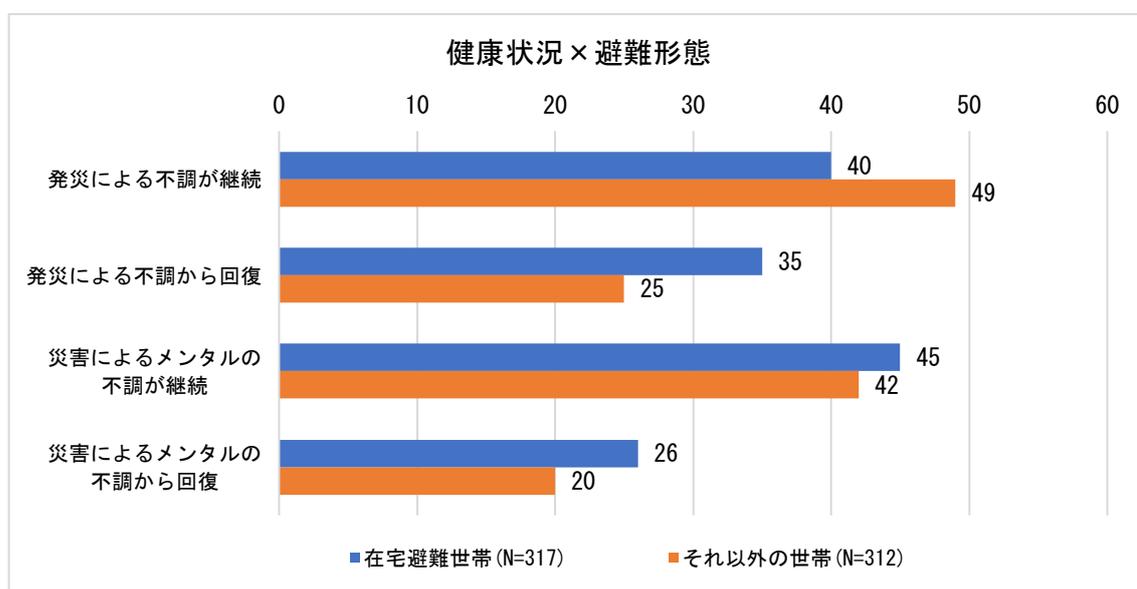
(4) 健康への影響

避難形態、食事状況、収入形態の回答と健康の不調への影響について集計を行った。

①避難形態

健康状況と避難形態の関係では、「発災による体調不調が継続している」と回答した世帯の44.9% (40件)、「メンタル面での不調が継続している」と回答した世帯の51.7% (45件)が在宅避難である。不調からの回復は、「体調の不調から回復」と回答した世帯の58.3% (35件)、「メンタルの不調から回復」と回答した世帯の56.5% (26件)が在宅避難であり、それ以外の世帯よりも割合が高い傾向がある。(図表 5-63)

図表 5-63 在宅避難世帯とそれ以外の世帯の健康状況の比較



②食事状況

「問題なく食事を摂れている」513件、「調理環境がなく自炊できない」44件、「弁当屋パンのみ」60件の回答について、健康状況が占める割合について集計を行った。

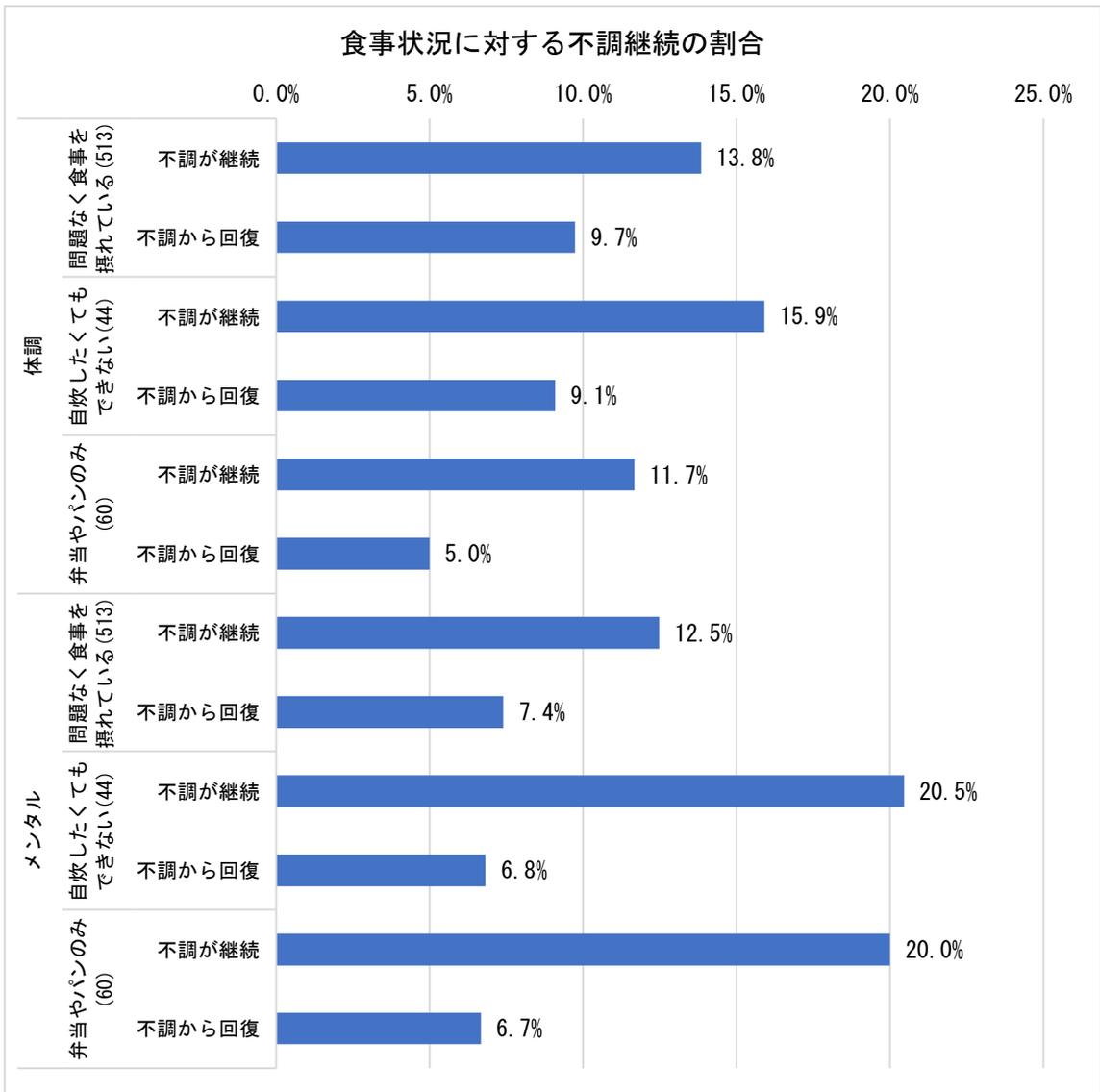
体調の不調継続では、「問題なく食事を摂れている」と回答した世帯の13.8%、「自炊したくてもできない」の15.9%、「弁当やパンのみ」の11.7%が「不調が継続」と回答している。

メンタル面では、「問題なく食事を摂れている」と回答した世帯の12.5%、「自炊したくてもできない」の20.5%、「弁当やパンのみ」の20.0%が「不調が継続」と回答している。(図表 5-64、図表 5-65)

図表 5-64

	問題なく食事を 摂れている(513)	自炊したくても できない(44)	弁当やパンのみ (60)
発災による不調が継続	71	7	7
発災による不調から回復	50	4	3
災害によるメンタルの不調が継続	64	9	12
災害によるメンタルの不調から回復	38	3	4

図表 5-65 食事状況に対する体調・メンタルの不調継続の割合

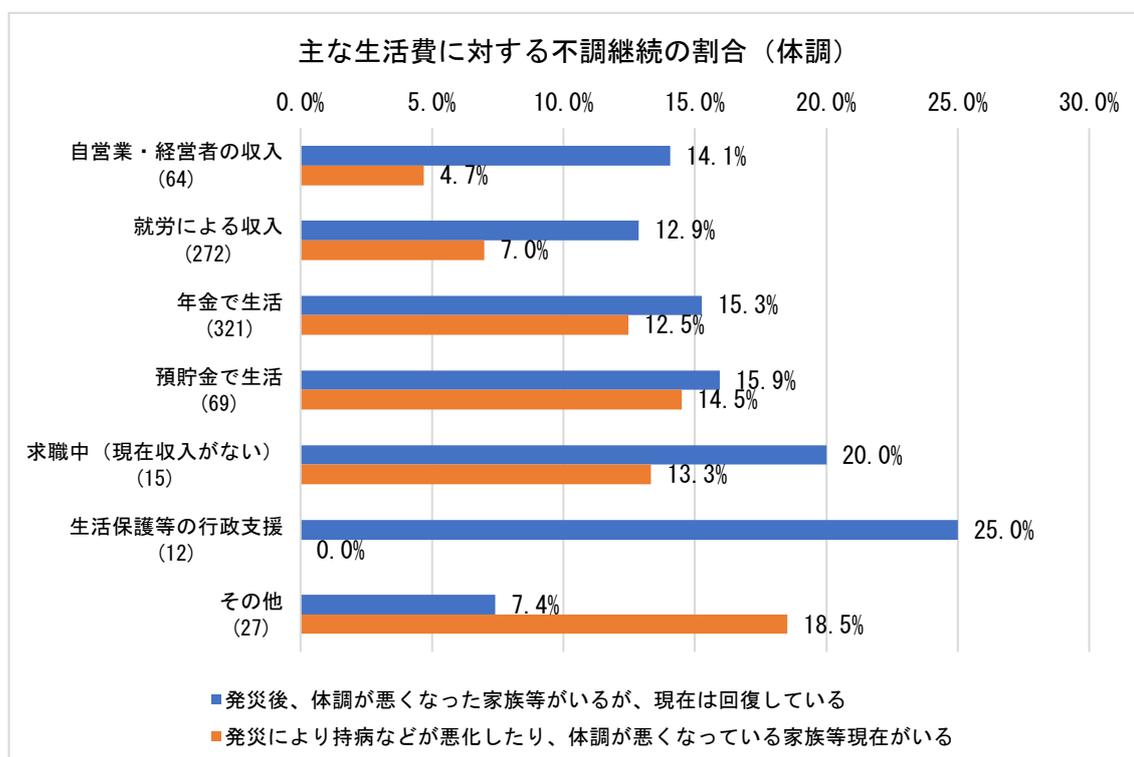


③主な生活費

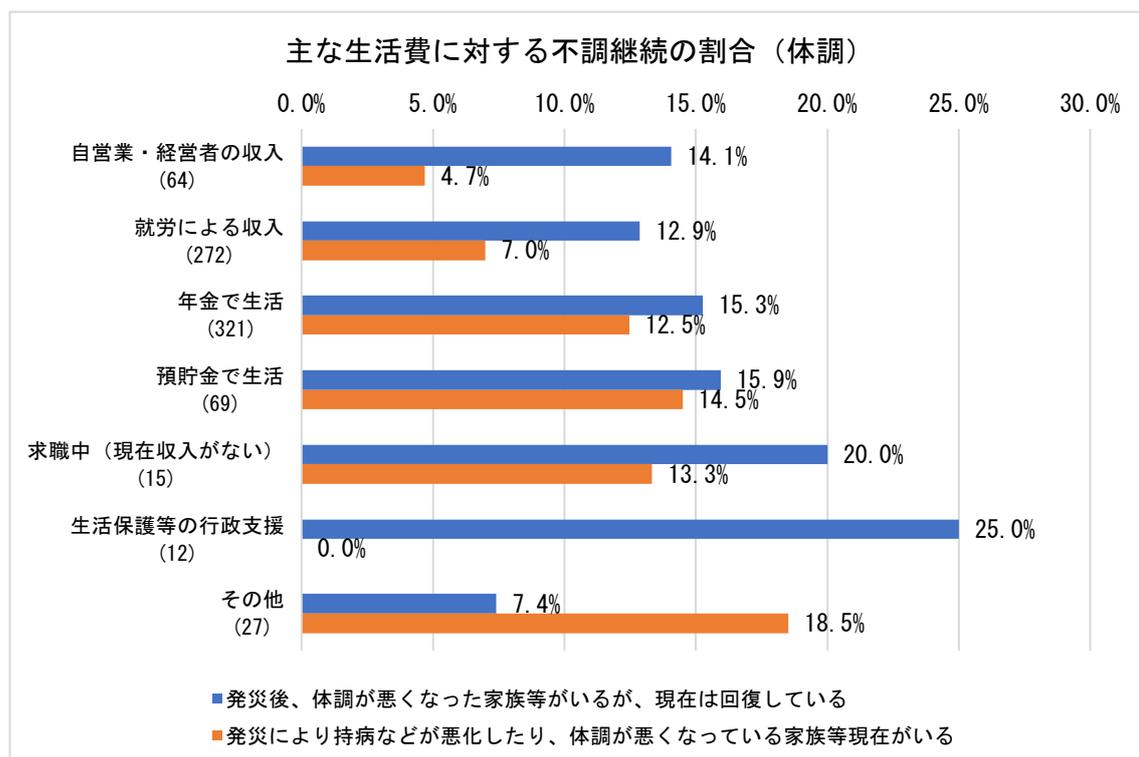
主な生活費（収入状況）の回答に占める健康不調の割合は、就労による収入（自営等・就業）世帯の11.3%、年金・預貯金と回答した世帯のうち19.7%、休職中や生活保護等の行政支援と回答した世帯の14.8%が「不調が継続」と回答している。（図表 5-66）

メンタル面での不調の割合は、就労による収入（自営等・就業）世帯の13.1%、年金・預貯金と回答した世帯のうち15.4%、休職中や生活保護等の行政支援と回答した世帯の22.2%が「不調が継続」と回答している。（図表 5-67）

図表 5-66 主な生活費に対する不調継続の割合（体調）



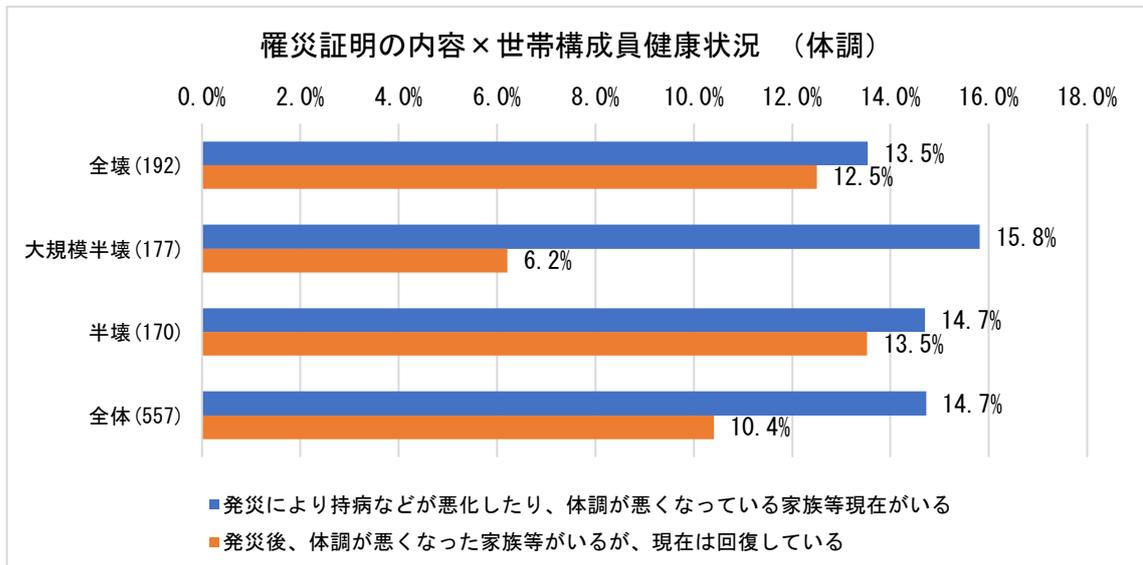
図表 5-67 主な生活費に対する不調継続の割合（体調）



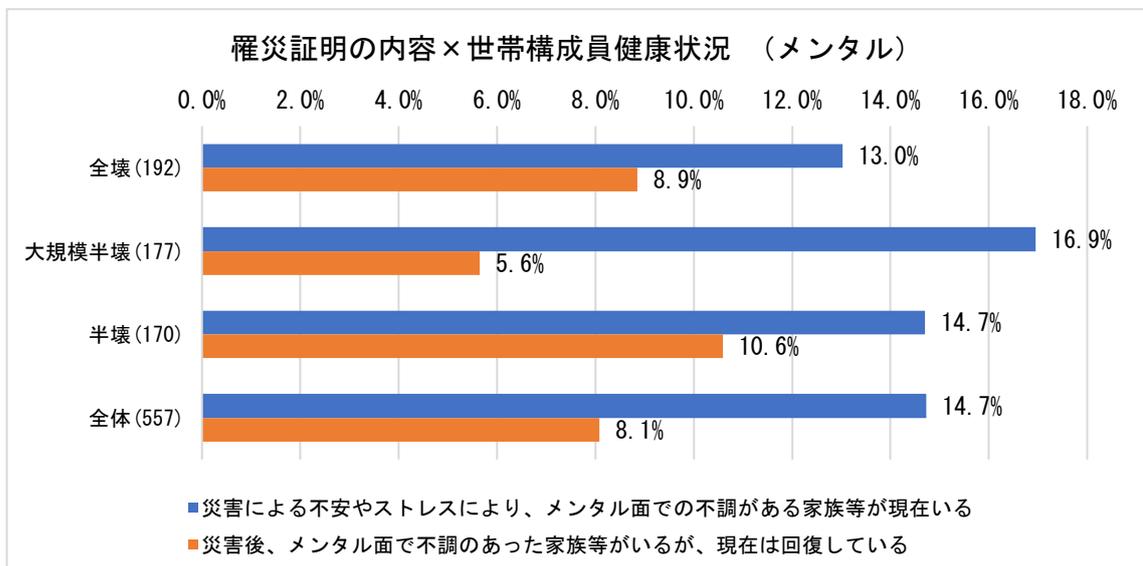
④罹災証明の内容

罹災証明の内容と健康状況の比較では、大規模半壊で「体調の不調が継続」「メンタル面での不調が継続」の回答割合が高く、回復傾向が鈍い結果となっている。(図表 5-68、図表 5-69)

図表 5-68 罹災証明の内容と世帯構成員の健康状況（体調）



図表 5-69 罹災証明の内容と世帯構成員の健康状況（メンタル）



第6章 調査結果2 八代市

八代市役所坂本支所周辺を中心に大きな被害が発生した旧坂本町について、地区の全世帯1,605件を対象として訪問調査を実施。訪問調査で得られた回答及びセルフアセスメントによる回答を合わせ、926件を有効回答とした（回収率：57.7%）。集計結果については、調査員訪問時に不在であった世帯や調査時点において調査地区外の親戚・知人宅等に避難している世帯の聞き取りができていない点に留意する必要がある。

図表 6-1 有効回答数（地区別）

地区名	回答数
坂本	76
葉木	64
鮎帰	107
鎌瀬	31
荒瀬	65
市ノ俣	7
深水	45
西部	150
川嶽	28
中谷	114
中津道	25
鶴喰	46
田上	51
百済来上	40
百済来下	68
不明	9
合計	926

図表 6-2 有効回答数（回答方法別）

回答方法	回答数
訪問調査	895
セルフアセスメント	31
調査会場	-
合計	926

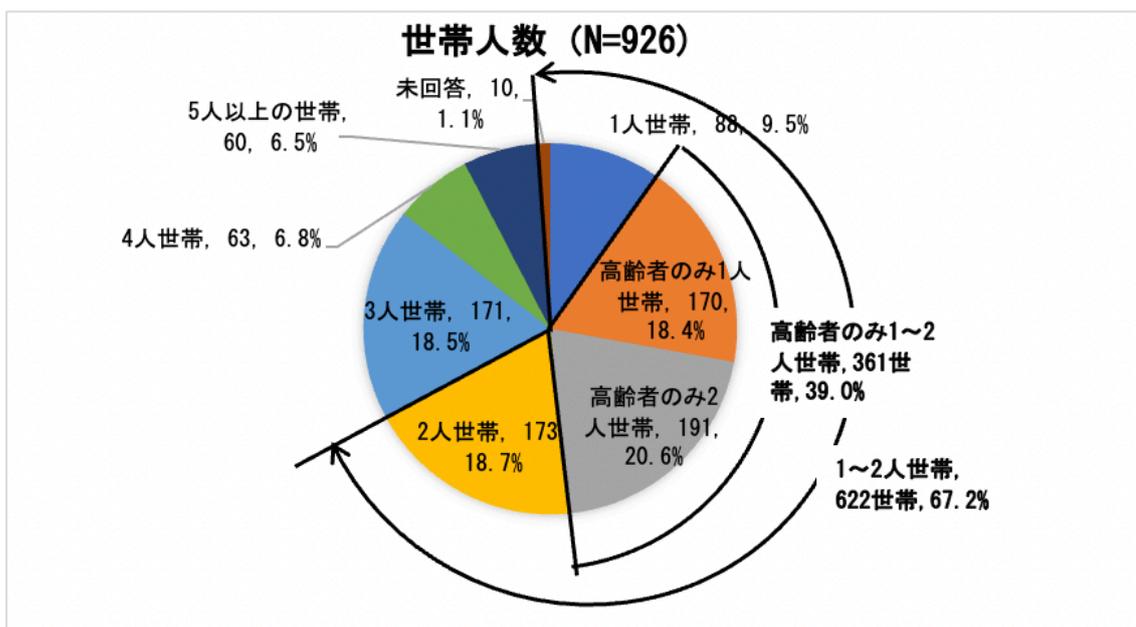
6-1 単純集計

(1) 世帯情報

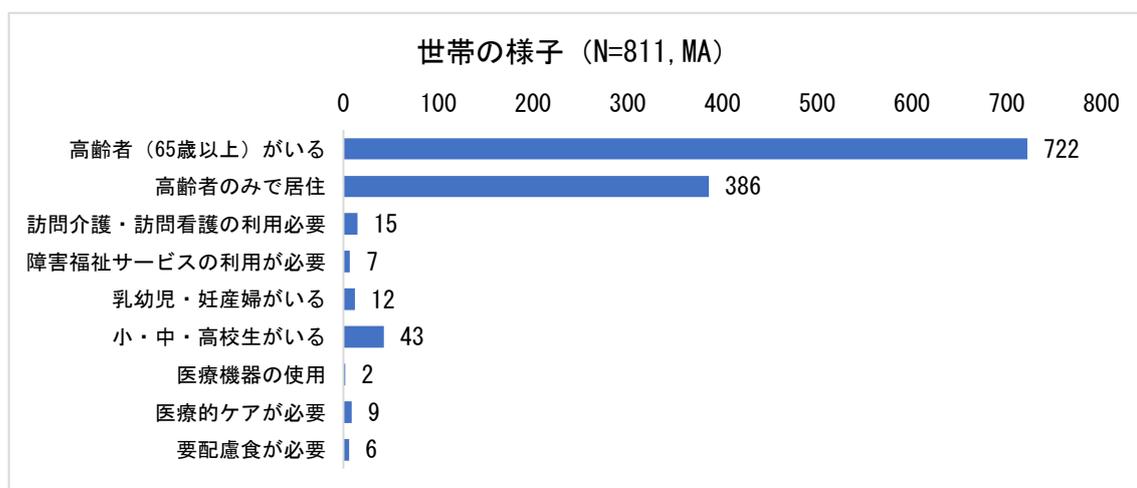
回答のうち、世帯人数は「1人世帯」が258世帯(27.9%)、「2人世帯」が364世帯(39.3%)で、全体の67.2%を占める。このうち高齢者のみ単身世帯は170世帯、高齢者のみ2人世帯は191世帯あり、高齢者のみの1~2人世帯は全体の39.0%である。(図表6-3)

世帯構成員の要配慮者の有無は、図表6-4の通りである。

図表 6-3 世帯人数



図表 6-4 世帯の様子

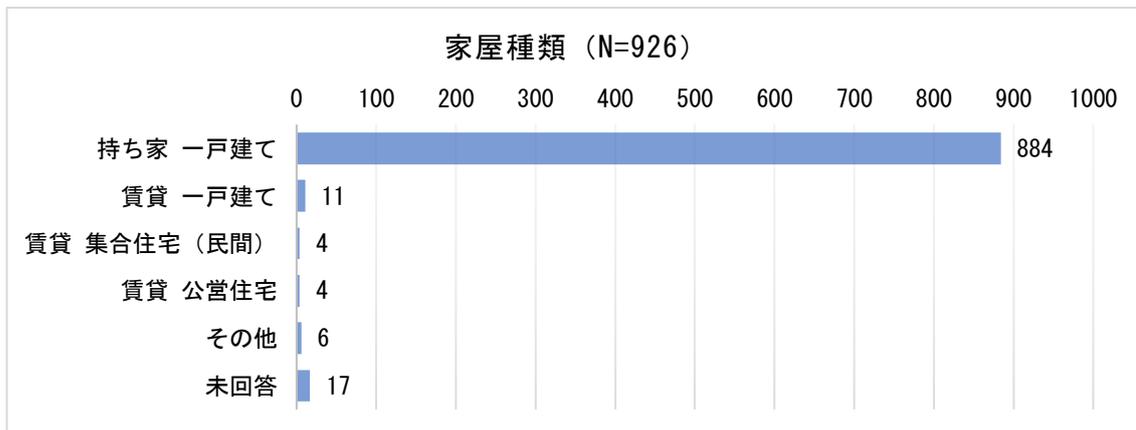


(2) 家屋の状況

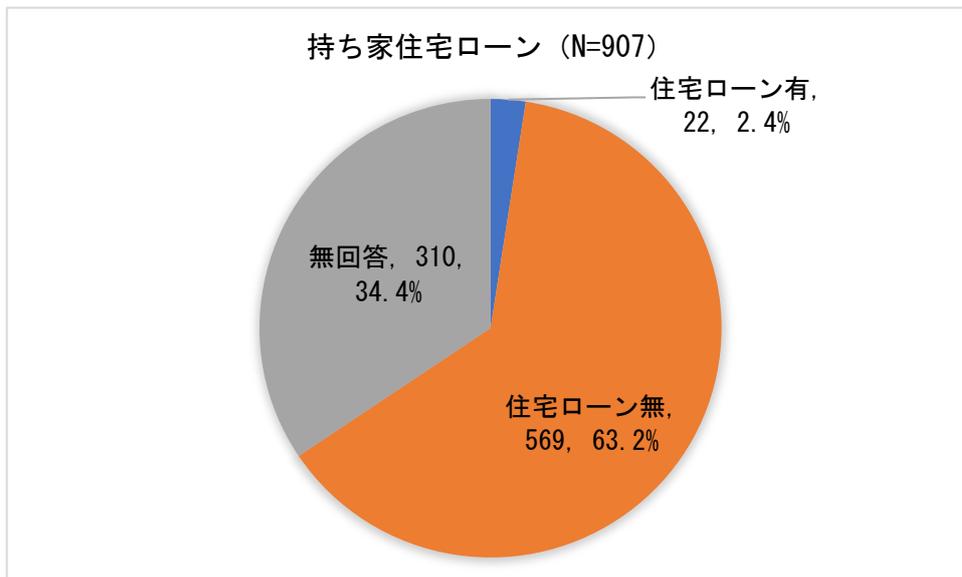
① 家屋の種類

「持ち家一戸建て」が884件で最も多く、そのうち「住宅ローン有」は3件である。(図表6-5, 図表6-6)

図表6-5 家屋の種類



図表6-6 住宅ローン



②家屋の被害の様子

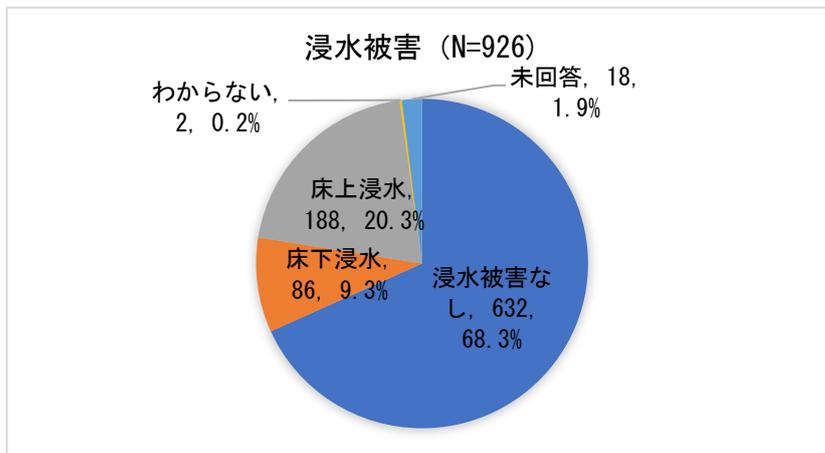
「浸水被害なし」は 632 件（68.3%）、「床上浸水」188 件（20.3%）、「床下浸水」86 件（9.3%）であり、全体の 29.6%が浸水被害を受けている。（図表 6-7）

浸水の程度は、「床上 1.8m以上の浸水」90 件（30.6%）、「床上 1m～1.8m未満の浸水」44 件（15.0%）、「床上 1m未満の浸水」50 件（17.0%）である。（図表 6-8）

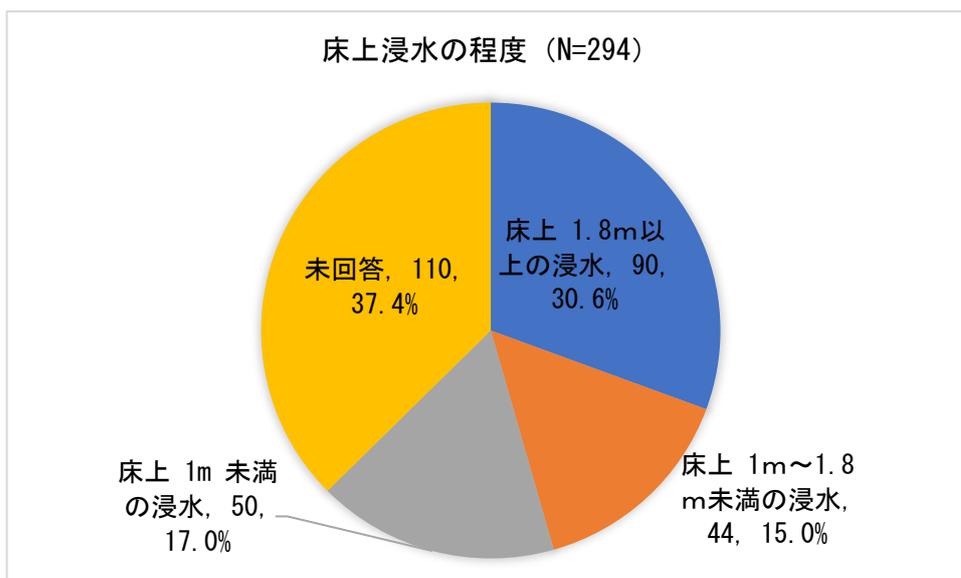
回答世帯のうち「土砂被害なし」は 650 件（70.2%）で、土砂被害があった世帯（「基礎天端下 25cm 程度まで土砂が流入」「およそ床まで土砂が流入」「床上を超えて土砂が流入」）は、174 件（18.8%）である。（図表 6-9）

生活設備への影響については、「台所・トイレ・お風呂等の生活設備」137 件、「エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の電化製品」138 件である。「電気・ガス・水道等ライフライン設備」は 370 件で、長期の停電が含まれているため住宅の被害数よりも大幅に多くなっている。（図表 6-10）

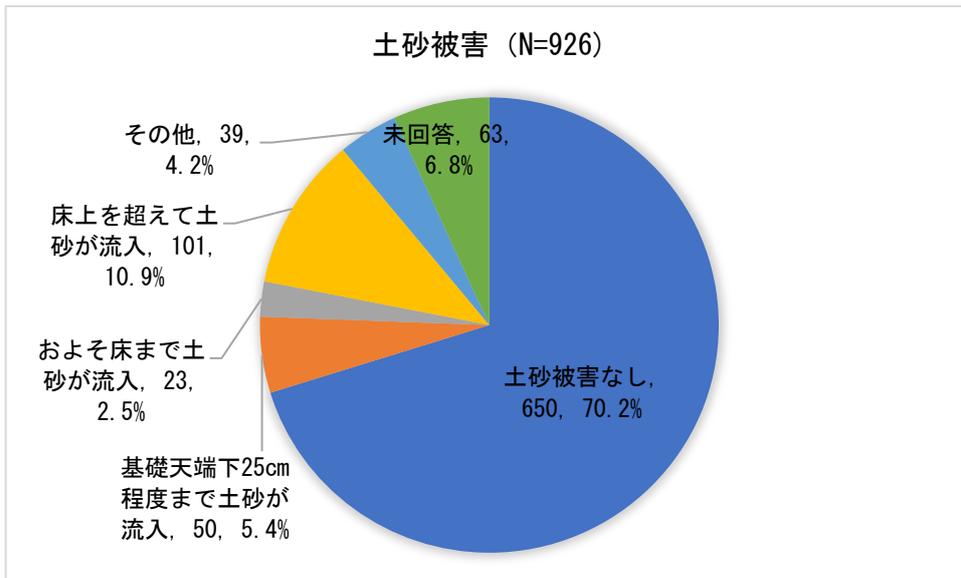
図表 6-7 浸水被害



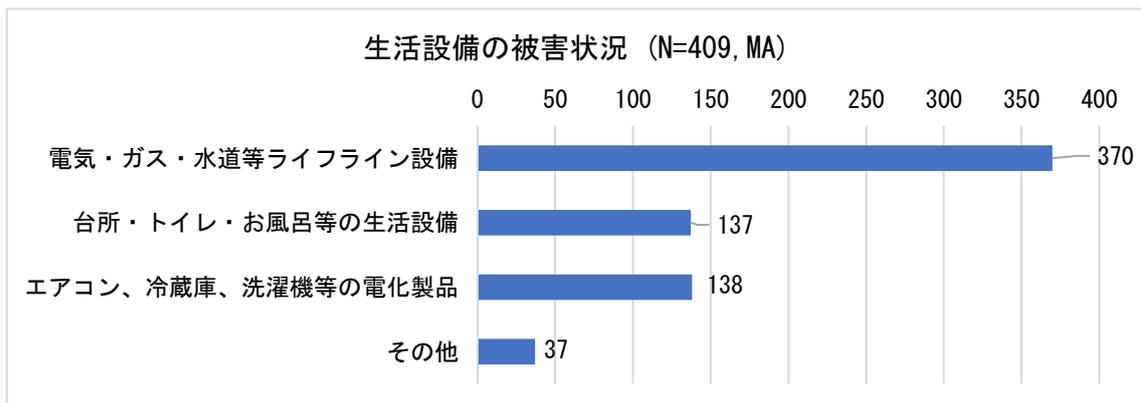
図表 6-8 床上浸水の程度



図表 6-9 土砂被害



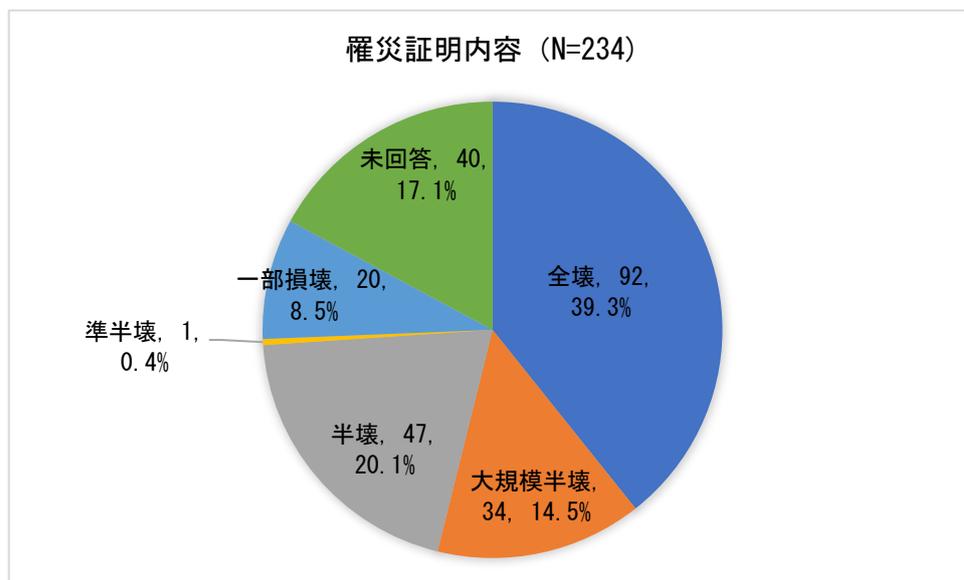
図表 6-10 生活設備の被害状況



③罹災証明の内容

回答数 926 件のうち罹災証明を取得している 234 件の内訳は、「全壊」92 件 (39.3%)、「大規模半壊」34 件 (14.5%)、「半壊」47 件 (20.1%) である。(図表 6-11)

図表 6-11 罹災証明の内容



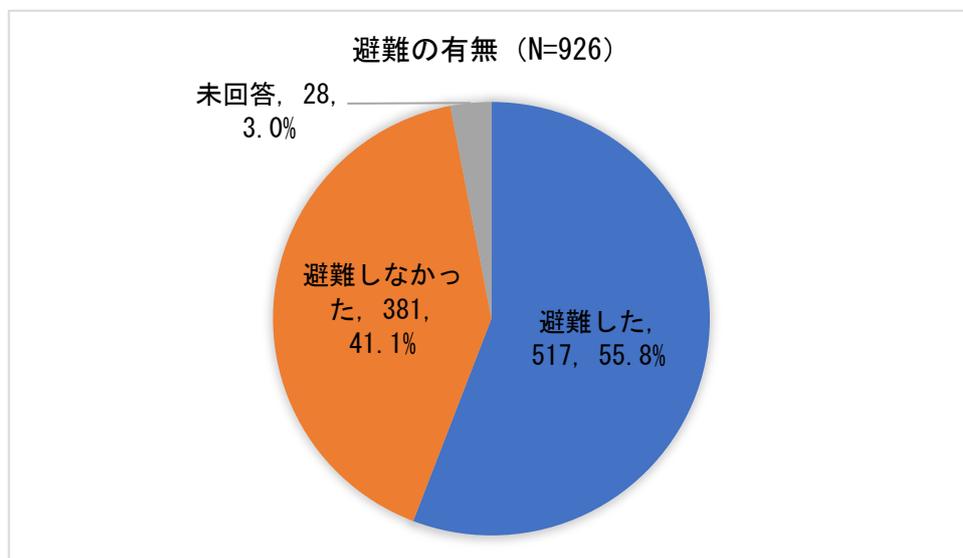
(3) 避難行動

① 避難の有無

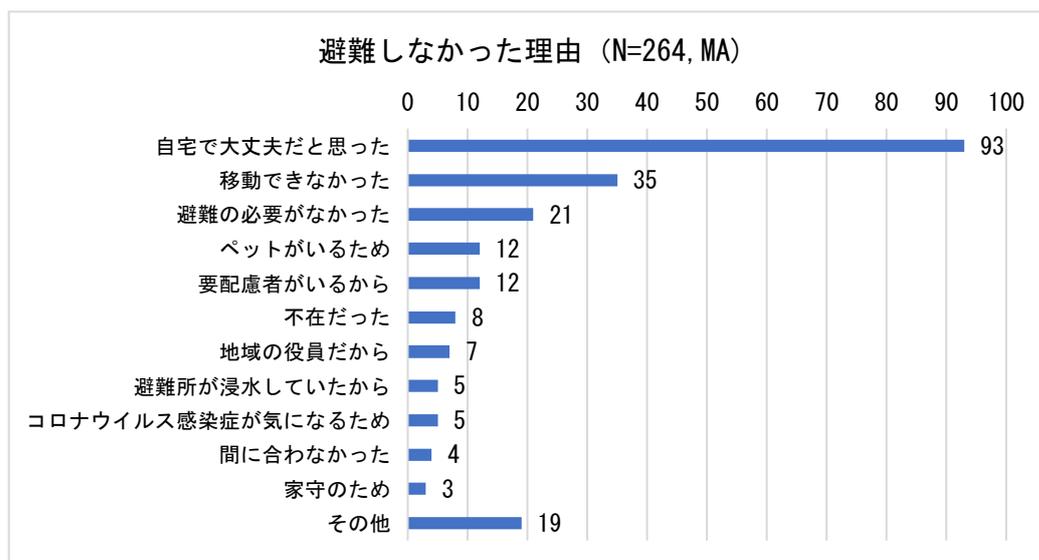
回答世帯の回答のうち「避難した」のは 517 件 (55.8%)、「避難しなかった」のは 381 件 (41.1%) である。(図表 6-12)

避難しなかった理由としては、自宅から避難しないことを選択した回答が「自宅にいる方が安全だと思った」115 件、「2 階が安全だと思った」21 件である。避難の意思に反して避難ができなかった回答は、「移動できなかった」60 件、「避難のタイミングが判らなかった」25 件、「間に合わなかった」13 件、「避難の手助けがなかった」3 件である。配慮を必要とする世帯が避難出来なかった理由として「要配慮者がおり避難できなかった」14 件、「ペットがいる」6 件、「避難の手助けがなかった」3 件である。(図表 6-13)

図表 6-12 避難の有無



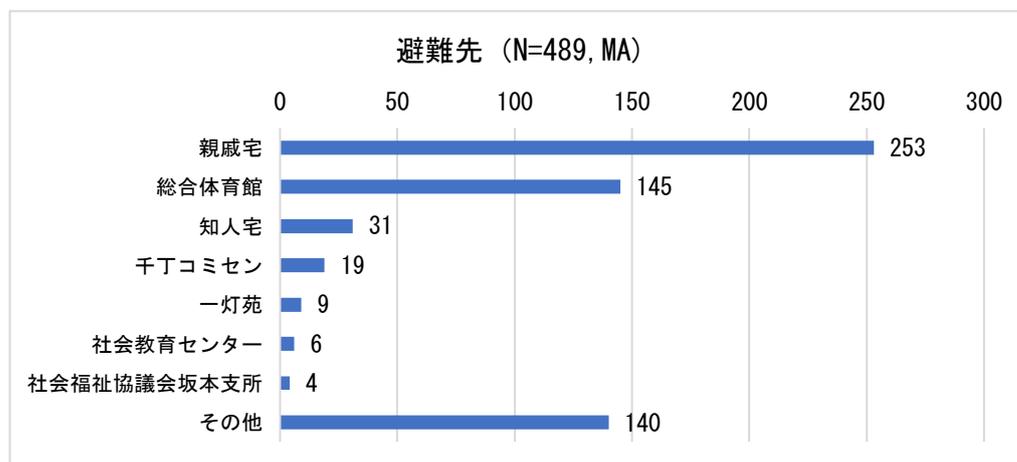
図表 6-13 避難しなかった理由



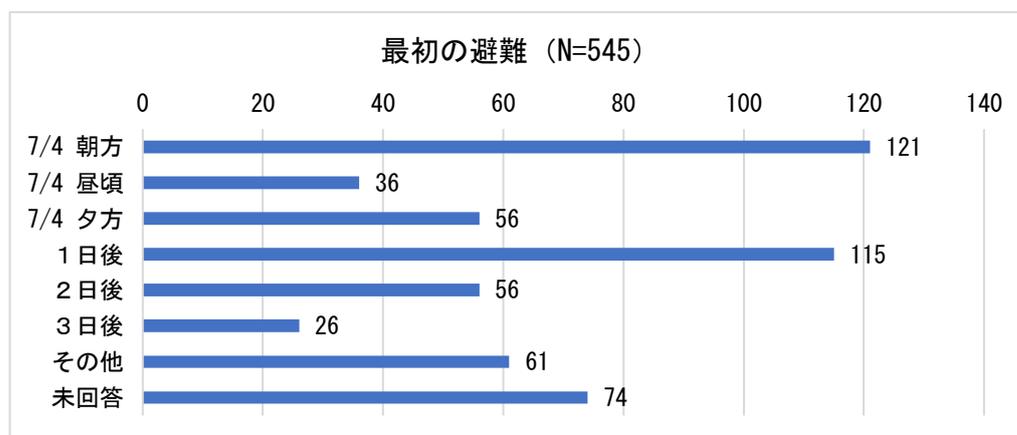
②避難先・避難のタイミング・救助者

避難先は指定避難所が多く、最初の避難は7月4日の朝方が286件（71.5%）である。（図表6-14、図表6-15）

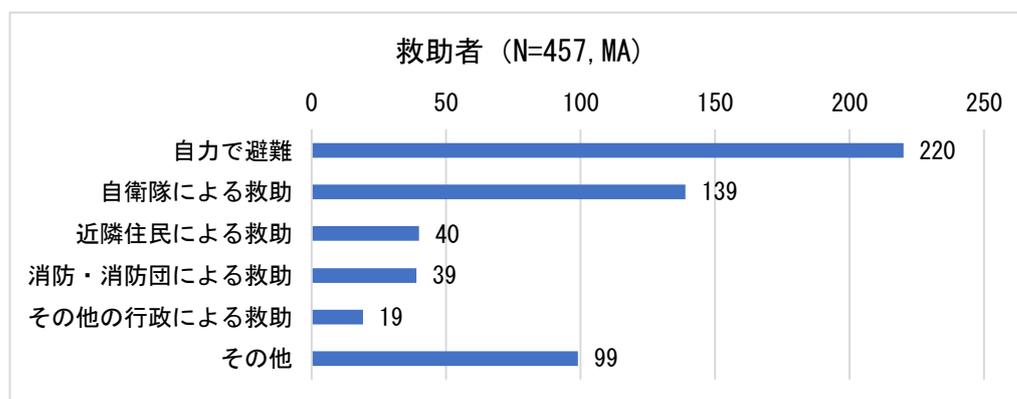
図表 6-14 避難先の様子



図表 6-15 最初の避難の時期



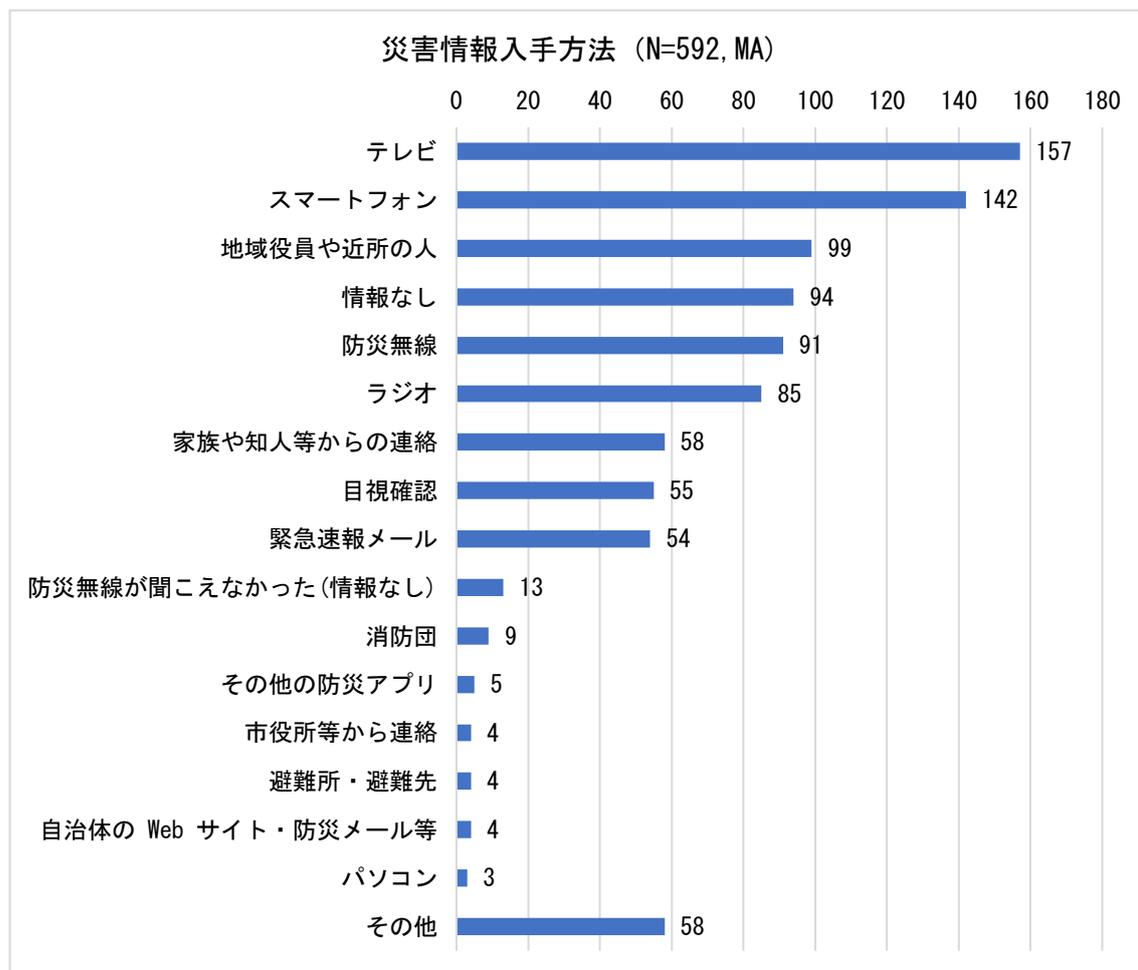
図表 6-16 救助者の様子



③災害情報の入手方法

災害情報の入手方法では、「テレビ」が157件で最も多く、「スマートフォン」142件、「地域役員や近所の人」99件が続く。「防災無線が聞こえなかった」を含めた「情報なし」は107件である。(図表 6-17)

図表 6-17 災害情報を入手した主な方法



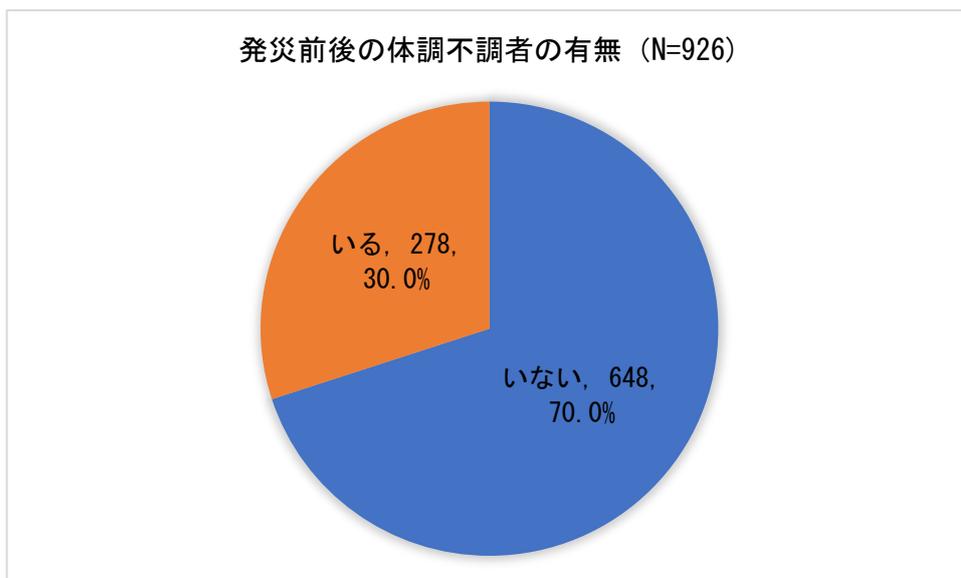
(4) 健康や福祉

①健康状態

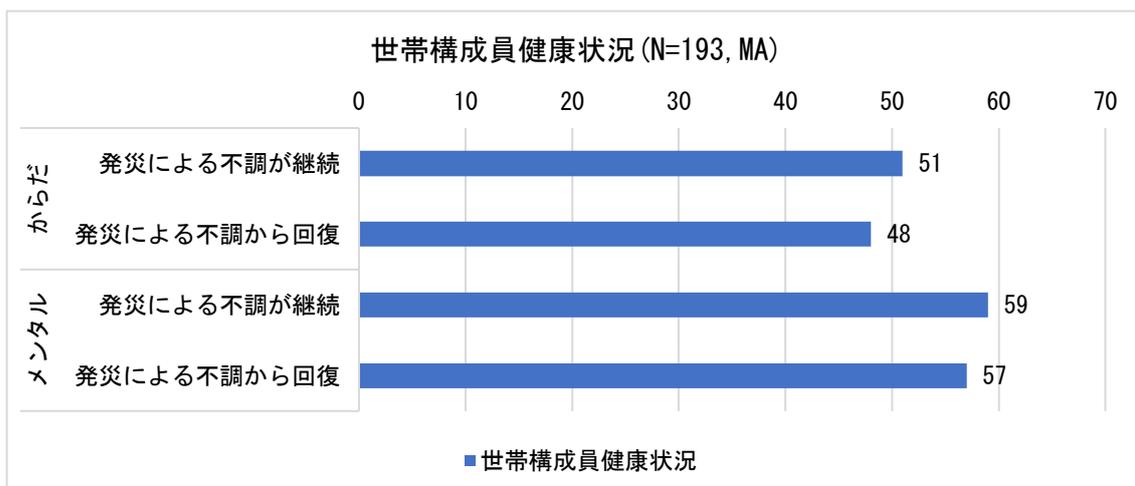
発災前後の体調不調者は、「いる」278件（30.0%）、「いない」648件（70.0%）である。（図表 6-18）

発災後の健康状況は193件の回答があり、「発災による体調の不調が継続」51件、「発災による体調の不調から回復」48件、「発災によるメンタルの不調が継続」59件、「発災によるメンタルの不調から回復」57件である。（図表 6-19）

図表 6-18 発災前後の体調不調者の有無



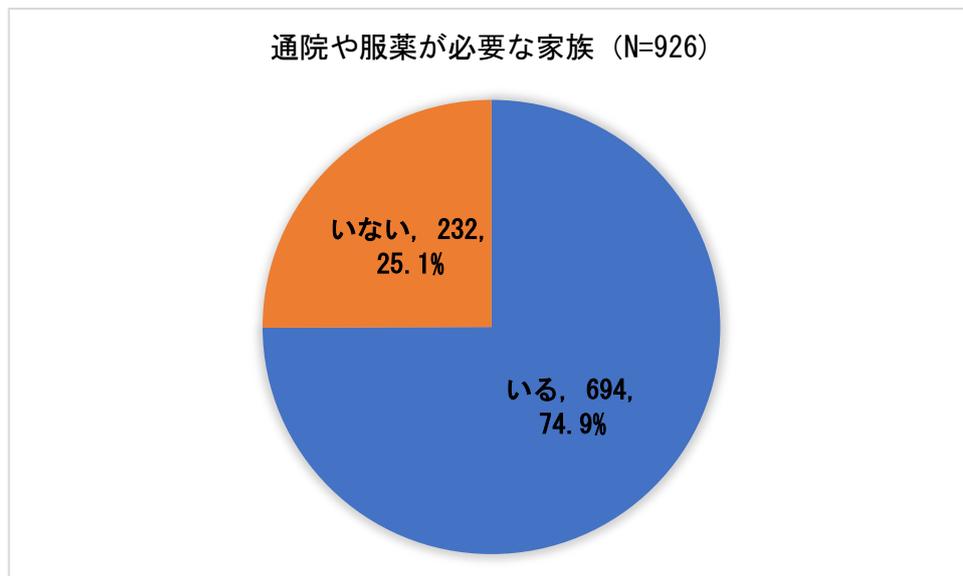
図表 6-19 世帯構成員健康状況



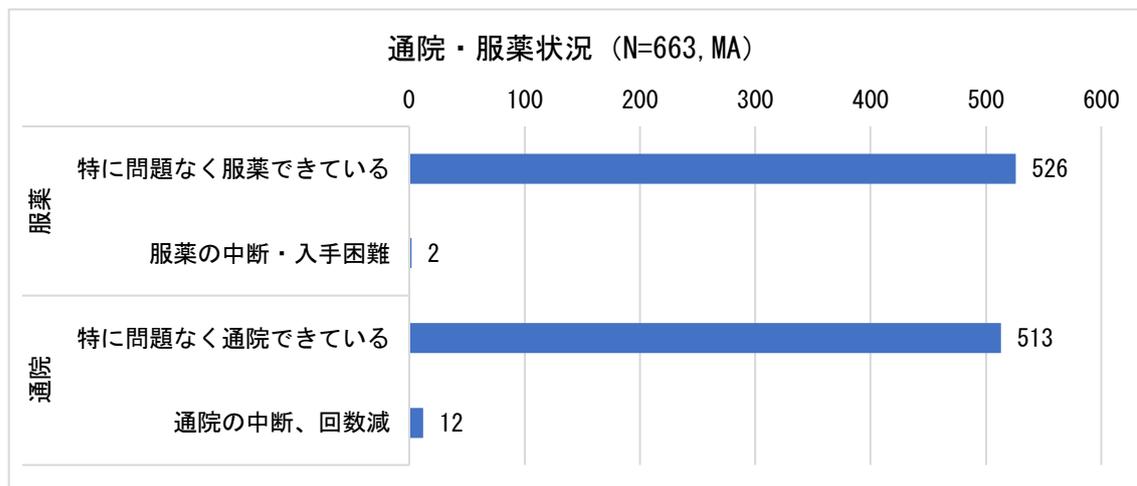
②通院・服薬

694件（74.9%）の世帯で服薬や通院が必要な家族が存在しており、発災による影響については633件の回答があり、「服薬の中断や薬の入手困難」2件、「通院の中断や回数減」12件である。（図表 6-20、図表 6-21）

図表 6-20 通院や服薬が必要な家族の有無



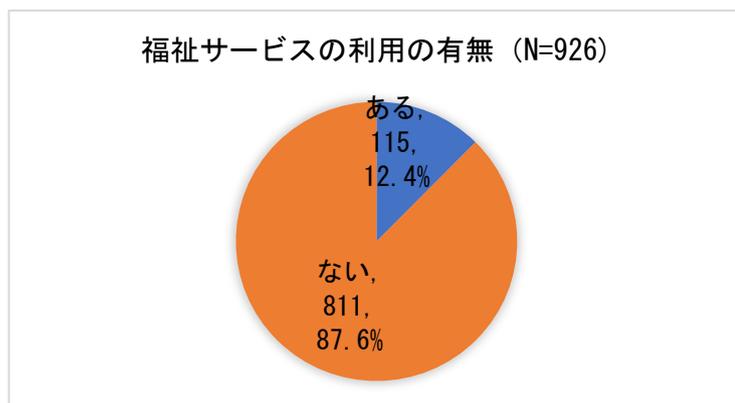
図表 6-21 発災後の通院・服薬状況



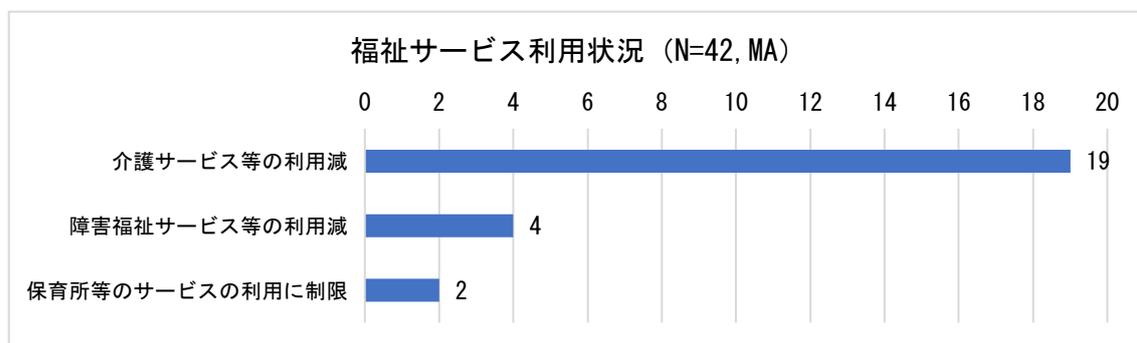
③福祉サービス等の利用

発災前に福祉サービスを利用していた世帯は115件（12.4%）であり、発災による影響については42件の回答があり、「介護サービス等の利用減」19件、「障害福祉サービス等の利用減」4件、「保育所等のサービスの利用に制限」2件である。（図表6-22、図表6-23）

図表 6-22 福祉サービス等の利用の有無



図表 6-23 発災後の福祉サービス利用状況



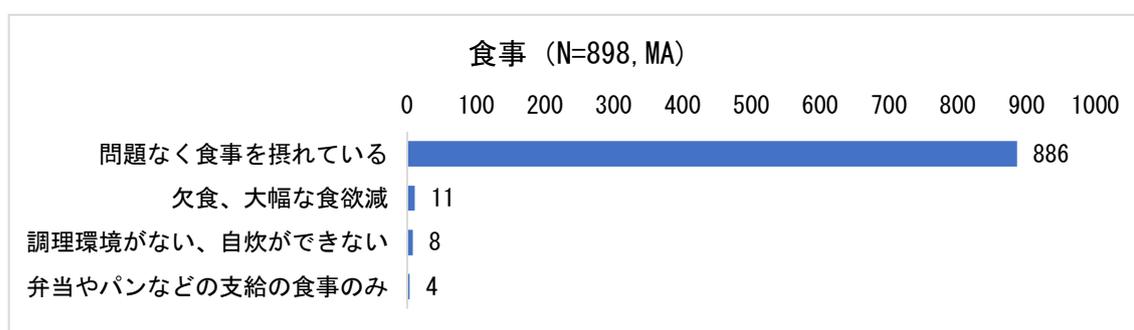
(5) 生活状況

食事に関する制限や支障の状況は 898 件の回答があり、「問題なく食事を摂れている」が 886 件で最も多く、「一日 3 食摂れていない、大幅な食欲減」11 件、「調理環境がない、自炊したくてもできない」8 件、「弁当やパンなどの支給の食事のみ」4 件である。「要配慮食が入手しにくい」の回答はなかった。(図表 6-24)

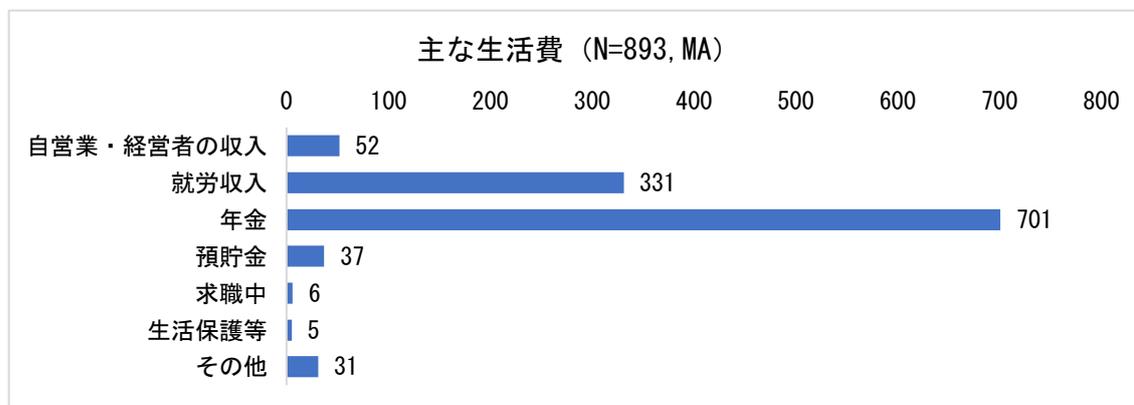
主な生活費は 893 件の回答があり、「年金」701 件が最も多く、「就労による収入」331 件、「自営業・経営者としての収入」52 件である。(図表 6-25)

通勤や移動の状況は 866 件の回答があり、「特に困っていない」749 件で最も多いが、その他の内訳から、親族の送迎や近隣住民の車の乗り合わせ、乗合タクシーなどで対処している様子が見られる。(図表 6-26)

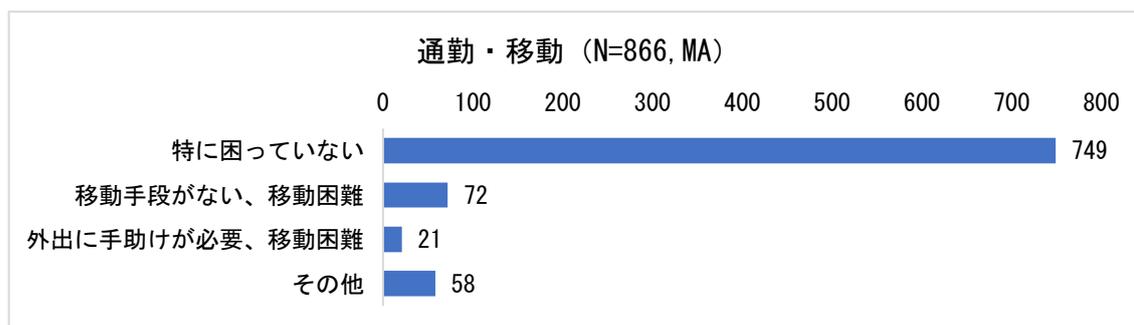
図表 6-24 食事の様子



図表 6-25 主な生活費



図表 6-26 通勤・移動の様子



(6) 今後の見通し

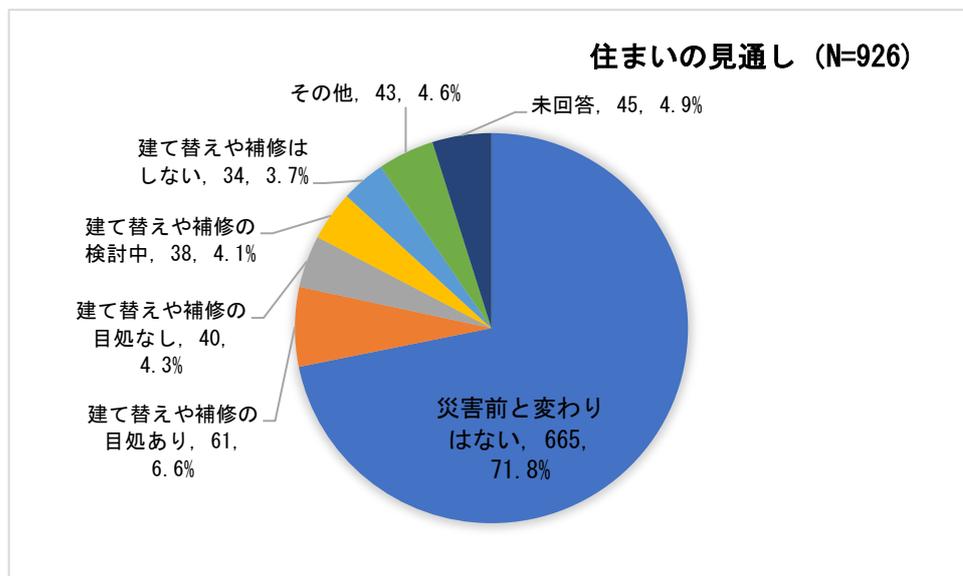
住まいの見通しは、665件（71.8%）が「災害前と変わりはない」と回答している。「建て替えや補修の目処あり」は61件（6.6%）であり、「建て替えや補修の目処なし」40件（4.3%）、「建て替えや補修の検討中」38件（4.1%）の見通しが決まっていない回答があった。（図表 6-27、図表 6-30）

建て替えや補修の目処が立たない・検討中の理由は65件の回答があり、「費用の工面が困難・不安がある」が36件と最も多い。その他の理由の詳細では、「いつになるかわからない」「家族で意見がまとまらない」等の意見が見られた。（図表 6-28）

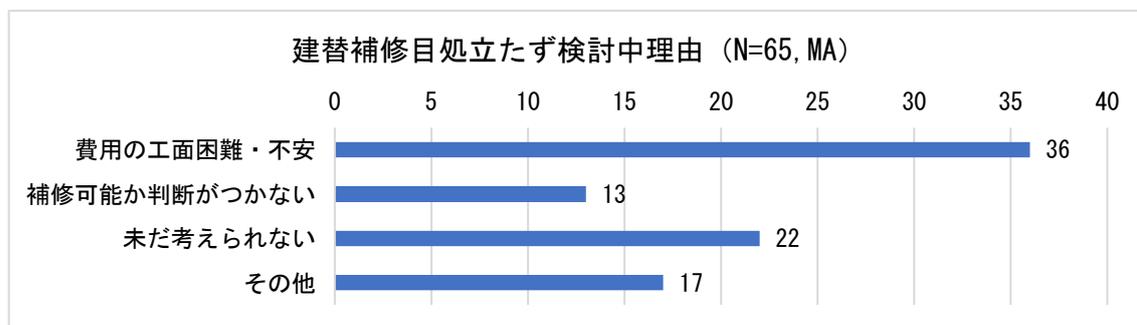
今後当面の間、罹災証明を取得している被害のある家屋で過ごすと回答した世帯が、罹災証明の内容の内訳にも存在しており、「全壊」「大規模半壊」「半壊」の順で、世帯数が多くなっている。（図表 6-29-①、図表 6-29-②）

希望居住地は、「災害前と同じ地区」が695、（75.1%）で最も多い。（図表 6-31）

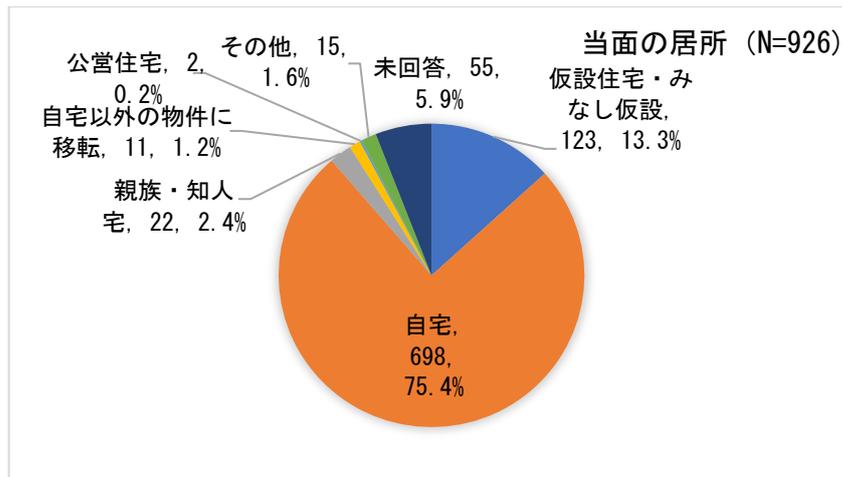
図表 6-27 住まいの見通し



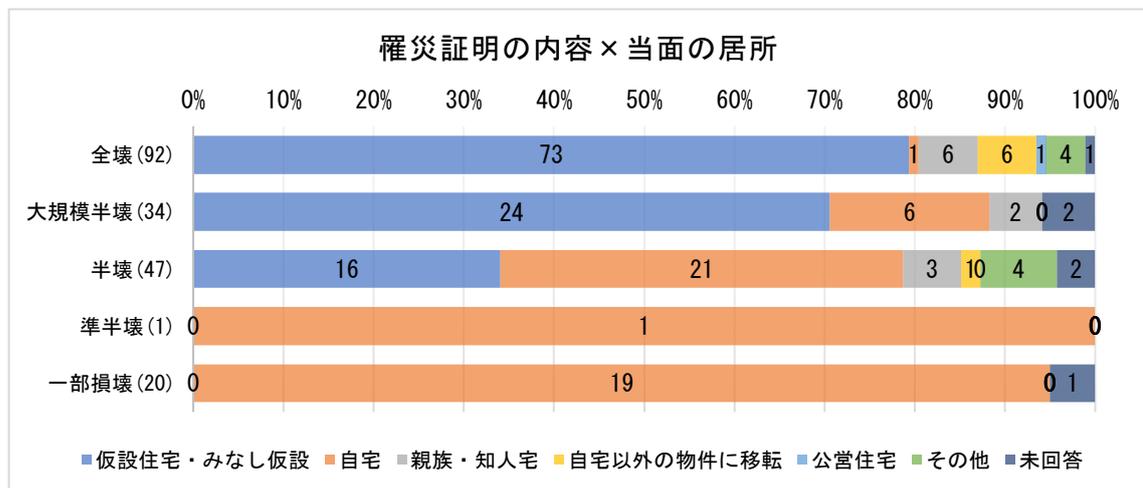
図表 6-28 建て替え補修の目処立たず・検討中理由



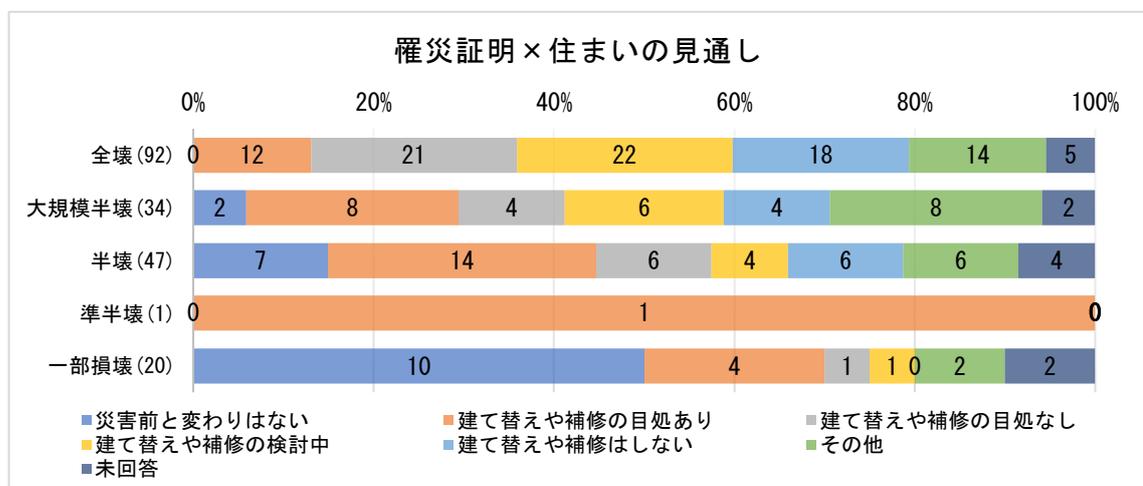
図表 6-29-① 当面の居所



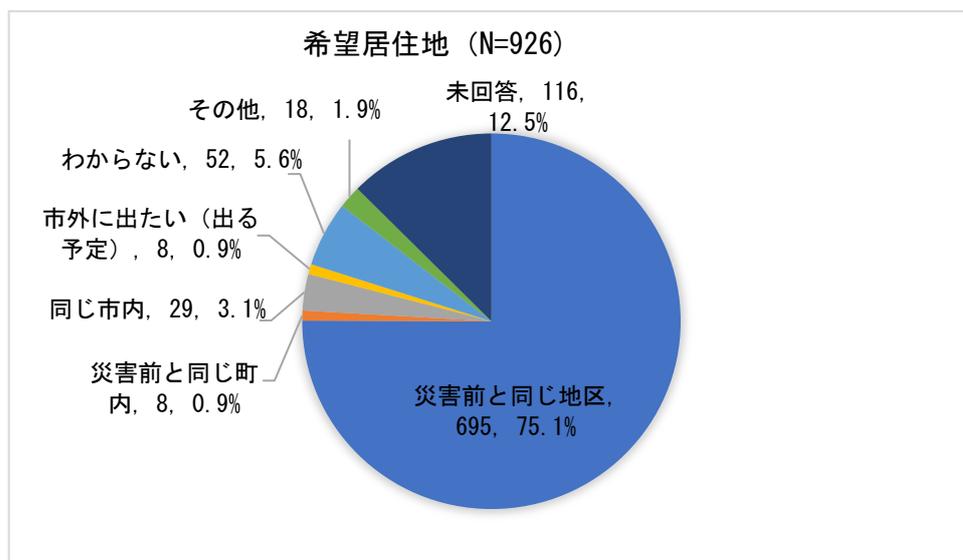
図表 6-29-② 罹災証明の内容別の当面の居所



図表 6-30 罹災証明内容別の住まいの見通し



図表 6-31 居住希望地

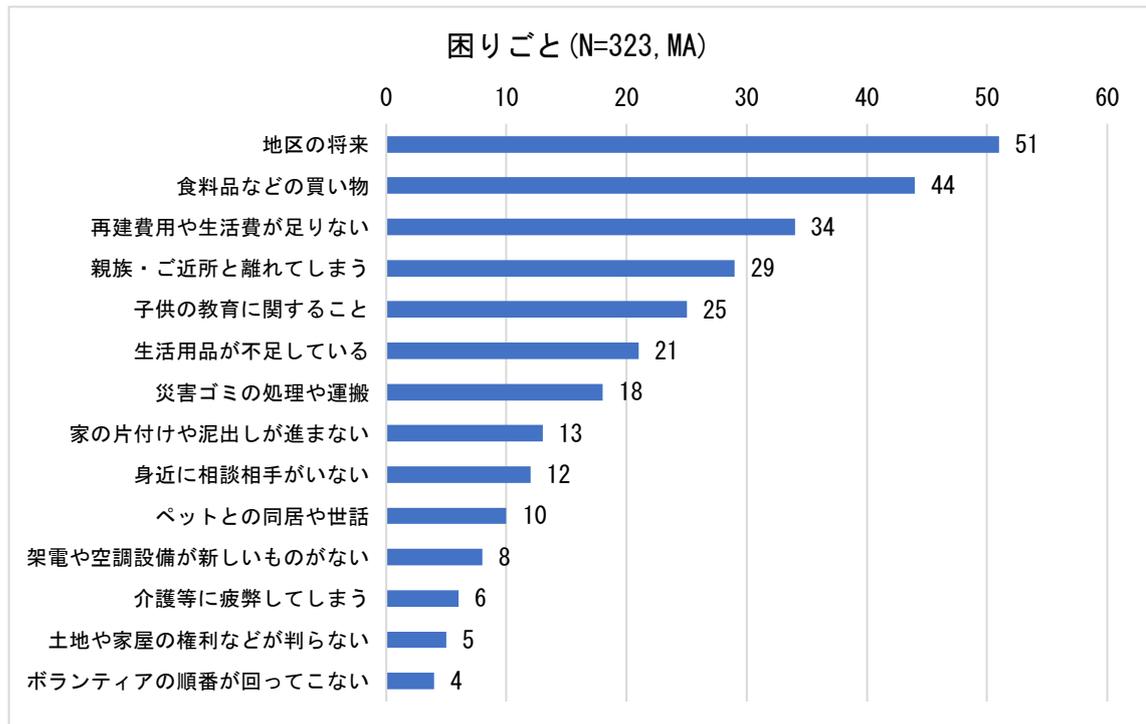


(7) 不安・心配ごと

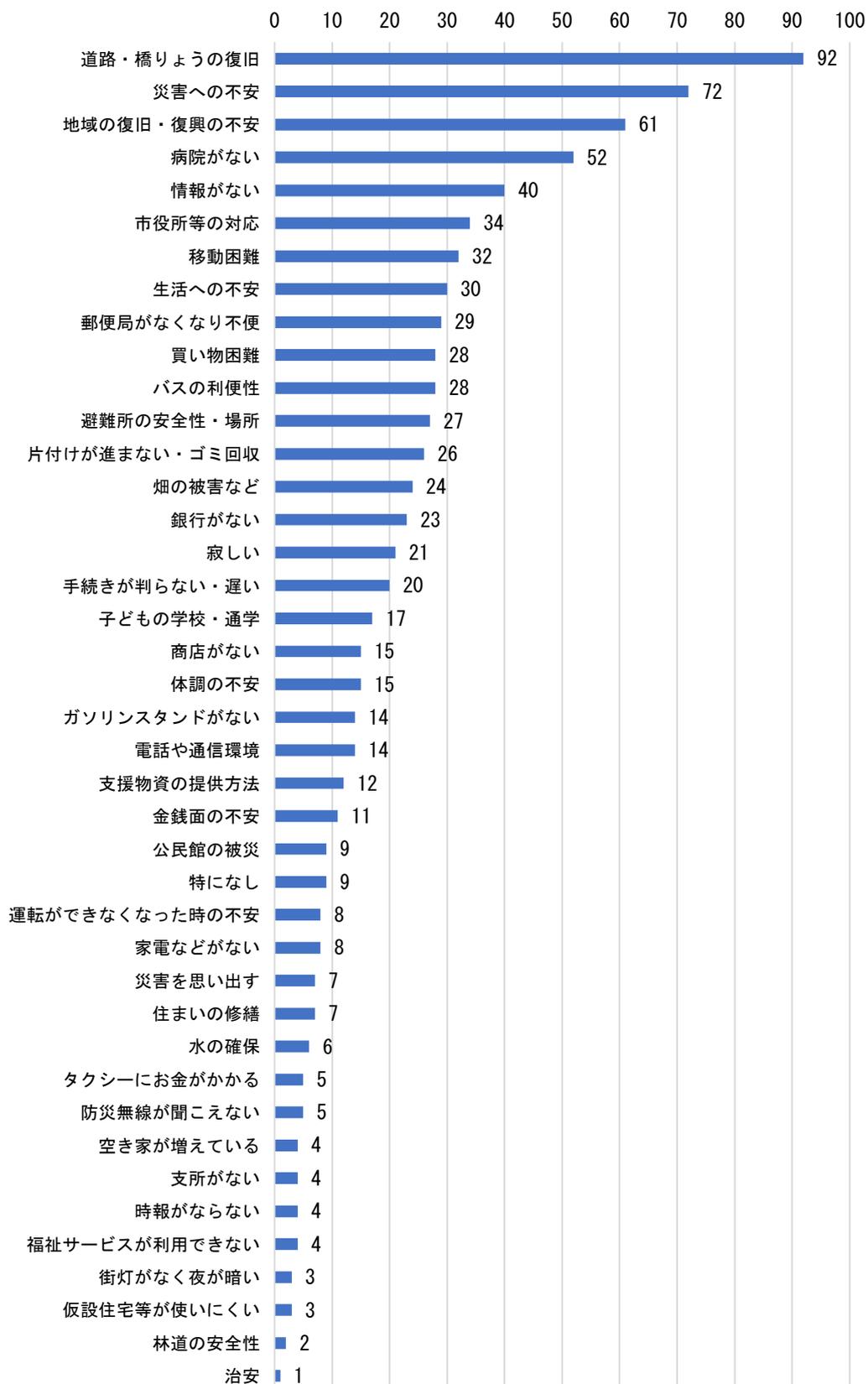
困りごとには323件の回答があり、「人がどれだけ戻れるかなど地区の将来」が51件で最も多く、「食料品などの買い物」44件、「再建費用や生活費が足りない」34件、「親族・ご近所と離れてしまう」29件、「子どもの教育に関すること」25件と続く。(図表6-32)

その他への回答が649件あり、その内訳は図表6-33の通りである。その他116件は、野犬などの心配、困りごとではない世帯の様子、発災前からの要望事項などである。

図表6-32 困りごと



困りごと（その他記入欄）の内容 (N=649, MA)



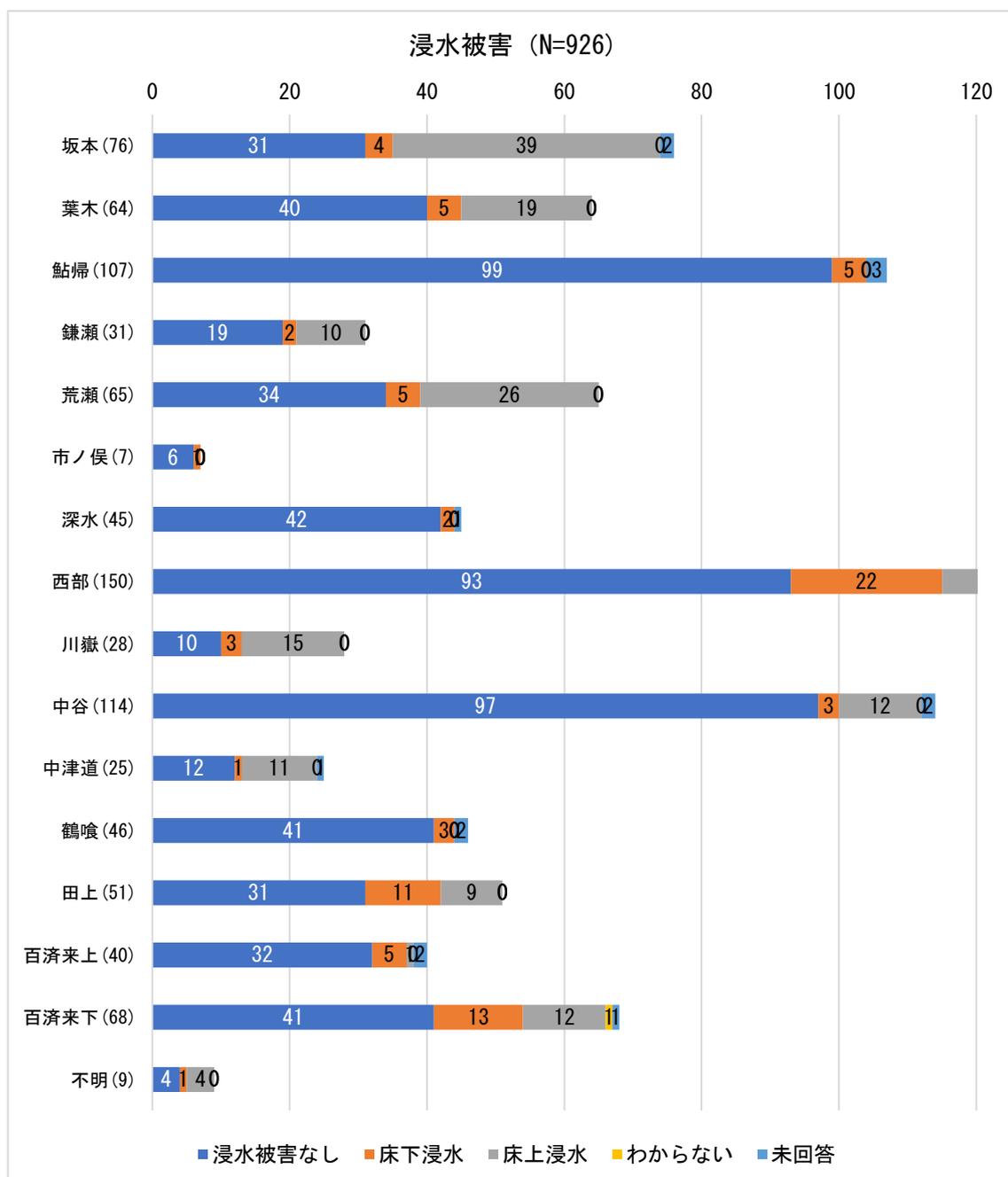
6-2 クロス集計

(1) 地区別集計

① 被害状況

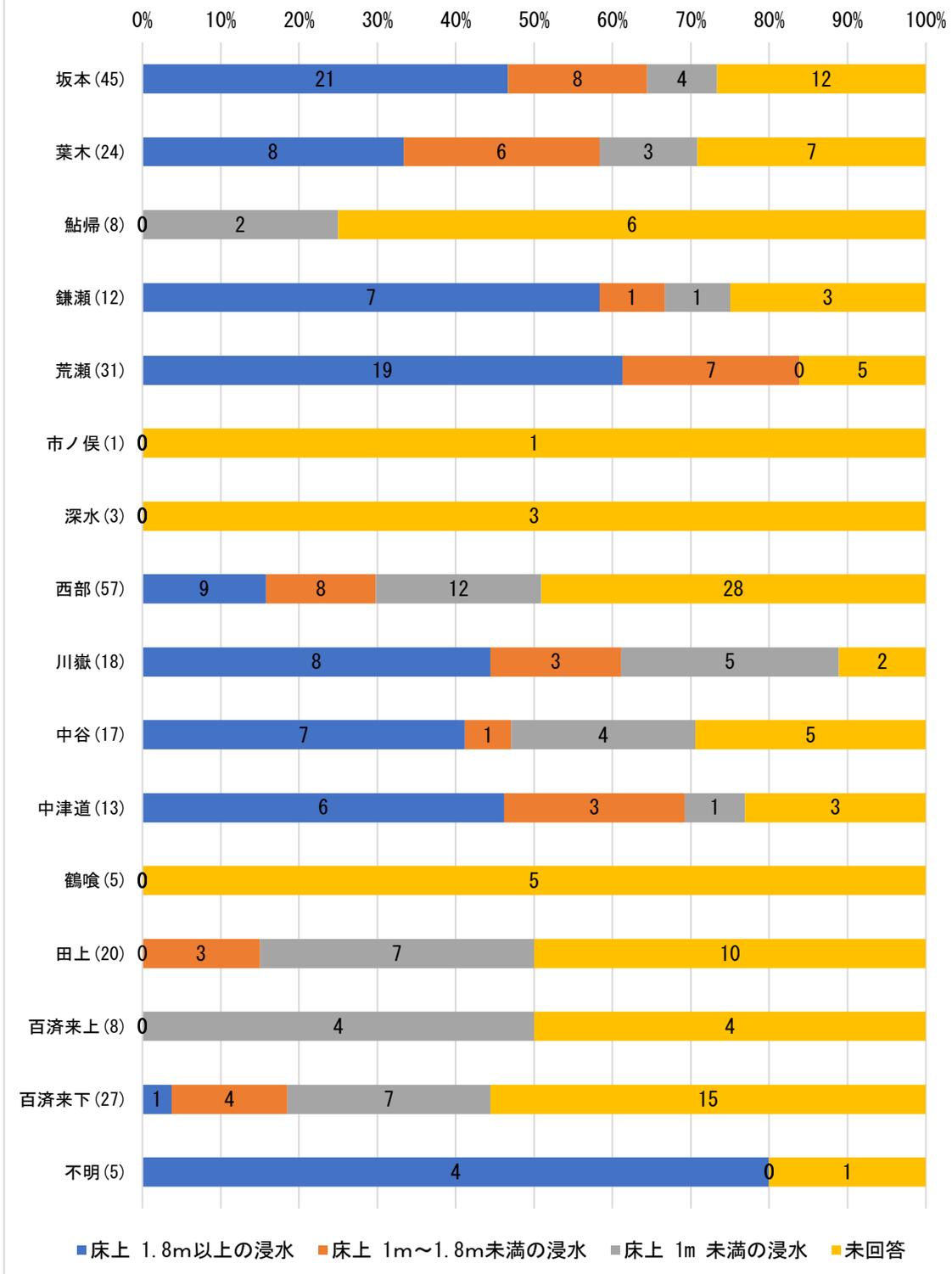
地区別では、同じ地区内に浸水被害や土砂被害をうけた世帯と被害がなかった世帯が存在する地区と、地区内の浸水被害や土砂被害がほとんどなかった地区がある。(図表 6-34、図表 6-35、図表 6-36、図表 6-37)

図表 6-34 地区別の浸水被害状況

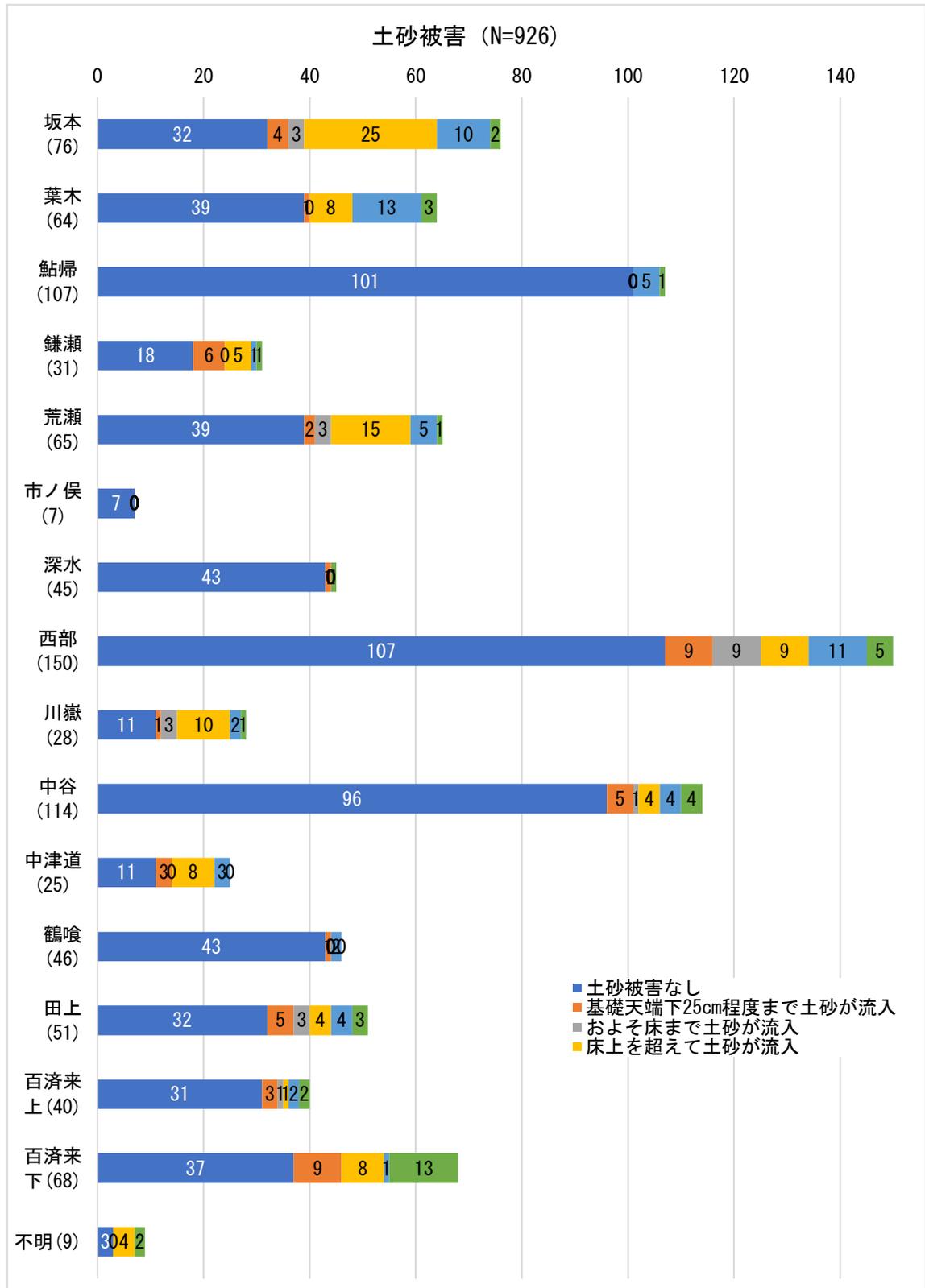


図表 6-35 地区別の浸水被害の程度

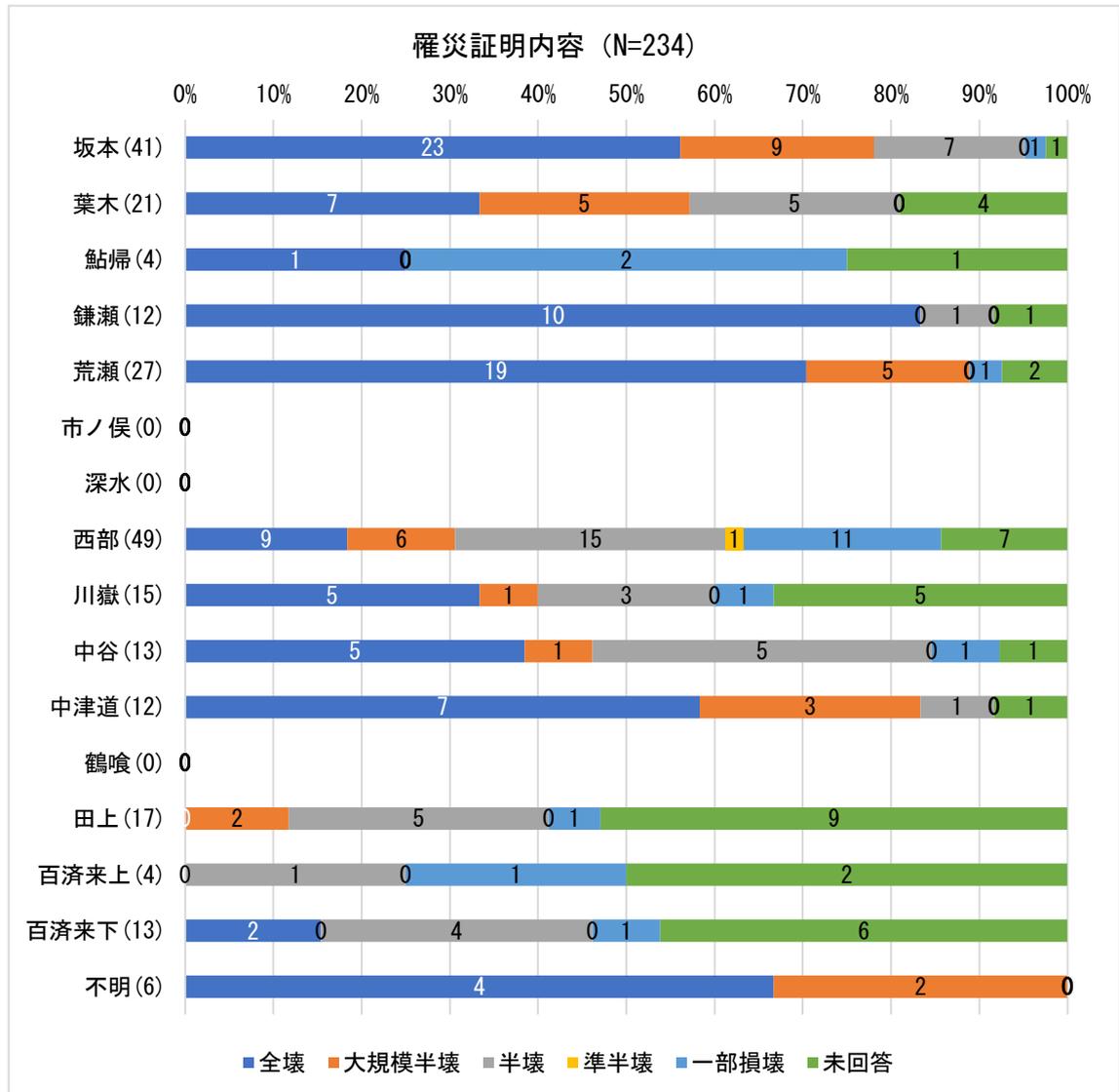
床上浸水の程度 (N=294)



図表 6-36 地区別の土砂被害の状況



図表 6-37 地区別の罹災証明の内容割合

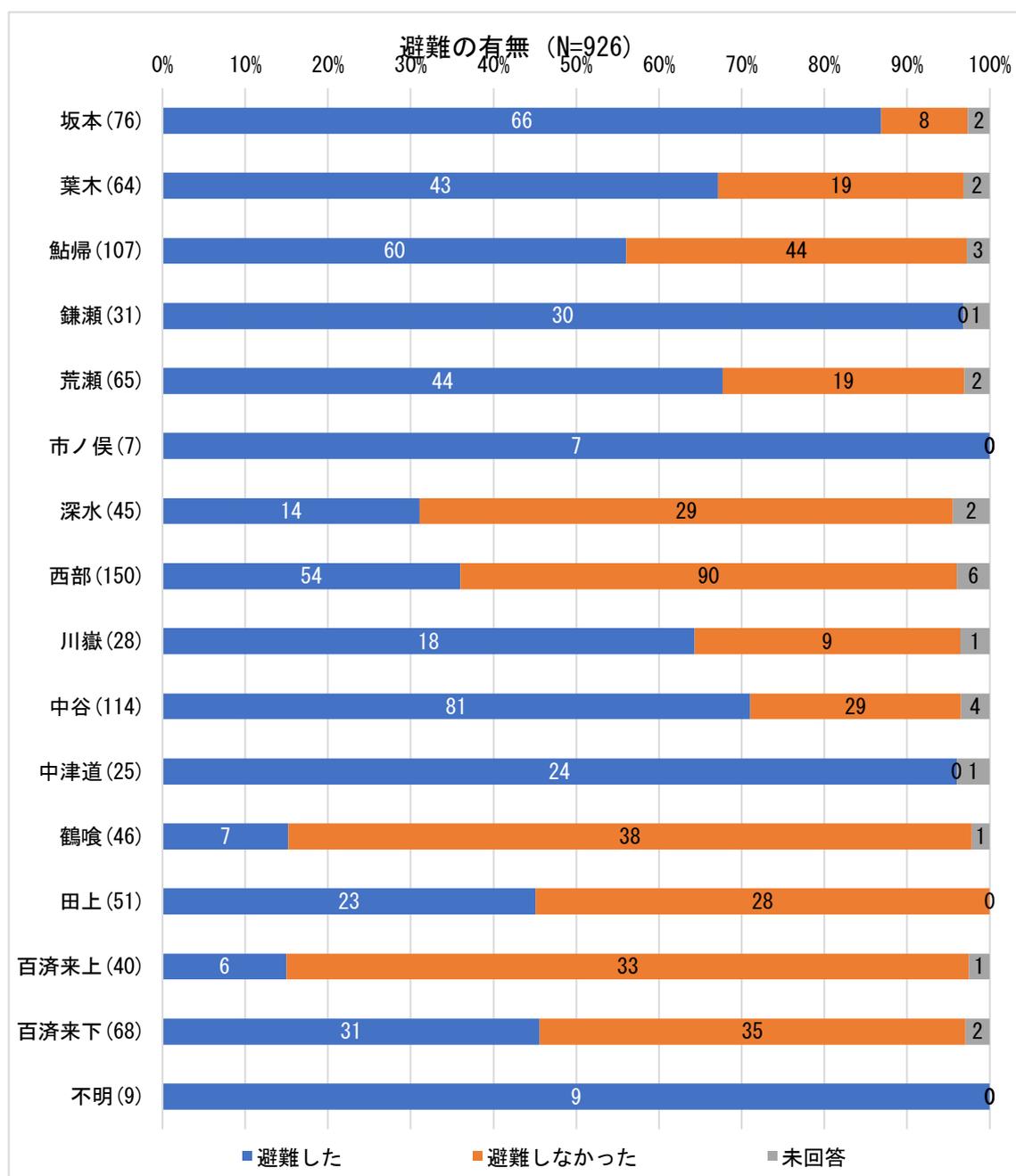


②避難行動

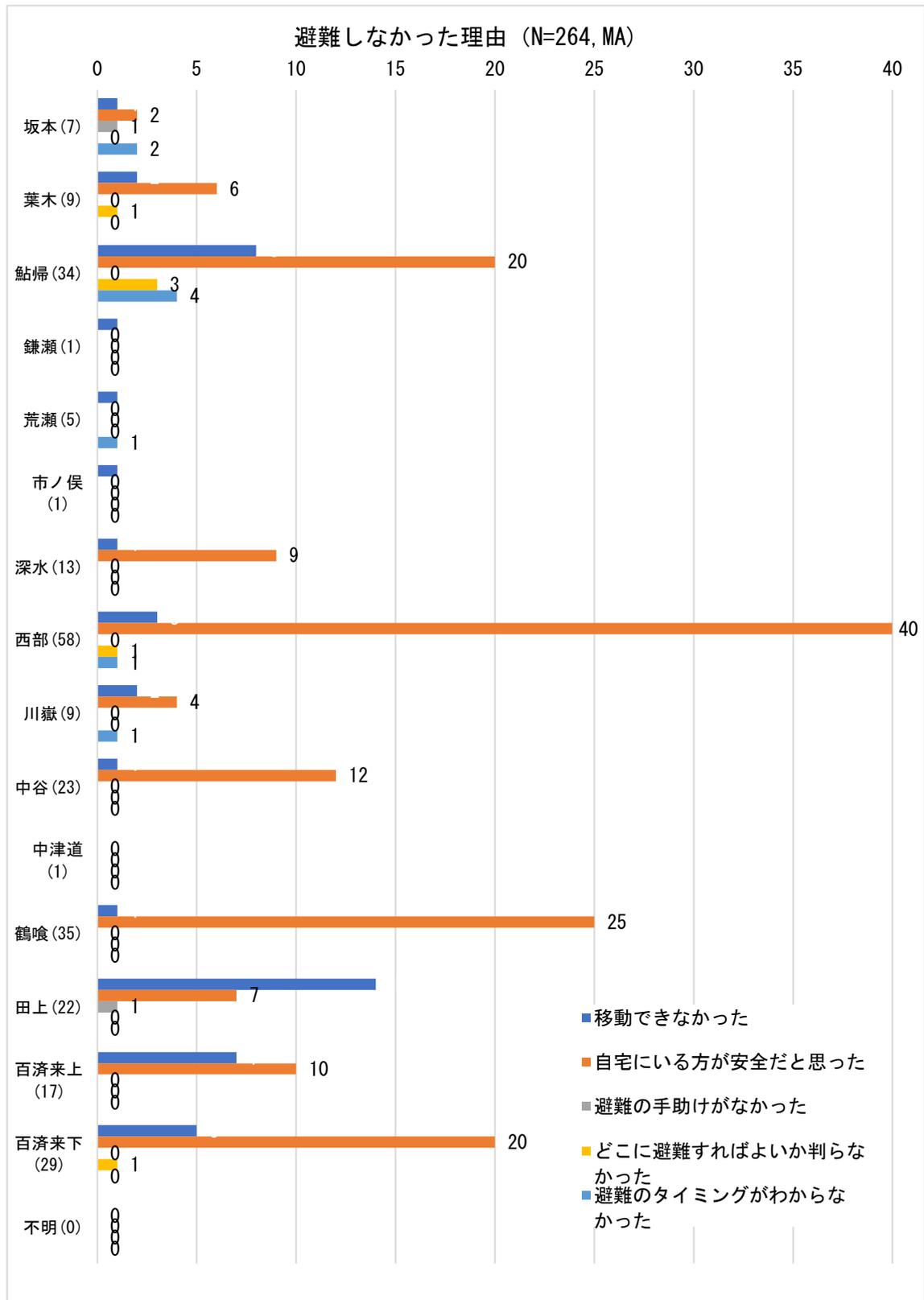
どの地区でも避難行動を取った世帯がある。避難しなかった世帯が、避難した世帯よりも多い地区は、深水地区、西部地区、鶴喰地区、田上地区、百済来上地区、百済来下地区である。(図表 6-38)

避難しなかった理由では、「移動できなかった」が他の理由よりも多い地区は、田上地区、「自宅にいるのが安全だと思った」が他の理由よりも多い地区は、鮎帰地区、深水地区、西部地区、中谷地区、鶴喰地区、百済来上地区、百済来下地区である。(図表 6-39)

図表 6-38 地区別の避難の有無



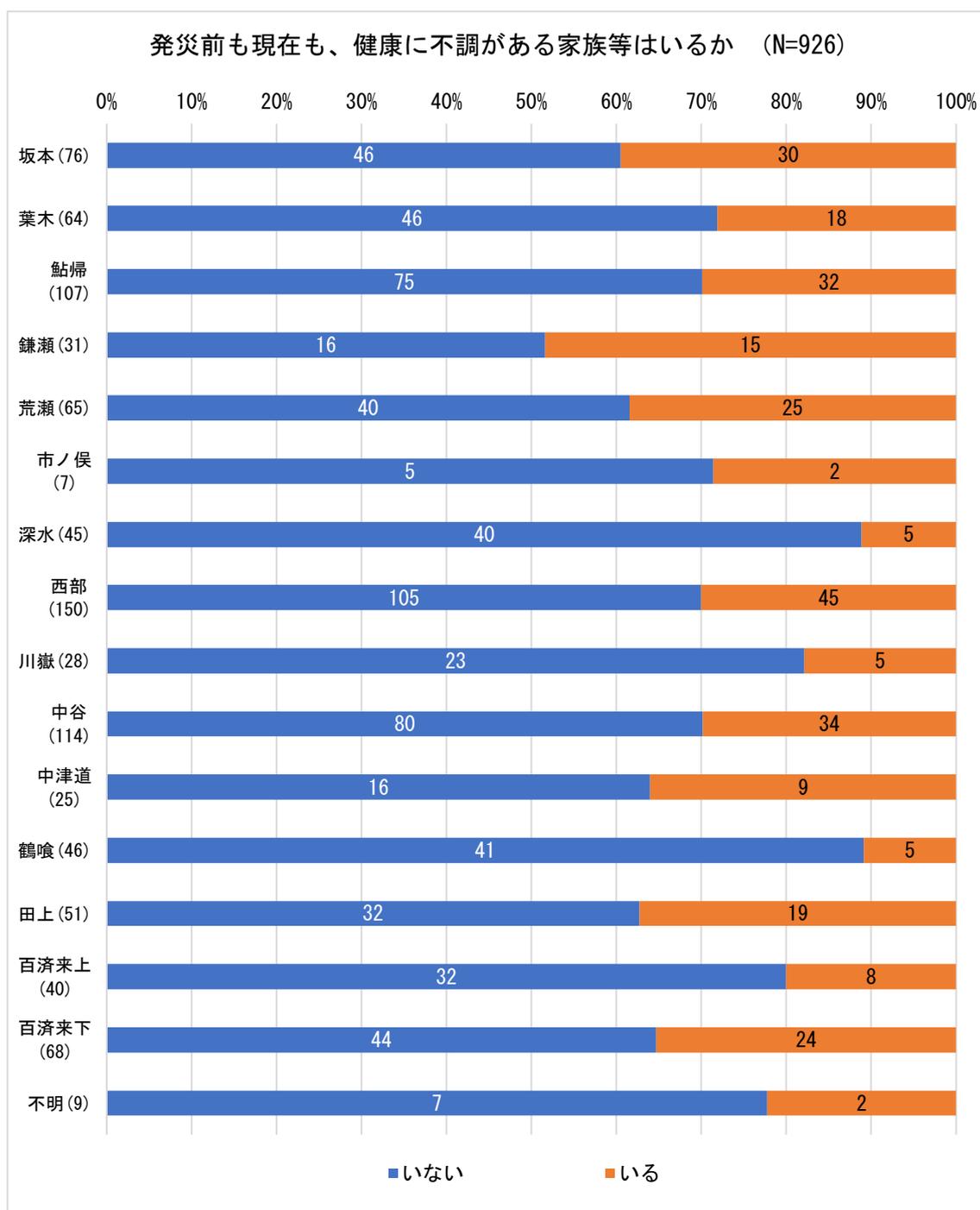
図表 6-39 地区別の避難しなかった理由



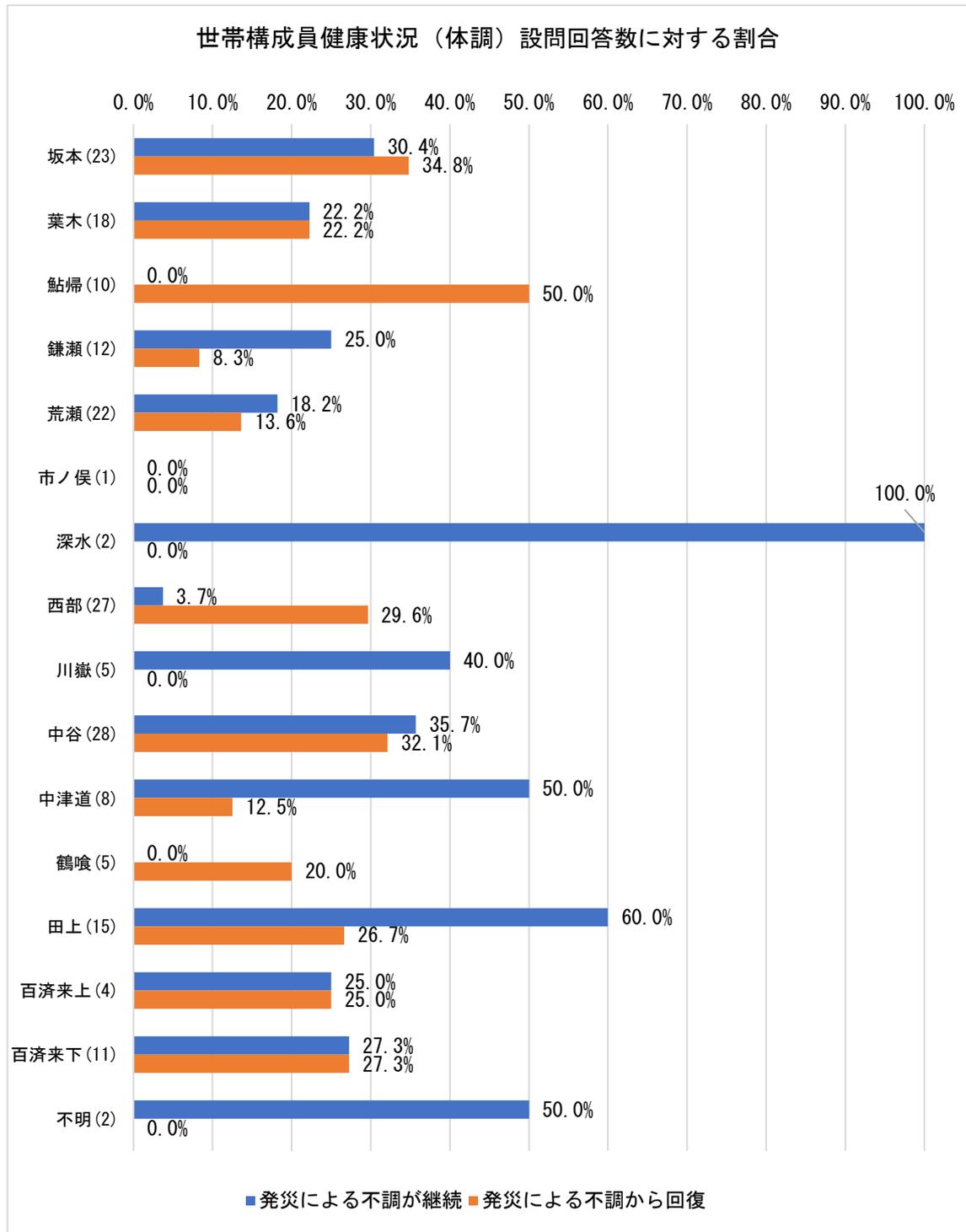
③健康状態

「発災による体調の不調が継続している」の回答がなかった地区は、鮎俣地区、市ノ俣地区、鶴喰地区で、それ以外の地区は体調の不調継続の回答があり、メンタル面では、不調継続の回答がなかったのは、市ノ俣地区、深水地区、鶴喰地区で、それ以外の地区ではメンタル面での不調継続の回答がある。(図表 6-41、図表 6-42)

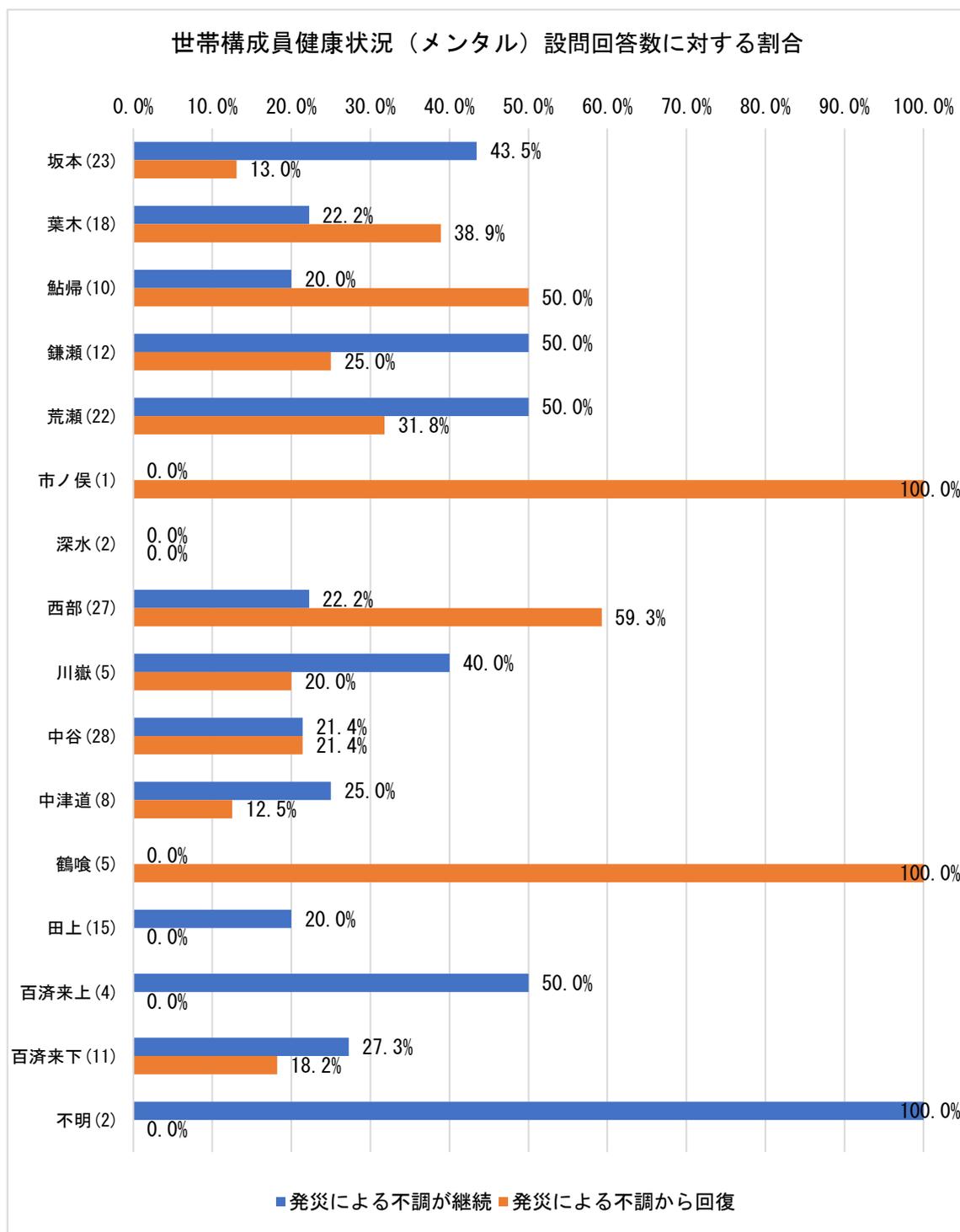
図表 6-40 地区別の発災前後の世帯健康状態



図表 6-41 世帯構成員の健康状況（体調）の地区別割合



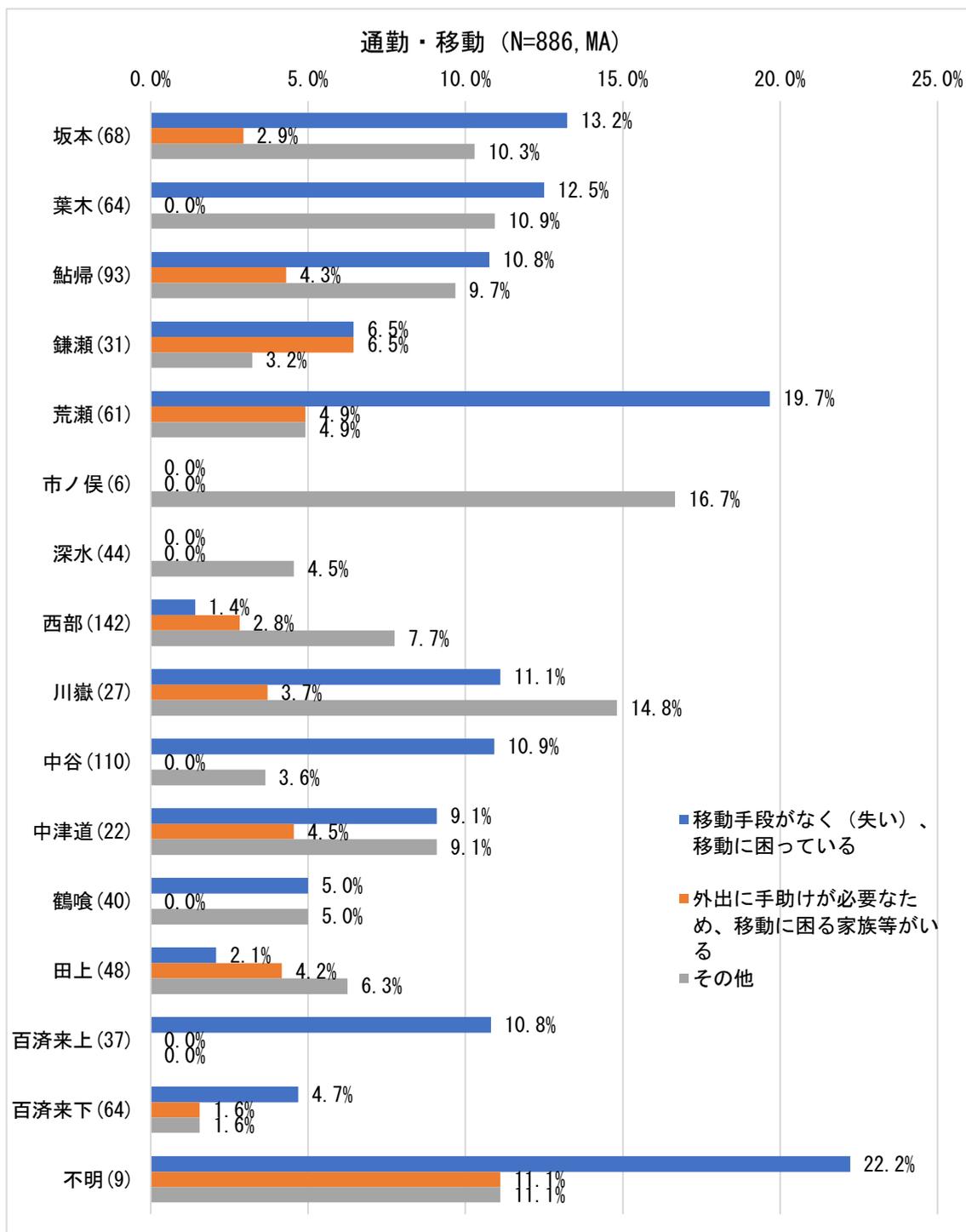
図表 6-42 世帯構成員の健康状況（メンタル）の地区別割合



④生活状況

通勤や移動について「特に問題はない」と回答した世帯を除いた、地区別に通勤や移動状況は、坂本地区、鮎帰地区、荒瀬地区、中谷地区で、「移動手段がなく移動に困っている」回答が多くみられる。西部地区ではその他の回答が多い。(図表 6-43)

図表 6-43 地区別の通勤・移動の困難状況様子

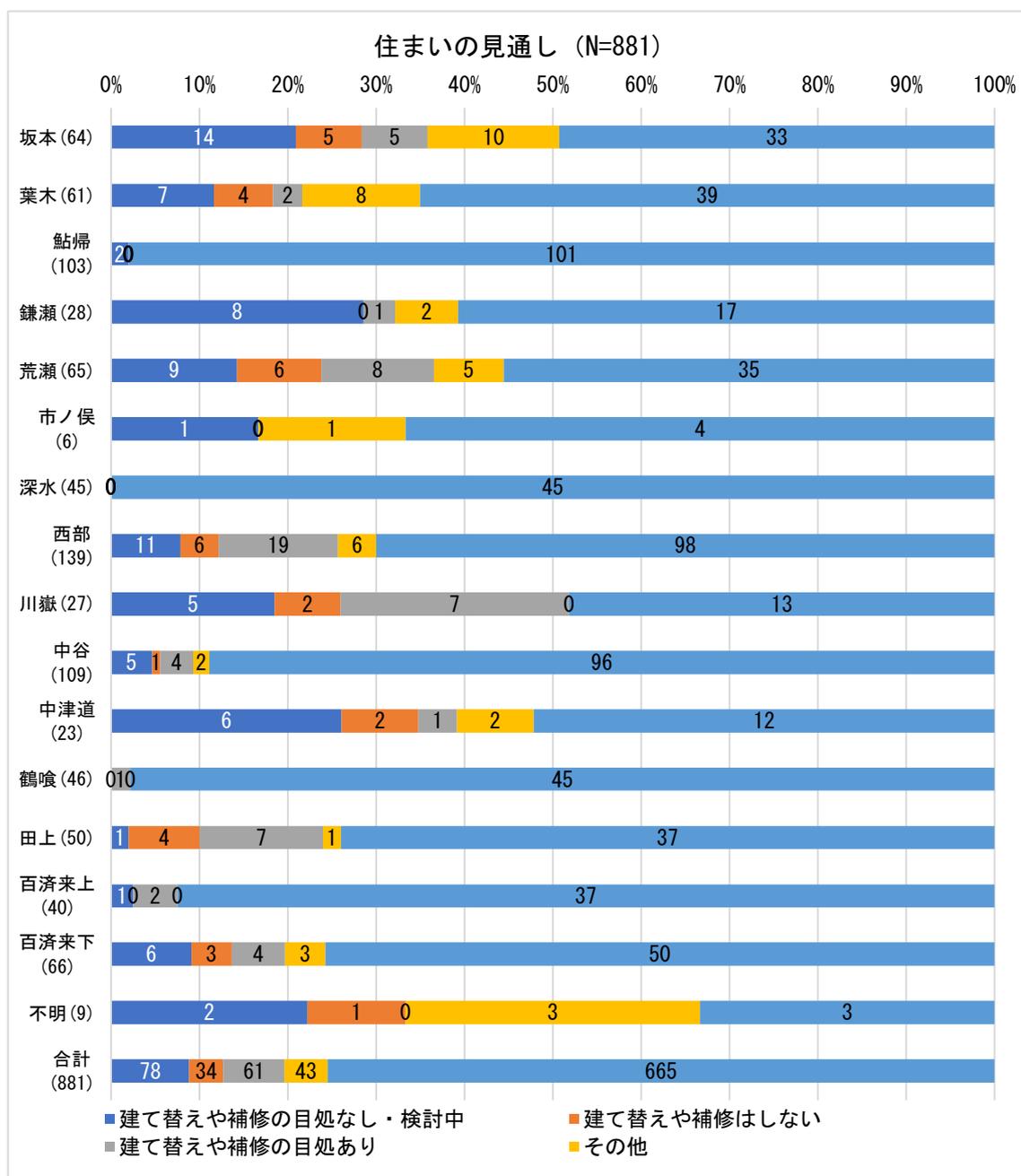


⑤今後の見通し

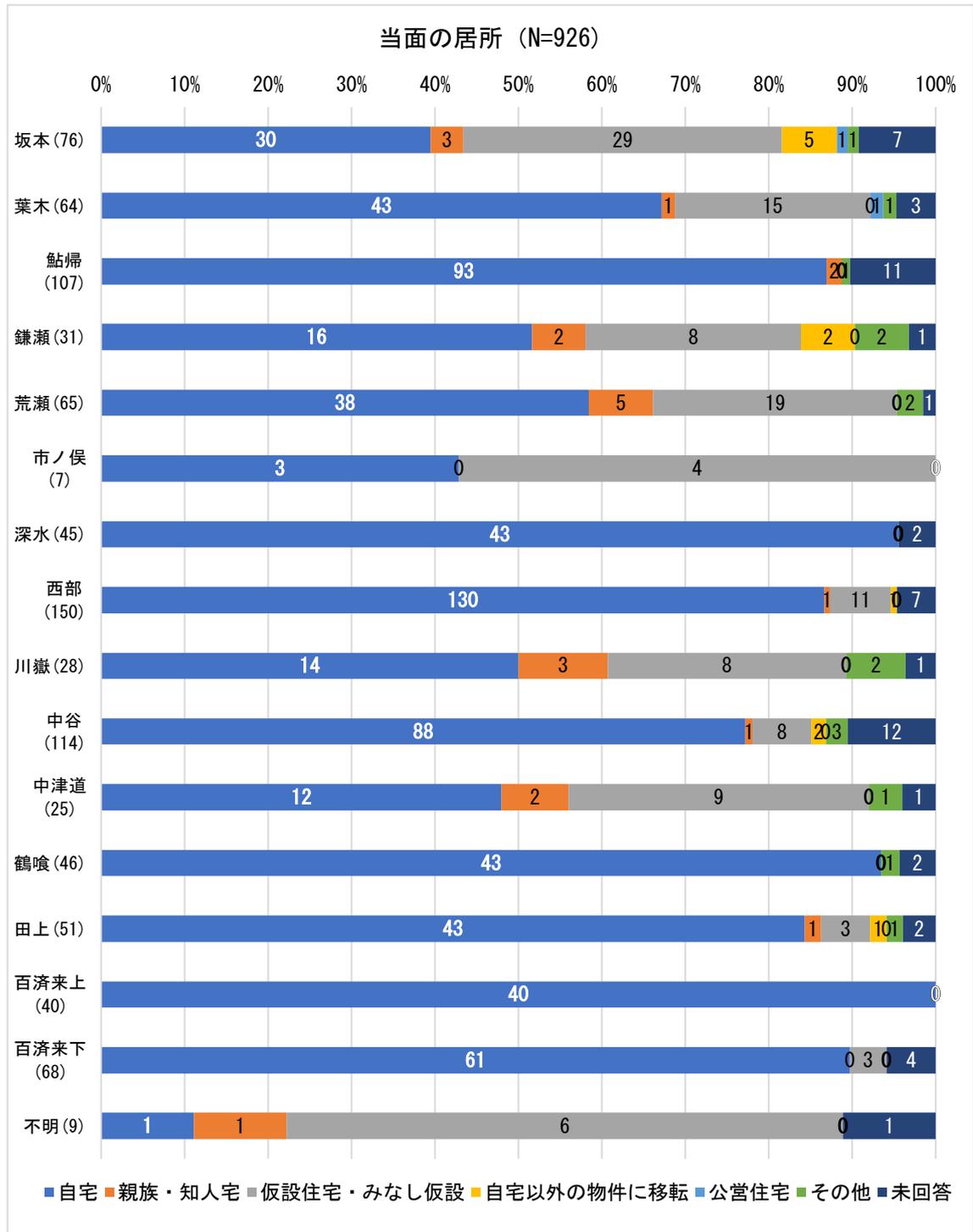
「未回答」を除く 881 件について、地区別の今後の見通しを集計した。「建て替えや補修の目処なし・検討中」は、坂本地区 14 件が最も多く、西部地区 11 件、荒瀬地区 9 件、鎌瀬地区 8 件、葉木地区 7 件と続く。(図表 6-44)

坂本地区、市ノ俣地区、川嶽地区、中津道地区は、「自宅」の回答が 50%以下であり、回答世帯の半数以上の当面の居所は、自宅以外である。回答世帯のうち「自宅」と回答している地区は、鮎婦地区、深水地区、西部地区、鶴喰地区、田上地区、百済来上地区、百済来下地区である。(図表 6-45)

図表 6-44 地区別の住まいの見通し「変わりなし」以外の地区別の件数と割合



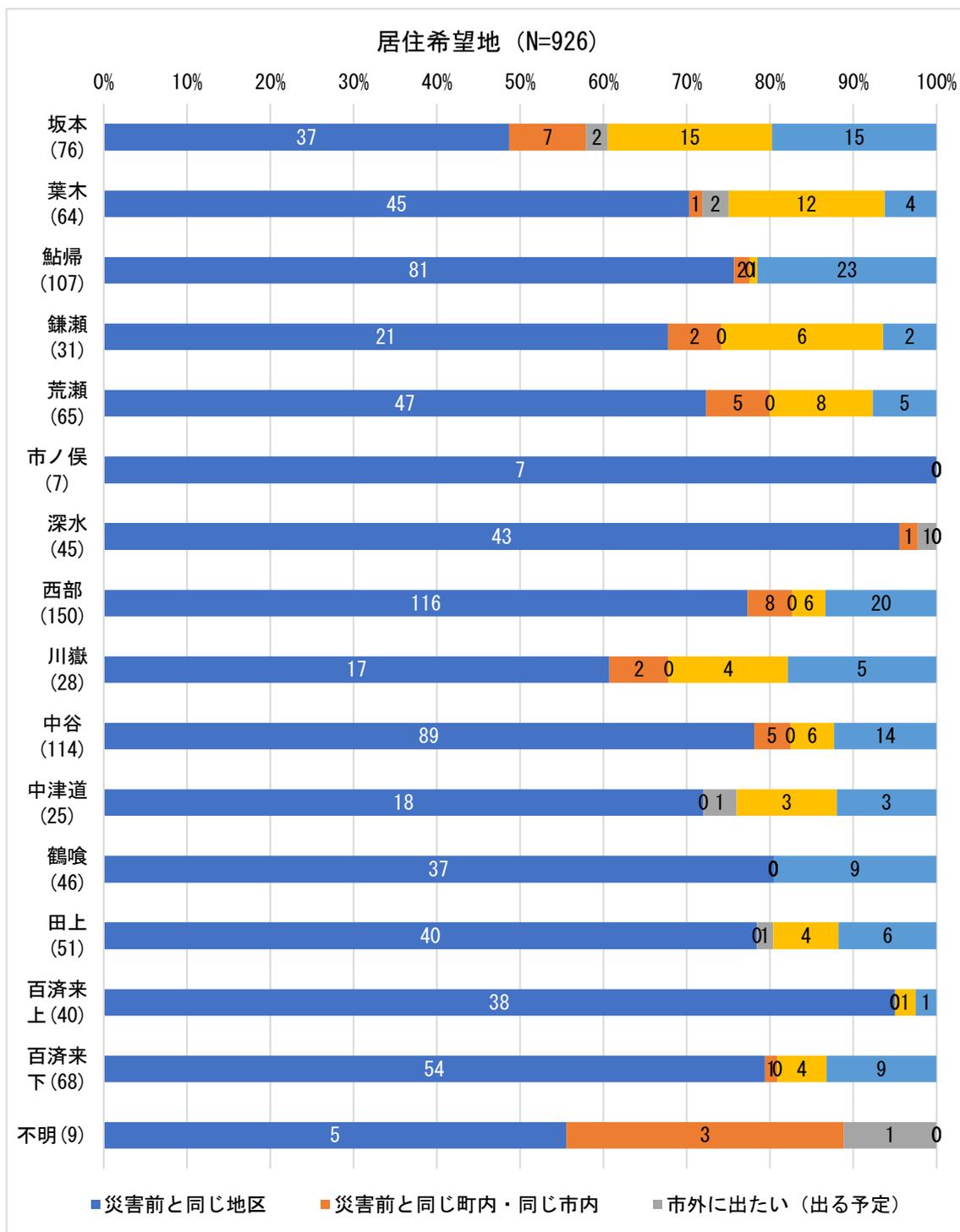
図表 6-45 当面の居所の地区別の件数と割合



⑥居住希望地

地区別の居住希望地は、坂本地区で「災害前と同じ地区」の回答率が最も低く、次いで川嶽地区、鎌瀬地区、葉木地区、中津道地区、荒瀬地区と続く。これらの地区では「判らない」の回答が、他の地区よりも多い傾向が見られる。(図表 6-46)

図表 6-46 居住希望地の地区別の件数と割合



(2) 高齢者世帯

回答のあった629世帯のうち、65歳以上の高齢者がいる世帯は317世帯であり、そのうち高齢者のみの世帯は167世帯である。高齢者のみの世帯は、それ以外の世帯よりも生活再建により多くの支援が必要となる傾向があることから、高齢者のみの世帯について、クロス集計を行う。(図表6-47-①、図表6-47-②)

図表6-47-① 高齢者のみ世帯数

世帯の状況	回答数
高齢者のみ世帯	386
それ以外の世帯	540
うち高齢者がいる世帯	386
合計	926

図表6-47-② 地区別の高齢者のみ世帯状況

地区名	坂本	葉木	鮎婦	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣
高齢者のみ世帯数	29	38	55	11	22	4
回答世帯数	76	64	107	31	65	7
回答に占める高齢者のみ世帯数割合	38.2%	59.4%	51.4%	35.5%	33.8%	57.1%

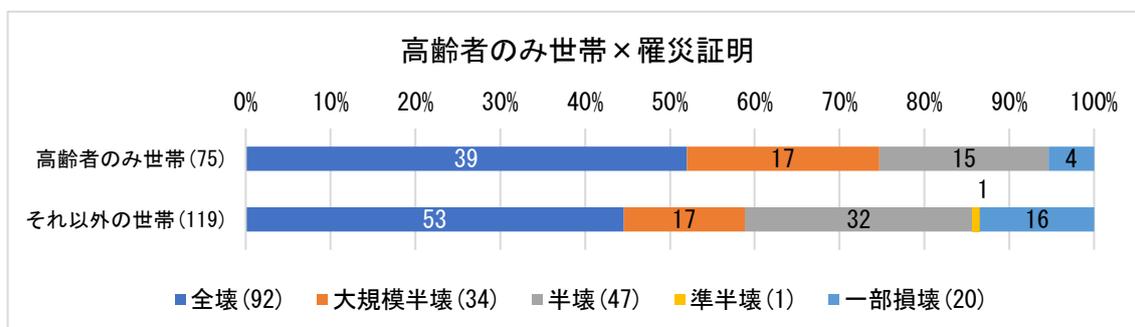
地区名	深水	西部	川嶽	中谷	中津道	鶴喰
高齢者のみ世帯数	31	61	9	39	7	18
回答世帯数	45	150	28	114	25	46
回答に占める高齢者のみ世帯数割合	68.9%	40.7%	32.1%	34.2%	28.0%	39.1%

地区名	田上	百済来上	百済来下	不明	合計
高齢者のみ世帯数	20	11	30	1	159
回答世帯数	51	40	68	9	926
回答に占める高齢者のみ世帯数割合	39.2%	27.5%	44.1%	11.1%	17.2%

① 罹災証明の内容

高齢者のみ世帯の方が、それ以外の世帯よりも住宅の被害を受けている割合が高い傾向がみられる。(図表6-48)

図表6-48 高齢者のみ世帯とそれ以外の世帯の罹災証明内容の比較

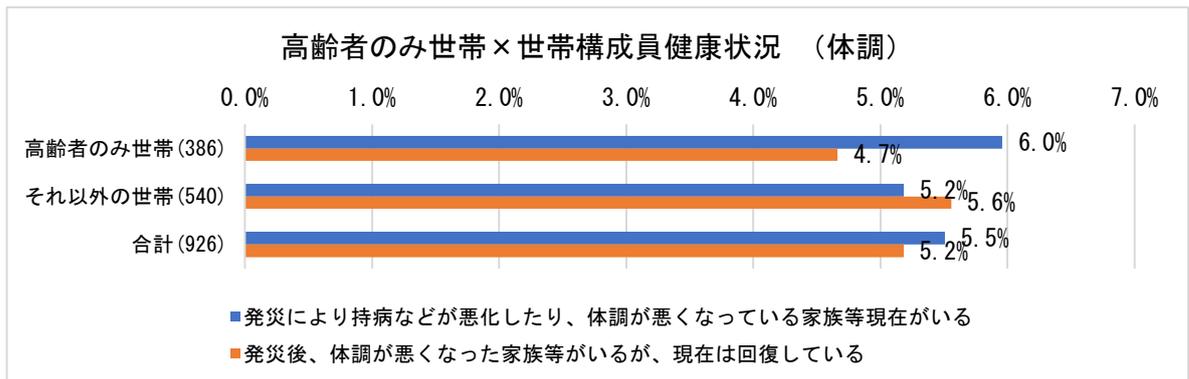


②健康状況

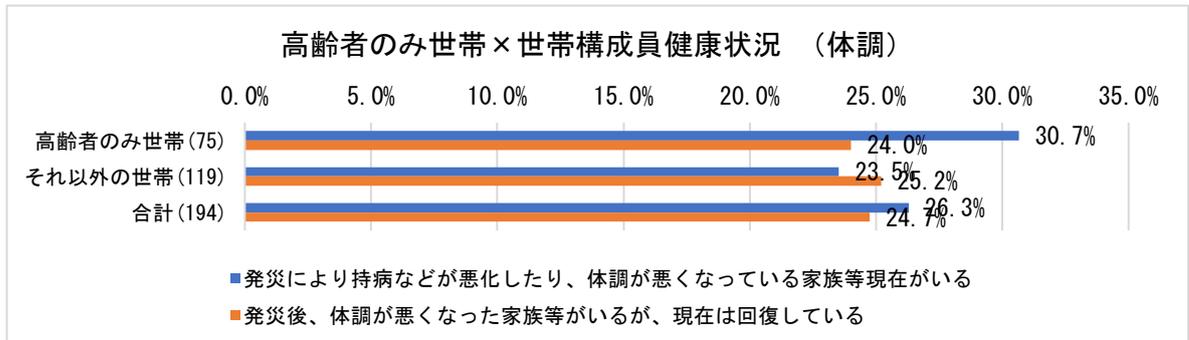
高齢者のみ世帯は、発災による体調不調の継続する割合が高い傾向があり、罹災証明を取得している世帯を抽出した場合、「発災による体調不調が継続している」と回答した割合は、高齢者のみの世帯では30.7%、それ以外の世帯では23.5%である。

罹災証明を取得している世帯を抽出した場合のメンタル面での不調継続は、高齢者のみ世帯よりも、それ以外の世帯の方が「不調が継続している」と回答した割合が高い。(図表6-49-①、図表6-49-②、図表6-50)

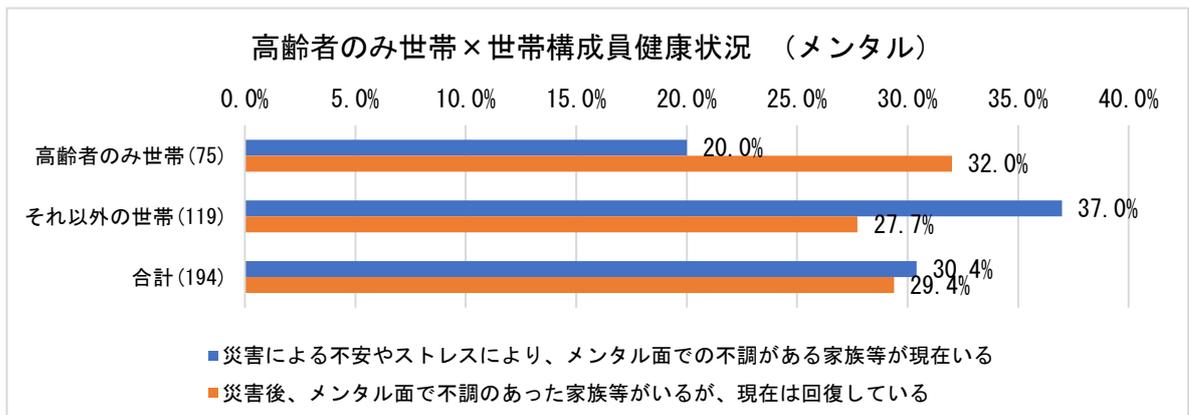
図表 6-49-① 高齢者のみ世帯と体調不調の継続状況



図表 6-49-② 罹災証明取得世帯の高齢者のみ世帯と体調不調の継続状況



図表 6-50 罹災証明取得世帯のメンタル面での不調の継続状況

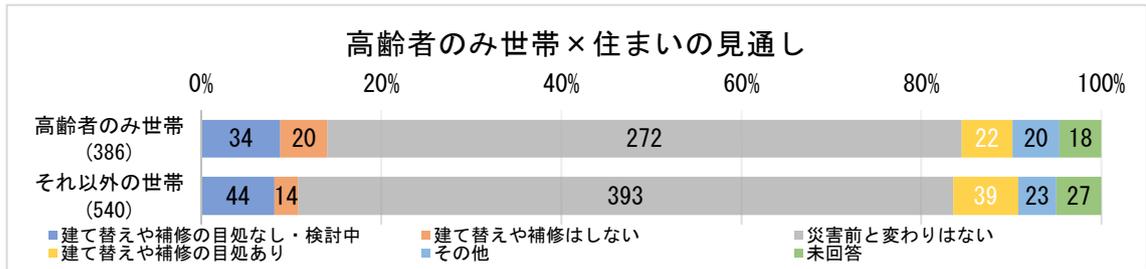


③今後の見通し

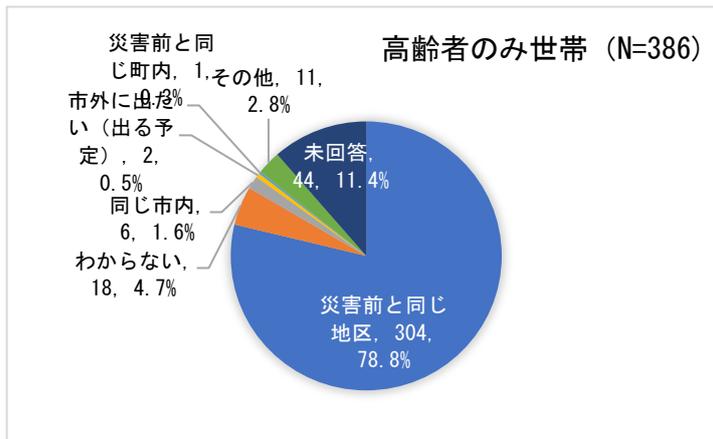
住まいの見通しでは、高齢者のみ世帯の34世帯、それ以外の世帯の44世帯が「建て替え補修の目処なし・検討中」と回答している。「補修はしない」と回答する割合は、それ以外の世帯の方が少ない。(図表 6-51)

居住希望地では、高齢者のみ世帯の78.8%、それ以外の世帯の72.4%が「災害前と同じ地区」と回答している。それ以外の世帯の方が「わからない」「市外に出る(予定)」の回答割合が高い。(図表 6-52、6-53)

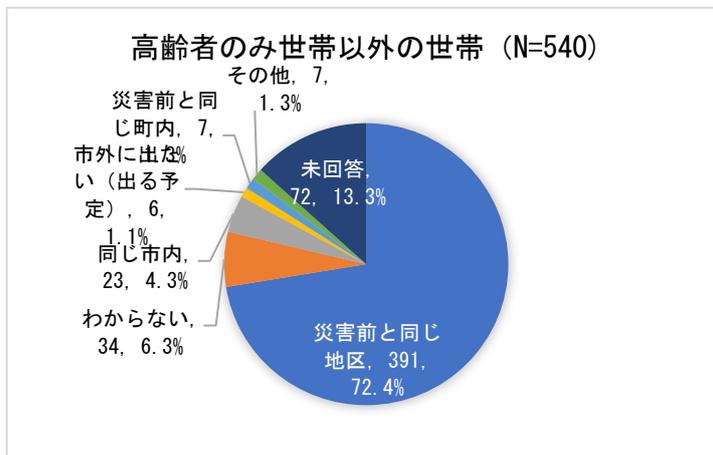
図表 6-51 高齢者のみ世帯と住まいの見通し



図表 6-52 高齢者のみ世帯の居住希望地



図表 6-53 高齢者のみ世帯以外の居住希望地



(3) 被害の大きい地区の状況

地区世帯数の25%以上が罹災証明を取得している7地区（坂本、葉木、鎌瀬、荒瀬、西部、川嶽、中津道）とそれ以外の地区について、集計を行った。

図表 6-54 地区世帯数に対する罹災証明取得世帯の割合

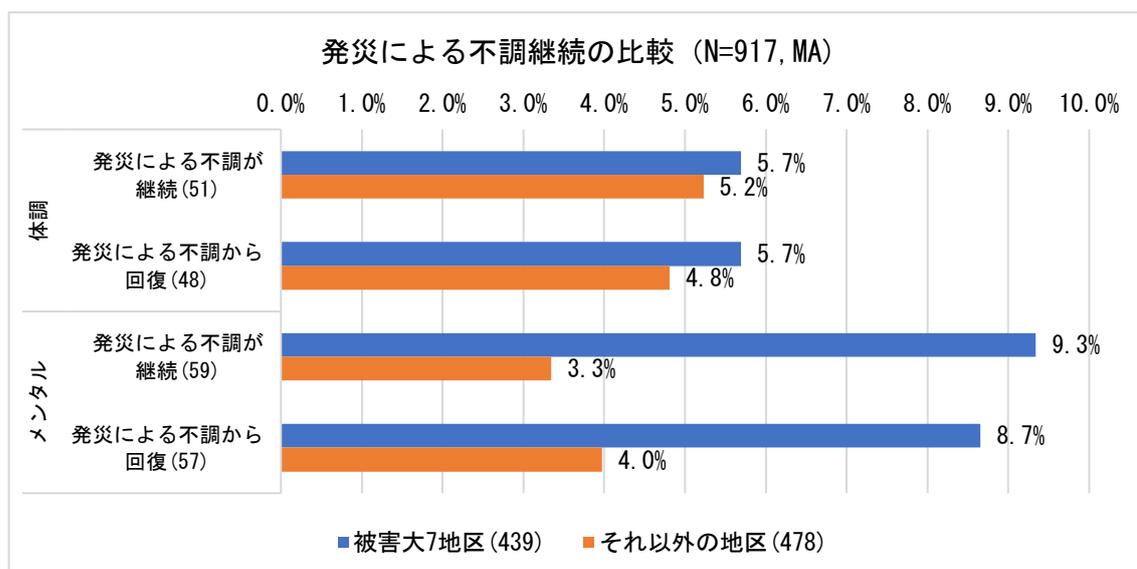
地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
地区世帯数	76	64	107	31	65	7	45	150	28
罹災証明取得件数	40	17	3	11	25	0	0	42	10
地区世帯数に対する割合	52.6%	26.6%	2.8%	35.5%	38.5%	0.0%	0.0%	28.0%	35.7%

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	合計
地区世帯数	114	25	46	51	40	68	9	573
罹災証明取得件数	12	11	0	8	2	7	6	194
地区世帯数に対する割合	10.5%	44.0%	0.0%	15.7%	5.0%	10.3%	66.7%	21.0%

① 健康状況

体調の不調継続については、被害の大きな7地区と地区不明を除くその他の地区の回答で大きな差はみられないが、メンタル面では被害の大きな7地区に「不調が継続」「不調から回復」の回答割合が高い。（図表 6-55）

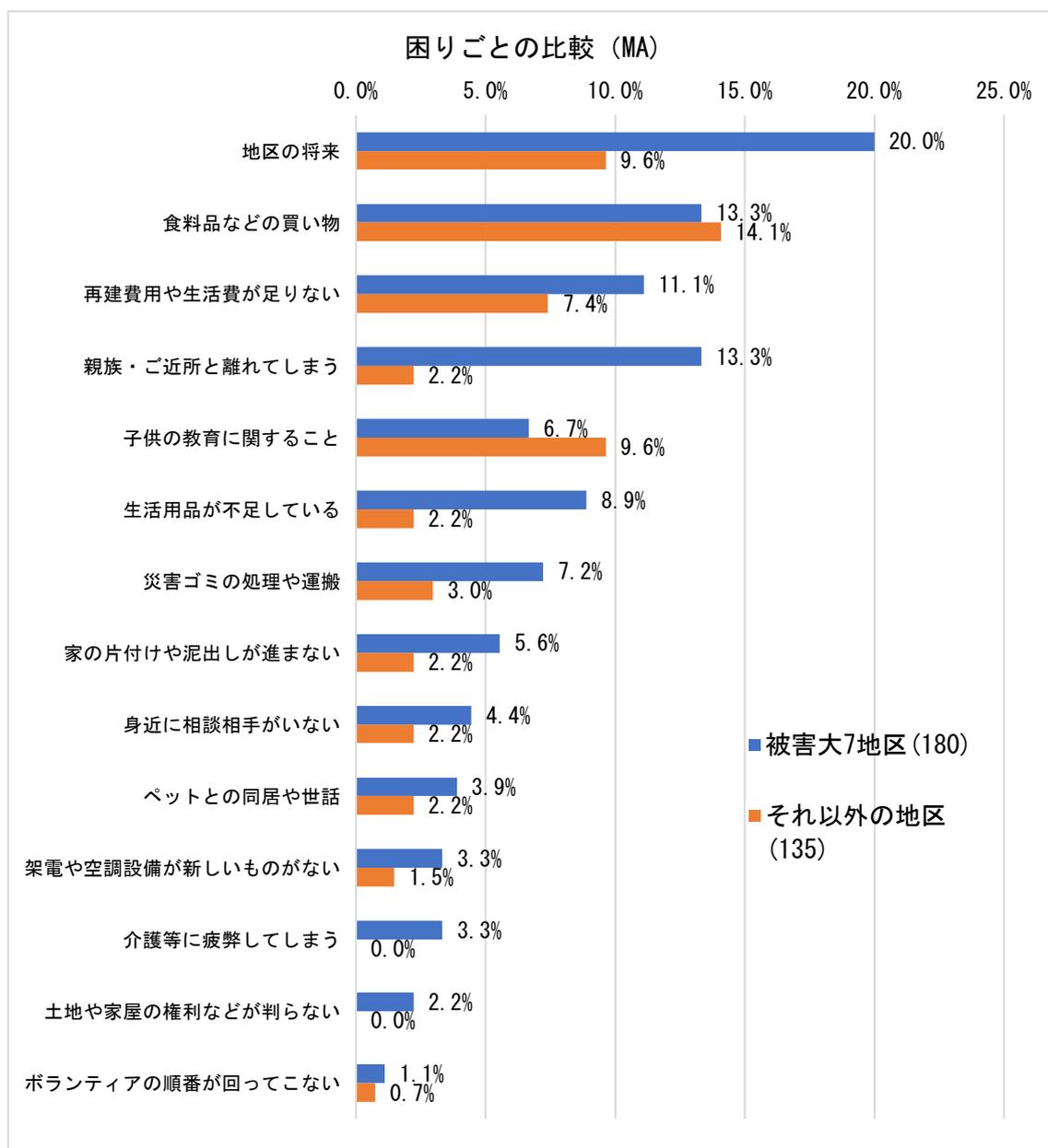
図表 6-55 被害の大きい地区とそれ以外の地区での発災による不調継続の比較



② 困りごと

困りごとについて回答のあった323件のうち地区不明8件を除いた315件については、被害の大きな7地区の方が困りごとの回答数が多く、「どれだけの人が戻れるかなど地区の将来」「親族・ご近所と離れてしまう」などコミュニティに関する項目、「再建費用や生活費が足りない」「生活用品が不足している」など災害による滅失に関する項目は、その他の地区よりも回答割合が高い。「食料品などの買い物」「子どもの教育に関すること」はその他の地区の方が回答割合が高い。(図表 6-56)

図表 6-56 被害の大きい地区とそれ以外の地区での困りごとの比較



(4) 健康への影響

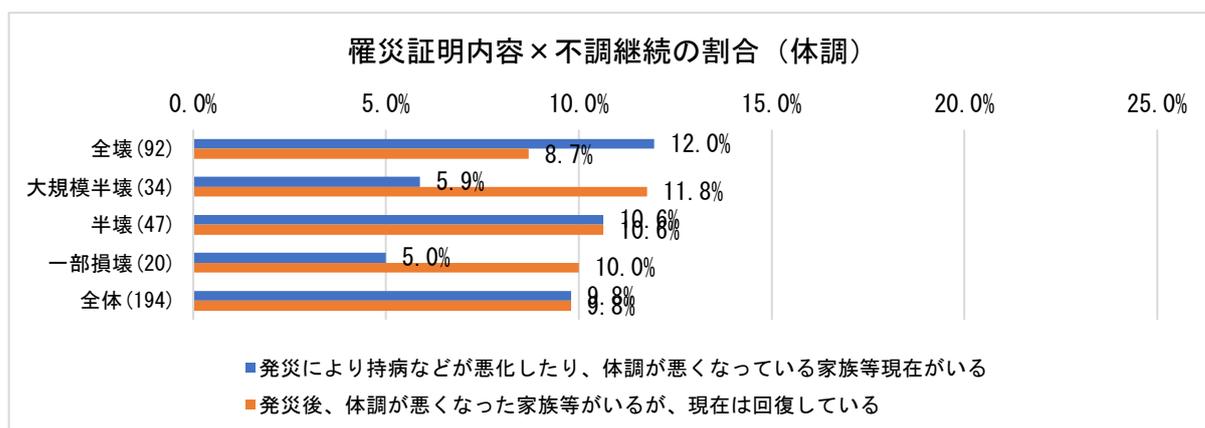
罹災証明を取得している 194 世帯について、罹災証明の内容毎の回答数に対する健康不調の回答割合の比較を行った。

体調の不調は、全壊世帯の 12.0%、大規模半壊世帯の 5.9%、半壊世帯の 10.6%が「不調が継続」と回答しており、メンタル面での不調は、全壊世帯の 23.9%、大規模半壊世帯の 11.0%、半壊世帯の 12.8%が「不調が継続」と回答している。(図表 6-57、図表 6-58、図表 6-59)

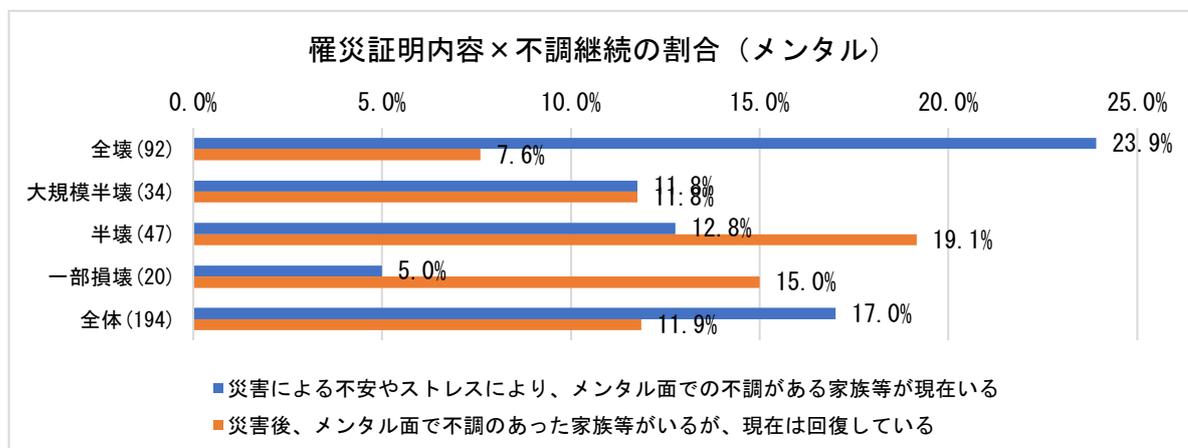
図表 6-57 罹災証明と健康（罹災証明取得世帯数：194 世帯）

	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
発災による体調の不調が継続	12.0%	5.9%	10.6%	5.0%
発災による体調の不調から回復	8.7%	11.8%	10.6%	10.0%
メンタル面での不調が継続	23.9%	11.8%	12.8%	5.0%
メンタル面での不調から回復	7.6%	11.8%	19.1%	15.0%

図表 6-58 罹災証明の内容と不調継続の割合（体調）



図表 6-59 罹災証明の内容と不調継続の割合（メンタル）



(5) 建設仮設・みなし仮設入居者

「当面の居所」について「建設仮設・みなし仮設」と回答した 123 世帯について、集計を行った。

①建設仮設・みなし仮設入居世帯の様子

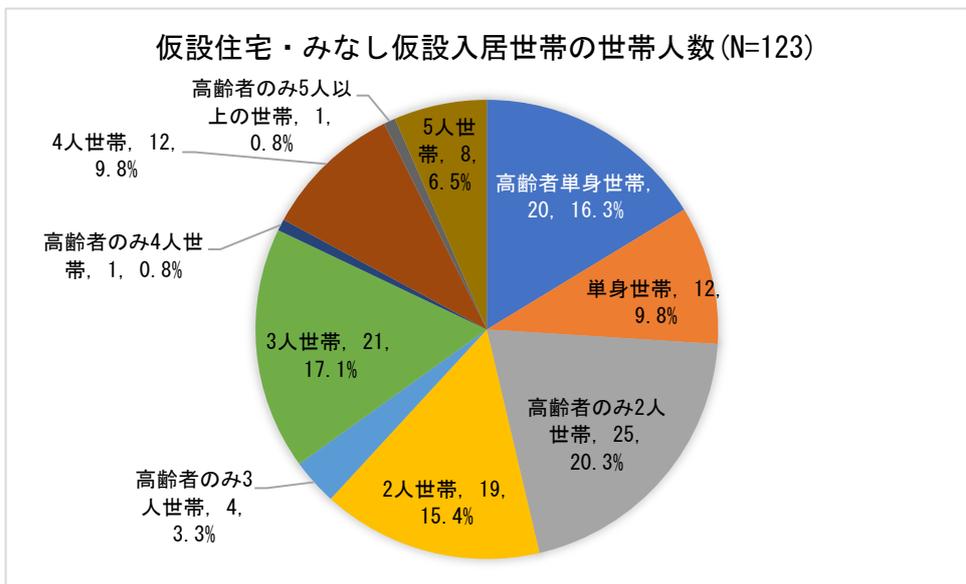
建設仮設・みなし仮設の入居世帯は、単身世帯 32 世帯（うち単身高齢者のみ世帯 20 世帯）、2人世帯 44 世帯（うち高齢者のみ世帯 25 世帯）、3人世帯 25 世帯（うち高齢者のみ世帯 4 世帯）、4人世帯 13 世帯（うち高齢者のみ世帯 1 世帯）、5人以上の世帯 9 世帯（うち高齢者のみ世帯 1 世帯）である。（聞き取り結果による集計）

高齢者のみの世帯は、全体の 41.5%である。（図表 6-65-①、図表 6-65-②）

図表 6-65-① 建設仮設・みなし仮設入居世帯の世帯人数

	高齢者のみ世帯	それ以外の世帯	合計
1人世帯	20	12	32
2人世帯	25	19	44
3人世帯	4	21	25
4人世帯	1	12	13
5人以上の世帯	1	8	9
合計	51	72	123

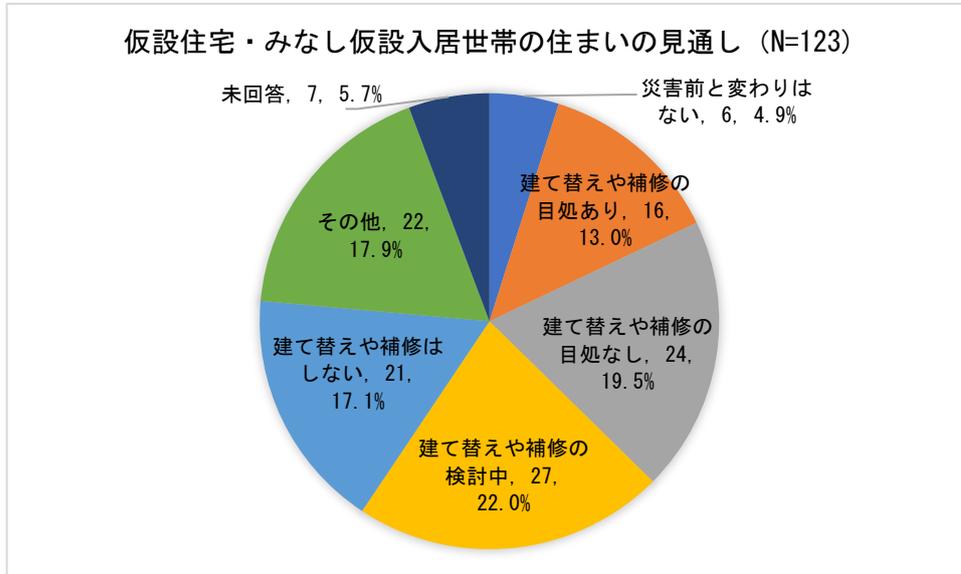
図表 6-65-② 建設仮設・みなし仮設入居世帯の世帯人数



②住まいの見通し

建設仮設・みなし仮設の入居世帯のうち 51 世帯（41.5%）が、「建て替えや補修の目処なし」「建て替えや補修の検討中」と回答している。

図表 6-66 仮設住宅・みなし仮設入居世帯の住まいの見通し



③主な生活費

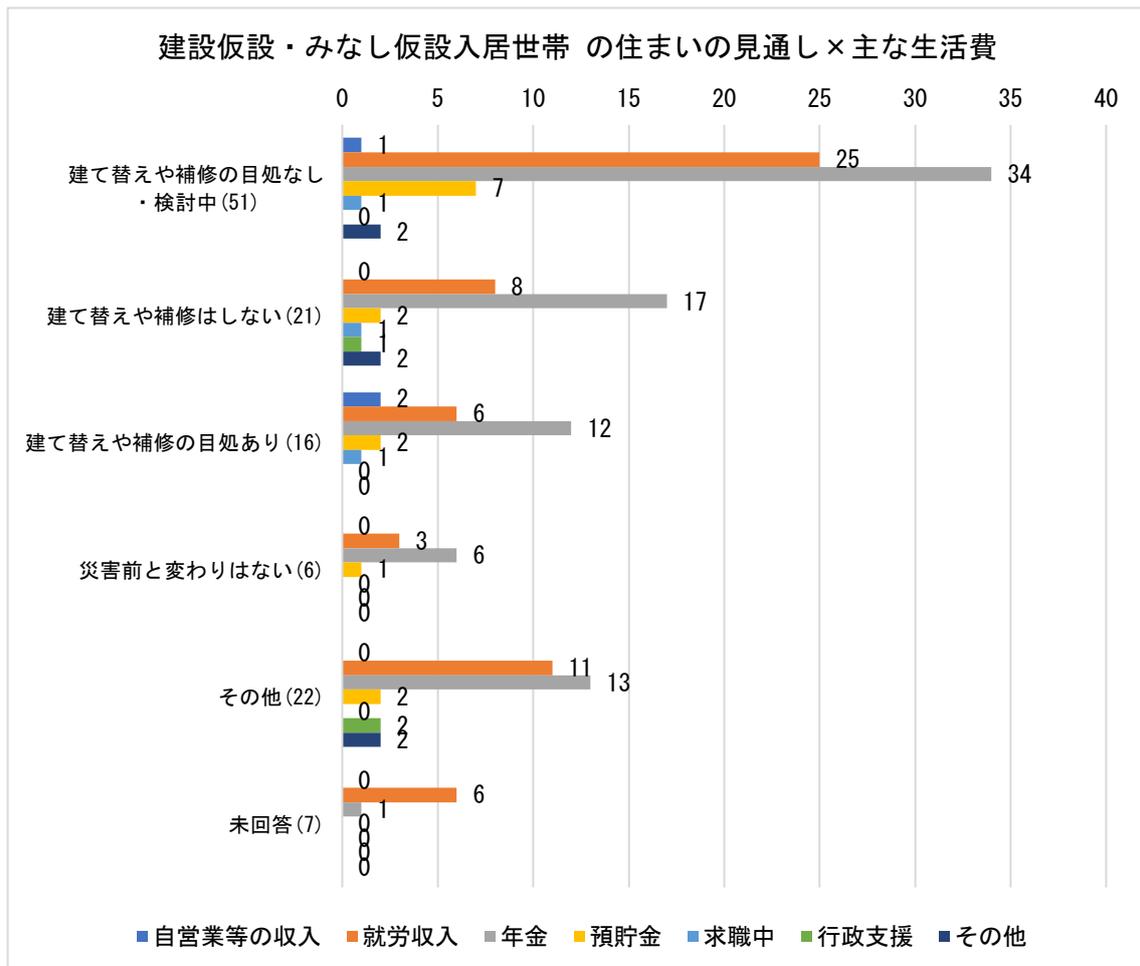
建設仮設・みなし仮設入居世帯の主な生活費は、「就労による収入」62件、「年金・預貯金」97件、「求職中・行政支援等」6件、「その他」6件である。

「建て替えや補修の目処がない」世帯は、「就労収入」12件、「年金・預貯金」19件、「建て替えや補修の検討中」世帯は、「就労収入」14件、「年金・預貯金」22件である。
(図表 6-67、図表 6-68)

図表 6-67 建設仮設・みなし仮設入居世帯の住まいの見通しと主な生活費 (MA)

	自営業等の収入	就労収入	年金	預貯金	求職中	行政支援	その他
建て替えや補修の目処なし・検討中(51)	1	25	34	7	1	0	2
建て替えや補修はしない(21)	0	8	17	2	1	1	2
建て替えや補修の目処あり(16)	2	6	12	2	1	0	0
災害前と変わりはない(6)	0	3	6	1	0	0	0
その他(22)	0	11	13	2	0	2	2
未回答(7)	0	6	1	0	0	0	0
合計(123)	3	59	83	14	3	3	6

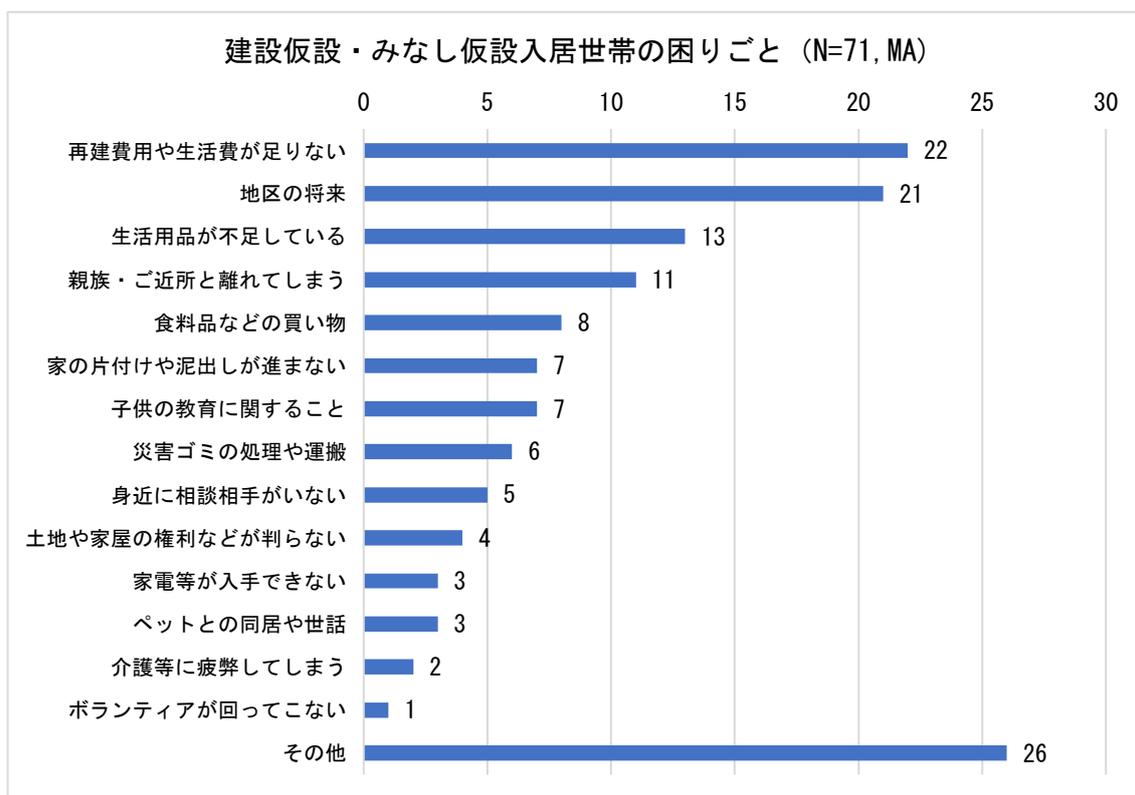
図表 6-68 建設仮設・みなし仮設入居世帯の住まいの見通しと主な生活費



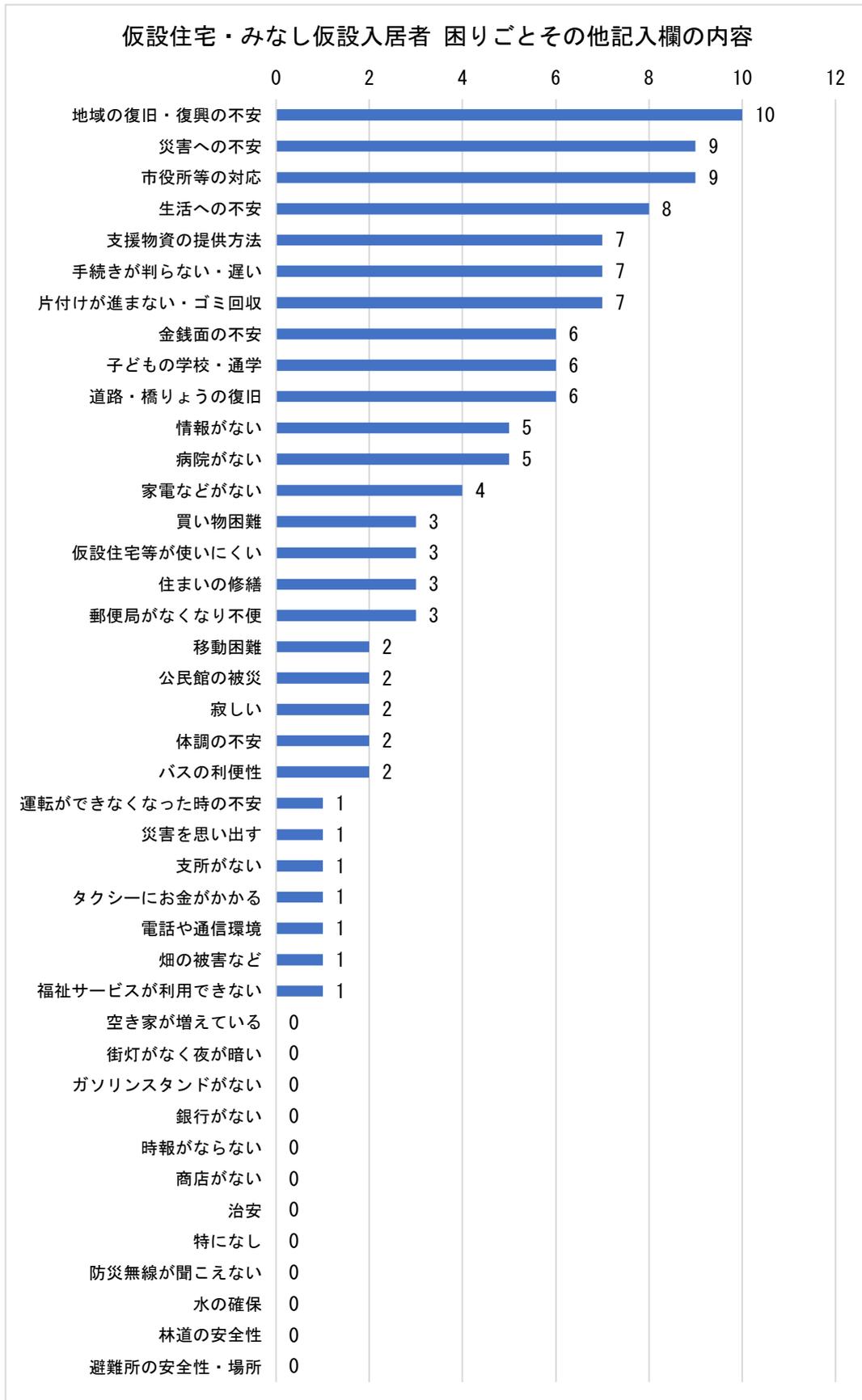
③ 困りごとその他 (94 件)

建設仮設・みなし仮設入居世帯の「困りごと」は、「再建費用や生活費が足りない」が 22 件で最も多く、「どれだけの人が戻れるかなど地区の将来」21 件、「生活用品が不足している」13 件、「親族・ご近所と離れてしまう」11 件と続く。(図表 6-69、比較：図表 6-32) 「困りごとその他」(記入欄)は 94 件の回答があり、「地域の復旧・復興の不安」「災害への不安」「市役所等の対応」「生活への不安」「支援物資の提供方法」「手続きが判らない・遅い」などの意見が寄せられている。(図表 6-70、比較：図表 6-33)

図表 6-69 建設仮設・みなし仮設入居世帯の困りごと



図表 6-70 建設仮設・みなし仮設入居世帯の困りごと（その他記入欄）の内容



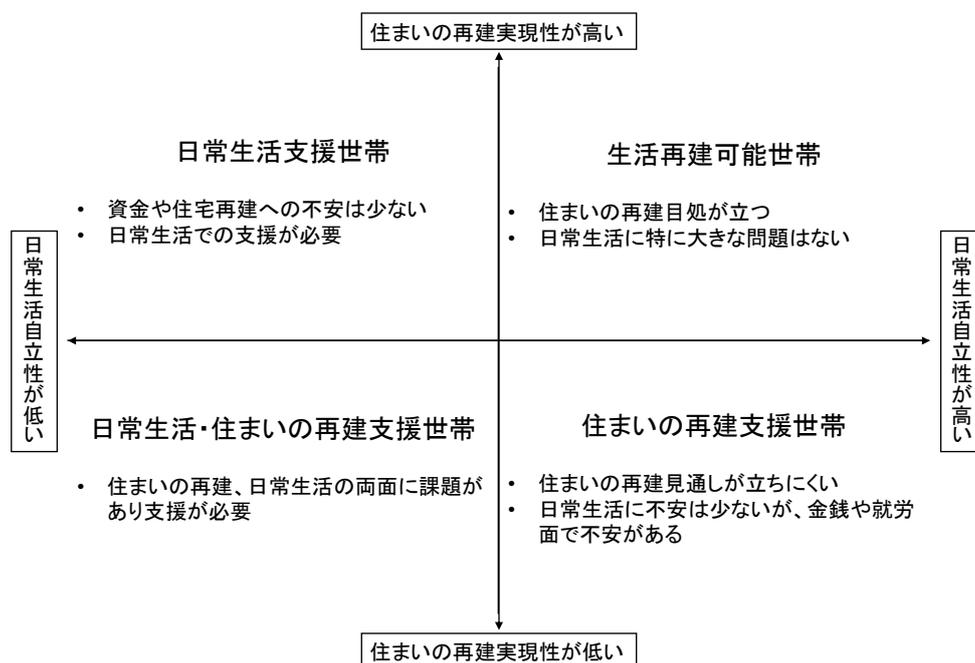
第7章 災害ケースマネジメントに基づく分析

災害ケースマネジメントは、住家被害判定に基づく被災者支援の根拠となる現在の災害救助法や被災者生活再建支援法が、平時の社会保障制度や福祉サービスと連動していないことで解決につながりにくい「被災による生活状況の変化に伴う支援を要する世帯」にも、行政やNPO等の連携により各種支援策を組み合わせ世帯ごとのニーズに対応する手法として、東日本大震災以降に取り入れられた生活再建期の被災者支援の考え方である。

災害ケースマネジメントに基づく分析とは、①個々の被災世帯の状態について指標を用いて把握することと、②生活再建期に必要な被災地域全体の支援の総量を把握することで、被災世帯への「災害ケースマネジメント」実施の情報資源とすることである。

本調査では、災害ケースマネジメントに基づく分析として、「日常生活自立性」「住まいの再建実現性」との2つの評価軸により、被災世帯を「生活再建可能世帯」「住まいの再建支援世帯」「日常生活支援世帯」「日常生活・住まいの再建支援世帯」の4象限に分類した。(図表 7-1)

図表 7-1 住まいの再建実現性と日常生活自立性の2軸による分類図



7-1 災害ケースマネジメントに基づく評価方法

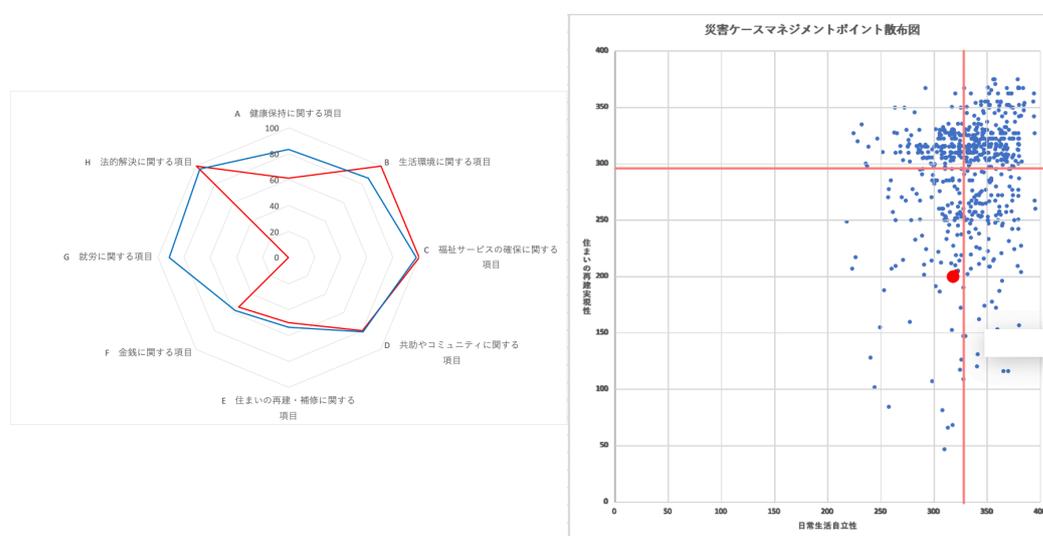
災害ケースマネジメントに基づく評価は、図表 7-2 に示す「日常生活自立性」「住まいの再建実現性」に関連のある A～G の評価の群を設定し、調査票の関連する項目への回答内容から各群 100 点満点で評価を行った（世帯の状態評価）。次に、評価軸全体に係る事項について、特定の調査項目に回答がある場合の評価を行い、災害ケースマネジメントに基づく評価結果とした。各評価軸の分岐点は、暫定値として平均値を用いた。（図表 7-3）

A～H の評価の群には、それぞれ複数の評価項目を設定し、評価項目の状態と項目間の関係に応じて配点をし、合計点を評価の群の点数としている。（図表 7-4-①、図表 7-4-②）

図表 7-2 評価軸と評価方法の構成

評価軸	災害ケースマネジメントに基づく評価			
	世帯の状態評価		全体に係る評価	評価点
	評価の群	配点		
日常生活自立性	A 健康保持に関する項目	100	見守りの必要性が高い 回復力が脆弱	400
	B 生活環境に関する項目	100		
	C 福祉サービスの確保に関する項目	100		
	D 共助やコミュニティに関する項目	100		
住まいの再建実現性	E 住まいの再建・補修に関する項目	100	在宅避難世帯 住まいの見通し	400
	F 金銭に関する項目	100		
	G 就労に関する項目	100		
	H 法的解決に関する項目	100		

図表 7-3 災害ケースマネジメントに基づいた評価結果



図表 7-4-① 評価の群と項目

群	項目	状態
A 健康・生命保持に関する項目	A-1：医療機器	在宅酸素、人口呼吸器など日常的に特別な機器類の日常的な使用の有無 ① 使用なし ② 使用あり
	A-2：医療的ケア	透析、点滴、ストーマなどの医療的ケアの利用の有無 ① 利用なし ② 利用あり
	A-3：要配慮食	塩分、糖分の摂取制限、嚥下食等の摂取、入手ができるか、不安定さ ① 不要 ② 必要・入手可 ③ 必要・入手困難
	A-4：体調	発災後の体調の不調・変化の有無 ① 留意事項なし ② 不調から回復 ③ 不調が継続
	A-5：メンタル	発災後のこころの不調・変化の有無 ① 留意事項なし ② 不調から回復 ③ 不調が継続
	A-6：通院	必要な通院機会の確保状況 ① 留意事項なし ② 通院あり ③ 中断や回数減
	A-7：服薬	薬の入手や服薬の状況 ① 留意事項なし ② 服薬あり ③ 中断、入手困難
	A-8：食事	欠食の有無、食事のバランス等の状態 ① 留意事項なし ② 調理環境がない ③ 弁当やパンのみ ④ 欠食、著しい食欲減
	A-9：生活サイクル	生活サイクルへの影響の有無 ① 留意事項なし ② 移動に手助けが必要 ③ 買い物に行けない
B 生活環境に関する項目	B-1：高齢者世帯等	災害時に日常生活の行動制限大きい世帯 ① 要配慮・要支援者なし ② 高齢者のみ世帯（二人以上世帯） ③ 高齢単身世帯 ④ 介護認定やサービス利用等ありの単身世帯
	B-2：介護サービス	介護サービスの利用減による生活への影響の有無 ① 元々利用なし ② 利用に変化なし ③ 利用が減少
	B-3：障害福祉サービス	障害福祉サービスの利用減による生活への影響の有無 ① 元々利用なし ② 利用に変化なし ③ 利用が減少
	B-4：保育	保育等の利用減による生活への影響の有無 ① 元々利用なし ② 利用に変化なし ③ 利用が減少
	B-5：災害時要支援者	乳幼児や妊産婦、外国人等の災害時要支援者の有無 ① 災害時要支援者はいない ② 外国人 ③ 高齢者 ④ 乳幼児・妊産婦
	B-6：特別な配慮	日常生活での特別な配慮の有無 ① 留意事項なし ② 医療機器 ③ 医療ケア
	B-7：電化製品	白物家電や冷暖房など生活に必要な電化製品の有無 ① 被害なし ② 電化製品に被害あり ③ 電化製品を入手できていない
	B-8：移動	交通インフラや移動手段の損失による移動困難の有無 ① 移動に困っていない ② 移動に困っている ③ 移動に手助けが必要
	B-9：買い物	寝具、衣類、調理器具等の日用品や食料品等の入手の支障の有無 ① 留意事項なし ② 生活費が足りない（購入力が小さい） ③ 食料品などの買い物に困っている/生活用品が不足している
	B-10：ペット	ペットの困りごとの有無 ① 留意事項なし ② ペットとの同居や世話出困っている
C 福祉サービスの確保に関する項目	C-1：介護サービス	災害による介護サービスの状況 ① 元々利用なし ② 利用に変化なし ③ 利用が減少
	C-2：障害福祉サービス	災害による障害福祉サービスの状況 ① 元々利用なし ② 利用に変化なし ③ 利用が減少
	C-3：介護者	世帯内の介護者の負担増の有無 ① 留意事項なし ② 災害により負担が大きくなっている

図表 7-4-② 評価の群と項目

群	項目		状態
D 共助やコミュニティに関する項目	D-1：世帯構成	日常生活でのコミュニティへの依存、コミュニティ被災の影響が大きい世帯	① 留意事項なし ② 高齢者のみ世帯 ③ 高齢者単身世帯 ④ 介護認定やサービス利用等ありの単身世帯
	D-2：各種手続き	平時には発生しない対応の困難度	① 留意事項なし ② 時間や申請に行く手段がない ③ 手続きがわからない ④ 該当するかわからない
	D-3：情報(複数あり)	情報の増加、入手手段が少ない事による情報難民化	① ネットやスマホなど自分で入手できる ② 防災無線、ラジオ、テレビ ③ 手段がない
	D-4：相談相手	孤立に繋がる影響	① 留意事項なし・いる ② ご近所と離れてしまう ③ いない
	D-5：コミュニティ	元の居住地からのコミュニティ分断の発生	① 留意事項なし ② 仮設住宅・みなし仮設 ③ 親族・知人宅 ④ 公営住宅 ⑤ 自宅以外の物件 ⑥ 市外に出たい
E 住まいの再建・補修に関する項目	E-1：罹災証明	被害の程度(現在～将来への生活に影響)	① なし ② 一部損壊 ③ 半壊 ④ 大規模半壊 ⑤ 全壊
	E-2：再建・補修の目処	自宅再建の目処の有無	① 災害前と変わりなし ② 建替・補修の目処が立っている ③ 建替・補修の検討中 ④ 建替・補修の目処が立っていない ⑤ 建替・補修はしない
	E-3：不可能理由	支援が必要な困難理由	① なし ② 判断がつかない ③ 考えられない ④ 費用の工面が難しい
	E-4：当面の居所	一時的な住まいではない住まいかどうか	① 被災していない自宅 ② 公営住宅 ③ 自宅以外の物件 ④ 親族・知人宅 ⑤ 被害がある自宅(在宅避難) ⑥ 仮設住宅・みなし仮設
F 金銭に関する項目	F-1：生活費	労働対価としての収入、それ以外の収入、収入がない等、収入の種別	① 就労収入あり ② 年金 ③ 預貯金 ④ 自営業で生活費の不安あり ⑤ 生活保護 ⑥ 休職中(収入無し)
	F-2：再建費用	再建費用の有無・不安	① 留意事項なし(被害なし相当) ② 被害は少なく、災害前と変わりはない ③ 建替・補修の目処が立っている ④ 目処が立たない・検討中理由(費用の工面が難しい) ⑤ 建替・補修しない理由(費用が工面できない)
	F-3：住宅ローン	二重ローンの可能性の有無	① ローンなし ② ローンがあり、家屋に被害がある ③ ローンがあり、再建の目処が立たない
G 就労に関する項目	G-1：就業状況・自営業	就労収入を得るための支援の必要性の有無	① 留意事項なし ② 自営業で再建費用や生活費が足りない(被害あり) ③ 求職中・休業中・廃業(収入なし)
H 法的解決に関する項目	H-1：権利・土地・相続	権利に関する専門的支援の必要性の有無	① 留意事項なし ② 土地や権利のことが判らない
	H-2：住宅ローン	金銭等に関する専門的支援の必要性の有無	① 留意事項なし ② ローンがあり、再建費用や生活費が足りない
OT 全体に係る不安定さ(重み付け)	OT-1:見守りの必要性が高い	調査員チェック有	
	OT-1:回復力の脆弱さ	高齢単身世帯、高齢者のみ世帯	
	OT-2:在宅避難世帯	半壊以上の被害のある自宅生活	
	OT-2:住まいの見通し	住まいの見通しが立っていない、検討中	

7-2 災害ケースマネジメントに基づく評価結果

調査を完了した人吉市 629 世帯、八代市 926 世帯について災害ケースマネジメントに基づく評価を行った。X軸、Y軸の分岐点は、暫定値として図表 7-5 に示す平均値を用いている。評価の各群の平均値は、図表 7-6 に示すとおりである。

図表 7-5 災害ケースマネジメントに基づく評価の平均値

	日常生活自立性	住まいの再建実現性
人吉市平均	333.1	291.0
八代市平均	343.0	337.9

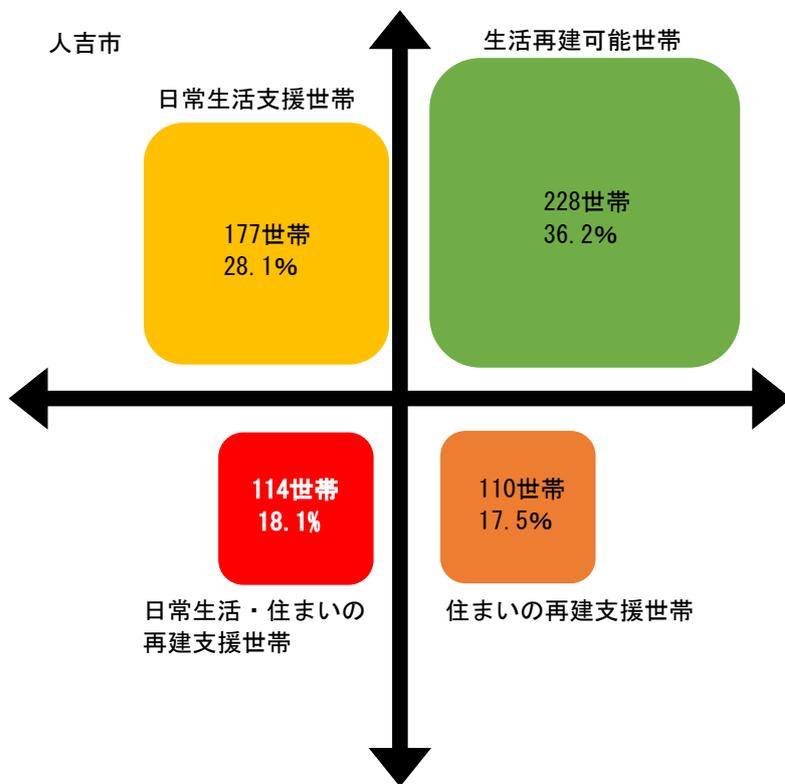
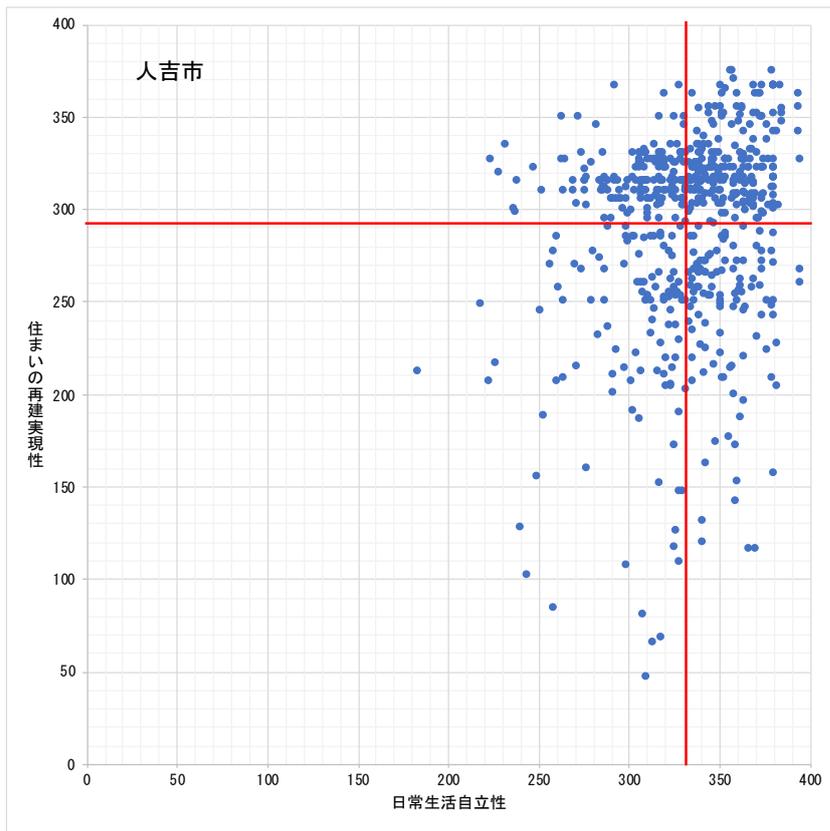
図表 7-6 評価の群の平均値

	A 健康保持に関する項目	B 生活環境に関する項目	C 福祉サービスの確保に関する項目	D 共助やコミュニティに関する項目	E 住まいの再建・補修に関する項目	F 金銭に関する項目	G 就労に関する項目	H 法的解決に関する項目
人吉市平均	83.4	86.5	98.0	81.0	53.9	57.9	91.5	96.4
八代市平均	85.9	87.8	98.1	79.1	82.9	60.0	99.2	99.6

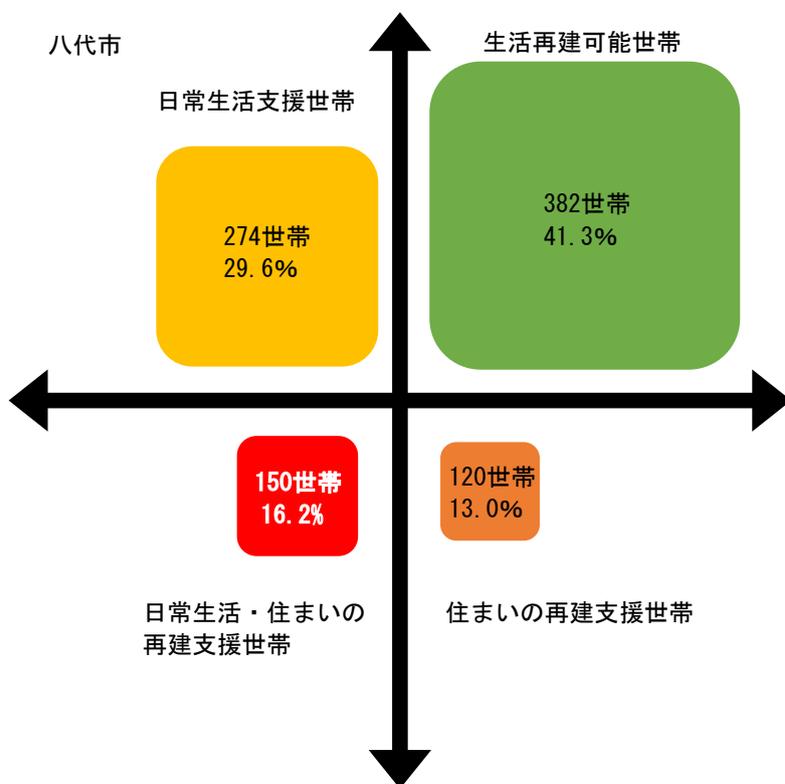
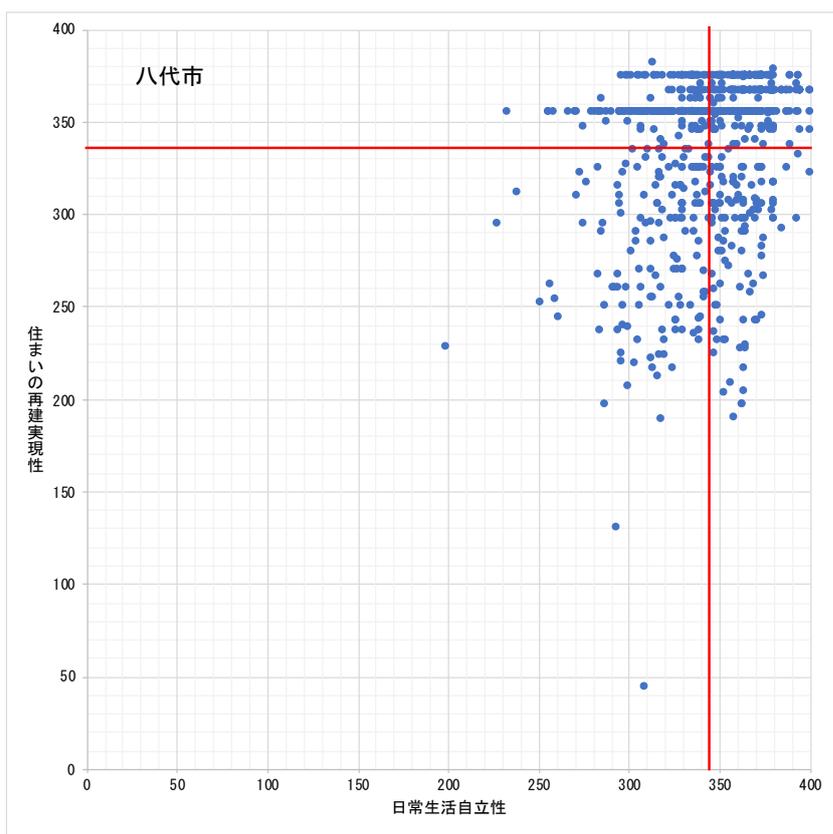
図表 7-7 災害ケースマネジメントに基づく世帯分類

	生活再建可能世帯	住まいの再建支援世帯	日常生活支援世帯	日常生活・住まいの再建支援世帯	合計
人吉市	228 世帯	110 世帯	177 世帯	114 世帯	629 世帯
	36.2%	17.5%	28.1%	18.1%	100%
八代市	382 世帯	120 世帯	274 世帯	150 世帯	926 世帯
	41.3%	13.0%	29.6%	16.2%	100%

図表 7-8 災害ケースマネジメントに基づく被災世帯の評価結果（人吉市）



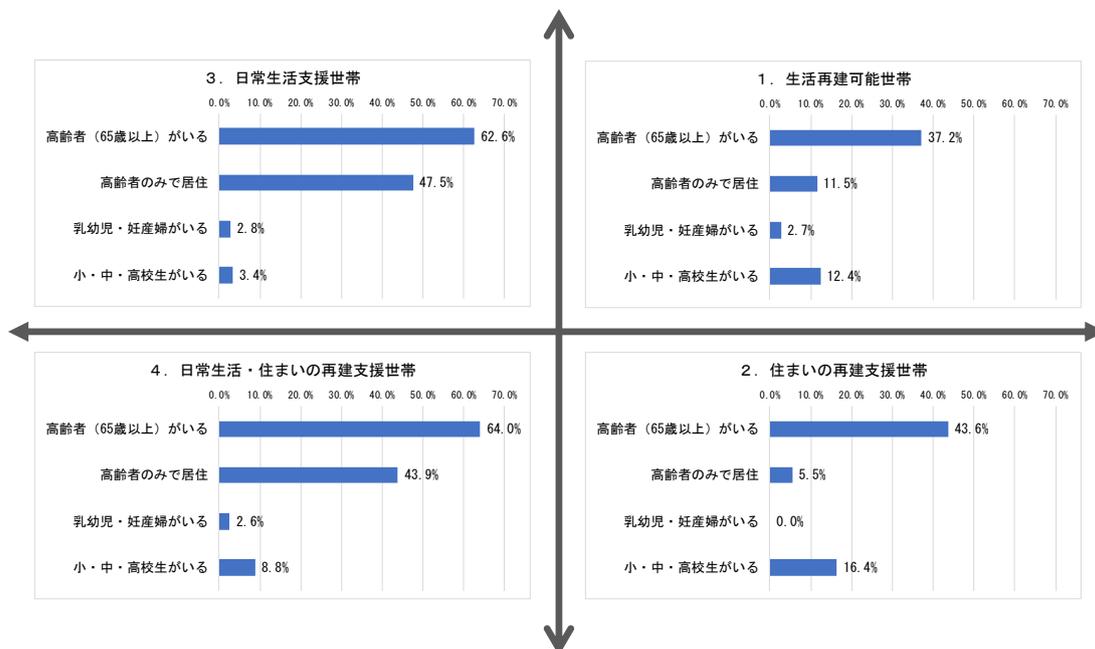
図表 7-8 災害ケースマネジメントに基づく被災世帯の評価結果（八代市）



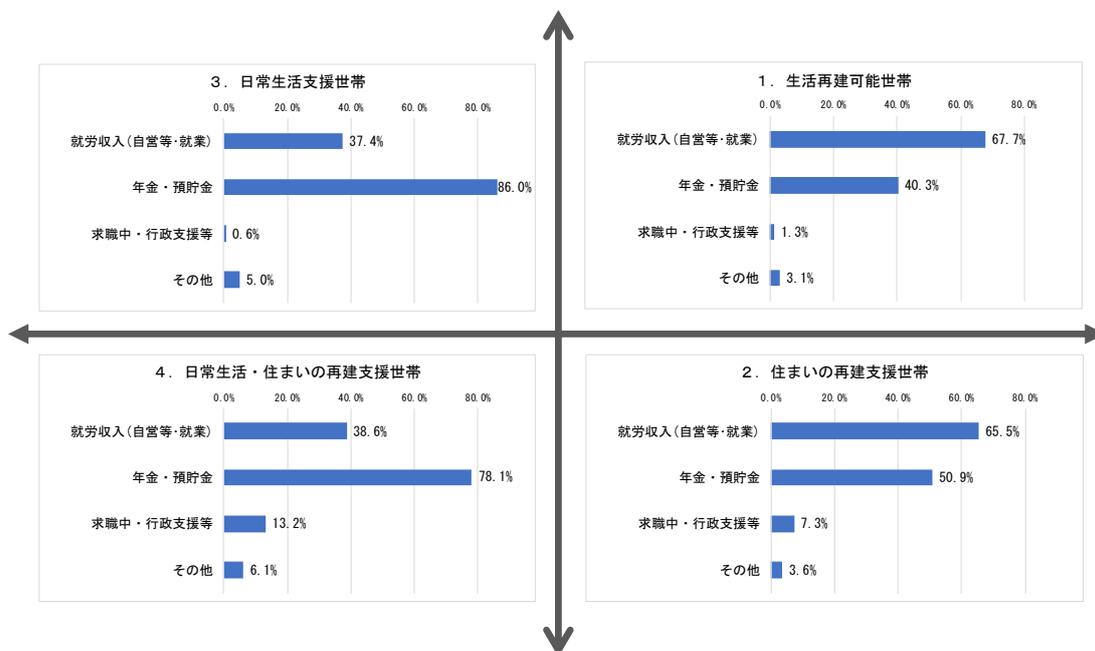
7-3 災害ケースマネジメントに基づく評価と世帯の様子

①世帯の構成員の様子 ②主な生活費 ③困りごと について、災害ケースマネジメント評価の4象限ごとに集計を行った。(人吉市：図表7-9～11、八代市：図表7-12～14)

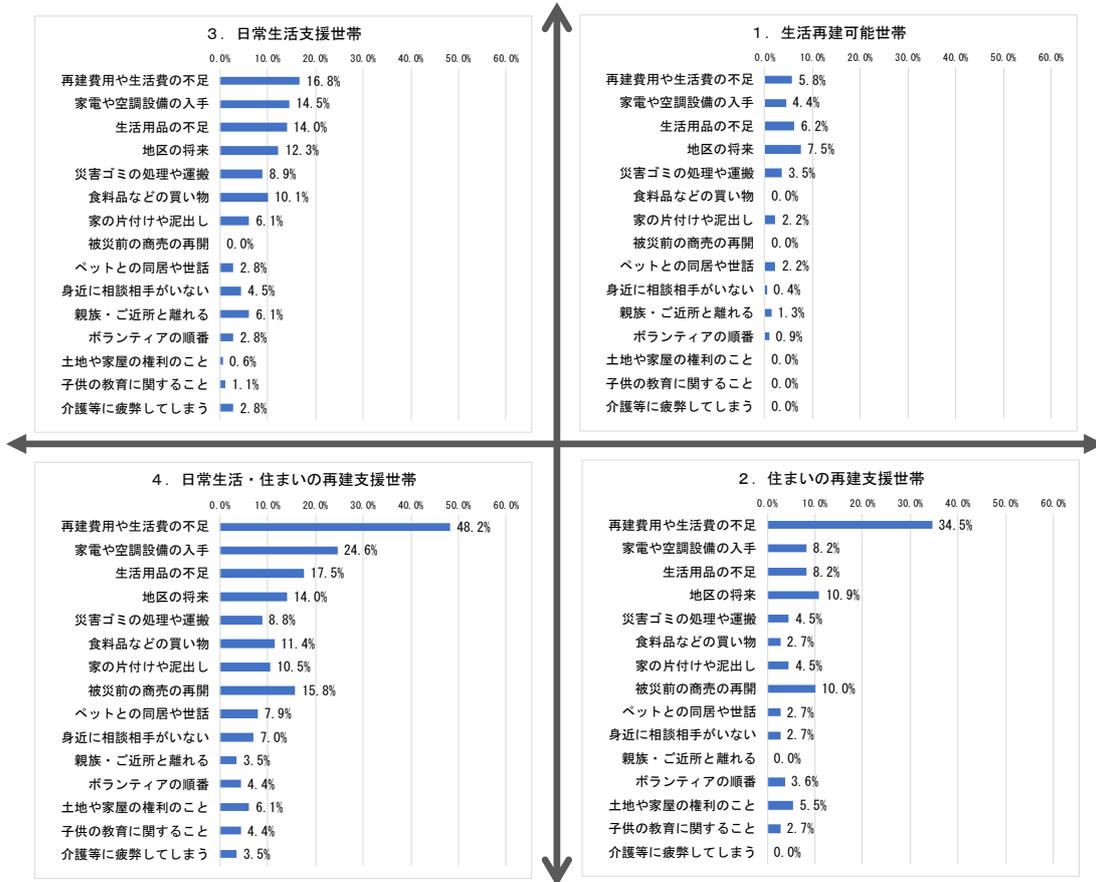
図表7-9 ①災害ケースマネジメント評価の4象限と世帯構成員の様子(人吉市)



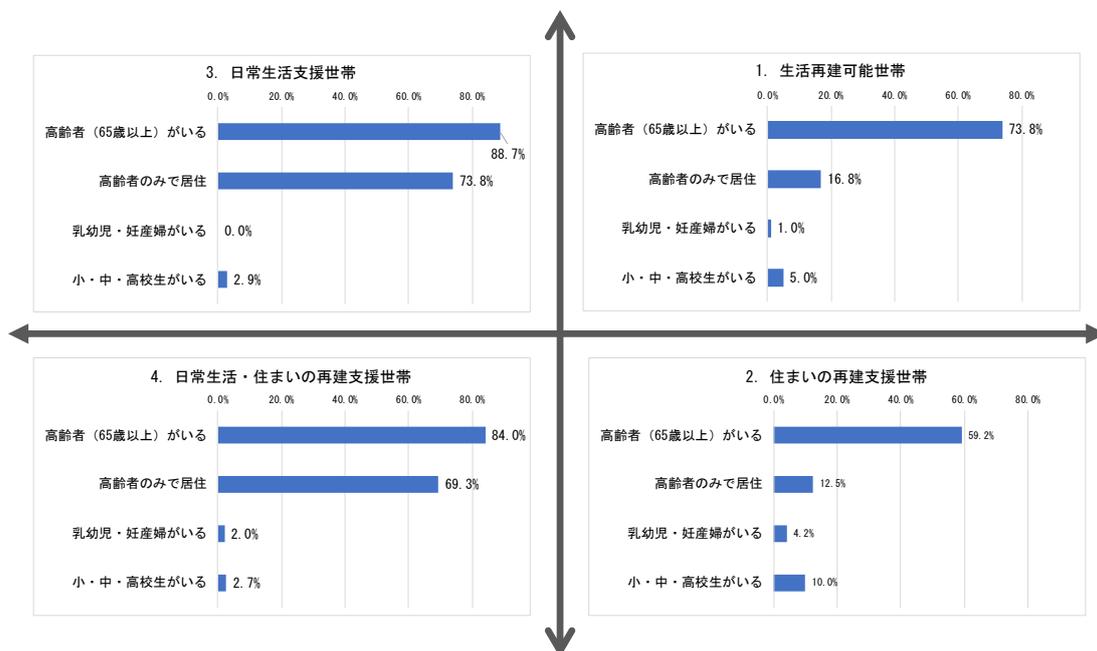
図表7-10 ②災害ケースマネジメント評価の4象限と主な収入(人吉市)



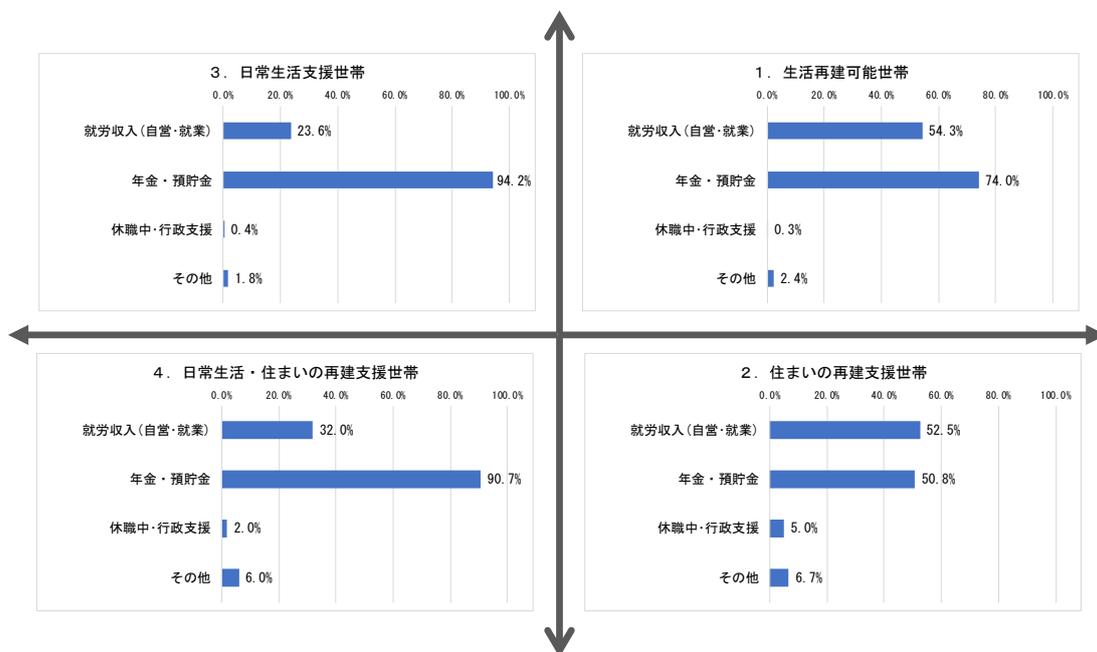
図表 7-11 ③災害ケースマネジメント評価の4象限と困りごと(人吉市)



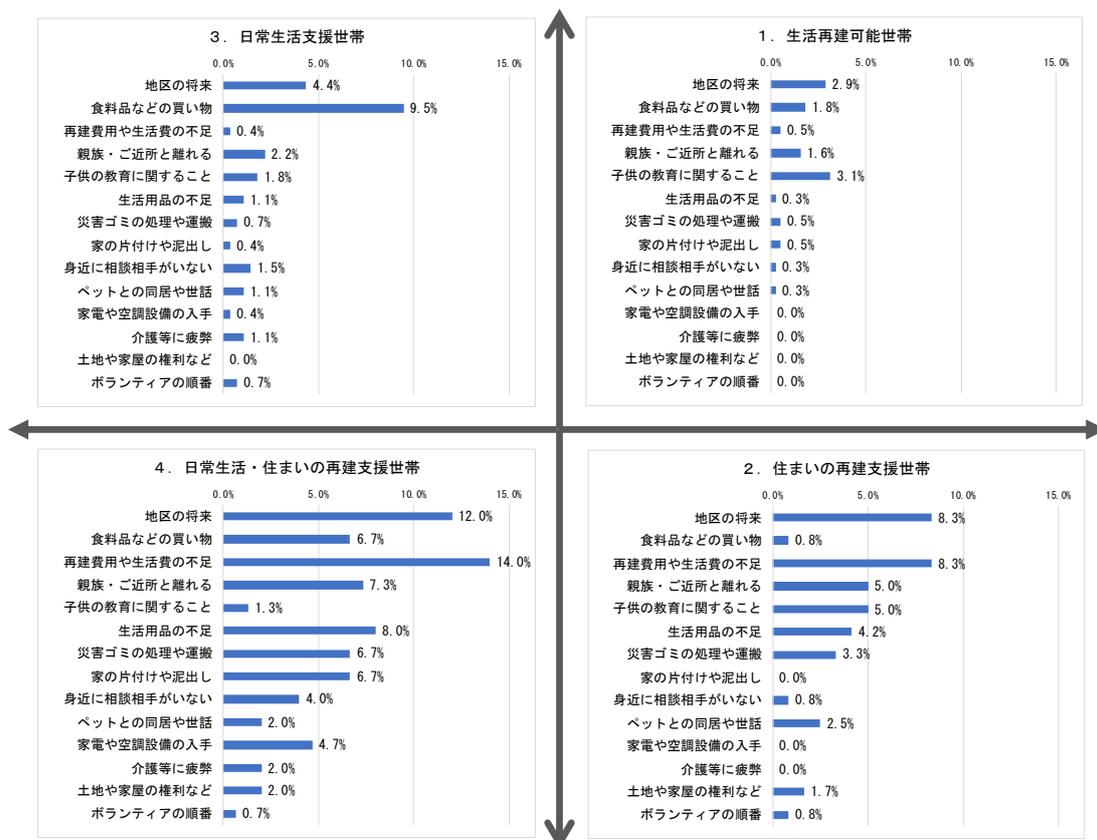
図表 7-12 ①災害ケースマネジメント評価の4象限と世帯構成員の様子(八代市)



図表 7-13 ②災害ケースマネジメント評価の4象限と主な収入(八代市)



図表 7-14 ②災害ケースマネジメント評価の4象限と困りごと(八代市)



第8章 調査結果からの提言

本調査の結果から、今後の災害時対応について次のとおり提言する。

8-1 災害時における被災者支援施策のあり方

現行の被災者支援は、被災者支援の根拠となる災害救助法や被災者生活再建支援法に基づき「避難所への被災者の収容とケア」と「家屋の被害状況に基づいた被災世帯の特定」に基づいて行われている。長期にわたる避難が必要な災害では、避難所ではなく在宅避難を選択する世帯や、家屋被害は軽微でも生活環境や世帯構成の変化により支援が必要になる世帯など、被災者の様子は多様であり、現行の被災者支援では対応しきれないケースが生まれてしまう。

このような状況に対し、近年の大規模災害では、防災部門と医療・保健・福祉との連携による被災者支援体制の構築を推進し、被災者支援制度の限界を社会保障・社会福祉の制度により被災者ひとり一人に合った支援を行うことで、被災者の生活再建を支える「災害ケースマネジメント」の実践を取り入れる自治体も出てきている。

災害ケースマネジメントに基づく被災者支援には、家屋の状況の他、生活状況、福祉や医療に関すること、経済や今後の住まいの見通し等、分野・部局を超えた情報と支援の組み合わせが必要である。過去の災害の例からも被害が大きく、被災者数が多いほど、支援対象となる被災者の特定は容易ではなく、仮設住宅の必要戸数や「地域支え合いセンター」をはじめとする被災者支援施策のためのニーズ把握に時間を要することとなる。

本調査を通じ、生活再建に支援を要する被災者を特定し、被災者の状況に応じた支援が速やかに開始されるための被災者支援施策のあり方について以下に提言を整理する。

8-1-1 家屋被害に限定しない悉皆調査の実施

住民の生命・安全の確保が最優先される緊急対策期から、人的・物的支援が届きはじめて避難生活のケアに移行する応急対策期にかけて、様々な分野の専門職が様々な形で被災者の状況を把握するための活動が行われる。自治体職員や住民組織の役員、民生委員等による要支援者リストに基づいた安否確認や、保健師等による避難所利用者の健康状態の確認、当面の避難先や住まいの再建についての意向調査など、被災者はときには一日に何度も調査を受けることさえある。

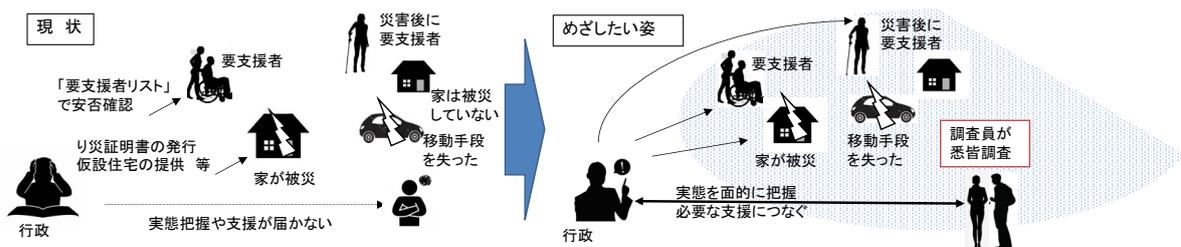
避難所を中心に保健師等が行う健康状況の確認では、避難所にはいない「在宅避難者」が対象から外れることが多い。住居の意向調査は、基本的に家屋被害が半壊以上の被災者が対象とされるため、家屋被害が半壊未満の被災者の状況は十分に把握されない可能性が高く、避難所や家屋の被害状況だけに基づいた現行の被災者の状況把握では、支援を必要とする被災者の全体像を正しく把握することができない。また、被災者のニーズ把握を担

う住民組織の役員や民生委員も被災して地域にいない場合もあり、住民の状況を確認することは負担が大きい。

生活再建に向けて支援を必要とする被災者は、①事前に把握されている要配慮世帯など「元々支援が必要だった世帯」か、②自宅に住めず避難所で暮らしているか半壊以上の判定を受けた「家屋の被害が激しい世帯」に加え、③移動手段がなくなることで生活に必要な社会資源にアクセスできなくなったり、家屋被害は少ないが仕事を失い健康状態も思わしくない等、「災害による環境変化が原因で要支援者になった世帯」も視野に入れなければならない。①②は現行の方法で確認可能だが、③も含んだ支援を要する被災者を特定し、漏れなく生活再建を支えるためには、災害により影響を受けたと考えられる地域全体を対象として、一定の時期に集中した世帯単位の悉皆調査を実施し支援需要を把握する必要がある。(図表 8-1)

令和2年7月豪雨の被災地では、新型コロナウイルス感染症の蔓延により県外からの支援受け入れが限定され、人的資源に限られたことから、短期間に集中して調査を実施し完結させることができなかつた。今後も感染症対策は継続的に必要となることや、災害が多発傾向にあることを鑑みれば、都道府県など一定のエリア内の限られた人員で調査を完結させなければならない。このような悉皆調査を一定時期に集中して実施するためには、県域で調査員や調査スタッフが確保でき、調査ツールが整っている必要があると考えられる。大規模災害発生時に悉皆調査を実施することを前提として、日頃から調査員や調査運営にあたる人員を育成するとともに、発災後は遅滞なく実働に移ることができるスキームを整えておくことが重要である。

図表8-1 現状の被災者支援の範囲と目標とする被災者支援の範囲



8-1-2 情報を活用した切れ目のない支援計画の策定

被災者の生活再建は「住まいの再建」に加え、「日常生活の自立性」の2つの視点からアプローチを行い、被災者ひとり一人に合った支援を行うことが望ましい。「住まいの再建」に関しては、発災直後の避難所の開設や運営、応急仮設住宅の提供等の応急救助対応は災害救助法に基づいて行われ、被災者生活再建支援金等の支援は被災者生活再建支援金に基づいて行われる。一方、「地域支え合いセンター」は、平時はひきこもり相談や就労

訓練等の取り組みを視野に入れた生活困窮者自立支援法に基づいたものであり、「地域包括支援センター」等とも連携しながら被災者の生活再建の支援に臨む。被災者の中には災害前から地域包括センターやNPO等の支援を活用しているケースもあることから、被災から生活再建に至る支援のプロセス全体を俯瞰しながら、災害時に固有に必要となる支援と災害前後の日常の支援施策がシームレスに接続し、過去の災害での支援傾向から世帯毎に有効な支援策を速やかに提案することで、必要な支援計画を立案・実施することを求めたい。

被災者が必要とする支援は、住宅、福祉、医療、税等の多岐にわたり、それぞれ行政所管課が異なるが、「住まいの環境が悪化することで健康を損ねる」など相互に関連することも多く、被災者にとってのスムーズな生活再建には世帯毎に状況を俯瞰したうえで包括的な支援を行う必要がある。さらに、被災者が必要な施策も市町村と都道府県で権限や窓口がまたがっており、在宅避難者を含めた地域全体が必要とする支援の総量（種類と量）を把握し、必要なタイミングで適切な支援を実施するためには、行政側の支援施策を的確にマネジメントする必要がある。一定の時期に集中して実施する悉皆調査で得られた情報を部署を越えて、さらには市町村と都道府県でも共有し、包括的かつ切れ目のない被災者支援を行うことが求められる。

図表8-2 過去の大規模災害で実施された「災害ケースマネジメント」によるアセスメント結果の比較(地域全体の状態と必要とする支援の総量)

	仙台市 (発災から3年後)	熊本市 (発災から7ヶ月後)	広島県坂町 (発災から3ヶ月後)	人吉市 (発災から3ヶ月後)	八代市坂本 (発災から3ヶ月後)
生活再建 可能世帯	66.0% (5,686世帯)	62.2% (2,326世帯)	61.4% (952世帯)	36.2% (228世帯)	41.3% (382世帯)
住まいの再建 支援世帯	24.8% (2,133世帯)	21.9% (812世帯)	15.6% (242世帯)	17.5% (110世帯)	13.0% (120世帯)
日常生活 支援世帯	6.3% (540世帯)	7.0% (261世帯)	12.0% (186世帯)	28.1% (177世帯)	29.6% (274世帯)
日常生活支援・ 住まいの再建 支援世帯	2.9% (251世帯)	8.5% (315世帯)	11.0% (171世帯)	18.1% (114世帯)	16.2% (150世帯)

提言1 一定の時期に集中的かつ家屋被害に限定しない包括的な悉皆調査を実施すること

- ・ 災害ケースマネジメントに基づいて被災者、被災世帯の状況を把握することで、生活再建に向けた支援に繋げることを可能にする
- ・ 地域の状態と必要とされる支援の総量を把握し的確な行政の支援施策マネジメントを展開し、切れ目のない支援計画を策定する
- ・ コロナ禍や多発する災害を鑑み県外からの支援者の受け入れは限定的となることを踏まえ、都道府県域での悉皆調査人員の育成や調査ツール、実働スキームを整備する

8-2 日常生活に組み込まれた防災への変革

大規模自然災害の発生は、非日常の緊急事態に他ならない。行政には災害対策本部が設置され、住民は避難や避難生活を余儀なくされる。大規模自然災害は毎年のように発生しているが、被災する場所は毎年異なり、自治体や住民にとっては一生に一度あるかないかの体験である。また被害の状況は災害の種類や規模によって異なり、自治体も住民も何かから手を付け、どうすればよいか、一からスタートする状況となる。

自治体では他の自治体での経験などを共有し、災害発生時にスムーズに対応ができるよう、繰り返し訓練等を行って備えを進めているが、住民は災害時の対応に「慣れる」機会が少ない。避難訓練なども「特別なイベント」になってしまえば、いざと言う時に行動に移すことが難しくなってしまう。よく目にするもの、普段していること、いつも使っているもの等「日常に近いこと」を起点にすることで、住民にとって防災を非日常ではなく日常の延長線上に置くことが望ましい。

復興期においても、被災したまちなみの整備や産業・地域経済の回復、仮設住宅などで暮らす被災者への支援に注目が集まりがちだ。しかし住家への被害がなかった世帯でも、交通手段の喪失や通院先・勤務先等の被災で生活に影響が生じている世帯もあり、復興期においても災害によって損なわれた日常生活を取り戻すことに注目し、生活再建を幅広くカバーしていくことが求められる。

本調査や過去の調査から見てきた住民や被災者の目線から、災害への対応や災害からの復旧・復興を「日常」と表裏一体に進めるための防災のあり方について、以下に提言を整理する。

8-2-1 ICT を活用した避難の促進

「避難勧告等に関するガイドライン」が2019年3月に改訂され、自治体や気象庁が発表する防災情報を用いて住民が取るべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、5段階の警戒レベルを明記した防災情報が提供されている。今回の豪雨でも避難に関する情報が発令されたが、本調査で避難しなかった世帯に「避難しなかった理由」を尋ねた結果（図表 5-14、図表 6-13）では、「自宅の方が安全だと思った」「自宅で大丈夫だと思った」「移動できなかった」「間に合わなかった」など、避難を促す情報に対し「自宅」を選択したり、避難しようと思ったときには既に浸水し始めたりする状況であったことがわかる。また、逃げ遅れや自宅上階に避難した理由には、「大切なものを2階に運んでいるうちに間に合わなくなった」「要配慮者がおり避難できなかった」「避難所での集団生活ができない」「ペットがいる」など、避難情報を確認していても避難できないケースも多く見られた。平成30年7月豪雨の坂町調査においても、同様の傾向が見られた。（図表 8-3）

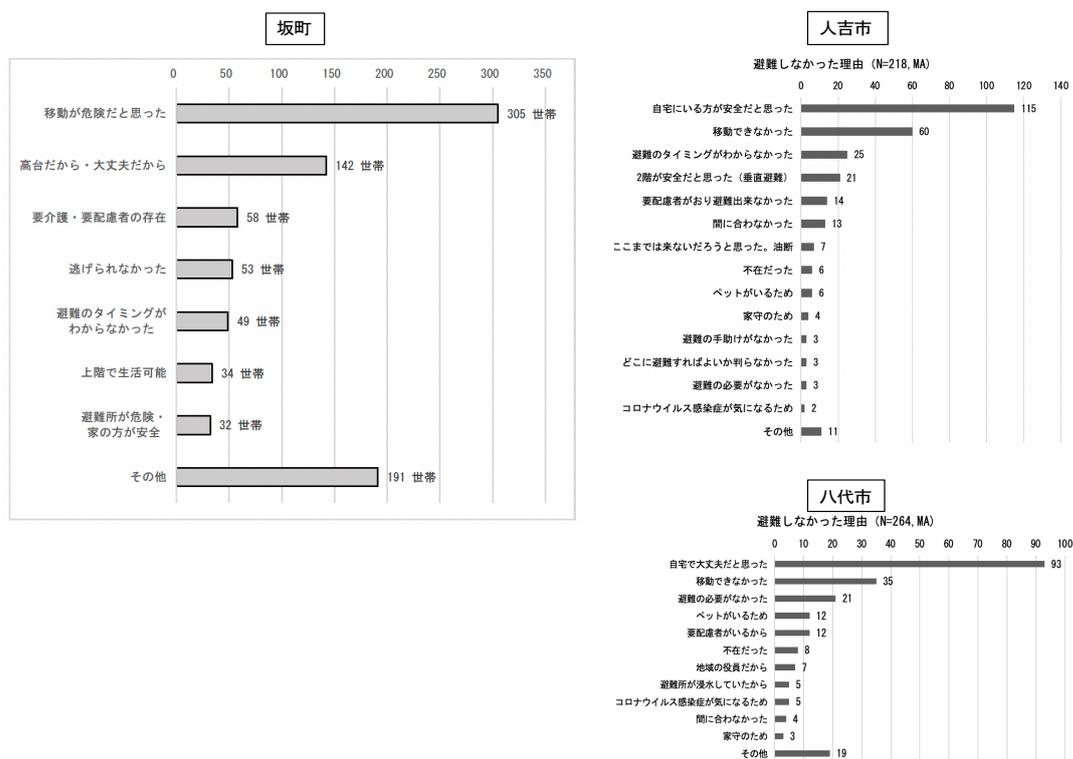
災害情報を入手した主な方法（図表 5-18、図表 6-17）は、「防災無線」の回答も多く一定の役割を果たしていた一方で、雨音や風向きなどにより「放送が聞こえない」という意見も多くあった。

人吉市、八代市共に、災害情報を入手した主な方法で防災無線に次いで多いのは「スマートフォン」であった。年代が高くなるほど利用率が低くなる傾向はあるものの、20代・30代90%の以上、40代の85%以上、50代70%の以上がスマートフォンを個人保有している⁴。また、個人のインターネット利用は、利用者の加齢に伴い60代以上の利用割合が年々増加しており⁵、スマートフォンも同様の傾向を辿ると考えられることから、現状として高い年齢層で利用していない人がいることにとらわれすぎず、ICTを活用した避難の促進に積極的に取り組むことが望まれる。

現在、ICTを活用した避難情報の通知は、緊急避難速報や自治体の防災メール等が中心であるが、スマートフォンの位置情報と連動した避難状況を可視化するシステムを住民に提供することができれば、「周囲に避難をし始めた人がいる」ことを伝えることで避難を促したり、逃げ遅れの可能性の高い地区を推定し、早期の救助に役立てたりすることも可能である。(図表 8-4)

ICTの活用には、情報通信インフラが機能することが大前提である。通信基地局の防災対策の一層の強化も求めておきたい。

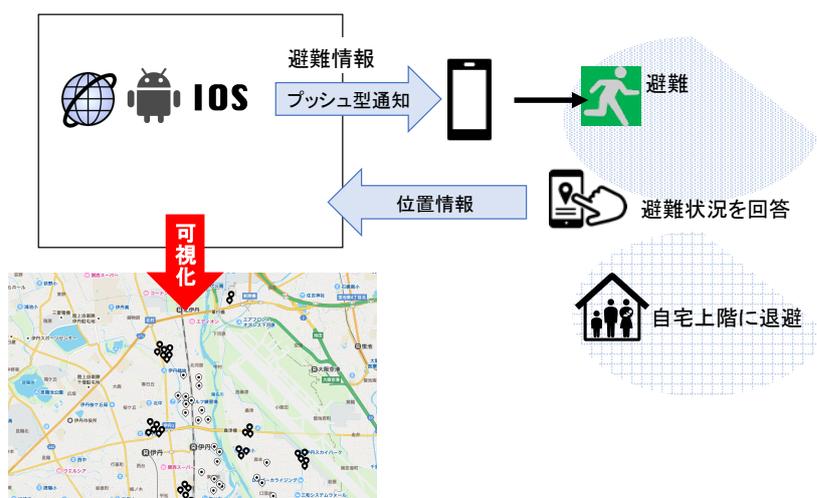
図表 8-3 平成 30 年 7 月豪雨における広島県坂町と令和 2 年 7 月豪雨における人吉市・八代市での「避難しなかった理由」の比較



⁴ 総務省 平成30年版情報通信白書「スマートフォンの個人保有率の推移」

⁵ 総務省 平成30年版情報通信白書「個人のインターネット利用者の割合の推移」

図表 8-4 避難情報のプッシュ型通知と避難状況の可視化のイメージ



8-2-2 「直接被災しない場合の発災後の日常生活への影響」を考慮した被災者支援の実施

八代市の調査地域（坂本町）では、「困りごと」があると回答した 323 世帯のうち、191 世帯は罹災証明を申請していない世帯であった。直接被災しない場合でも、地域の状況が変化することで発災後に日常生活に大きな影響が生じている様子がうかがえる。（図表 8-5）

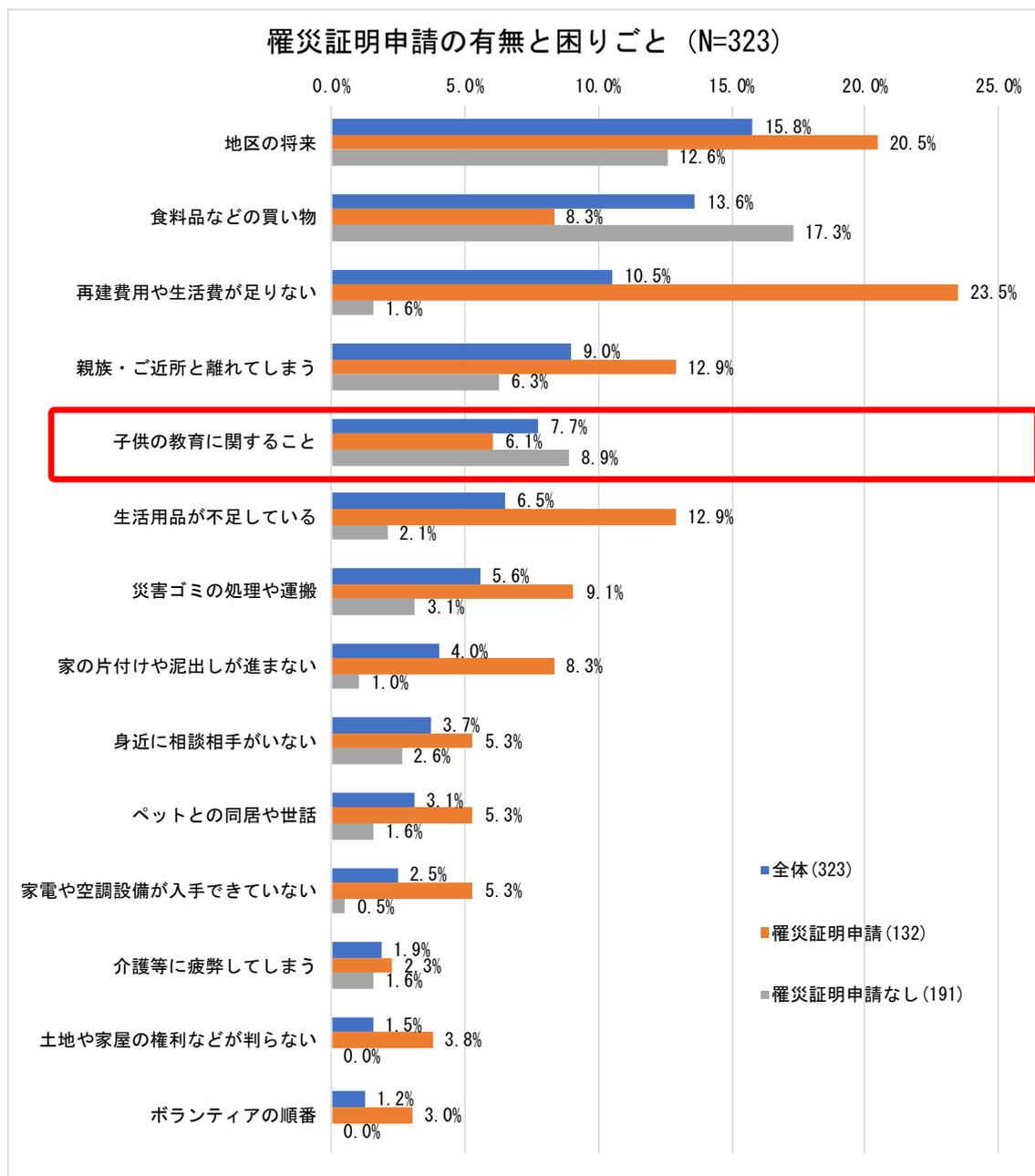
「困りごと」の内容を見ると、「食料品などの買い物に困っている」「子供の教育に関すること」では罹災証明を申請していない世帯の困りごとの回答数が罹災証明を申請した世帯よりも多くなっている。これらの困りごとの背景には、道路や橋りょうの破損、公共交通機関への被害、地区の商店が被災したことがある。また、自由記述の回答からは、郵便局の被災、金融機関や病院等の社会インフラの被災や、代替機関へのアクセスの不便から、生活に影響を来している様子もうかがえた。

被災者生活再建支援法では「被災世帯＝政令で定める自然災害により住宅が半壊以上の被害を受けた世帯」とされているが、直接的な被害がなくとも生活の維持が困難になっている世帯もあり、被災した地域を生活圏としている世帯の様子や地域の特性を反映させた支援や復興計画の策定が求められる。平成 30 年 7 月豪雨で被災した広島県坂本町での調査では、高齢者のみの世帯の方がそれ以外の世帯よりも買い物や移動に困っている世帯が多く見られた。（図表 8-6）八代市坂本地区のように「山間部に集落が点在」し地区の中心部な被災すれば生活に大きく影響が及ぶ場合や、坂本のように「高齢化が先行」している地域では、発災後の日常生活の維持のために必要となる住民ニーズを十分に考慮することが、発災後の地域全体の生活再建を支えるうえで極めて重要である。

一般的に現行の地域防災計画では、発災後の応急対策計画において災害救助法や消防法等に則った対応手順を定め、災害復旧復興計画では激甚災害法や被災者生活再建支援法、中小企業信用保険法等、復興に関連する様々な対応計画が定められている。地域防災計画におい

て支援の対象となる「被災者」を家屋の被害を受けた者に限定せず、発災後の生活に大きな影響が及んでいる者をも対象とするなど、必要な支援策を速やかに提供するための根拠たる制度の見直しも提言しておきたい。

図表 8-5 罹災証明申請の有無と困りごとの割合(八代市)



図表 8-6 高齢者のみ世帯と世帯の日常生活(移動・買い物)の様子(平成 30 年 7 月豪雨坂町調査より)

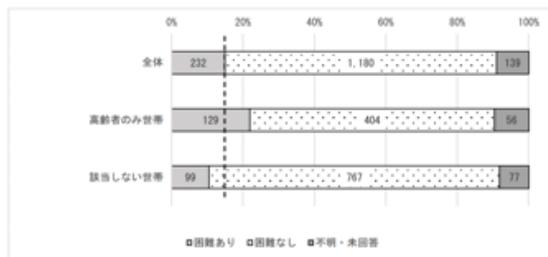


図 2-28 発災で移動困難が生じた世帯の状況(世帯数)

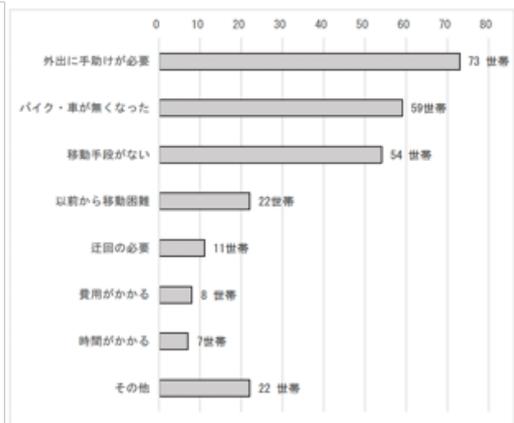


図 2-29 移動困難の理由(複数回答)

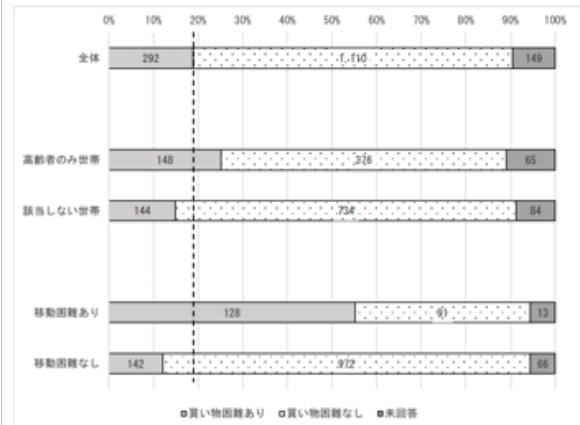


図 2-31 買い物困難の世帯別の様子と「移動困難あり」世帯との関係(世帯数)

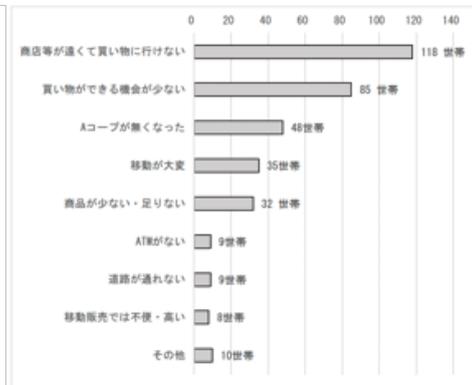


図 2-32 買い物困難の理由(複数回答)

提言2 日常生活に組み込まれた防災への変革

- 日常生活において多くの人が日常的に使用する「スマートフォン」を活用し、アプリや位置情報を用いた「避難状況の見える化」で、住民の避難を促進する
- 被災した地域を生活圏としている住民ニーズも含む被災者支援が速やかな実施と、地域事情に応じた防災計画の見直し

8-3 情報を支援に繋げる「誰一人取り残さない災害対応」の実現

災害によるダメージは「被害の深刻さ」と「回復までの時間」のかけ算で大小が決まる。災害の発生による「被害の深刻さ」は、日頃の防災・減災の取り組みによりソフト・ハード両面での社会の強靭性を高めることで小さくすることができる。一方「復旧までの時間」を短くするには、地域で暮らす住民の全体像を把握し、その中に潜む「暮らしの脆弱性」をカバーしていく必要がある。

「暮らしの脆弱性」は、住まいの状態、世帯の構成、家計や就労の状況、医療・福祉の利用状況等ひとり一人異なる。同じ地域で暮らし、同じ程度の被害を受けても、暮らしの脆弱性が高いとダメージが大きくなる。被災地全体が日常へ回復するためには、被災した地域で暮らす住民全体の様々な状態を観察し、「災害ケースマネジメント」に基づいた包括的な支援を行う必要がある。災害がもたらす影響は地区内の住民にとどまらない。被災した地域で事業を営む人や就業していた人、取引先として関わっていたり、顧客として利用する等は、今後被災地がどのように復興していくのかが生活に大きく影響する。とりわけ観光が地域の基幹産業である場合は、地域そのものの存続に重大な影響を及ぼす可能性もある。

ここでは「情報」を必要な支援に繋げ、誰一人取り残さない災害対応の実現に向けた取組について以下に提言を整理する。

8-3-1 被災者の生活再建を支えることを目的とした情報の活用

災害時には、行政やNPO、ボランティア等の様々な主体が支援活動を行うが、支援関係者間の情報共有が行われないままそれぞれの目的で支援活動が行われてしまうと、被災者が繰り返し同じ話を別の支援者にすることとなり、被災者側に負担を掛けることになりかねない。行政も施策毎に担当部署が異なるうえ、災害や被災者に関する情報は常に変化し続けており、庁内でのタイムリーな情報共有も容易ではない。

今後の円滑な被災者の生活再建を支えるために、被災者に関するさまざまな情報を一元的に集約し、必要な機関が必要なときに必要な情報を参照できるしくみの構築を求めたい。現状では自治体が保有する情報や外部の専門家等が調べた被災者の状況に関する情報は、様々なところに散らばっている。自治体にある情報としては、住民基本台帳、避難者名簿（発災後の居所）、罹災証明や税の減免等の申請状況、要配慮者に関する情報等があるが、こうした情報の共有には個人情報保護の壁が立ちはだかり、結果として、支援団体等が個別に調査を重ね、被災者の負担に繋がってしまう現状がある。また、被災者の状況に関する様々な情報は、避難所で避難を継続している被災者や申請時の聞き取りによらなければ把握できず、情報内容や書式、システムも異なるため、支援に繋がられるように共有することに手間がかかる。

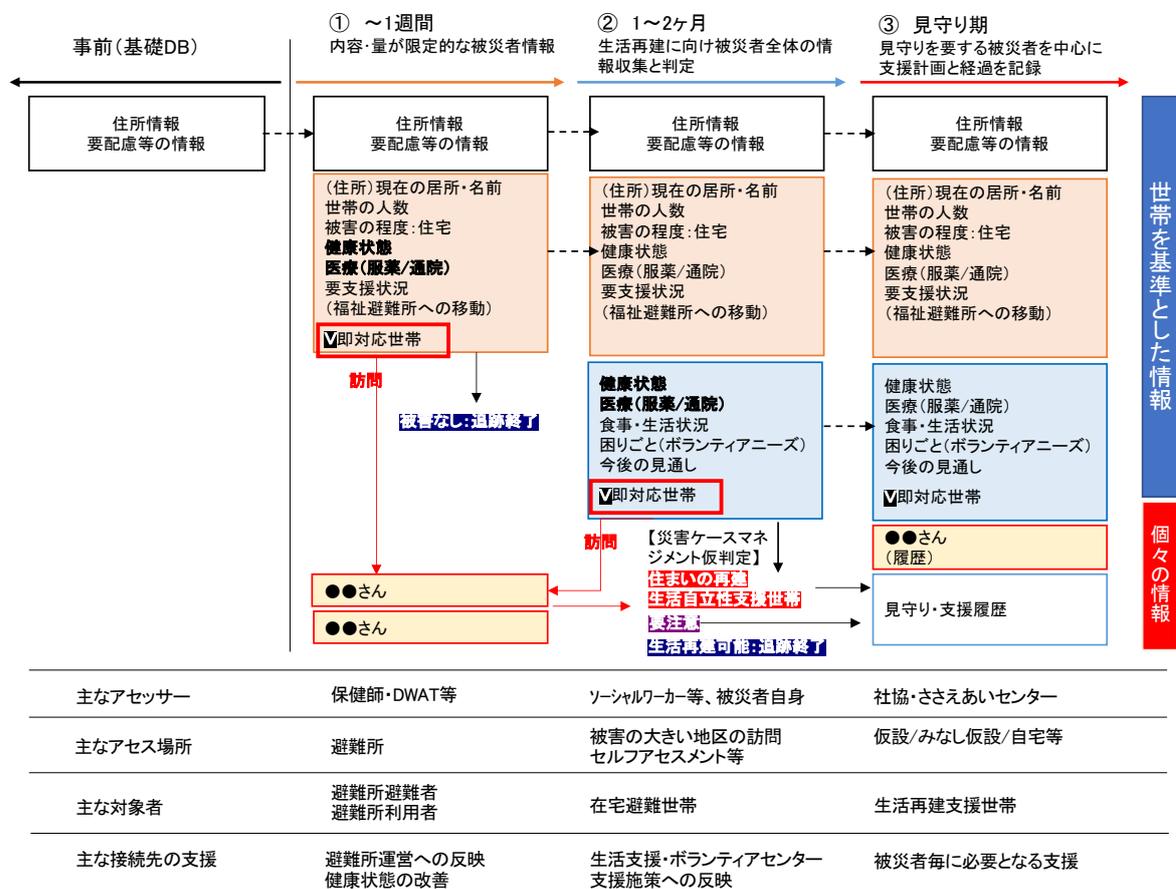
被災者の生活再建を支えるために、必要な情報を揃え、必要に応じて支援機関へ共有を行うことが望ましい。自治体が持つ個人情報を災害時に活用する場合は、避難行動要支援

者名簿は災害対策基本法、その他の情報は個人情報保護条例の規定に基づいて共有することとなっているが、個人情報を共有する場合の条件や情報の範囲、又は個人を特定しない情報への変換等、実質的な運用のための検討を進めておく必要があるだろう。

被災者の状況に関する情報の収集については、今回の調査において、調査員による聞き取りに加え被災者自身が状況を入力する「セルフアセスメント」を実施した。数は多くなかったが回答の質は訪問調査と大きく異なることはなく、今後はこうした被災者自身による被災状況の入力も有効な調査方法のひとつと考えられる。スマートフォンの普及状況や災害時の脆弱性を克服することを前提に、被災者が自らの状況を知らせるしきみを整えるとともに、在宅避難者を含めた被災者の状況把握へのICTのさらなる活用を検討したい。コロナ禍や災害の多発化で外部の人材が被災地で調査に入ることが困難な状況は今後も続くと思われ、被災者自身による情報入力や「チャット」機能を活用した双方向でのコミュニケーションのしきみを整えておくことで、発災直後から生活再建まで包括的にICTを活用して支えることを選択肢として用意しておきたい。

また、これまでバラバラに調査し、部署毎に入力・参照していた情報を、必要な機関が必要に応じて、必要な範囲で参照できる被災者情報共有のシステムの構築も急がれる。ICTの活用によって被災者の生活再建に向けた重層的な支援を、これまで以上に円滑なものにしたい。(図表 8-7)

図表 8-7 生活再建に向けた情報収集と共有のイメージ



8-3-2 地域の復興に向けた支援ニーズへの対応

被災した自治体は「復興計画」を策定し、暮らしやコミュニティの再生、産業・経済の再生を進めていくことになる。八代市は9月に、人吉市は11月にそれぞれ委員会を設置して、復興計画策定への議論を開始した。被災状況は地区ごとに異なり、また同じ地区の中でも被災者ひとり一人の状況も異なる中で、復興への希望や今後の見通しも多様である。そうした住民の合意を形成しながら復興へのビジョンをとりまとめることは相当な労力が必要となる。

また被災した地域では暮らしていなくても、事業を営んでいたり、就業していたりする人にとっても、復興計画が定まって「まちなみの再生」や「地域の将来」のビジョンが明確になるまでは、「今後の生業」や「安定した暮らし」を見通すことも難しい。令和2年7月豪雨では、8月末から「なりわい再建支援補助金」の受付が行われたり、災害による被害等で設備資金および長期運転資金を必要とする事業者への特別貸付等の支援策が講じられているが、「今後の生業」が見えないために事業再生プランを書くことができず、資金の工面も難しくなっている事例も散見される。今回は発災前からコロナウイルス感染症のまん延で事業にダメージを受けているケースも多く、二重の社会環境の変化を踏まえて見通しを立てるとなると、不安は更に大きくなってしまふ。

過去の大規模自然災害の被災地においても同様の課題に直面しながら、まちなみの再生や生業の再開を果たしてきた事例があり、産業復興の事例や経済活動と支援リソースを結びつけるイベントの開催などの試みが行われている。(図表 8-8)

このような復興まちづくりや企業による過去の事例を収集し、地域の状況もふまえて分析したうえで今後の見通しについていくつかのシミュレーションが提供できれば、事業者や就業者にとっても具体的な今後のビジョンを描きやすくなる。また、被災地のニーズとその解決への経験や資源を持つNPO等と再生に臨む企業をマッチングする場を設けることで、「今後の生業の再生」や「安定した暮らし」を前進させることも有効である。



図表 8-8 復興庁「産業復興事例集」(左)

日本取引所グループが主催した「東日本大震災被災地域に芽吹いた経済活動と上場会社の多様なリソースを結びつけるマッチングイベント」の様子(右・東京証券取引所 2013年3月)

提言3 情報を支援に繋げる「誰一人取り残さない災害対応」の実現

- ・ セルフアセスメントの活用を含め、発災直後から生活再建までを包括的にデータで管理するICTを活用したしくみを構築し、重層的な被災者支援を提供する
- ・ 被災者を支えることに主眼を置き、必要に応じた支援者間の情報共有を可能とする体制を整備する
- ・ 過去の災害からの再生事例を収集・分析し、被災地で参照できるシミュレーションを提供する
- ・ 被災した事業者と再生に必要な経験や資源を持つ機関をつなぐマッチングの場を創る

謝辞

本調査の実施にあたり、多数の機関、ご担当者、個人のご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

- 調査実施全般
人吉市・八代市
- 自治体側調整担当課
人吉市生活再建支援室・健康福祉部高齢者支援課
八代市総務企画部復興推進課・健康福祉部健康福祉政策課
- 寄付
Yahoo!基金
- 調査分析
浜松医科大学 尾島俊之教授、関西大学 菅磨志保准教授
厚生労働省「保健医療福祉活動の分野を横断した総合的なマネジメント体制に関する研究」研究分担者の皆様
- 福祉分野に関するアドバイス
渡嘉敷唯之（株式会社 CoAct）
- 調査運営支援
ひまわり亭、坂本住民自治協議会
- 現地コーディネーター・調査員として活動して下さった皆様

<資料>

人吉市集計表

現在の居所 n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	現在の居所
自宅（住民票住所）	93	85	8	222	43	4	455
避難所	14	11	1	33	21	3	83
仮設住宅	1	1	0	1	3	0	6
みなし仮設住宅	1	2	0	7	7	0	17
親族・知人宅	2	2	0	18	6	0	28
上記以外（その他）	8	5	0	8	7	0	28
未回答	0	1	1	6	4	0	12
合計	119	107	10	295	91	7	629

世帯人数 n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	世帯人数
1人	39	36	2	56	18	3	154
2人	43	34	4	111	40	1	233
3人	17	21	3	68	18	0	127
4人	9	9	1	27	8	1	55
5以上	9	6	0	29	4	1	49
未回答	2	1	0	4	3	1	11
世帯人数	119	107	10	295	91	7	629

世帯の様子 MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	世帯の様子
高齢者（65歳以上）がいる	72	47	5	143	46	4	317
高齢者のみで居住	37	30	5	69	26	0	167
訪問介護・訪問看護の利用必要	4	1	0	4	0	1	10
障害福祉サービスの利用が必要	5	3	0	7	1	1	17
乳幼児・妊産婦がいる	2	4	0	6	2	0	14
小・中・高校生がいる	17	14	1	23	6	1	62
医療機器（人口呼吸器・在宅酸素等）の使用	0	0	0	1	1	0	2
医療的ケア（人工透析・インシュリン注射等）が必要	2	2	0	3	3	0	10
要配慮食（アレルギーや減塩食等）が必要	2	1	0	5	0	0	8

家屋種類 n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	家屋種類
持ち家 一戸建て	101	77	9	252	72	5	516
持ち家 集合住宅	0	0	0	3	0	0	3
賃貸 一戸建て	12	11	1	12	6	0	42
賃貸 集合住宅（民間）	2	13	0	20	6	1	42
賃貸 公営住宅	0	1	0	2	0	0	3
その他	0	2	0	0	3	1	6
未回答	4	3	0	6	4	0	17
合計	119	107	10	295	91	7	629

持ち家住宅ローン n=536

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	持ち家住宅ローン
有	10	10	2	43	16	1	82
無	60	54	6	158	45	2	325
未回答	35	16	1	60	15	2	129
合計	105	80	9	261	76	5	536

家屋状況 MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	家屋状況
過去に大雨等の家屋被災あり	18	21	0	28	6	1	74
附属屋（小屋など）がある	16	7	2	21	4	1	51

浸水被害

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	浸水被害
浸水被害なし	6	4	1	6	2	0	19
床下浸水	21	6	0	6	0	0	33
床上浸水	89	91	9	277	87	6	559
わからない	0	1	0	0	0	0	1
未回答	3	5	0	6	2	1	17
合計	119	107	10	295	91	7	629

床上浸水の程度

n=610

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	床上浸水の程度
床上 1.8m以上の浸水	26	33	1	75	62	3	200
床上 1m～1.8m未満の浸水	35	35	4	116	10	2	202
床上 1m未満の浸水	27	22	3	67	4	0	123
未回答	25	13	1	31	13	2	85
合計	113	103	9	289	89	7	610

土砂被害

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	土砂被害
床上を越えて土砂が流入	54	40	6	151	49	6	306
およそ床まで土砂が流入	20	9	2	39	8	0	78
基礎天端下25cm程度まで土砂が流入	10	10	0	26	7	1	54
土砂被害なし	19	37	2	44	16	0	118
その他	8	0	0	4	2	0	14
未回答	8	11	0	31	9	0	59
合計	119	107	10	295	91	7	629

土砂撤去

n=511

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	土砂撤去
完了した	65	48	7	173	48	1	342
継続中	20	8	0	42	8	2	80
未着手	2	2	0	7	2	1	14
撤去しない	2	2	0	11	7	0	22
未回答	11	10	1	18	10	3	53
合計	100	70	8	251	75	7	511

土砂撤去未着手の理由

n=89

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	未着手の理由
土砂撤去の見通しは立っている	3	4	0	19	3	1	30
土砂撤去の見通しは立っていない	1	0	0	5	0	0	6
土砂撤去等の支援が必要	1	0	0	3	1	0	5
その他	8	1	0	6	6	0	21
未回答	2	9	1	3	9	3	27
合計	15	14	1	36	19	4	89

生活設備の不備

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	生活設備の不備
電気・ガス・水道等ライフライン設備	32	26	1	100	26	3	188
台所・トイレ・お風呂等の生活設備	42	30	2	134	32	3	243
エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の電化製品	48	33	2	138	31	4	256
その他	7	9	0	25	6	0	47

罹災証明

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	罹災証明
取得済み	98	91	9	280	86	6	570
申請中	0	1	0	5	1	0	7
申請予定あり	1	0	0	1	0	0	2
申請しない	15	9	1	6	2	0	33
未回答	5	6	0	3	2	1	17
合計	119	107	10	295	91	7	629

罹災証明内容

n=596

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	罹災証明内容
全壊	21	22	1	74	73	1	192
大規模半壊	20	27	1	119	8	2	177
半壊	43	32	6	80	6	3	170
準半壊	2	5	1	1	0	0	9
一部損壊	5	3	0	1	0	0	9
未回答	13	9	0	14	2	1	39
合計	104	98	9	289	89	7	596

罹災証明申請しない理由

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	申請しない理由
手続きがわからない	1	0	0	0	0	0	1
該当するかどうかわからない	1	2	0	0	0	0	3
不要だから（家屋の被害がないから）	11	6	1	5	0	0	23
その他	3	0	0	1	1	0	5

避難の有無

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	避難の有無
避難した	74	51	8	164	77	3	377
避難しなかった	40	49	1	123	12	4	229
未回答	5	7	1	8	2	0	23
合計	119	107	10	295	91	7	629

避難先

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	避難先
指定避難所	34	24	3	62	45	3	171
自主避難所	12	7	2	25	12	1	59
親戚宅	15	10	1	46	7	2	81
知人宅	7	6	0	12	1	0	26
その他	13	12	4	34	9	0	72

避難しなかった理由

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	避難しなかった理由
自宅にいる方が安全だと思った	23	30	0	59	1	2	115
移動できなかった	8	7	0	37	6	2	60
避難のタイミングがわからなかった	2	5	0	17	1	0	25
避難の手助けがなかった	0	1	0	2	0	0	3
どこに避難すればよいか判らなかつた	1	0	0	2	0	0	3
その他	9	9	1	36	2	1	58

避難しなかった理由（その他内訳を含む） MA

校区	避難しなかった理由
	115
自宅にいる方が安全だと思った	60
移動できなかった	25
避難のタイミングがわからなかった	21
2階が安全だと思った（垂直避難）	14
要配慮者がおり避難出来なかった	13
間に合わなかった	7
ここまでは来ないと思った。油断	6
不在だった	6
ペットがいるため	4
家守のため	3
避難の手助けがなかった	3
どこに避難すればよいか判らなかった	3
避難の必要がなかった	2
コロナウイルス感染症が気になるため	11
その他	

救助者

校区	MA						救助者
	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	
自力で避難	57	28	9	133	52	2	281
近隣住民による救助	6	5	0	7	2	0	20
消防・消防団による救助	3	3	0	10	8	0	24
自衛隊による救助	0	1	0	3	2	1	7
その他の行政による救助	1	0	0	1	1	0	3
その他	2	8	0	13	5	1	29

災害情報入手方法

校区	MA						災害情報入手方法
	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	
防災無線	19	29	3	79	24	2	156
スマートフォン	26	27	2	67	22	2	146
テレビ	24	20	3	43	18	0	108
緊急速報メール	26	14	2	44	11	1	98
自治体の Web サイト・防災メール等	5	6	1	23	5	0	40
ラジオ	3	6	0	10	2	0	21
パソコン	2	0	0	6	0	0	8
その他の防災アプリ	1	1	0	2	0	0	4
その他	41	24	2	102	31	2	202

災害情報入手方法その他の内訳 MA

校区	合計
目視確認	62
地域役員や近所の人	42
家族や知人等からの連絡	31
消防団	14
市役所の広報、職員の呼びかけ	11
情報入手できなかった	6
その他	8

発災前も現在も、健康に不調がある家族等はいるか

校区	n=629						健康不調
	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	
いない	71	59	5	143	55	3	336
いる	48	48	5	152	36	4	293
合計	119	107	10	295	91	7	629

世帯構成員健康状況

校区	MA						健康状況
	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	
発災による体調不調が継続	16	20	3	37	12	1	89
発災による体調不調から回復	10	11	1	31	6	1	60
発災によるメンタルの不調が継続	14	10	0	56	6	1	87
発災によるメンタルの不調から回復	5	6	0	27	7	1	46

通院や服薬が必要な家族等がいるか

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	通院・服薬
いない	43	41	2	102	36	1	225
いる	76	66	8	193	55	6	404
合計	119	107	10	295	91	7	629

通院・服薬状況

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	通院・服薬状況
通院や治療の中断、回数減	1	0	0	8	3	1	13
問題なく通院	0	1	0	2	2	1	6
服薬の中断、入手困難	51	47	6	128	37	4	273
問題なく服薬	55	37	5	110	36	3	246

家族に元々、福祉サービス等の利用はあるか

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	福祉サービス利用
ない	108	97	10	258	83	5	561
ある	11	10	0	37	8	2	68
合計	119	107	10	295	91	7	629

福祉サービス利用状況

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	利用状況
介護サービス等利用減	2	1	0	7	1	1	12
障害福祉サービス等の利用減	1	0	0	0	0	0	1
保育所等のサービスの利用に制限あり	1	0	0	2	0	0	3
その他	2	1	0	6	1	0	10

食事

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	食事
問題なく食事を摂れている	103	84	9	239	71	7	513
調理環境がない、自炊ができない	4	5	0	31	4	0	44
弁当やパンなどの支給の食事のみ	4	8	1	32	14	1	60
要配慮食が手に入りにくい	0	1	0	2	0	1	4
欠食、大幅な食欲減	3	4	0	6	3	0	16

主な生活費

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	主な生活費
自営業・経営者の収入	21	14	1	19	7	2	64
就労収入	39	44	4	141	41	3	272
年金	62	48	7	153	47	4	321
預貯金	13	14	1	25	15	1	69
求職中	1	3	0	8	2	1	15
生活保護等	2	3	0	5	2	0	12
その他	9	4	0	12	2	0	27

通勤・移動

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	通勤・移動
特に困っていない	91	80	10	245	77	6	509
移動手段がない、移動困難	6	8	0	15	2	1	32
外出に手助けが必要、移動困難	2	4	0	5	2	0	13
その他	11	8	0	31	9	0	59

通勤・移動（その他内訳）

MA

校区	その他内訳
自動車購入	12
自家用車	13
自転車	14
代車	10
徒歩	8
親族	8
レンタカー	4
廃車	0
カーシェアリング	3
バス	2
原付、バイク	2
タクシー	16
その他	8

住まいの見通し

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	住まいの見通し
災害前と変わりはない	19	15	1	16	4	0	55
建て替えや補修の目処あり	53	52	7	159	46	3	320
建て替えや補修の目処なし	18	15	2	51	12	2	100
建て替えや補修の検討中	9	6	0	31	8	1	55
建て替えや補修はしない	6	6	0	13	16	0	41
その他	3	6	0	19	3	1	32
未回答	11	7	0	6	2	0	26
合計	119	107	10	295	91	7	629

住まいの見通し（その他内訳）

MA

校区	その他内訳
大工・業者の順番待ち	24
解体予定	14
リフォーム予定	12
修復中	6
補修完了	5
入居物件を探している	4
検討中	4
目処が立たない	4
考えられない	1
その他	8

建替補修目処立たず検討中理由

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	目処立たず検討中理由
費用の工面が難しい、不安がある	7	12	1	23	4	3	50
補修可能かどうか判断がつかない	3	2	0	6	1	1	13
建て替えや補修について、まだ考えられない	2	1	0	2	3	1	9
その他	13	5	2	31	8	1	60

住まいの見通しが立たない理由（その他内訳）（MA）

校区	その他内訳
大工・業者の順番待ち	36
検討中	8
行き詰まっている	4
入居物件が決まらない	2
公費解体がいつになるかわからない・解体予定	2
解体予定	2
その他	6

建替補修しない理由

n=41

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	建替補修しない理由
他の物件が見つかったから	0	1	0	0	2	0	3
親族等と同居するから	3	1	0	5	9	0	18
仮設やみなし仮設に入居するから	0	0	0	2	1	0	3
費用が工面できない	0	1	0	0	0	0	1
その他	2	2	0	6	4	0	14
未回答	1	1	0	0	0	0	2
合計	6	6	0	13	16	0	41

当面の居所

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	当面の居所
自宅	78	70	8	183	33	3	375
仮設住宅・みなし仮設	8	12	2	36	27	1	86
親族・知人宅	5	5	0	25	7	1	43
公営住宅	5	4	0	7	2	0	18
自宅以外の物件に移転	4	1	0	8	2	0	15
その他	7	5	0	21	11	2	46
未回答	12	10	0	15	9	0	46
合計	119	107	10	295	91	7	629

当面の居所（その他内訳）

MA

校区	合計
避難所	31
自宅の2階など在宅避難	9
民間賃貸住宅	5
仮設住宅	4
自宅	3
親族宅	3
ホテル等	2
公営団地	2
県外	1
その他	21

希望居住地

n=629

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	希望居住地
災害前と同じ地区	70	69	10	217	51	3	420
同じ市内	4	9	0	10	7	1	31
災害前と同じ町内	8	9	0	11	2	1	31
わからない	4	1	0	11	4	0	20
市外に出たい（出る予定）	0	1	0	4	4	0	9
その他	2	5	0	5	7	1	20
未回答	31	13	0	37	16	1	98
合計	119	107	10	295	91	7	629

困りごと

MA

校区	1. 東校区	2. 西校区	3. 東間校区	5. 西瀬校区	6. 中原校区	不明・その他	困りごと
再建費用や生活費が足りない	24	18	2	77	12	3	136
家電や空調設備が新しいものがない	9	15	0	39	9	1	73
生活用品が不足している	8	11	0	35	14	0	68
地区の将来	8	17	0	27	14	1	67
災害ゴミの処理や運搬	6	6	0	18	9	0	39
食料品などの買い物	9	5	1	15	4	0	34
家の片付けや泥出しが進まない	9	5	0	14	5	0	33
被災前の商売を再開できるか	8	9	0	8	4	0	29
ペットとの同居や世話	4	2	0	13	3	0	22
身近に相談相手がいない	2	3	0	9	6	0	20
親族・ご近所と離れてしまう	0	2	1	10	5	0	18
ボランティアの順番が回ってこない	2	2	0	12	0	0	16
土地や家屋の権利などが判らない	2	3	1	5	1	2	14
子供の教育に関すること	3	1	0	5	1	0	10
介護等に疲弊してしまう	1	0	0	7	0	1	9
その他	24	12	1	55	8	1	101

八代市集計表

現在の居所

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
自宅（住民票住所）	40	44	95	17	37	3	43	125	13
避難所	0	1	0	0	1	0	0	0	2
仮設住宅	5	9	0	1	9	1	0	2	1
みなし仮設住宅	20	6	0	5	8	3	0	8	6
親族・知人宅	7	1	2	2	3	0	0	0	4
上記以外（その他）	2	2	2	3	3	0	0	3	0
未回答	2	1	8	3	4	0	2	12	2
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	現在の居所
自宅（住民票住所）	98	14	43	43	36	59	7	717
避難所	0	0	0	0	0	0	0	4
仮設住宅	0	4	0	0	0	0	0	32
みなし仮設住宅	7	5	0	3	0	3	2	76
親族・知人宅	2	1	0	1	0	0	0	23
上記以外（その他）	3	1	1	2	0	0	0	22
未回答	4	0	2	2	4	6	0	52
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

世帯人数

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
1人世帯	20	29	40	7	19	2	19	34	8
2人世帯	29	21	43	17	16	3	16	55	14
3人世帯	13	12	15	3	20	1	6	34	3
4人世帯	8	0	4	3	6	0	2	13	1
5人以上の世帯	6	1	5	1	3	1	1	13	1
未回答	0	1	0	0	1	0	1	1	1
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	世帯人数
1人世帯	22	6	12	12	9	16	3	258
2人世帯	46	12	20	23	22	24	3	364
3人世帯	29	4	5	7	3	13	3	171
4人世帯	6	1	3	5	4	7	0	63
5人以上の世帯	10	2	5	4	2	5	0	60
未回答	1	0	1	0	0	3	0	10
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

世帯の様子

MA

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
高齢者（65歳以上）がいる	55	47	69	25	50	7	39	121	25
高齢者のみで居住	29	38	55	11	22	4	31	62	9
訪問介護・訪問看護の利用必要	2	4	1	0	0	0	0	1	0
障害福祉サービスの利用が必要	0	2	2	0	0	0	0	0	0
乳幼児・妊産婦がいる	2	1	0	0	4	0	0	1	1
小・中・高校生がいる	6	2	3	1	2	1	0	9	0
医療機器（人工呼吸器・在宅酸素等の使用）	1	1	0	0	0	0	0	0	0
医療的ケア（人工透析・インシュリン注射等が必要）	1	0	1	1	0	0	0	3	0
要配慮食（アレルギーや減塩食等が必要）	1	1	0	0	0	0	1	1	0

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	世帯の様子
高齢者（65歳以上）がいる	93	23	40	41	28	54	5	722
高齢者のみで居住	38	7	18	20	11	30	1	386
訪問介護・訪問看護の利用必要	3	0	0	1	0	3	0	15
障害福祉サービスの利用が必要	1	0	1	0	1	0	0	7
乳幼児・妊産婦がいる	2	0	0	0	0	1	0	12
小・中・高校生がいる	6	2	3	2	2	2	2	43
医療機器（人工呼吸器・在宅酸素等の使用）	0	0	0	0	0	0	0	2
医療的ケア（人工透析・インシュリン注射等が必要）	2	1	0	0	0	0	0	9
要配慮食（アレルギーや減塩食等が必要）	1	0	1	0	0	0	0	6

家屋種類

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
持ち家 一戸建て	67	61	105	31	62	6	44	147	26
賃貸 一戸建て	4	1	0	0	2	0	1	0	1
賃貸 集合住宅（民間）	1	0	0	0	0	1	0	0	0
賃貸 公営住宅	3	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	1	0	1	0	0	0	0
未回答	1	1	1	0	0	0	0	3	1
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	家屋種類
持ち家 一戸建て	112	24	45	49	35	66	4	884
賃貸 一戸建て	1	0	0	0	0	0	1	11
賃貸 集合住宅（民間）	0	0	0	0	0	0	2	4
賃貸 公営住宅	0	0	0	0	0	0	1	4
その他	1	0	0	0	1	0	1	6
未回答	0	1	1	2	4	2	0	17
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

家屋状況

MA

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
過去に大雨等の家屋被災あり	13	6	7	5	7	1	3	14	4
かさ上げ工事を行っていた	7	1	0	5	1	1	1	24	5
附属屋（小屋などがある）	3	3	5	7	5	0	2	17	7
家屋状況	23	10	12	17	13	2	6	55	16

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	家屋状況
過去に大雨等の家屋被災あり	7	6	4	2	1	5	1	86
かさ上げ工事を行っていた	2	4	0	1	0	0	2	54
附属屋（小屋などがある）	4	7	6	12	12	10	2	102
家屋状況	13	17	10	15	13	15	5	242

浸水被害

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
浸水被害なし	31	40	99	19	34	6	42	93	10
床下浸水	4	5	5	2	5	1	2	22	3
床上浸水	39	19	0	10	26	0	0	30	15
わからない	0	0	0	0	0	0	0	1	0
未回答	2	0	3	0	0	0	1	4	0
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	浸水被害
浸水被害なし	97	12	41	31	32	41	4	632
床下浸水	3	1	3	11	5	13	1	86
床上浸水	12	11	0	9	1	12	4	188
わからない	0	0	0	0	0	1	0	2
未回答	2	1	2	0	2	1	0	18
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

浸水の程度

N=294

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
床上 1.8m以上の浸水	21	8	0	7	19	0	0	9	8
床上 1m～1.8m未満の浸水	8	6	0	1	7	0	0	8	3
床上 1m 未満の浸水	4	3	2	1	0	0	0	12	5
未回答	12	7	6	3	5	1	3	28	2
合計	45	24	8	12	31	1	3	57	18

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	床上浸水の程度
床上 1.8m以上の浸水	7	6	0	0	0	1	4	90
床上 1m～1.8m未満の浸水	1	3	0	3	0	4	0	44
床上 1m 未満の浸水	4	1	0	7	4	7	0	50
未回答	5	3	5	10	4	15	1	110
合計	17	13	5	20	8	27	5	294

土砂被害

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
土砂被害なし	32	39	101	18	39	7	43	107	11
基礎天端下25cm程度まで土砂が流入	4	1	0	6	2	0	1	9	1
およそ床まで土砂が流入	3	0	0	0	3	0	0	9	3
床上を越えて土砂が流入	25	8	0	5	15	0	0	9	10
未回答	10	13	5	1	5	0	0	11	2
その他	2	3	1	1	1	0	1	5	1
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	土砂被害
土砂被害なし	96	11	43	32	31	37	3	650
基礎天端下25cm程度まで土砂が流入	5	3	1	5	3	9	0	50
およそ床まで土砂が流入	1	0	0	3	1	0	0	23
床上を越えて土砂が流入	4	8	0	4	1	8	4	101
未回答	4	3	2	4	2	1	0	63
その他	4	0	0	3	2	13	2	39
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

土砂撤去

N=276

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
完了した	21	5	1	1	10	0	1	20	10
継続中	6	5	0	7	6	0	0	5	1
未着手	2	0	0	1	2	0	1	1	2
撤去しない	6	1	0	1	2	0	0	0	1
未回答	9	14	5	3	6	0	0	17	3
合計	44	25	6	13	26	0	2	43	17

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	土砂撤去
完了した	9	5	0	12	5	18	4	122
継続中	1	2	1	1	0	1	0	36
未着手	2	2	0	1	0	0	0	14
撤去しない	2	0	0	0	1	1	2	17
未回答	4	5	2	5	3	11	0	87
合計	18	14	3	19	9	31	6	276

未着手の理由

N=101

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
土砂撤去の見通しは立っている	2	0	0	4	1	0	0	1	1
土砂撤去の見通しは立っていない	0	0	0	0	1	0	1	0	0
土砂撤去等の支援が必要	0	0	0	2	1	0	0	0	1
その他	8	0	0	1	3	0	0	2	2
未回答	1	14	5	-3	2	0	0	15	1
合計	11	14	5	4	8	0	1	18	5

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	土砂撤去未着手の理由
土砂撤去の見通しは立っている	0	4	0	0	0	0	0	13
土砂撤去の見通しは立っていない	2	0	0	1	0	0	0	5
土砂撤去等の支援が必要	0	0	1	0	0	1	0	6
その他	1	1	0	0	0	0	0	18
未回答	3	2	1	5	3	10	0	59
合計	6	7	2	6	3	11	0	101

生活設備の不備

MA

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
電気・ガス・水道等ライフライン設備	21	38	48	19	20	4	15	65	16
台所・トイレ・お風呂等の生活設備	18	9	1	15	11	1	4	23	13
エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の電化製品	21	8	11	15	12	2	4	20	11
その他	4	1	2		4	1	7	3	4

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	生活設備の不備
電気・ガス・水道等ライフライン設備	29	16	31	19	8	17	4	370
台所・トイレ・お風呂等の生活設備	15	12	0	8	2	2	3	137
エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の電化製品	11	9	1	5	2	3	3	138
その他	0	0	2	5	3	1	0	37

罹災証明

N=645

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
取得済み	38	18	4	11	25	0	0	49	14
申請中	3	3	0	1	2	0	0	0	1
申請予定あり	1	0	0	0	0	0	0	1	1
申請しない	32	40	96	17	32	6	37	93	10
未回答	2	3	7	2	6	1	8	7	2
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	罹災証明
取得済み	13	12	0	15	3	12	6	220
申請中	0	0	0	2	1	1	0	14
申請予定あり	0	0	0	0	0	1	0	4
申請しない	94	12	41	30	31	51	3	625
未回答	7	1	5	4	5	3	0	63
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

罹災証明内容

N=234

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
全壊	23	7	1	10	19	0	0	9	5
大規模半壊	9	5	0	0	5	0	0	6	1
半壊	7	5	0	1	0	0	0	15	3
準半壊	0	0	0	0	0	0	0	1	0
一部損壊	1	0	2	0	1	0	0	11	1
未回答	1	4	1	1	2	0	0	7	5
合計	41	21	4	12	27	0	0	49	15

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	罹災証明内容
全壊	5	7	0	0	0	2	4	92
大規模半壊	1	3	0	2	0	0	2	34
半壊	5	1	0	5	1	4	0	47
準半壊	0	0	0	0	0	0	0	1
一部損壊	1	0	0	1	1	1	0	20
未回答	1	1	0	9	2	6	0	40
合計	13	12	0	17	4	13	6	234

申請しない理由

MA

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
申請に行く時間や手段がない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
該当するかどうかわからない	1	0	0	1	0	0	0	0	0
不要だから(家屋の被害がないから)	24	26	67	15	28	5	23	61	8
その他	0	1	0	0	1	1	0	2	0

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	罹災証明申請しない理由
申請に行く時間や手段がない	1	0	0	0	0	1	0	2
該当するかどうかわからない	1	0	0	0	0	2	0	5
不要だから(家屋の被害がないから)	70	7	35	15	14	32	2	432
その他	1	0	0	4	1	5	1	17

住宅ローン

N=907

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
住宅ローン有	3	1	1	1	2	0	0	3	0
住宅ローン無	42	52	59	17	48	6	32	108	10
無回答	23	10	47	13	13	0	12	39	17
合計	68	63	107	31	63	6	44	150	27

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	合計
住宅ローン有	8	1	0	0	1	0	1	22
住宅ローン無	52	17	31	24	27	40	4	569
無回答	53	7	15	27	12	28	0	310
合計	113	25	46	51	40	68	5	907

避難の有無

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
避難した	66	43	60	30	44	7	14	54	18
避難しなかった	8	19	44	0	19	0	29	90	9
未回答	2	2	3	1	2	0	2	6	1
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	避難の有無
避難した	81	24	7	23	6	31	9	517
避難しなかった	29	0	38	28	33	35	0	381
未回答	4	1	1	0	1	2	0	28
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

避難先

MA

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
総合体育館	16	18	11	14	20	4	1	3	7
一灯苑	6	0	1	0	0	0	0	0	0
千丁コミセン	10	1	0	0	3	0	0	0	0
社会福祉協議会坂本支所	0	0	0	0	3	0	0	0	0
社会教育センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0
親戚宅	21	19	45	15	16	5	13	29	12
知人宅	5	1	1	5	5	0	0	5	0
その他	24	11	12	5	12	1	7	18	6

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	避難先
総合体育館	31	16	0	0	0	0	4	145
一灯苑	1	0	0	0	0	0	1	9
千丁コミセン	5	0	0	0	0	0	0	19
社会福祉協議会坂本支所	0	0	0	0	0	1	0	4
社会教育センター	0	3	2	0	0	1	0	6
親戚宅	38	7	1	17	1	11	3	253
知人宅	5	0	1	1	0	2	0	31
その他	8	8	2	5	3	13	5	140

いつ（最初の避難）

N=545

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
7/4 朝方	18	11	5	4	15	2	6	24	4
7/4 昼頃	7	0	1	1	1	1	2	6	1
7/4 夕方	11	3	2	1	11	0	1	11	2
1日後	9	21	13	3	7	1	0	7	9
2日後	7	2	15	2	3	0	4	0	1
3日後	3	1	5	0	1	1	0	0	0
その他	5	2	9	15	2	2	3	4	2
未回答	8	5	13	5	6	0	0	8	0
合計	68	45	63	31	46	7	16	60	19

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	いつ（最初の避難）
7/4 朝方	9	4	3	4	0	8	4	121
7/4 昼頃	3	5	0	0	0	6	2	36
7/4 夕方	7	0	0	3	0	4	0	56
1日後	19	7	0	9	2	7	1	115
2日後	16	2	0	4	0	0	0	56
3日後	11	1	0	0	1	1	1	26
その他	7	3	1	2	1	2	1	61
未回答	13	3	4	1	3	5	0	74
合計	85	25	8	23	7	33	9	545

いつまで

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
7月4日			2					6	
7月5日		1			3		1	7	
7月6日	1		1		1		1	3	
7月7日	1		1					2	
7月8日	1	1	4		1		1		
7月9日	1	1	1	1					
7月10日	1	3							
7月11日			2				2	4	
7月12日			1		1			2	
7月13日			2					1	1
7月14日			2			1	1		
7月15日	2		2	1	1		1	1	
7月16日	1		1						
7月17日			1					1	
7月18日	1		2				1		
7月19日			2						1
7月20日	1	1	2		1				
7月21日									
7月22日			1						
7月23日	1		1	1					
7月24日			1				1		
7月25日			1		2				
7月26日			2						
7月28日		1							
7月29日					1				
7月31日	2	1	1	2					
8月1日	2	2	1		1				
8月2日								1	
8月3日									1
8月4日									
8月5日	2	1							
8月6日	2				1		1		
8月7日				1					1
8月8日		1	1	1	1				3
8月9日				1					
8月10日	2								
8月11日	2			1					
8月12日	1	1				1			
8月13日	2			1		1			
8月14日			1						
8月16日		2							
8月17日					1				
8月19日					1			1	
8月20日						1			
8月21日					1				
8月23日									
8月24日	1								
8月26日		1		1					
8月28日	1								
8月29日				1					
8月30日									
8月31日	3	2			2				1
9月1日	1				2				
9月2日	1								
9月4日			1		1				
9月5日		1							
9月6日									1
9月9日		1							
9月10日	1								
9月11日	2				1			1	
9月12日	1			1	1				
9月13日									
9月14日					1				
9月15日					1				
9月16日									1
9月17日					1				
9月18日									
9月19日			1		1		1		
9月30日				1	1				
10月2日		1							
10月4日	1						1	2	
10月5日								1	
10月8日							1		
10月10日								1	
10月14日		2	1						
10月15日					1			1	
10月16日	1	2							
10月17日									
10月18日					1				
10月19日								1	
10月23日								1	
10月24日	1								
11月14日	1								

いつまで

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	いつまで
7月4日						1		9
7月5日		1	1			2		16
7月6日						3		10
7月7日				1		2		7
7月8日	3			2		2		15
7月9日						1		5
7月10日	2				1			7
7月11日	2		2	3	1	2		18
7月12日	2			1				7
7月13日								4
7月14日			1	1		2		8
7月15日				1				9
7月16日								2
7月17日	1							3
7月18日	4			1				9
7月19日	2			2				7
7月20日	2	1		1				9
7月21日	3							3
7月22日	3							4
7月23日	1					1		5
7月24日	1							3
7月25日	2							5
7月26日	1							3
7月28日	1							2
7月29日	1							2
7月31日	1	2						9
8月1日	3							9
8月2日	1							2
8月3日								1
8月4日	5			1				6
8月5日								3
8月6日	2							6
8月7日	1							3
8月8日	2							9
8月9日	4							5
8月10日	3	1						6
8月11日	2			1		1		7
8月12日	1							4
8月13日	2			1				7
8月14日								1
8月16日								2
8月17日								1
8月19日	1							3
8月20日	1							2
8月21日								1
8月23日		1						1
8月24日								1
8月26日								2
8月28日								1
8月29日								1
8月30日	1	1						2
8月31日	2							10
9月1日				1				4
9月2日								1
9月4日							1	3
9月5日								1
9月6日								1
9月9日		1						2
9月10日		1						2
9月11日								4
9月12日	1							4
9月13日		1						1
9月14日		1						2
9月15日		1		1				3
9月16日								1
9月17日								1
9月18日		1						1
9月19日		3						6
9月30日								2
10月2日								1
10月4日								4
10月5日								1
10月8日								1
10月10日								1
10月14日								3
10月15日								2
10月16日								3
10月17日		1						1
10月18日								1
10月19日								1
10月23日								1
10月24日								1
11月14日								1

避難しなかった理由

MA

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
移動できなかった	1	2	8	1	1	1	1	3	2
自宅にいる方が安全だと思った	2	6	20	0	0	0	9	40	4
避難の手助けがなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0
どこに避難すればよいか判らなかつた	0	1	3	0	0	0	0	1	0
避難のタイミングがわからなかつた	2	0	4	0	1	0	0	1	1
その他	5	5	5	0	3	0	5	21	4

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	避難しなかった理由
移動できなかった	1	0	1	14	7	5	0	48
自宅にいる方が安全だと思った	12	0	25	7	10	20	0	155
避難の手助けがなかった	0	0	0	1	0	0	0	2
どこに避難すればよいか判らなかつた	0	0	0	0	0	1	0	6
避難のタイミングがわからなかつた	0	0	0	0	0	0	0	9
その他	11	1	11	5	4	4	0	84

避難しなかった理由その他

MA

	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
避難の必要がなかった	1	4	3	0	1	0	0	1	0
ペットがいるため	3	1	0	0	0	0	0	2	0
要配慮者がいるから	1	1	2	0	2	0	0	1	2
自宅で過ごせると思った	0	0	1	0	0	0	0	3	0
不在だった	0	0	2	0	0	0	0	1	0
地域の役員だから	0	0	3	0	0	0	0	1	0
避難所が浸水していたから	0	0	0	0	0	0	0	4	1
コロナウイルス感染症が気になるため	0	0	0	0	1	0	0	1	0
間に合わなかつた	0	0	0	0	0	0	0	2	0
大丈夫だと思った	0	0	1	0	0	0	0	1	1
道路が通行不可	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家守のため	0	0	0	0	0	0	0	2	0
移動できなかった	1	0	0	0	0	0	0	1	0
避難場所がなかった	0	1	0	0	0	0	0	1	0
遠くて避難できなかった	0	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	0	2	2	0	2	1	1	3	1

	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	避難しなかった理由
避難の必要がなかった	1	0	7	0	3	0	0	21
ペットがいるため	5	0	0	0	0	1	0	12
要配慮者がいるから	0	0	1	1	0	1	0	12
自宅で過ごせると思った	1	0	0	1	1	2	0	9
不在だった	1	0	2	1	0	1	0	8
地域の役員だから	1	0	0	1	0	1	0	7
避難所が浸水していたから	0	0	0	0	0	0	0	5
コロナウイルス感染症が気になるため	1	0	0	1	1	0	0	5
間に合わなかつた	0	0	1	1	0	0	0	4
大丈夫だと思った	0	0	0	0	1	0	0	4
道路が通行不可	0	0	0	2	0	0	0	3
家守のため	0	0	0	0	0	1	0	3
移動できなかった	0	0	0	0	0	0	0	2
避難場所がなかった	0	0	0	0	0	0	0	2
遠くて避難できなかった	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	0	1	3	0	1	0	17

救助者

MA

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
自力で避難	26	11	19	23	25	2	7	33	6
自衛隊による救助	31	26	6	11	13	4	0	1	10
近隣住民による救助	7	5	4	1	8	1	1	4	0
消防・消防団による救助	6	1	0	2	3	2	0	1	1
その他の行政による救助	3	0	11	1	2	0	0	0	0
その他	13	8	12	5	7	0	5	10	2

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	救助者
自力で避難	29	5	1	8	2	20	3	220
自衛隊による救助	16	19	0	0	0	0	2	139
近隣住民による救助	2	0	0	1	0	4	2	40
消防・消防団による救助	14	2	0	2	0	3	2	39
その他の行政による救助	0	1	0	0	0	0	1	19
その他	18	1	2	6	3	7	0	99

災害情報入手した主な方法

MA

	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
テレビ	17	15	13	2	4	1	11	20	13
スマートフォン	15	12	9	1	10	1	4	30	7
地域役員や近所の人	10	8	11	8	9	2	4	11	6
情報なし	6	9	24	2	6	0	0	11	2
防災無線	9	8	7	0	9	1	2	16	4
ラジオ	3	2	8	5	7	1	5	16	4
家族や知人等からの連絡	7	4	6	0	2	0	2	9	2
目視確認	7	2	2	3	4	0	1	19	3
緊急速報メール	6	3	0	0	3	0	10	17	2
防災無線が聞こえなかった	1	0	0	0	0	0	0	2	1
消防団	0	0	2	1	0	0	0	2	0
その他の防災アプリ	2	0	0	0	0	0	0	1	0
市役所等から連絡	0	0	3	0	0	0	0	1	0
避難所・避難先	2	1	0	0	0	0	0	0	0
自治体の Web サイト・防災メール等	1	0	0	0	1	0	0	2	0
パソコン	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	1	7	4	1	4	1	1	10	5

	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	災害情報入手方法
テレビ	16	5	1	10	14	10	2	154
スマートフォン	10	7	6	2	11	13	4	142
地域役員や近所の人	6	9	4	3	3	4	1	99
情報なし	17	0	6	5	2	4	0	94
防災無線	9	3	7	7	4	2	3	91
ラジオ	11	0	1	2	8	12	0	85
家族や知人等からの連絡	8	0	3	8	1	6	0	58
目視確認	6	0	3	2	1	2	0	55
緊急速報メール	1	4	1	2	0	1	0	49
防災無線が聞こえなかった	4	0	2	3	0	0	0	13
消防団	1	0	0	2	0	1	0	9
その他の防災アプリ	0	0	0	1	0	1	0	5
市役所等から連絡	0	0	0	0	0	0	0	4
避難所・避難先	0	0	0	0	0	1	0	4
自治体の Web サイト・防災メール等	0	0	0	0	0	0	0	4
パソコン	1	0	0	0	0	0	0	3
その他	10	3	2	3	2	4	0	58

発災前も現在も、健康に不調がある家族等はいるか

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
いない	46	46	75	16	40	5	40	105	23
いる	30	18	32	15	25	2	5	45	5
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	発災前も現在も、健康に不調がある家族等はいるか
いない	80	16	41	32	32	44	7	648
いる	34	9	5	19	8	24	2	278
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

世帯構成員健康状況

N=278

地区名	坂本	葉木	鮎帰	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
発災により持病などが悪化したり、体調が悪くなっている家族等現在がいる	7	4	0	3	4	0	2	1	2
発災後、体調が悪くなった家族等がいるが、現在は回復している	8	4	5	1	3	0	0	8	0
災害による不安やストレスにより、メンタル面での不調がある家族等が現在いる	10	4	2	6	11	0	0	6	2
災害後、メンタル面で不調のあった家族等がいるが、現在は回復している	3	7	5	3	7	1	0	16	1

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	世帯構成員健康状況
発災により持病などが悪化したり、体調が悪くなっている家族等現在がいる	10	4	0	9	1	3	1	51
発災後、体調が悪くなった家族等がいるが、現在は回復している	9	1	1	4	1	3	0	48
災害による不安やストレスにより、メンタル面での不調がある家族等が現在いる	6	2	0	3	2	3	2	59
災害後、メンタル面で不調のあった家族等がいるが、現在は回復している	6	1	5	0	0	2	0	57

通院や服薬が必要な家族等がいるか

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎帰	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
いる	50	48	84	28	53	7	41	105	23
いない	26	16	23	3	12	0	4	45	5
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	通院や服薬が必要な家族等
いる	77	20	38	42	21	49	8	694
いない	37	5	8	9	19	19	1	232
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

通院・服薬状況

N=694

地区名	坂本	葉木	鮎帰	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
常用薬の服用が必要な家族等が現在いるが、特に問題なく服薬できている	40	40	46	25	36	4	40	87	21
通院が必要な家族等がいるが、特に問題なく通院できている	32	37	62	21	35	7	41	94	11
常用薬の服薬が中断している家族等がいる・常用薬が入手しにくい	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通院や治療が中断したり、回数が減っている家族等が現在いる	2	1	1	0	2	0	1	0	0

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	通院・服薬状況
常用薬の服用が必要な家族等が現在いるが、特に問題なく服薬できている	58	16	32	30	11	37	3	526
通院が必要な家族等がいるが、特に問題なく通院できている	50	13	28	27	11	37	7	513
常用薬の服薬が中断している家族等がいる・常用薬が入手しにくい	1	0	0	0	0	1	0	2
通院や治療が中断したり、回数が減っている家族等が現在いる	4	0	0	0	1	0	0	12

家族に元々、福祉サービス等の利用はあるか

MA

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
ある	9	8	13	4	10	0	6	22	3
ない	67	56	94	27	55	7	39	128	25
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	福祉サービス等の利用
ある	11	3	6	7	4	8	1	115
ない	103	22	40	44	36	60	8	811
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

福祉サービス利用状況

MA

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
発災後、保育所等のサービスの利用に制限が出ている	0	0	0	0	0	0	0	1	0
発災後、障害福祉サービス等の利用が減った家族等がいる	0	1	1	0	0	0	0	0	0
発災後、介護サービス等の利用が減った家族等がいる	1	0	7	0	2	0	0	6	1
その他	1	2	1	0	0	0	1	2	2

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	福祉サービス利用状況
発災後、保育所等のサービスの利用に制限が出ている	0	0	0	0	1	0	0	2
発災後、障害福祉サービス等の利用が減った家族等がいる	1	0	0	0	1	0	0	4
発災後、介護サービス等の利用が減った家族等がいる	0	0	0	0	0	2	0	19
その他	1	2	3	1	0	1	1	18

食事

MA

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
問題なく食事を摂れている	71	61	104	30	59	7	45	144	26
1日3食が摂れていない、食欲が大きく減退している家族等がいる	0	2	0	3	2	0	0	0	1
調理環境がない、自炊したくてもできなくて困っている	3	2	0	0	0	0	0	2	0
弁当やパンなどの支給される食事のみで過ごしている	1	1	0	0	1	0	0	0	1

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	食事
問題なく食事を摂れている	108	24	46	48	37	67	9	886
1日3食が摂れていない、食欲が大きく減退している家族等がいる	1	0	0	1	0	1	0	11
調理環境がない、自炊したくてもできなくて困っている	1	0	0	0	0	0	0	8
弁当やパンなどの支給される食事のみで過ごしている	0	0	0	0	0	0	0	4

主な生活費

MA

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
自営業・経営者として収入を得ている	4	2	6	0	3	0	0	12	0
就労により収入を得ている	31	15	30	13	25	4	12	64	5
年金で生活をしている	50	49	83	23	52	7	42	114	21
預貯金で生活をしている	4	2	2	1	6	1	0	5	3
求職をしている（現在、収入がない）	1	0	0	0	3	0	0	0	0
生活保護等の行政支援を受けている	0	1	1	0	2	0	0	0	0
その他	3	3	2	0	2	0	1	6	2

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	主な生活費
自営業・経営者として収入を得ている	3	0	3	8	2	9	0	52
就労により収入を得ている	43	7	17	20	19	20	6	331
年金で生活をしている	88	22	35	35	31	46	3	701
預貯金で生活をしている	3	1	0	3	2	3	1	37
求職をしている（現在、収入がない）	2	0	0	0	0	0	0	6
生活保護等の行政支援を受けている	0	0	0	0	0	0	1	5
その他	6	2	0	2	2	0	0	31

通勤・移動

MA

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
特に困っていない	57	50	70	27	46	5	42	133	22
移動手段がなく（失い）、移動に困っている	9	8	10	2	12	0	0	2	3
外出に手助けが必要なため、移動に困る家族等がいる	2	0	4	2	3	0	0	4	1
その他	7	7	9	1	3	1	2	11	4

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	通勤・移動
特に困っていない	97	20	36	46	33	59	6	749
移動手段がなく（失い）、移動に困っている	12	2	2	1	4	3	2	72
外出に手助けが必要なため、移動に困る家族等がいる	0	1	0	2	0	1	1	21
その他	4	2	2	3	0	1	1	58

住まいの見直し

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎埴	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
災害前と変わりはない	33	39	101	17	35	4	45	98	13
建て替えや補修の目処あり	5	2	0	1	8	0	0	19	7
建て替えや補修の目処なし	6	4	1	4	6	1	0	6	1
建て替えや補修の検討中	8	3	1	4	3	0	0	5	4
建て替えや補修はしない	5	4	0	0	6	0	0	6	2
その他	10	8	0	2	5	1	0	6	0
未回答	9	4	4	3	2	1	0	10	1
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	住まいの見直し
災害前と変わりはない	96	12	45	37	37	50	3	665
建て替えや補修の目処あり	4	1	1	7	2	4	0	61
建て替えや補修の目処なし	4	4	0	1	1	1	0	40
建て替えや補修の検討中	1	2	0	0	0	5	2	38
建て替えや補修はしない	1	2	0	4	0	3	1	34
その他	2	2	0	1	0	3	3	43
未回答	6	2	0	1	0	2	0	45
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

建替補修目処立たず検討中理由

MA

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
費用の工面困難・不安	5	5	1	0	5	1	0	5	2
補修可能か判断がつかない	1	1	1	2	4	0	0	1	0
未だ考えられない	5	2	0	4	8	0	0	0	0
その他	4	0	1	0	7	0	0	3	0

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	建替補修目処なし検討中理由
費用の工面困難・不安	4	3	0	0	1	4	0	36
補修可能か判断がつかない	0	3	0	0	0	0	0	13
未だ考えられない	2	1	0	0	0	0	0	22
その他	0	0	0	1	0	1	0	17

建替補修しない理由

N=34

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
費用が工面できない	0	0	1	0	4	0	0	1	0
仮設やみなし仮設に入居するから	1	1	0	0	2	0	0	1	0
他の物件が見つかったから	3	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	2	3	0	1	2	0	0	1	1
未回答	8	4	3	2	0	1	0	12	2
合計)	14	8	4	3	8	1	0	16	3

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	建替補修しない理由
費用が工面できない	1	0	0	0	0	1	0	8
仮設やみなし仮設に入居するから	1	0	0	1	0	0	0	7
他の物件が見つかったから	0	0	0	0	0	0	0	4
その他	0	1	0	1	0	1	1	14
未回答	5	3	0	3	0	3	0	46
合計)	7	4	0	5	0	5	1	79

当面の居所

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
仮設住宅・みなし仮設	29	15	0	8	19	4	0	11	8
自宅	30	43	93	16	38	3	43	130	14
親族・知人宅	3	1	2	2	5	0	0	1	3
自宅以外の物件に移転	5	0	0	2	0	0	0	1	0
公営住宅	1	1	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	1	2	2	0	0	0	2
未回答	7	3	11	1	1	0	2	7	1
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	当面の居所
仮設住宅・みなし仮設	8	9	0	3	0	3	6	123
自宅	88	12	43	43	40	61	1	698
親族・知人宅	1	2	0	1	0	0	1	22
自宅以外の物件に移転	2	0	0	1	0	0	0	11
公営住宅	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	3	1	1	1	0	0	0	15
未回答	12	1	2	2	0	4	1	55
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

居住希望地

N=926

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
災害前と同じ地区	37	45	81	21	47	7	43	116	17
災害前と同じ町内	1	0	1	0	1	0	0	3	1
同じ市内	6	1	1	2	4	0	1	5	1
市外に出たい（出る予定）	2	2	0	0	0	0	1	0	0
わからない	12	9	0	6	6	0	0	4	3
その他	3	3	1	0	2	0	0	2	1
未回答	15	4	23	2	5	0	0	20	5
合計	76	64	107	31	65	7	45	150	28

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	希望居住地
災害前と同じ地区	89	18	37	40	38	54	5	695
災害前と同じ町内	1	0	0	0	0	0	0	8
同じ市内	4	0	0	0	0	1	3	29
市外に出たい（出る予定）	0	1	0	1	0	0	1	8
わからない	6	2	0	1	1	2	0	52
その他	0	1	0	3	0	2	0	18
未回答	14	3	9	6	1	9	0	116
合計	114	25	46	51	40	68	9	926

困りごと

MA

地区名	坂本	葉木	鮎俣	鎌瀬	荒瀬	市ノ俣	深水	西部	川嶽
どれだけの人が戻ってこれるのかなど地区の将来	5	6	0	0	11	2	1	9	3
食料品などの買い物に困っている	7	5	7	2	5	0	0	0	2
再建費用や生活費が足りない	4	1	1	0	7	1	0	3	0
親族・ご近所と離れてしまう	6	6	1	1	5	1	0	5	1
子供の教育に関すること	5	2	0	1	1	1	0	2	0
生活用品が不足している	5	4	1	0	5	0	0	1	0
災害ゴミの処理や運搬に困っている	3	1	0	1	3	0	0	3	2
家の片付けや泥出しが進まない	1	1	0	1	4	1	0	2	1
身近に相談相手がいない	2	3	0	0	1	0	0	1	1
ペットとの同居や世話	3	0	0	0	1	0	1	3	0
家電や空調設備が使えなくなり、新しいものが入手できていない	3	0	0	0	1	0	0	2	0
福祉サービスの利用減で、介護等に疲弊してしまう	1	1	0	0	2	0	0	0	1
土地や家屋の権利などが判らない	2	0	0	0	2	0	0	0	0
ボランティアの順番がなかなか回ってこない	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	14	14	31	6	11	1	3	31	7

地区名	中谷	中津道	鶴喰	田上	百済来上	百済来下	不明	困りごと
どれだけの人が戻ってこれるのかなど地区の将来	9	2	1	0	0	0	2	51
食料品などの買い物に困っている	6	3	5	0	0	1	1	44
再建費用や生活費が足りない	3	5	1	1	0	3	4	34
親族・ご近所と離れてしまう	0	0	0	1	0	0	2	29
子供の教育に関すること	8	1	1	2	1	0	0	25
生活用品が不足している	1	1	0	0	0	1	2	21
災害ゴミの処理や運搬に困っている	1	0	0	2	0	1	1	18
家の片付けや泥出しが進まない	0	0	1	1	0	0	0	13
身近に相談相手がいない	1	0	0	0	0	2	1	12
ペットとの同居や世話	2	0	0	0	0	0	0	10
家電や空調設備が使えなくなり、新しいものが入手できていない	0	0	0	1	0	1	0	8
福祉サービスの利用減で、介護等に疲弊してしまう	0	1	0	0	0	0	0	6
土地や家屋の権利などが判らない	0	0	0	0	0	0	1	5
ボランティアの順番がなかなか回ってこない	1	0	0	0	0	0	1	4
その他	16	5	7	5	4	23	1	179

調査資料
調査票（人吉市）

令和2年7月豪雨(人吉市)

人吉市被災者アセスメント調査票 R3 シート番号: _____ 口入力済

記入者:	調査日時:	地区名:	
回答方法	●訪問調査 ○調査会場 ○セルフアセスメント ○その他()		
対面での回答場所	●自宅 ○避難所() ○仮設() ○みなし仮設() ○調査会場() ○その他()		
回答者:	●世帯主本人 ○同居する家族・親族 ○知人・友人 ○その他()		
調査状況:	●調査済み ○不在 ○調査拒否 ○居住の有無不明 ○その他()		

■調査の目的

この調査は一般財団法人ダイバーシティ研究所が人吉市からの依頼を受けて、令和2年7月豪雨で被害にあわれた皆さまの生活状況等をお聞きし、今後の復旧・復興を迅速かつ確に進めるための基礎資料を作成することを目的として実施します。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

■調査内容と個人情報の取り扱いについて

- 世帯情報、家屋状況、避難行動、健康や福祉、生活状況、今後の見通し、不安・心配ごと、をお聞きます。
- 調査で得た個人情報は当調査の分析にのみ用い、他では使用しません
- 調査票および調査データは当法人および人吉市が厳重に保管します
- 調査後、人吉市からお問合せや訪問をさせていただく場合があります
- お答えいただいた内容は、個人情報保護条例等の範囲で、人吉市や生活再建支援等を行う団体(社会福祉協議会等)と共有する場合があります

<ul style="list-style-type: none"> ● 上記の内容について、調査委員から必要十分な説明を受けました ● 調査に同意・協力します 	ご署名
--	-----

1. 世帯情報

(日中連絡がとれる電話番号)

住所 (住民票)	世帯主 氏名	連絡先
現在の居所	○自宅(住民票住所) ○避難所 ○仮設住宅 ○みなし仮設 ○親族・知人宅 ○その他()	
世帯人数	○1人世帯 ○2人世帯 ○3人世帯 ○4人世帯 ○5人以上の世帯	
世帯の様子 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 高齢者(65歳以上)がいる <input type="checkbox"/> 高齢者のみで居住 <input type="checkbox"/> 訪問介護・訪問看護の利用必要 <input type="checkbox"/> 障害福祉サービスの利用が必要 <input type="checkbox"/> 乳幼児・妊産婦がいる <input type="checkbox"/> 小・中・高校生がいる <input type="checkbox"/> 外国人がいる <input type="checkbox"/> 医療機器(人口呼吸器・在宅酸素等)の使用 <input type="checkbox"/> 医療的ケア(人工透析・インシュリン注射等)が必要 <input type="checkbox"/> 要配慮食(アレルギーや減塩食等)が必要	
要配慮者の 属性	(続柄、年齢、性別、要配慮事項を人数分記入)	
その他 記入欄		

2. 家屋の状況

家屋種類	持ち家 <input type="checkbox"/> 一戸建 <input type="checkbox"/> 集合住宅 <input type="checkbox"/> 住宅ローン <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	
	賃貸 <input type="checkbox"/> 一戸建 <input type="checkbox"/> 集合住宅(民間) <input type="checkbox"/> 公営住宅 <input type="checkbox"/> その他()	
家屋状況	<input type="checkbox"/> 過去に大雨等の家屋被災あり <input type="checkbox"/> 附属屋(小屋など)がある →ある場合の状況()	
浸水被害	<input type="checkbox"/> 浸水被害なし <input type="checkbox"/> 床下浸水 <input checked="" type="checkbox"/> 床上浸水 <input type="checkbox"/> わからない	床上浸水の程度 <input type="checkbox"/> 床上 1.8m以上の浸水 <input checked="" type="checkbox"/> 床上 1m～1.8m未満の浸水 <input type="checkbox"/> 床上 1m 未満の浸水
土砂被害	<input type="checkbox"/> 土砂被害なし <input type="checkbox"/> 基礎天端下 25cm 程度まで土砂が流入 <input type="checkbox"/> おおよそ床まで土砂が流入 <input type="checkbox"/> 床上を超えて土砂が流入 <input type="checkbox"/> その他()	
土砂撤去	<input type="checkbox"/> 完了した <input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 撤去しない	未着手の理由 <input type="checkbox"/> 土砂撤去の見通しは立っている <input type="checkbox"/> 土砂撤去の見通しは立っていない <input type="checkbox"/> 土砂撤去等の支援が必要 <input type="checkbox"/> その他()
生活設備の不備	<input type="checkbox"/> 電気・ガス・水道等ライフライン設備 <input type="checkbox"/> エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の電化製品	<input type="checkbox"/> 台所・トイレ・お風呂等の生活設備 <input type="checkbox"/> その他() (複数回答可)
罹災証明	<input type="checkbox"/> 取得済み	罹災証明内容 <input type="checkbox"/> 全壊 <input type="checkbox"/> 大規模半壊 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 準半壊 <input type="checkbox"/> 一部損壊
	<input type="checkbox"/> 申請中 <input type="checkbox"/> 申請予定あり <input type="checkbox"/> 申請しない	申請しない理由 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 申請に行く時間や手段がない <input type="checkbox"/> 手続きがわからない <input type="checkbox"/> 該当するかどうかわからない <input type="checkbox"/> 不要だから(家屋の被害がないから) <input type="checkbox"/> その他()
豪雨以後の影響	台風 9 号、10 号など、 7 月豪雨以後の被害	

3. 避難行動

避難の有無	<input type="checkbox"/> 避難した	避難先 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 指定避難所() <input type="checkbox"/> 自主避難所() <input type="checkbox"/> 親戚宅 <input type="checkbox"/> 知人宅 <input type="checkbox"/> その他() (可能であれば)具体的な場所()
	<input type="checkbox"/> 避難しなかった	避難しなかった理由 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 移動できなかった <input type="checkbox"/> 自宅にいる方が安全だと思った <input type="checkbox"/> 避難の手助けがなかった <input type="checkbox"/> どこに避難すればよいか判らなかつた <input type="checkbox"/> 避難のタイミングがわからなかつた <input type="checkbox"/> その他()
救助者	<input type="checkbox"/> 自力で避難 <input type="checkbox"/> 近隣住民による救助 <input type="checkbox"/> 消防・消防団による救助 <input type="checkbox"/> 自衛隊による救助 <input type="checkbox"/> その他の行政による救助 <input type="checkbox"/> その他() (複数回答可)	
災害情報を入手した主な方法	<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 防災無線 <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> スマートフォン (複数回答可) <input type="checkbox"/> 自治体の Web サイト・防災メール等 <input type="checkbox"/> 緊急速報メール <input type="checkbox"/> その他の防災アプリ <input type="checkbox"/> その他()	
避難時に困ったこと	自由記入	

4. 健康や福祉

世帯構成員 健康状況	<p>発災前も現在も、健康に不調がある家族等は <input type="radio"/>いない <input type="radio"/>いる（いるは以下回答、複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/>発災により持病などが悪化したり、体調が悪くなっている家族等が現在いる</p> <p><input type="checkbox"/>発災後、体調が悪くなった家族等がいるが、現在は回復している</p> <p><input type="checkbox"/>災害による不安やストレスにより、メンタル面での不調がある家族等が現在いる</p> <p><input type="checkbox"/>災害後、メンタル面で不調のあった家族等がいるが、現在は回復している</p>
通院・服薬	<p>通院や服薬が必要な家族等が <input type="radio"/>いない <input type="radio"/>いる（いるは以下回答、複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/>通院や治療が中断したり、回数が減っている家族等が現在いる</p> <p><input type="checkbox"/>常用薬の服薬が中断している家族等がいる・常用薬が入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>通院が必要な家族等がいるが、特に問題なく通院できている</p> <p><input type="checkbox"/>常用薬の服用が必要な家族等がいるが、特に問題なく服薬できている</p>
福祉サービス 利用状況	<p>家族に元々、福祉サービス等の利用は <input type="radio"/>ない <input type="radio"/>ある（あるは以下回答、複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/>発災後、介護サービス等の利用が減った家族等がいる</p> <p><input type="checkbox"/>発災後、障害福祉サービス等の利用が減った家族等がいる</p> <p><input type="checkbox"/>発災後、保育所等のサービスの利用に制限が出ている</p>
健康や福祉 その他記入欄	

5. 生活状況について

食事 (複数回答可)	<p><input type="checkbox"/>問題なく食事を摂れている</p> <p><input type="checkbox"/>調理環境がない、自炊したくてもできなくて困っている</p> <p><input type="checkbox"/>弁当やパンなどの支給される食事のみで過ごしている</p> <p><input type="checkbox"/>要配慮食が手に入りやすく困っている(糖尿病食・減塩食等)</p> <p><input type="checkbox"/>1日3食が摂れていない、食欲が大きく減退している家族等がいる</p>
その他 記入欄	
主な 生活費 (複数回答可)	<p><input type="checkbox"/>自営業・経営者として収入を得ている</p> <p><input type="checkbox"/>就労により収入を得ている</p> <p><input type="checkbox"/>年金で生活をしている</p> <p><input type="checkbox"/>預貯金で生活をしている</p> <p><input type="checkbox"/>求職をしている(現在、収入がない)</p> <p><input type="checkbox"/>生活保護等の行政支援を受けている</p> <p><input type="checkbox"/>その他()</p>
通勤・移動 (複数回答可)	<p><input type="checkbox"/>特に困っていない</p> <p><input type="checkbox"/>移動手段がなく(失い)、移動に困っている → <input type="checkbox"/>鉄道 <input type="checkbox"/>路線バス <input type="checkbox"/>自家用車</p> <p><input type="checkbox"/>外出に手助けが必要なため、移動に困る家族等がいる → <input type="checkbox"/>通院 <input type="checkbox"/>通学 <input type="checkbox"/>買い物</p> <p><input type="checkbox"/>その他()</p>

6. 今後の見通し

住まいの見通し	○住まいの被害はほとんどなかったので、災害前と変わりはない ○家屋に被害があったが、建て替えや補修の目処が立っている	
	○家屋に被害があり、建て替えや補修をしたいが、目処が立っていない	理由 ○費用の工面が難しい、不安がある ○補修可能かどうか判断がつかない ○建て替えや補修について、まだ考えられない ○その他() (複数回答可)
	○家屋に被害があり、建て替えや補修について検討中である	理由 ○費用が工面できない ○仮設やみなし仮設に入居するから ○親族等と同居するから ○他の物件が見つかっているから ○その他() (複数回答可)
	○家屋に被害があったが、建て替えや補修はしない	
	○その他()	
当面の居所	○仮設住宅・みなし仮設 ○自宅 ○親族・知人宅 ○自宅以外の物件に移転 ○公営住宅 ○その他() (可能であれば)具体的な場所 ()	
居住希望地	○災害前と同じ地区 ○災害前と同じ町内 ○同じ市内 ○市外に出たい(出る予定) ○わからない ○その他() (可能であれば)具体的な場所 ()	

7. 不安・心配ごと

困りごと (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 生活用品が不足している <input type="checkbox"/> 食料品などの買い物に困っている <input type="checkbox"/> 福祉サービスの利用減で、介護等に疲弊してしまう <input type="checkbox"/> 家電や空調設備が使えなくなり、新しいものが入手できていない <input type="checkbox"/> 家の片付けや泥出しが進まない <input type="checkbox"/> ペットとの同居や世話 <input type="checkbox"/> ボランティアの順番がなかなか回ってこない <input type="checkbox"/> 災害ゴミの処理や運搬に困っている <input type="checkbox"/> 再建費用や生活費が足りない <input type="checkbox"/> 土地や家屋の権利などが判らない <input type="checkbox"/> 身近に相談相手がいない <input type="checkbox"/> 子供の教育に関すること <input type="checkbox"/> 親族・ご近所と離れてしまう <input type="checkbox"/> どれだけの人が戻って来られるかなど地区の将来 <input type="checkbox"/> 被災前の商売を再開できるか <input type="checkbox"/> その他
その他 記入欄	冷

調査員所感・備考
<input type="checkbox"/> 見守りの必要性が高い

調査票（八代市）

令和2年7月豪雨(八代市)

坂本町被災者アセスメント調査票 R6 シート番号: _____ □入力済

記入者:	調査日時:	地区名:	
回答方法	○訪問調査 ○調査会場 ○セルフアセスメント ○その他()		
対面での回答場所	○自宅 ○避難所() ○仮設() ○みなし仮設() ○調査会場() ○その他()		
回答者:	○世帯主本人 ○同居する家族・親族 ○知人・友人 ○その他()		
調査状況:	○調査済み ○不在 ○調査拒否 ○居住の有無不明 ○その他()		

■調査の目的
この調査は一般財団法人ダイバーシティ研究所が八代市からの依頼を受けて、令和2年7月豪雨で被害にあわれた皆さまの生活状況等をお聞きし、今後の復旧・復興を迅速かつ確に進めるための基礎資料を作成することを目的として実施します。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

■調査内容と個人情報の取り扱いについて

- 世帯情報、家屋状況、避難行動、健康や福祉、生活状況、今後の見通し、不安・心配ごと、をお聞きます。
- 調査で得た個人情報は当調査の分析にのみ用い、他では使用しません
- 調査票および調査データは八代市および八代市からの依頼者が厳重に保管します
- 調査後、八代市からお問合せや訪問をさせていただく場合があります
- お答えいただいた内容は、個人情報保護条例等の範囲で、八代市や生活再建支援等を行う団体(社会福祉協議会等)と共有する場合があります

<ul style="list-style-type: none"> 上記の内容について、調査委員から必要十分な説明を受けました。 調査に同意・協力します。 	ご署名
--	-----

1. 世帯情報

(日中連絡がとれる電話番号)

住所 (住民票)	世帯主 氏名	連絡先
現在の居所	○自宅(住民票住所) ○避難所 ○仮設住宅 ○みなし仮設 ○親族・知人宅 ○その他()	
世帯人数	○1人世帯 ○2人世帯 ○3人世帯 ○4人世帯 ○5人以上の世帯	
世帯の様子 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 高齢者(65歳以上)がいる <input type="checkbox"/> 高齢者のみで居住 <input type="checkbox"/> 訪問介護・訪問看護の利用必要 <input type="checkbox"/> 障害福祉サービスの利用が必要 <input type="checkbox"/> 乳幼児・妊産婦がいる <input type="checkbox"/> 小・中・高校生がいる <input type="checkbox"/> 外国人がいる <input type="checkbox"/> 医療機器(人口呼吸器・在宅酸素等)の使用 <input type="checkbox"/> 医療的ケア(人工透析・インシュリン注射等)が必要 <input type="checkbox"/> 要配慮食(アレルギーや減塩食等)が必要	
要配慮者の 属性	(続柄、年齢、性別、要配慮事項を人数分記入)	
その他 記入欄		

2. 家屋の状況

家屋種類	持ち家 <input type="checkbox"/> 一戸建 <input type="checkbox"/> 集合住宅		住宅ローン	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	賃貸 <input type="checkbox"/> 一戸建 <input type="checkbox"/> 集合住宅(民間) <input type="checkbox"/> 公営住宅 <input type="checkbox"/> その他()			
家屋状況	<input type="checkbox"/> 過去に大雨等の家屋被災あり <input type="checkbox"/> かさ上げ工事を行っていた <input type="checkbox"/> 附属屋(小屋など)がある →ある場合の状況()			
浸水被害	<input type="checkbox"/> 浸水被害なし <input type="checkbox"/> 床下浸水 <input type="checkbox"/> 床上浸水 <input type="checkbox"/> わからない	床上浸水の程度	<input type="checkbox"/> 床上 1.8m以上の浸水 <input type="checkbox"/> 床上 1m~1.8m未満の浸水 <input type="checkbox"/> 床上 1m未満の浸水	
土砂被害	<input type="checkbox"/> 土砂被害なし <input type="checkbox"/> おおよそ基礎の 25cm 程度まで土砂が流入 <input type="checkbox"/> おおよそ床まで土砂が流入 <input type="checkbox"/> 床上を超えて土砂が流入 <input type="checkbox"/> その他()			
土砂撤去	<input type="checkbox"/> 完了した <input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 撤去しない	未着手の理由	<input type="checkbox"/> 土砂撤去の見通しは立っている <input type="checkbox"/> 土砂撤去の見通しは立っていない <input type="checkbox"/> 土砂撤去等の支援が必要 <input type="checkbox"/> その他()	
生活設備の不備	<input type="checkbox"/> 電気・ガス・水道等ライフライン設備 <input type="checkbox"/> エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の電化製品		<input type="checkbox"/> 台所・トイレ・お風呂等の生活設備 <input type="checkbox"/> その他() (複数回答可)	
罹災証明	<input type="checkbox"/> 取得済み <input type="checkbox"/> 申請中 <input type="checkbox"/> 申請予定あり	罹災証明内容	<input type="checkbox"/> 全壊 <input type="checkbox"/> 大規模半壊 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 準半壊 <input type="checkbox"/> 一部損壊	
	<input type="checkbox"/> 申請しない	申請しない理由 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 申請に行く時間や手段がない <input type="checkbox"/> 手続きがわからない <input type="checkbox"/> 該当するかどうかわからない <input type="checkbox"/> 不要だから(家屋の被害がないから) <input type="checkbox"/> その他()	

3. 避難行動

避難の有無	<input type="checkbox"/> 避難した	避難先 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 総合体育館 <input type="checkbox"/> 一灯苑 <input type="checkbox"/> 千丁コミセン <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会坂本支所 <input type="checkbox"/> 社会教育センター <input type="checkbox"/> 親戚宅 <input type="checkbox"/> 知人宅 <input type="checkbox"/> その他()
		いつ	<input type="checkbox"/> 7/4 朝方 <input type="checkbox"/> 7/4 昼頃 <input type="checkbox"/> 7/4 夕方 <input type="checkbox"/> 1日後 <input type="checkbox"/> 2日後 <input type="checkbox"/> 3日後 <input type="checkbox"/> その他(日 時頃)
		いつまで	<input type="checkbox"/> 月 日まで <input type="checkbox"/> 現在も避難中
	<input type="checkbox"/> 避難しなかった	避難しなかった理由 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 移動できなかった <input type="checkbox"/> 自宅にいる方が安全だと思った <input type="checkbox"/> 避難の手助けがなかった <input type="checkbox"/> どこに避難すればよいか判らなかった <input type="checkbox"/> 避難のタイミングがわからなかった <input type="checkbox"/> その他()
救助者	<input type="checkbox"/> 自力で避難 <input type="checkbox"/> 近隣住民による救助 <input type="checkbox"/> 消防・消防団による救助 <input type="checkbox"/> 自衛隊による救助 <input type="checkbox"/> その他の行政による救助 <input type="checkbox"/> その他 () (複数回答可)		
災害情報を入手した主な方法	<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 防災無線 <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> スマートフォン (複数回答可) <input type="checkbox"/> 自治体の Web サイト・防災メール等 <input type="checkbox"/> 緊急速報メール <input type="checkbox"/> その他の防災アプリ <input type="checkbox"/> その他()		
避難時に困ったこと	自由記入		

4. 健康や福祉

世帯構成員 健康状況	発災前も現在も、健康に不調がある家族等は <input type="radio"/> いない <input type="radio"/> いる (いるは以下回答、複数回答可) <input type="checkbox"/> 発災により持病などが悪化したり、体調が悪くなっている家族等が現在いる <input type="checkbox"/> 発災後、体調が悪くなった家族等がいるが、現在は回復している <input type="checkbox"/> 災害による不安やストレスにより、メンタル面での不調がある家族等が現在いる <input type="checkbox"/> 災害後、メンタル面で不調のあった家族等がいるが、現在は回復している
通院・服薬	通院や服薬が必要な家族等が <input type="radio"/> いない <input type="radio"/> いる (いるは以下回答、複数回答可) <input type="checkbox"/> 通院や治療が中断したり、回数が減っている家族等が現在いる <input type="checkbox"/> 常用薬の服薬が中断している家族等がいる・常用薬が入手しにくい <input type="checkbox"/> 通院が必要な家族等がいるが、特に問題なく通院できている <input type="checkbox"/> 常用薬の服用が必要な家族等がいるが、特に問題なく服薬できている
福祉サービス 利用状況	家族に元々、福祉サービス等の利用は <input type="radio"/> ない <input type="radio"/> ある (あるは以下回答、複数回答可) <input type="checkbox"/> 発災後、介護サービス等の利用が減った家族等がいる <input type="checkbox"/> 発災後、障害福祉サービス等の利用が減った家族等がいる <input type="checkbox"/> 発災後、保育所等のサービスの利用に制限が出ている
健康や福祉 その他記入欄	

5. 生活状況について

食事 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 問題なく食事を摂れている <input type="checkbox"/> 調理環境がない、自炊したくてもできなくて困っている <input type="checkbox"/> 弁当やパンなどの支給される食事のみで過ごしている <input type="checkbox"/> 要配慮食が手に入りにくく困っている(糖尿病食・減塩食等) <input type="checkbox"/> 1日3食が摂れていない、食欲が大きく減退している家族等がいる
その他 記入欄	
主な 生活費 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 自営業・経営者として収入を得ている <input type="checkbox"/> 就労により収入を得ている <input type="checkbox"/> 年金で生活をしている <input type="checkbox"/> 預貯金で生活をしている <input type="checkbox"/> 求職をしている(現在、収入がない) <input type="checkbox"/> 生活保護等の行政支援を受けている <input type="checkbox"/> その他()
通勤・移動 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 特に困っていない <input type="checkbox"/> 移動手段がなく(失い)、移動に困っている → <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 路線バス <input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> 外出に手助けが必要なため、移動に困る家族等がいる → <input type="checkbox"/> 通院 <input type="checkbox"/> 通学 <input type="checkbox"/> その他()

6. 今後の見通し

住まいの見通し	○住まいの被害はほとんどなかったので、災害前と変わりはない	
	○家屋に被害があったが、建て替えや補修の目処が立っている	
	○家屋に被害があり、建て替えや補修をしたいが、目処が立っていない	理由 <input type="checkbox"/> 費用の工面が難しい、不安がある <input type="checkbox"/> 補修可能かどうか判断がつかない <input type="checkbox"/> 建て替えや補修について、まだ考えられない <input type="checkbox"/> その他() <small>(複数回答可)</small>
	○家屋に被害があり、建て替えや補修について検討中である	理由 <input type="checkbox"/> 費用が工面できない <input type="checkbox"/> 仮設やみなし仮設に入居するから <input type="checkbox"/> 親族等と同居するから <input type="checkbox"/> 他の物件が見つかっているから <input type="checkbox"/> その他() <small>(複数回答可)</small>
	○その他()	
当面の居所	○仮設住宅・みなし仮設 ○自宅 ○親族・知人宅 ○自宅以外の物件に移転 ○公営住宅 ○その他()	
居住希望地	○災害前と同じ地区 ○災害前と同じ町内 ○同じ市内 ○市外に出たい(出る予定) ○わからない ○その他()	

7. 不安・心配ごと

困りごと (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 生活用品が不足している <input type="checkbox"/> 食料品などの買い物に困っている <input type="checkbox"/> 福祉サービスの利用減で、介護等に疲弊してしまう <input type="checkbox"/> 家電や空調設備が使えなくなり、新しいものが入手できていない <input type="checkbox"/> 家の片付けや泥出しが進まない <input type="checkbox"/> ペットとの同居や世話 <input type="checkbox"/> ボランティアの順番がなかなか回ってこない <input type="checkbox"/> 災害ゴミの処理や運搬に困っている <input type="checkbox"/> 再建費用や生活費が足りない <input type="checkbox"/> 土地や家屋の権利などが判らない <input type="checkbox"/> 身近に相談相手がいない <input type="checkbox"/> 子供の教育に関すること <input type="checkbox"/> 親族・ご近所と離れてしまう <input type="checkbox"/> その他
その他 記入欄	

調査員所感・備考
 <input type="checkbox"/> 見守りの必要性が高い

不在票



人吉市の皆さまへ

【被害実態調査】調査員訪問のお知らせ

令和2年7月の熊本県南豪雨で被害を受けられた皆さまにお見舞い申し上げます。この度、人吉市の皆さまを戸別に訪問してお話をお伺いし、今後必要な施策について検討を進めるための調査を行っています。お聞きする内容は、ご世帯の人数や所在等の状況、災害による被害の状況、現在のご生活の状況などです。

本日、 月 日、午前・午後 時 分頃、調査員が訪問させていただきましたが、ご不在でしたので、この不在票を投函しています。

皆さまご自身で調査票に入力いただく形式（セルフアセスメント形式）での回答も可能です。セルフアセスメント形式での回答にご協力をいただける方は、下記の URL よりご回答をお願いいたします。

（下記にてご回答いただいた場合、調査員は訪問いたしません。）

【回答 URL】

<http://kumamoto2020.decojp.net>

【回答QRコード】



主 催：人吉市

実 施：一般財団法人ダイバーシティ研究所（人吉市からの調査委託事業者）
TEL：090-9981-9540（今回の調査専用回線 10時～19時）

担 当：人吉市 健康福祉部生活再建支援室
TEL：0966-22-2125（生活再建支援コールセンター）



坂本町の皆さまへ

被害実態調査へのご協力をお願い

令和2年7月の熊本県南豪雨で被害を受けられた皆さまにお見舞い申し上げます。この度、坂本町の皆さまを戸別に訪問してお話をお伺いし、今後必要な施策について検討を進めるための調査を行っております。

お聞きする内容は、ご世帯の人数や所在等の状況、災害による被害の状況、現在のご生活の状況などです。お時間をいただき申し訳ありませんが、今後の生活再建に向けた基礎情報となる調査ですので、ご協力をお願いします。

調査実施日：10月18日（日）

調査時間：10時00分頃から17時00分頃まで

※本日お伺いしましたが、ご不在でしたので本票を入れさせていただきます。

なお、皆さまご自身で調査票に入力いただく形式（セルフアセスメント形式）をご用意させていただいておりますので、ご協力をいただける方は、下記の URL よりご回答をお願いいたします。

【回答 URL】 <http://kumamoto2020.decojp.net>



- 主 催：八代市、一般財団法人ダイバーシティ研究所（八代市との協定団体）
協 力：坂本住民自治協議会
実 施：一般財団法人ダイバーシティ研究所（八代市との協定による調査事業者）
TEL：090-9981-9540（今回の調査専用回線 10時～19時）
担 当：八代市 総務企画部 復興推進課
TEL：0965-62-8807（内線 5281）

2020年9月9日

**熊本県南豪雨の生活影響調査（人吉市・八代市坂本町）における
調査員参加協力をお願い**

令和2年7月の熊本県南豪雨では各地で大きな被害が出ていますが、特に被害の大きかった地域では、家屋への土砂流入やライフラインの断絶など、日常生活に大きな制約が生じており、現在においても相当数の被災者が避難所等での生活を余儀なくされている一方、被害の実態や全体増が見えにくい状況が生じています。

そこで、人吉市及び八代市坂本町の特に被害が大きかった地域で、現在の生活の状況や今後の生活再建に向けたニーズについて、ご自宅や避難所等を戸別に訪問してお話を伺い、特に配慮を要する方に今後必要とされる施策について検討を進めていくことを目的とした調査を行うこととなりました。

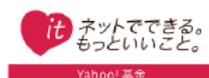
つきましては、調査員の方々を募集します。戸別訪問による聞き取り調査には、多くの方々のご協力が必要になります。是非ともご協力の程、よろしくお願いたします。

主催：熊本県人吉市、熊本県八代市

実施：一般財団法人ダイバーシティ研究所（<http://www.diversityjapan.jp>）

協力：KVOAD、熊本県立大学、熊本県社会福祉協議会、八代市社会福祉協議会

※なお、本事業は、Yahoo!基金寄付事業として実施いたします。



<調査の概要>

主に福祉専門職経験者の方々を調査員として、弊所で用意する調査票に基づいた聞き取り調査を行っていただきます。また、サポート調査員の方には、福祉専門職の調査員の補助を行っていただきます。

<調査日程及び募集人数等>

		第一回	第二回	第三回	第四回
日 程		実施済み	9/12（土） 9/13（日）	9/19（土）～ 9/22（火・祝）	9/26（土） 9/27（日）
時 間		9時30分から18時まで （休憩1時間、実働7時間半）			
集合・解散		熊本市、益城町、八代市／人吉市に集合場所を設けます （熊本市からご参加の場合、8時集合、19時30分頃解散の予定です）			
調査世帯数		約300世帯	約300世帯	約300世帯	約300世帯
募集 調査 人員	福祉 専門職 経験者	30名	30名	30名	30名
	サポート 調査員	30名	30名	30名	30名

※調査は、福祉専門職とサポート調査員がペアとなって実施することとし、1ペアあたり6～8世帯の訪問を想定しています。

<報酬及び要件等>

(1) 福祉専門職調査員

報酬：9,600 円/日（源泉徴収額を差し引いてお支払いします）

要件：連続する2日間以上従事可能な方で、次のいずれかを満たす方

- ・福祉専門職ソーシャルワーカー等で、福祉の職務経験をお持ちの方
- ・社会福祉士等の福祉に関する知識をお持ちの方
- ・医療機関等での経験をお持ちの方
- ・その他聞き取り調査等の経験がある方

その他：ボランティア保険にご加入いただきます（費用は弊所負担）

昼食はお弁当を用意します。（飲み物は、各自、十分な量をお持ちください。）

(2) サポート調査員

報酬：8,000 円/日（源泉徴収額を差し引いてお支払いします）

要件：連続する2日間以上従事可能な方（学生可）

その他：ボランティア保険にご加入いただきます（費用は弊所負担）

昼食はお弁当を用意します。（飲み物は、各自、十分な量をお持ちください。）

<応募方法>

各回調査開始日の4日前まで（第一回のみ3日前まで）に、下記のアドレス（Google フォーム）からご登録をお願いします。（※ご登録いただいた後、各回の人数調整等させていただいた上で、事務局より正式にご協力お願い（参加確定）のご連絡をさせていただきます。）

「福祉専門職調査員」のご登録

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSekl78ik7zn3A_AdYoBeccVfal6IITk-C5-raTADT_K1e3pFA/viewform



「サポート調査員」のご登録

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdWDB31IbSXbjCcwkh8nuxkuC0yBxYUJBW9MMJ1DbkMJWqsA/viewform>



《ご登録いただく内容》 ※上記フォームに沿ってご登録ください

- お名前（フリガナ）、生年月日、性別、郵便番号、ご住所、連絡先、緊急連絡先、ご所属
- 資格、活動経験
- 活動可能な日程、集合可能な場所・集合方法
- ご紹介いただいた方のご所属・お名前（ご紹介いただいた方がいらっしゃる場合）
- 自動車運転の可否
- 銀行口座（銀行名、支店名、種別、口座番号） など

<その他>

- ・詳しい調査方法等については、事前に動画でのオリエンテーションを実施します。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防に関する十分な対策を用意した上で調査を実施しますが、各自でも、感染拡大予防に向けた対策の徹底（マスク着用等）をお願いいたします。

ご不明な点は、下記宛先まで、メールにてお問い合わせ願います。

一般財団法人ダイバーシティ研究所 熊本県南豪雨調査事務局
E-mail : kumamoto.assessment@gmail.com

新型コロナウイルス感染拡大防止のための参加者等の遵守事項について

一般財団法人ダイバーシティ研究所

この遵守事項は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、皆さまに遵守いただく事項を記載しています。この遵守事項を読み、承諾事項を了承した上で活動に参加して下さい。

【承諾事項】

●調査参加における感染リスクについて

- 主催者等が感染防止対策を適切に実施し、参加者等がこの遵守事項を遵守したとしても、感染を完全に予防できるものではないことを理解した上で活動に参加すること。

●個人情報について

- 収集した個人情報は、活動の実施に必要な範囲で使用されること、新型コロナウイルス感染拡大を防止するために、必要に応じて保健所等行政機関へ提供される場合があることに同意すること。

●遵守事項その他の措置・指示について

- 下記「遵守事項」を遵守し、主催者等による措置及び指示に従うこと。

【参加者等が遵守する事項】

●活動前に以下3点の事項のいずれか一つでも該当する場合は、参加を取りやめること。

また、当日の受付時の健康チェックを行い、体調によっては参加を取りやめること。

- 体調がよくない場合（発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいる場合
- 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

●マスクを持参し、咳エチケットや、手洗い、手指の消毒、三密の回避等、感染防止対策を徹底すること。

●会話をする場合はマスクを着用すること。

●私的な事象で生じたゴミは持ち帰ること。

●活動参加後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者等に対して速やかに報告すること。

●感染止のために主催者等が決めたその他の措置を遵守し、指示に従うこと。

2020/08/31

新型コロナウイルス感染拡大予防に関する確認事項

- 「新型コロナウイルス感染拡大防止のための参加者とうの遵守事項」を確認し、内容について承諾します。
- 以下の「健康状態チェックリスト」の項目に、該当する事項はありません。

- 平熱を超える発熱がある
- 咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状がある
- だるさ(倦怠感)や息苦しさがある
- 嗅覚や味覚に異常を感じる(臭わない、味が無い等)
- 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触している(過去2週間以内)
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる
- 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域当への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- 政府や自治体が定める社会・経済活動の制限や自粛要請が出ている地域から参加している

2020年 月 日

氏名: _____



被災者アセスメント調査 調査員向けオリエンテーション

1. 被災者アセスメント調査の概要について

- 被災者アセスメント調査とは
- 調査の実施方法
- 調査内容について
- 調査項目について

一般財団法人ダイバーシティ研究所

一般財団法人 ダイバーシティ研究所 <http://diversityjapan.jp/>

1



被災者アセスメント調査とは

.....

©一般財団法人 ダイバーシティ研究所 <http://diversityjapan.jp/>

2



【大規模自然災害における被災者の状況】

- ・ 家屋の被害やライフラインの断絶により日常生活に大きな制約
- ・ 避難所や在宅での避難生活が長期化
- ・ 被災者の状態や被害の実態などの全体像は見えにくい



2016年熊本地震における被災者アセスメント調査の様子

【被災者アセスメント調査】

- ・ 大規模自然災害で被害にあわれた皆さまの生活状況等を調査
- ・ 生活再建や復旧・復興を迅速かつ的確に進めるための基礎資料を作成することを目的として実施



多くの被災者が在宅で避難生活を送られています

益城町における避難者調査

①避難所利用者の状況調査（5月2日～8日） ②在宅避難者の状況調査（5月14日～29日）

人口の1割（3,000人／3万人）が1ヶ月以上の避難生活
避難所利用者は2,728人 在宅で避難状態の人が1,243世帯（3,195人）

避難所利用者の特徴

- ・ 「単身」と「2人世帯」が半数
- ・ 移動手段がない人が多い
- ・ 就労していない人が多い
- ・ 子連れやペットがいる世帯は車中泊を選択

在宅避難者の特徴

- ・ 自宅敷地内のテントや車庫で生活
- ・ 「2人以上」で構成される世帯が多い
- ・ 移動手段がある人が多い
- ・ 就労している人が多い（とくに農業）

2016年熊本地震における被災者アセスメント調査結果より

被害状況と現在の居所（単位：％，n=610）

	自宅	仮設住宅	みなし仮設	親族・知人	町有住宅	その他
全壊	27.1	29.4	22.4	3.5	8.2	9.4
大規模半壊	44.6	19.4	12.9	7.9	5.0	10.1
半壊	81.9	7.0	3.5	1.4	0.7	5.6
一部損壊	85.4	4.9	2.4	0.0	0.0	7.3

在宅避難者

大きな被害を受けた住宅に居住している在宅避難者が存在

※それぞれの割合は、罹災証明の内容に占める割合

2018年平成30年7月豪雨における被災者アセスメント調査結果より

調査の実施方法

調査の実施方法

- 二人一組のチームで実施
- 一人は調査票に沿ってお話を伺う
もう一人が調査票に記録する
- 必ず、二人一組で行動をしてください。



- 当日の調査スケジュールについては、対象地域毎に変動しますので、調査事務局の指示に従ってください。





オリエン
テーション



訪問調査



調査票の
データ化

訪問・聞き取り



タブレット等で
データ入力



【訪問】



「〇〇調査で伺いました。調査員の●●です。被害の状況や現在の生活のご様子などについてお話をうかがいたいのですが、玄関先までお願いできますでしょうか？」

「被害の状況や現在の生活のご様子など、20程度お話をおうかがいします。よろしくお願いします。」

「最初に、調査についてご説明させていただきます。」

対象者から、調査への協力への承諾を得られたら、聞き取りを開始します。





【調査票のデータ化】

- 聞き取りが終わった調査票を整える
＜ポイント＞
後から他の人が見たときに読解できる
1枚に集約する
必要に応じて清書する
- データベースに登録する
iPadを使って、登録フォームに入力



調査の内容

調査内容について



- 被災者お一人お一人の生活再建の道のりや、必要な支援は異なる
- 「災害時だから・・・」と、心身の不調を我慢していたために持病が悪化
- 自治体等の支援策には当てはまらないような困りごとを抱えている
- 相談先が判らない

被災者アセスメント調査

一律の支援施策ではカバーしきれない、被災者が日常生活を取り戻すために必要な、お一人お一人に合った支援策の検討につなぐことができるように設計



調査項目について



基本情報	訪問日時・訪問結果等
1. 世帯情報	世帯構成・世帯状況・要配慮者
2. 家屋被害に関する事	浸水被害や土砂被害の状況、罹災証明の取得状況などの設問
3. 避難行動に関する事	避難の有無や、避難しなかった理由などの設問
4. 健康や福祉に関する事	世帯構成員の健康状況、通院や服薬、福祉サービスの利用状況についての設問
5. 生活状況に関する事	食事の様子、生活費、通勤や移動に関する設問
6. 今後の見通しに関する事	住まいの修繕や建替、今後の居住地などの意向に関する設問
7. 不安や心配ごとについて	ニーズ調査に相当する不安や困りごとに関する設問
調査員所感	項目のチェックでは表現出来ない特記事項や被災者の様子について、調査員所感を記録 再訪問の必要性チェック





引き続き
「2. 調査活動での留意点について」
をご確認ください。



被災者アセスメント調査 調査員向けオリエンテーション

2. 調査活動での留意点について

- 聞き取りの際の留意点
- ケースワークはしない
- 自らの体調管理
- 新型コロナウイルス感染症対策

一般財団法人ダイバーシティ研究所



聞き取りの際の留意点

聞き取りの際の留意点



- 被災した方は、様々な形で強いストレスがかかっている状態
- 対象者のこころを傷つけてしまうことがないように十分に配慮



【参考】日本 DMORT 研究会「DMORT 家族支援マニュアル豪雨水害第1版」より



【遺族を傷つける可能性のある言葉】

(決して「禁句」ではないが、言葉を発する際に気をつけるように)

遺族を傷つける可能性のある言葉	理由
「気持ちはわかりますよ」	簡単にわかってほしくないという心理がある
「彼は(彼女は)楽になったんですよ」	単なる気休めに聞こえる
「これから頑張って下さい」	遺族は既に十分 頑張っている
「そのうち楽になりますよ」	その場限りの気休めに聞こえる
「泣いた方がいいですよ」	泣けない場合もある
「あなたが生きていてよかった」	自身を責めている場合にはそれを増長する
「一人っ子でなくて、よかったですね」	他に子どもがいようが、悲しみは同じ
「あなたはまだいいほうですよ」	他者との比較は心に響かない



その他

- 「もっとひどいことが起こっていたかもしれない」
- 「そんなに悲しんでいると、亡くなった方が心配しますよ」
- 「時間が解決してくれますよ」

「何も言葉が浮かばない」なら、
むしろ沈黙のままでよい！
(共感する気持ちで)



【早急に専門家につなげた方がいい場合】

- うつ病に陥っていると思われる場合
(食欲不振や不眠などの持続など)
- 希死念慮が強くなっていたり、自傷他害の怖れがある場合
- アルコール依存などの問題が生じている場合
- 避難所などでの集団生活ができないほど、感情コントロールが出来ない場合(周囲の被災者に影響を与える)

対象者にこのような様子が見られた場合は、調査票の「調査員所感」に記入します。
記入の際は、自己の判断ではなく、客観的な状況を説明するようにしてください。

ケースワークはしない！

ケースワークはしない

- お話を伺っていると、「手助けしたい」「支援につなぎたい」「何とか解決したい」という気持ちがわいてくる
- この調査の目的は、適切な支援が提供されるように被災された方々の状況を把握すること
- その場で解決しようとせず、お話を伺うことに集中する
- ケースワークや早急に支援が必要な方が見つかった場合は、本部で集約し、自治体等に対応をつなぐ



自らの体調管理

自らの体調に注意、無理をしないこと



調査員スタイル





感染症対策

感染症対策

出典：JVOAD「災害対応にかかわるボランティア・NPO等の支援者向け感染症対策・予防に関する研修プログラム」



①手指の衛生

- 手洗い、アルコール消毒、ウエットティッシュでふき取るなど、ウイルス感染のリスクを少しでも減らす対応

②咳エチケット・マスク

- 飛沫の拡散防止の対応、“メリハリマスク”

③三密の回避

「密閉・密集・密接」を避ける！

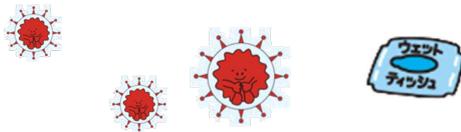
**喉の痛み、せき、発熱などの症状がある方は、
調査への参加を辞退いただくようお願いいたします。**



手洗いの時間・回数による効果

①手指の衛生

- 手洗い、アルコール消毒、ウェットティッシュでふき取るなど、ウイルス感染のリスクを少しでも減らす対応



手洗いの方法	残存ウイルス数 (残存率) *
手洗いなし	約1,000,000個
流水で15秒手洗い	約10,000個 (約1%)
ハンドソープで10秒または30秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	数百個 (約0.01%)
ハンドソープで60秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	数十個 (約0.001%)
ハンドソープで10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎを2回	約数個 (約0.0001%)

*:手洗いなしと比較した場合

喉の痛み、せき、発熱などの症状がある方は、調査への参加を辞退いただくようお願いいたします。



②咳エチケット・マスク

- 咳エチケットとは、感染症を他者にうつさないためにマスクを着用することや、咳・くしゃみをする際に、ティッシュ、ハンカチ、上着の内側などで覆って、口や鼻を押さえること
- “メリハリマスク”

メリハリマスク！

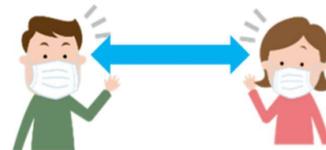
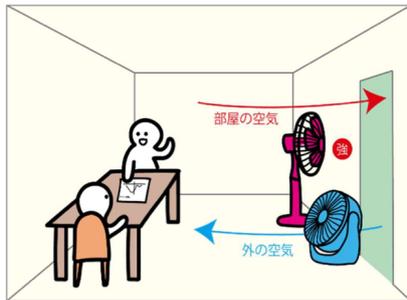


喉の痛み、せき、発熱などの症状がある方は、調査への参加を辞退いただくようお願いいたします。



③三密の回避

「密閉・密集・密接」を避ける！

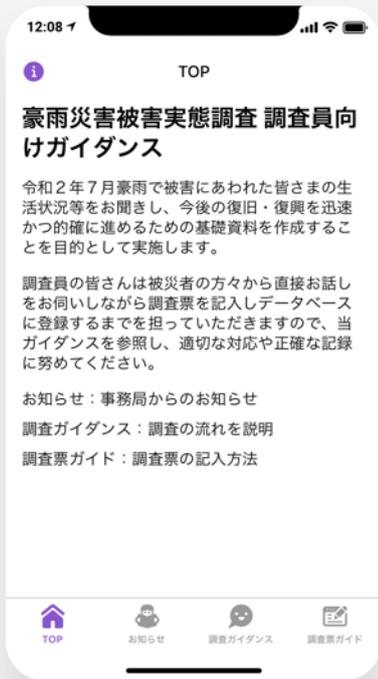


喉の痛み、せき、発熱などの症状がある方は、
調査への参加を辞退いただくようお願いいたします。



被災者アセスメント調査へのご協力に感謝いたします。
調査当日は、どうぞよろしくお願いいたします。

一般財団法人ダイバーシティ研究所



Scan to install. [Learn how.](#)



調査員向けガイド ス

by ダイバーシティ研究所

Made with Glide from a Google Sheet,
without writing any code.

アプリのシェア

MAKE YOUR OWN APP WITH [glide](#).

令和2年7月豪雨被災者生活実態調査報告書（人吉市・八代市）

発行 一般財団法人ダイバーシティ研究所

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 1-8-33 日宝新大阪第2ビル 802

E-mail : office@diversityjapan.jp

発行日 2021年3月1日

